

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第162集

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書  
第3分冊  
(中濃圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター

ぎ ふ けん こ だい ちゅう せい じ いん あと そう ごう ちょう さ ほう こく しょ  
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

第 3 分 冊  
(中濃圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター



### 第 3 分 冊 目 次

#### 第4章 中濃圏域の寺院

第1節 中濃圏域の概要.....	1
第2節 寺院一覧表.....	3
第3節 寺院地形観察図、遺構図、地籍図.....	43
参考文献	
第4節 寺院分布図.....	133
第5節 中濃圏域のまとめ.....	218

## 挿図目次

図 1 中濃圏城市町村区域図	1	図 32 白山中宮長瀧寺（蓮原院谷） 地形観察図	92
図 2 大日山日龍峯寺 地形観察図	45	図 33 白山中宮長瀧寺（一ノ宿）地形観察図	93
図 3 尾崎山恵利寺 地形観察図	47	図 34 白山中宮長瀧寺（阿弥陀ヶ籠） 地形観察図	94
図 4 汾陽寺旧境内 地形観察図（1）	49	図 35 白山中宮長瀧寺（前谷床並社跡） 地形観察図	95
図 5 汾陽寺旧境内 地形観察図（2）	50	図 36 高賀山巖屋本宮（那比本宮遺跡） 地形観察図	97
図 6 汾陽寺旧境内 地形観察図（3）	51	図 37 白雲山観音堂 地形観察図	99
図 7 八幡山大型寺 地形観察図	53	図 38 奥の森白山社別当寺（奥の宮跡） 地形観察図	101
図 8 仮香積寺廃寺跡 地形観察図	55	図 39 円周寺旧境内 地形観察図	103
図 9 阿弥陀寺 地形観察図	57	図 40 熊野山石井寺 地形観察図	105
図 10 莲華峯寺旧境内 地形観察図	59	図 41 高賀山巖屋新宮寺 地形観察図	107
図 11 大悲山円教寺（円教寺跡） 地形観察図	61	図 42 今清水社 地形観察図	109
図 12 龍華山弥勒寺（弥勒寺跡）全体図	63	図 43 高賀山星宮粥川寺 地籍図	111
図 13 莲苑寺旧境内（莲苑寺跡） 地形観察図	65	図 44 中房寺 地形観察図	113
図 14 面平山普門寺 地形観察図	67	図 45 香昌寺 地形観察図	115
図 15 天王山禅定寺 地形観察図（1）	69	図 46 神淵神社奥の院 地形観察図	117
図 16 天王山禅定寺 地形観察図（2）	70	図 47 大山白山権現 地形観察図	119
図 17 天王山禅定寺 地形観察図（3）	71	図 48 白雲山近松寺 位置図及び地形観察図	121
図 18 洲原白山権現 地形観察図（1）	73	図 49 青松山蟠龍寺（蟠龍寺跡）地形観察図	123
図 19 洲原白山権現 地形観察図（2）	74	図 50 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡） 地形観察図（1）	125
図 20 洲原白山権現 地形観察図（3）	75	図 51 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡） 地形観察図（2）	126
図 21 高賀山瀧の宮 地形観察図	77	図 52 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡） 地形観察図（3）	127
図 22 高賀山藏王権現 地形観察図	79	図 53 飯高山極楽寺 地形観察図	129
図 23 東觀音寺遺跡・西觀音寺遺跡 位置図	81	図 54 分布図（F4 願教寺山）	134・135
図 24 東觀音寺遺跡 全体図	81	図 55 分布図（F5 ニノ峰）	136・137
図 25 西觀音寺遺跡 全体図	81	図 56 分布図（F6 新淵）	138・139
図 26 万年山大興寺（元大興寺跡） 地形観察図	83	図 57 分布図（G4 下山）	140・141
図 27 清涼山薬王寺 地形観察図	85	図 58 分布図（G5 石徹白）	142・143
図 28 可成寺旧境内（伝可成寺跡） 地形観察図	87		
図 29 長瀧寺跡関係地形観察図作成地 位置図	89		
図 30 白山中宮長瀧寺（長瀧寺跡）地形観察図	90		
図 31 白山中宮長瀧寺（須可院谷） 地形観察図	91		

図 59	分布図 (G6 大鷦)	144・145	図 82	分布図 (L5 岩佐)	190・191
図 60	分布図 (G7 飛驒大原)	146・147	図 83	分布図 (L6 美濃)	192・193
図 61	分布図 (H5 白鳥)	148・149	図 84	分布図 (L7 上麻生)	194・195
図 62	分布図 (H6 那留)	150・151	図 85	分布図 (L8 河岐)	196・197
図 63	分布図 (H7 二間手)	152・153	図 86	分布図 (L9 切井)	198・199
図 64	分布図 (H8 萩原)	154・155	図 87	分布図 (L10 美濃福岡)	200・201
図 65	分布図 (I4 平家岳)	156・157	図 88	分布図 (M5 岐阜北部)	202・203
図 66	分布図 (I5 門原)	158・159	図 89	分布図 (M6 美濃開)	204・205
図 67	分布図 (I6 徳永)	160・161	図 90	分布図 (M7 美濃加茂)	206・207
図 68	分布図 (I7 郡上市島)	162・163	図 91	分布図 (M8 御嵩)	208・209
図 69	分布図 (I8 下呂)	164・165	図 92	分布図 (M9 武並)	210・211
図 70	分布図 (J4 下大須)	166・167	図 93	分布図 (N6 犬山)	212・213
図 71	分布図 (J5 上ヶ瀬)	168・169	図 94	分布図 (N7 小泉)	214・215
図 72	分布図 (J6 郡上八幡)	170・171	図 95	分布図 (N8 土岐)	216・217
図 73	分布図 (J7 汚)	172・173	図 96	中濃圏域 地形断面図 (1)	230
図 74	分布図 (J8 焼石)	174・175	図 97	中濃圏域 地形断面図 (2)	231
図 75	分布図 (J9 小和知)	176・177	図 98	中濃圏域 地形断面図 (3)	232
図 76	分布図 (K5 洞戸)	178・179	図 99	中濃圏域の主な古代寺院分布図	233
図 77	分布図 (K6 莖安)	180・181	図 100	美濃加茂台地周辺の主な古代寺院	234
図 78	分布図 (K7 上之保)	182・183	図 101	中濃圏域の主な中世寺院分布図	235
図 79	分布図 (K8 金山)	184・185	図 102	中濃圏域 地形観察図模式図 (1)	236
図 80	分布図 (K9 神土)	186・187	図 103	中濃圏域 地形観察図模式図 (2)	237
図 81	分布図 (K10 付知)	188・189			

## 表目次

表 1	関市寺院一覧表 (1)	4	表 11	関市参考寺院一覧表 (3)	13
表 2	関市寺院一覧表 (2)	5	表 12	関市参考寺院一覧表 (4)	14
表 3	関市寺院一覧表 (3)	6	表 13	関市参考寺院一覧表 (5)	15
表 4	関市寺院一覧表 (4)	7	表 14	関市参考寺院一覧表 (6)	16
表 5	関市寺院一覧表 (5)	8	表 15	美濃市寺院一覧表 (1)	16
表 6	関市寺院一覧表 (6)	9	表 16	美濃市寺院一覧表 (2)	17
表 7	関市寺院一覧表 (7)	10	表 17	美濃市寺院一覧表 (3)	18
表 8	関市寺院一覧表 (8)	11	表 18	美濃市参考寺院一覧表 (1)	18
表 9	関市参考寺院一覧表 (1)	11	表 19	美濃市参考寺院一覧表 (2)	19
表 10	関市参考寺院一覧表 (2)	12	表 20	美濃加茂市寺院一覧表 (1)	19

表 21	美濃加茂市寺院一覧表（2）	20	表 44	富加町寺院一覧表（2）	35
表 22	美濃加茂市寺院一覧表（3）	21	表 45	富加町参考寺院一覧表	35
表 23	美濃加茂市参考寺院一覧表（1）	21	表 46	川辺町寺院一覧表	36
表 24	美濃加茂市参考寺院一覧表（2）	22	表 47	川辺町参考寺院一覧表（1）	36
表 25	可児市寺院一覧表（1）	22	表 48	川辺町参考寺院一覧表（2）	37
表 26	可児市寺院一覧表（2）	23	表 49	七宗町寺院一覧表	37
表 27	可児市寺院一覧表（3）	24	表 50	七宗町参考寺院一覧表（1）	37
表 28	可児市参考寺院一覧表（1）	24	表 51	七宗町参考寺院一覧表（2）	38
表 29	可児市参考寺院一覧表（2）	25	表 52	八百津町寺院一覧表（1）	38
表 30	可児市参考寺院一覧表（3）	26	表 53	八百津町寺院一覧表（2）	39
表 31	郡上市寺院一覧表（1）	26	表 54	八百津町参考寺院一覧表	39
表 32	郡上市寺院一覧表（2）	27	表 55	白川町寺院一覧表	39
表 33	郡上市寺院一覧表（3）	28	表 56	白川町参考寺院一覧表	40
表 34	郡上市寺院一覧表（4）	29	表 57	東白川村寺院一覧表	40
表 35	郡上市寺院一覧表（5）	30	表 58	東白川村参考寺院一覧表	40
表 36	郡上市寺院一覧表（6）	31	表 59	御嵩町寺院一覧表（1）	41
表 37	郡上市寺院一覧表（7）	32	表 60	御嵩町寺院一覧表（2）	42
表 38	郡上市参考寺院一覧表（1）	32	表 61	御嵩町参考寺院一覧表	42
表 39	郡上市参考寺院一覧表（2）	33	表 62	長瀬寺跡関係地形観察図作成遺跡一覧表	89
表 40	坂祝町寺院一覧表（1）	33	表 63	寺院の成立状況	229
表 41	坂祝町寺院一覧表（2）	34	表 64	時期別の成立数等	229
表 42	坂祝町参考寺院一覧表	34	表 65	時期別の立地数	230
表 43	富加町寺院一覧表（1）	34			

## 第4章 中濃圏域の寺院

### 第1節 中濃圏域の概要

中濃圏域は岐阜県の中央に位置し、北西側で福井県に、南側で愛知県に接する。中濃圏域は西部の関・美濃地域、北部の郡上地域、東部の可茂地域に分かれ、関・美濃地域は関市、美濃市の2市、郡上地域は郡上市の1市、可茂地域は美濃加茂市、可児市、加茂郡（坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）、可児郡（御嵩町）の2市7町1村で構成される。関・美濃地域の面積は589.34 km<sup>2</sup>、郡上地域の面積は1,030.75 km<sup>2</sup>、可茂地域の面積は834.17 km<sup>2</sup>、中濃圏域全体では2,454.26 km<sup>2</sup>であり、これは岐阜県全体の23.11%を占める。

中濃圏域は、北西部にひかる福井県境の両白山地を最高所とし、標高1,000m以下の美濃山地が広く横たわる。圏域北部の郡上地域は、北部山間部に分水嶺が東西に延び、大日岳を水源とする長良川が南北方向に貫流する。福井県との県境に位置する白山は、8世紀以降、東海地域における白山信仰の拠点として大いに栄えた。圏域南部には、木曾川や飛騨川、長良川等による河岸段丘群からなる台地が広がり、古代以降は東山道や中山道が東西方向に貫通した。台地には、白鳳期に遡る瓦が出土した関市弥勒寺跡や御嵩町願興寺などの古代寺院が集中する。

今回の調査では、中濃圏域において740か寺の寺院を調査対象とし、そのうち404か寺の古代・中世寺院を確認した。

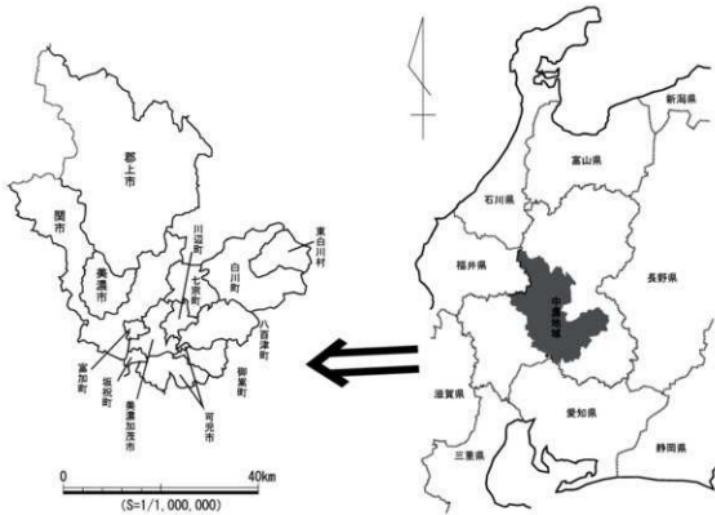


図1 中濃圏域町村区域図



第 2 節 寺 院 一 覧 表

## 4 第4章 中濃圏域の寺院

表1 関市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地 (地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図		
1	05002	樹屋山 妙見寺	樹屋宇佐御寺 (武藏郡)	平成時代	天台宗							
2	05002b	国 (伊勢守跡) (伊勢守官衙遺 跡群)	地区宇佐御寺 (武藏郡)	伝推古2年			本文参照					
3	05003	今宮山 神光寺	下有知宇野 (武藏郡)	慶長元年	真言宗	寺伝によると、僧者3(719)年泰澄開基。その後廃絶したが、天寿元(1053)年(承和5(1060)年とも)、源賴政・義家が前年合戦の後凱旋し堂宇御堂を建立。天保5(1657)年、後冷泉天皇の勅願に及び被應寺となり、11~12世院を構ええた。俄園廟に荒廃するが、慶長元(1596)年に真栄寺興興、山頂から現在地に移したともされる。北東側の御霊山(葛嶺)では12~13世紀の經塚を横出。	6, H, 山茶碗、 中国南陶磁 器、相輪、 小刀、刀 上杖(祭祀遺 跡)、 獨立建物			16		
4	05004	大日山 日蓮寺	下之保西削 (武藏郡)	伝4世紀	真言宗	本文参照			本文参照	44 16		
5	05005	樹林山 林正寺	神野藤谷子西 谷(武藏郡)	伝天平20年	真言宗	天平20(748)年に弘忍により成立したと伝わる。応仁の乱で一度廢寺。その後この地に歸り、寺額を中興し一統にして崇められた。享禄年間(1528~32)に中納したが、天文元(1562)年に玄興上人が中興。					16	
6	05006	喜中山 空光寺	一ツ山町 (武藏郡)	伝仲亀元年	真言宗	神龜元(724)年、弘法が草堂を建立したと伝わる。のちに聖天堂に至り大師堂を建てて今名を命名された。別名「金光明四天王、護國之寺」といわれる。聖天院の調度に於ける菅原道宣の墨ともされる。					96	
7	05007	吉田山 新長谷寺	長谷寺町 (武藏郡)	貞応元年	真言宗	貞応元(1229)年、後醍醐天皇が御幸になり、御詔勅。大和田谷寺から新長谷寺へ遷る。2つめは天台寺真言の御詔勅2方に於て新寺を別稱であつた。承安2(1300)年に火災で焼失。嘉元(1303)年より再建。15世院が存在したとされるが、延長2(1657)年に大火で再焼失。9世院に本堂が重建され、以後他の他の御詔勅も焼失。2つめで多くの寺院が存在し、五箇寺の寺や美濃の後安寺や阿彌陀堂も支配していた。	H, G, I				96	
8	05008	花木山 香林寺	西神野八神社 青ヶ洞(武藏郡)	天正4年	真言宗	天正4(1576)年、八神神社の御当守として誕生により成立。					16	
9	05009	金光山 圓華寺	樹野 (山県郡)	治承4年頃	真言宗	治承4(1180)年に自首した源範盛を慰めるため、範政の伯母がその難に一身を蒙る。寛文6(1666)年、石川正五郎が範政の御影碑を建立し、一般の菩薩寺として再興・外満した。					96	
10	05010	萬如意 淨寺	春日町 (武藏郡)	天正18以前	淨土宗	貞応元(1222)年、西山善光に御開闢。天正18(1590)年の書状によるところ、「圓藏院」(圓藏町)から圓在庵、「新屋院」に轉じて「淨院」である。圓在庵は江戸上野御領であったが、正徳2(1642)年に江戸上野御領に転属。	H, G				96	
11	05012	石動山 空音寺	戸戸黒谷 (武藏郡)	天正17年	淨土宗	天正17(1589)年、山内小平治重義、常良円親入徳開闢により成立。					96	
12	05015	北山西 最勝院 釋名寺	坂越谷 (武藏郡)	天正3年	淨土宗	天正3(1575)年、良空丈貢により成立。明暦元(1655)年鑑空宗文が本堂を再興。					96	
13	05016	須德山 福善寺	須德宇志摩 (山県郡)	不明	天台宗 →淨土宗	成立時期不明。円門(794~866)により成立ともい。天祐20(1413)年、教説の代に淨土宗に改定。真正圓善が開創し、宝永元(1704)年に岐阜市須德寺となつた。當時は不善だが足利川の清水で以前の須宇は波止された。以前の斎場院が現本堂に位置し、現本堂のすぐ東側には以前阿彌陀堂があつた。	H, G, I, 石 柱				96	
14	05018	日瑞山 法然寺	伊豫町 (武藏郡)	JP時代	淨土宗	半伝によるところ、治承年間(1177~1181)に法然(730~810)の御門の接種院に住む者を集めて法門を立てといふ説がある。ここに堂宇を構え、日本を用いて法然寺とし、法然道場とした。店舗(1625年)、開闢の創建。以降は12年、開拓を賛助した。法然寺(1625年)、開闢の創建。以降は12年、開拓を賛助した。	H, G					
15	05019b	法然寺旧境内	日ノ出町 (武藏郡)	店舗30年	淨土宗						96	
16	05020	高台山 光見寺	朝倉町 (武藏郡)	明治34年		明治37(1904)年に、高台山光見寺と台山林蔵寺が合併して光見寺となる。光見寺は寛文(1644)年、西光元(1653)年、觀音円門の堂宇があつた。						
17	05020b	光明寺	朝倉町 (武藏郡)	文安元年	真宗	元禄9(1696)年火災で焼失。以後再興された。慶元寺は天文8(1539)年、圓智正。慶元寺の堂宇が北光院にあった。明治期に火災に遭い、寺地を現在地に移転し新築した。					96	
18	05020c	慶円寺	朝倉町 (武藏郡)	天文8年							96	
19	05021	由平山 空養寺	春日町 (武藏郡)	文明9年	天台宗 →真宗	成立時期等不明。元はお叟寺(位置不明)にあつた。天文9(1477)年、高橋の代に空養寺となり現在地に遷る。文化10(1813)年、火災に遭う。					96	
20	05022	圓通山 正覚寺	金城町 (武藏郡)	元禄5年	天台宗 →真宗	圓通院祖禪寺という大台院の寺院であった。又延4(1095)年に真宗に記載。元和9(1623)年に正覚寺に改めた。以來寺地を現在地に譲り合う二寺、立木槽町と替え。元禄5(1692)年に現在地に移転。						
21	05023	神石山 空智寺	御物御原 (加茂郡)	基延4年	真宗	延祐4(1492)年、直良真義隣界により成立。					96	
22	05024	吉木山 普渡寺	加茂市御子仲 町(武藏郡)	昭和37年以降	真宗	寺伝によると、天正5(1577)年敷地開闢により成立。中央御園(現戸戸黒谷)敷地にあつたが、昭和34(1959)年の伊勢湾台風で被災し、同37(1962)年蒲原町に市場仲郷の林家宗三宅の近旁に移転。					96	
23	05024b	普渡寺近隣	戸戸黒谷仲 町(武藏郡)	伝天正5年							96	

表2 関市寺院一覧表(2)

番号	寺番号	表記	山門(寺号)	所在地(都道府)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査時期	分布図
24	05025	照應山光輪寺	法藏寺(武藏郡)	昭和35年	真宗	令和によると、白川郷の藤原町に建替え(1849年)に併合開基。時那木守が同郷の中野村に移り、その本堂光輪寺と称す。昭和35(1960)年、御母衣ダムの建設により、所在地に移転。				J5
25	05026	福音山木澤寺	復春院(武藏郡)	天文5年	真宗	天文5(1536)年、伊豆府日向守が福音院を建てる。寛永16(1639)年寺号を賜美了寺とする。文政5(1822)年に擴て寺号と寺名。				
26	05027	中樹山龍泉寺	板取山口(武藏郡)	天文元年	真宗	天文5(1537)年、伊豆守蟹屋が星山の宿を買し、寺号を新設(佐喜山坊)と称した。津内には、天文15(1573)年に伊豆守村中井に跡を守る跡、第5世正善(文政9(1666)~元禄14(1711)在任)の代に中樹山龍泉寺と改名。				J5
27	05028	圓空山照慶寺	西町(武藏郡)	不明	律宗→真宗	成立時既不明だが以前は律宗で、肥前朝のものに比(應宇不確)山門にあった。天文正(1572)年、伴了頭風、江戸門には徳川家と之がわらがつった。		G, I		W6
28	05029	自南山大慈寺	道間宇賀田(加茂郡)	天文14年	臨済宗	天文14(1596)年、大略光興開基(三好光秀が建立か)。寿昌宗御圓山。近間大慈院の菩提寺。		G, G		W6
29	05030	日豐山明光寺	上ノ保原山寺会津(武藏郡)	天文・弘治頃	臨済宗	天文・天正(1532~1560)の頃、良顯豊作寺僧が創立したときとされ、当時は明光寺と称す。慶安元(1648)年慶藍大師が山門と山門堂を改め、享保14(1733)年大師により堂宇及び古跡整修が失火。享保21(1756)年に美濃太田の圓鏡院の堂宇が焼失のため寺門を改め。		G		E7
30	05031	青浦山長永寺	板取山口(武藏郡)	文政5年	臨済宗	天文正(1537~92)の末期、長昌信豊寺が九藏村に青浦寺として建立。(天文16(1552)~1555年頃のもの)。丸山の圓鏡院長石門(円鏡院防歎門)の前進を建立され、大般若経塔頭圓鏡院があるが、実相院和尚と圓鏡院の圓鏡院と思われる。文政5(1822)年山門に移転。元治元(1864)年被焼失するが、慶応2(1866)年に再創造される。		G, G, I		
31	05031b	長永寺境内(長永寺)	板取(武藏郡)	天文正年間	臨済宗					J5
32	05035	江底山長源寺	西田原宇多屋敷(加茂郡)	永正16年	臨済宗	永正16(1519)年、本覚院開基(江戸新宗派)により開山。				W6
33	05036	東葛山円福寺	飛坂宇多市洞(武藏郡)	19世纪頃か	臨済宗	天文年間(1592~96)、阿川基藤が鶴林寺園(風説園亭)に御師となり、諱して圓山とし、圓福寺を開基(寺伝では天文4(1565)年、11世住持)。鶴林の代(20年間程度)に現在に移転。古屋屋は開田された。圓福寺は区内の圓鏡院宝塔寺(8040)を併合したものである。以前の場所にはまだ寺領敷の位置が不分明である。		G		
34	05037	神宮山古吉祥寺	志中野古吉宇(武藏郡)	延喜2年	臨済宗	勝延元(1338年)、峰曲祖一(近宗大師開基)が高僧清長帝の寺号とて而して開く(「吉宇寺」)。山門内側に「延喜」と、山門外側に「1007年」の御印がある。山門の脇には、開基の峰曲祖一の御影と、開基の清長帝の御影と並んで安置する。御影堂裏面が御影を安置し、天祐7(1697)年に天祐元(大慶院)が妙心寺令寺院として御影を奉たす。元祐14(1701)年に火災に罹るが、延喜元(1705)年に現在地に宝塔を再建。		G, G		
35	05037b	古吉祥寺境内	古津野古吉宇(武藏郡)	延喜元年	臨済宗	峰曲祖一圓山により、勝延4(1341)年成立。以後中転すること無く、天祐元(1697)年に開基(1697年)とされ、勝延10(1707)年に火災に罹るが、天祐7(1697)年に天祐元(大慶院)が妙心寺令寺院として御影を奉たす。元祐14(1701)年に火災に罹るが、延喜元(1705)年に現在地に宝塔を再建。				I6
36	05040	神宮山大摩寺	上大野字稻葉(武藏郡)	寛永4年	臨済宗	峰曲祖一圓山により、勝延4(1341)年成立。以後中転すること無く、天祐元(1697)年に開基(1697年)とされ、勝延10(1707)年に火災に罹るが、天祐7(1697)年に天祐元(大慶院)が妙心寺令寺院として御影を奉たす。元祐14(1701)年に火災に罹るが、延喜元(1705)年に現在地に宝塔を再建。		G, G		I6
37	05041	福東寺	山田字免久利(武藏郡)	慶長年間	臨済宗	勝延年間(1595~1615)のはじめ頃に、海岳淨印居士(後世後藤忠邦)の方の影響を受けて、海岳淨印は寛永18(1641)年平成。寛永5(1628)年は御子である玄蕃(天祐院)、妙心寺第一(1629)を圓鏡院として開成す。圓鏡院は「香林庵」といって、このにちに圓鏡院を移して「圓鏡院」としたといふ。元禄2(1727)年に圓鏡院の代に、更に見事と号を贈られ、圓鏡院は「圓鏡院」と改められた。江戸時代には圓鏡院の御影堂が現存する。圓鏡院の五輪塔(1651年)は現存にあつたものを移したと伝わるといふ。		G		W6
38	05042	香林寺	大杉字香林庵(加茂郡)	伝江戸時代	臨済宗	土岐氏の流れをくむ大蔵佐氏によって開基。天正11(1583)年妙心寺圓鏡院と笠置院(国分寺前院)の代法師である佐野豊智を請ひて開く。北近に「香林庵」との看板があり、ここにちに圓鏡院を移して「圓鏡院」としたといふ。元禄2(1727)年に圓鏡院の代に、更に見事と号を贈られ、圓鏡院は「圓鏡院」と改められた。江戸時代には圓鏡院の御影堂が現存する。圓鏡院の五輪塔(1651年)は現存にあつたものを移したと伝わるといふ。		G		
39	05043	医王山金福寺	上白字字新宿(武藏郡)	慶長4年	臨済宗	天文年間(1536~99)に、上白知多寺の大主根利(根利園庭園)を譲り、白金寺の中央、現在の本堂と舍利堂の間に建立。景和4(1608)年から、傳教寺2号と改められ現在地に移転する。天文年間(1536~99)に火災に遭い焼失。その後明治、大正にかけて鐘楼、書院、大師堂を加え、昭和12(1937)年の後、本堂・庫裏を再建。		G		W6
40	05043b	金福寺境内	上白山(武藏郡)	天文正年間	臨済宗					W6
41	05044	万年山惠公寺	神野忍池字中切(武藏郡)	文明5年	臨済宗	天文5(1412)年、佐藤通則(足利義満御子)により建立(萬年寺と號する)。山門と御影堂の建立時に、白金寺(1536~1599)と、傳教寺2号の御影堂が入り、当時は七重塔の建立もだんだんといふ。天正元(1573)~92に火災に遭う。元禄年間(1616~25)に大正主により再興。墓地は近隣のもので、布目山、中世の墓石を確認した。東側には0.55m角の地蔵塚が置かれている。		G, H, 中近世御墓		I6

6 第4章 中濃園城の寺院

表3 関市寺院一覧表(3)

表 4 閩市寺院一覽表(4)

8 第4章 中濃園城の寺院

表5 関市寺院一覧表(5)

表 6 関市寺院一覧表(6)

表7 關市寺院一覽表(7)

表8 関市寺院一覧表(8)

番号	寺院名	史跡番号	山(里)号	所在地 (旧町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
109	龍泉寺 宝珠寺	05180	武豊町小加賀 宇佐台裏 (武儀部)	永正三年	臨済宗	永正元(1504)年。寛光大照禪開山。寺の本尊は地主の先祖の御祖。寺の維持困難により、明治12(1879)年に05073宝安寺に吸収合併。宝安寺の北西の山麓に宝成院があったというが、現在は荒廃地で、遺構や建物は確認できない。			L5	
110	(仮)香積寺奥 寺跡	05181	武豊町小加賀 宇佐台裏 (武儀部)	中世以前	臨済宗	本文参照		本文参照	54	L5
111	阿香院寺	05183	武豊町中平多 院字本郷延 (武儀部)	伝平安時代初 期	真言宗	本文参照		本文参照	56	L5
112	高賀山 蓮華峯寺	05186	戸戸高賀 (武儀部)	明治期	天台宗	本文参照				
113	蓮華峯寺旧庭 内	05189	戸戸高賀 (武儀部)	天保3年	天台宗	本文参照		本文参照	58	K5
114	大慈山 円教寺 (円教寺跡)	05191	板取白谷 (武儀部)	平安時代末期	天台宗	本文参照		本文参照	60	K5
115	東政寺 (東政寺跡)	05195	板取岩本字羽 鳥街道 (武儀部)	天正年間	真言宗	05010駒名寺香寺。一部では「長政寺」とも記述される。跡名寺圓山空雲院在歴の天正年間(1573~1574)を創立と思われる。春雲院基とされるが時限不明。第5世重智(元禄4(1691)年示引)が宇井西原・中興園山・第6世真宣空雲院門和上(天文3(1714)年示引)も兼坐西原。その頃現在の寺地であった。明治17(1884)年改めてこの寺地にて新しく寺地となり、明治20(1887)年改めて現寺地となる。現在の寺地は野原に亘り、野原の字名が「寺前」であったことから、駒名寺よりまた山の上にあったか。墓地の上の石碑に綱目建つ程度の新規面と石組を確認したが、東政寺と関する遺跡が不発。			J5	
116	宝樹寺 (宝樹寺跡)	05196	板取門出北宇 大追上 (武儀部)	19世紀前半頃	真言宗	慶長4(1599)年開基。教空寺泰西堂開山。口傳によると、北ヶ瀬の側面にあったが根本木失謫後、大追上に再建したとのこと。第19世泰空院心大師(弘化4(1817)年示引)の代とされる。宝樹寺(05073年第14世空空寺)が駒名寺を承認する。その無事となった新堂は御子屋として使用され、明治20(1887)年改めて現寺地となる。駒名寺圓山基と併せて住宅を設けた。宝樹寺は土砂で埋没してしまったとう。			J5	
117	門原道場	05197	板取円原 (武儀部)	不明	真言宗	文政16(1823)年。門原の森門(森門)や三輪塚など、05027森寺跡と同寺から遷れし西原の寺を建立しようとした際に、他の門原寺の上地にあつた佐右門寺の寺を遷して改築したが、龍巣寺門徒であり可憐可のため代官や龍泉寺・庄屋などから改築を指示される。そこで高石門院は、西高麗寺(今櫻原)・郡上良民の光明寺僧徒となり、文政12(1829)年に遷座を建てる。位置不明。				
118	尾崎山 松連寺	05198	池尻 (武儀部)	16世紀	不明	成立時不明。土地の豪族氏家氏の全盛時代に建立され、佐原氏族亡と共に長年休眠(1596~1613)に中絶。その跡は05026円鏡寺跡に残る。この跡は天文16年(1547~1548)に建立され、印籠音首(1610)大難時に焼失したとされる。その後、元和10(1624)年、寺の本尊は空海の坐像とされた。その跡にあつた玉輪院(今北山神社)の南西方に05198松連寺があるといつ。その跡にあつた玉輪院が今宮殿跡と呼ぶ。既未載(淳化・元治・萬葉等)や明徳(洪武・永樂等)など古絵が整備されているとのことで。	G, 古跡		16	

表9 関市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院名	史跡番号	山(里)号	所在地 (旧町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	妙祐寺 宝林院	05001	西吉吉町 (武儀部)	寶曆4年	天台宗	広範新太利忠が延喜2(1743)年に小廟建立。人祖ホ02003円鏡寺の本寺竹本院(東駿山安楽院末寺)と云う廣秀を宝曆4(1744)年に引ゆ決起し妙祐宝林院竹本院とした。竹本院の成立時は不明だが、初代住職の役名は承元ホ(1707)年である。			
2	慈尊寺 性住寺	05011	武豊町御野 字坂之下 (武儀部)	寛文11年	淨土宗	寛文11(1671)年に開創。草寧圓山により成立。		G	
3	樂音寺 空輪院	05013	板取白谷 (武儀部)	寛永元年以前	淨土宗	以前に難があつたが、寛永元(1624)年性空仁存が開基。寛永8(1631)年、堂宇を建立。享保7(1722)年に火災により空宇焼失。その後再建。			
4	善水山 愛福寺	05014	戸田字中島 (山根郡)	寛永11年以前	淨土宗	寺の成立以前に尼船舟を建立。寛永11(1634)年、圓頂により成立。		G	
5	光應山 阿術院寺	05017	戸田字中島 (山根郡)	寛永4年	淨土宗	寛永4(1627)年成立。		G	
6	善水山 佛通寺	05019	脇知字尼星 (武儀部)	天和3年	真言宗	天和3(1683)年、理玄闡基により成立。			
7	大平山 圓覺寺	05032	白鶴字小糸 湖(武儀部)	貞享3年	臨済宗	寺伝では、空印円虚(1703~87)の開山とされるが定かではない。当初は伏阪の藝新野と呼ばれる場所に創建され。石段坂の圓覺山に移り、貞享3(1686)年に現在地に建立されている。			
8	巌谷寺	05033	小道間 (御茂郡)	不明	臨済宗	大権により成立とされるが、成立時期などの他の詳細は不明。		G	

表10 関市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院名	史籍	山(里)号	所在地 (詳細名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
9	應宝山 持正院		武昌町谷口 下金原 (武儀郡)	安永元年	臨濟宗	安永元(1772)年成立。豪農宝首座の開基。雪雲玄持和尚の開山。	E, G	
10	大通寺		神野字寺岡 (武儀郡)	江戸時代初期	臨濟宗	05046海照寺10世廣雲主博闇山とされるため。江戸初期の成立と思われる。	E, G	
11	臨時山 福泉寺		戸戸通元寺宇 王工屋 (武儀郡)	寛延2年	臨濟宗	寛延2(1749)年。武藤左右衛門と其の妻ににより父の菩提のため建立。成立。05055興施寺寺主世若の御樹園山(美濃郡)7020道程寺の末寺を再興した史料も有り。新寺建立禁止に対するためか、境内の私仏堂は役行者の尊徳があり。05109覚空院に此って作ったものを明神の神仮分離の前に譲られた。	E, G	
12	少林山 覺性寺		戸戸大野 (武儀郡)	承応4年	臨濟宗	承応4(1655)年。戸戸山在南に開基。05087諸泰寺第4代覺照主禪圓山とし。桂圓祖林が創始。宝暦9(1754)年。見性寺と称していたのを見性寺と改称。大正15(1926)年大火により全焼。昭和時代(1926~89)初期に再建。	G	
13	悲慈山 福爾寺		上之保川合寺 会津 (武儀郡)	寛永6年	臨濟宗	寛永6(1629)年。攝關源頼が本堂を貸し、藤原を安置して仏事奉養を行ったのが始まり。慶安5(1652)年に05046海照寺第3代廣雲主の開基の跡を認め05103諸泰寺を開設し移る。住持は、それまでの南湖山に山号を付しと改めた。宝暦2(1762)年。藤原寺より大雄院海潮庵を開設開山。嘉治2(1809)年。第11世諸泰は、神仮分離合併して、諸泰寺と合った湊御寺と今山の両山の開闢を合意して、福爾寺を改めた。		
14	佛満山 圓通寺		武昌町小加 野宇西和菴 (武儀郡)	不明	臨濟宗	成立時期不明。寛永8(1631)年岐阜県100252大宝山圓通寺の圓宗定松禪師を勧請し開山。寛永9年間(1631~32)に吉田妙心寺(大庭郡)が開創し寺を譲ったので、これを圓通開山とし。文禄2(1593)年太陽院を香樹院太陽寺と改めた。	G	
15	香積山 太陽寺		武昌町小加 野宇西和菴 (武儀郡)	不明	臨濟宗	成立時期不明。寛永8(1631)年岐阜県100252大宝山圓通寺の圓宗定松禪師を勧請し開山。寛永9年間(1631~32)に吉田妙心寺(大庭郡)が開創し寺を譲ったので、これを圓通開山とし。文禄2(1593)年太陽院を香樹院太陽寺と改めた。	G	
16	豊久山 永昌寺		武昌町野野 木本山 (武儀郡)	元和5年	臨濟宗	元和5(1619)年。旅飄宗祇(石室)により成立。無伝宗(眞言正宗明鏡)を説く圓山・開泰(今伝では無伝元和(1615)年。石室中興圓山)。西院の05102秀水寺(般若院)受持(寺の頂位の持主とも)が自身であり、移転が寺院に改め。境内に近い弘託墓地には弘託の圓寂の墓がある。伝詔の普度寺として守名を記せる。		
17	金剛山 東光寺		武昌町宇多 子丸山(武儀 郡)	江戸時代	臨濟宗	正徳年間(1711~16)。各務郡新加納村主井川定重系系、延澤雲巖圓山。明治21(1888)年、新加納村から宇多子山に移転し、現在の後圓寺を宇多子とした。昭和39(1964)年から無住で、平成13(2001)年から兼務住職である。	H	
18	圓王山 觀音寺		下白金 (武儀郡)	平成時代	曹洞宗	寛延5(1802)年~05067圓王寺19世圓淨正彌山。円沼消見尼主開基。下有知子を要請して有したが、現在は圓淨院(自願開基)が存在する。自転車道建設に伴い、平成16(2004~2013)年に下白金に移転。圓泰寺本寺。		
19	龜甲山 福修寺		小掛名字新屋 敷 (武儀郡)	江戸時代	曹洞宗	成立時期及び本尊不詳だが、江戸初期の小掛名村内に阿弥陀堂、圓照堂、中陣の威が有る朱塗の御堂跡などと残る。現在は、草木で覆われていて、阿弥陀堂の威が広めに入り、草木と春草亭と称した。現在の地図裏敷に宝字堂を記し、阿弥陀堂の三重塔を記。福修寺と改称。05098円通寺3世芳重能庵を頭山し。05098圓通寺末の尼戒寺として現存に至る。		
20	圓通山 圓泉寺		下有知字奥野 (武儀郡)	寛文年間	曹洞宗	寛文年間(1661~73)の開創。05087龍泰寺17世天魔重丸(正彌)圓山。花開宗尊普賢院。05082香積寺の末寺。	H, G	
21	西方山 覺院寺		下有知字上須 屋敷 (武儀郡)	江戸時代	曹洞宗	開創は未可知(1704~11)。後後澤雲巖山。白道在御撰尾とされている。05087圓泰寺。舟形御殿。『村井御殿』とよびか。江戸時代(1720~1868)に存在した様模。平成13(2001)年には05087圓泰寺12世廣君直尊を圓山として法地界標。現在は御殿となつており、その一間に墓地がある。		
22	聖圓山 長昌寺		山野字宇前 (武儀郡)	寛永年間	曹洞宗	寛永年間(1624~44)元禄4年(1691~1700)とも成立。当村在住の長昌六兵衛貞長が、05087圓泰寺12世廣君直尊を請して圓山。平體地であったが、寛永元(1679)年に、現在文なる者が左邊を立てて法地界標。圓泰寺29世芳重正彌を法地圓山とする。	H, G	
23	善慈山 福田寺		下之保西園 (武儀郡)	昭和2年	曹洞宗	慶長15(1610)年。尼僧玉事宗院により現在の北1kmのところ(裏:字:中野村)に成立したとい。元禄2(1689)年に05087圓泰寺12世廣君直尊を圓山として法地界標。圓泰寺末寺。その幾度度か災害に見舞われ現在の地に移転したと伝う。現在の伽藍は昭和57(1982)年に建立。圓泰寺末寺。	G	
24	神宮山 愛樂寺		富之保水成 (武儀郡)	元禄12年	曹洞宗	元禄12(1699)年。05096德藏寺慧懶の隠居寺として成立。圓山は大抵丘走とされ、圓是は宝之保水成の住持とされている。その後多くの変遷を経て現在に至るが、明治時代(1868~1912)の改め頭の全地盤はほどなく再建。05096德藏寺末寺。		
25	太白山 寿福寺		肥田町 (加茂郡)	延宝元年	曹洞宗	成立時難不明だが、当初は現在の南の方、字小林に「如意庵」として存在。延宝元(1673)年に、永享院会立、05087龍泰寺20世薫山正雲の法脈傳承(中興2世)と協力し、圓泰寺を圓山として、現在地に寿福寺として移転。	H, G	
26	龍興山 松雲院		豊川町 (武儀郡)	大正13年	曹洞宗	享保元(1716)年。鶴堂正桂(定宗)により下倉舎(下倉舎公母セントア)に圓山。圓山は倉舎公母の小倉伊左衛門、鶴堂正桂は2011小野寺徹の慧雲道定の法門である。明治24(1891)年脇邊花透により諸堂倒壊、再建。大正13(1924)年に現地小倉(豊川町)に移転。		

表11 関市参考寺院一覧表(3)

表12 関市参考寺院一覧表(4)

番号	寺号 番号	史籍 年	山田町 号 院名	所在地 (山田町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
43	05134	源祐山 榮本寺 南光院	伊勢町 (武儀郡)	寛永9年以前	不明	神明社は出来木神仏合祀の社。寛永9(1632)年の縁縁によると、關郡の繁栄を祈る而精著神宇宝童子、能樂堂の造営を祈る山神安産を祀るために、別当寺南光院が社を造立。享和3(1683)年、伊勢守内河内守神空室(新新明寺)の地にあった能樂堂の跡の跡に、能樂堂の跡に能樂堂を新築して、別當寺南光院と改められ、別當寺南光院の名を見えるなどが、享保8(1723)年の縁縁から「源祐山(關郡)」の寺号による南光院の名を承る。明和2(1765)年の境内図では護摩堂や御廟堂が存在したと想る。		
44	05135	梅林庵	赤羽 (武儀郡)	明和五年	臨済宗	天保2(1830)年の開基縁縁によると、郡上郡下金森郷部少佐高橋城のみぎり、家老桐川仁兵衛の妻が、開闢の新八日(新之助・新義院町)に坐りて御願して庵を始んだ。050866梅林寺は江戸天王蘿を山とし、舟廣・池輪として御堂。宝元12(1862)年入院。明和2(1765)年にその弟子を若要尼が御願に本尊釋迦牟尼佛とし、若要尼とし。寶印也(御印)は御印也・一分印也。大正10(1921)年、本堂の御帳金を出で新築作成され、現在の時に使用する。本堂の御帳金は音頭作で信するが、縁起時の作が鑑定されている。門前寺となると、和田山興圓に大雄寺があつたことは確かであるが、詳縦位不詳のこと。		
45	05138	道藏坊	下有知中郷 (武儀郡)	不明	真宗	成立時期及び位置不明。明治11(1878)年発の記録があるが、境内には平塚付の御堂のような建物がある。		
46	05139	地藏院	下有知 (武儀郡)	不明	不明	近世に下有知村に存在した今庵。成立時期及び位置、位置不明。このほか下有知村には地藏院、舟廣院、延慶院、山王院といった今庵があつたといふ。		
47	05140	和田山 大雄寺	美尻 (武儀郡)	不明	黄檗宗	延喜2(1745)年、050866延喜寺古代山寺の時、和田山大雄寺を造り受け。元簡の末(1716~36)に050166龍寺(子孫入り子)として御堂。元和の末(1700)に御堂・龍寺(御堂)は御堂・一分印也。大正10(1921)年、本堂の御帳金を出で新築作成され、現在の時に使用する。本堂の御帳金は音頭作で信するが、縁起時の作が鑑定されている。門前寺となると、和田山興圓に大雄寺があつたことは確かであるが、詳縦位不詳のこと。		
48	05141	三光院	小瀬 (武儀郡)	不明	不明	慶政元(1789)年の書上げ記者が残る。謹謹度があるとされるが、成立時期は不明。明治時代(1888~1912)には廢寺になつたと思われる。位置不明。		
49	05143	梅香庵	下白金 (武儀郡)	江戸時代	不明	享保21(1736)年、宣貞が村の約四分之一を領していた恵那郡の岩村町に搬出した庵の概要を記す。古跡であるが現立などについては不明とある。その中に変更はないが、南光院不明だが、現在は存在している模様。	位置不明。	
50	05144	海岳庵	山田 (武儀郡)	江戸時代	不明	源主智が、父海舟の遺志を継いで御室の成立とその後代を経を志し。享保4年(1716~36)に050166龍寺(子孫入り子)として御堂を立てて田舎林の寺村と未確立を御園寺に継ぐ。出で書が残る。その他の御印は不明だが、現在は庵寺になつてゐる模様。寺村に当選した父源の法名が残ることから、源通は近世だと思われる。位置不明。		
51	05145	福寿庵	保戸島村 (山田郡)	不明	曹洞宗	050971長良川の末寺とされる。長良寺は江戸初期の成立であり、保戸島村が存在したのは明治20(1887)年と昭和25(1950)の時期であるため、近世・近代の寺院であると思われる。位置不明。		
52	05146	雲龜山 雲龜寺	十六所 (武儀郡)	不明	不明	元禄2年(1689~90)に1700石に、十六所山西北麓の雲龜原に存在したといふ。その御園地賃居士と、15丁目子金子六安宮と青舟の因縁で、元禄11(1700)年3月、安宮の手織を縫造者としたこと。雲龜寺は既廢したため、手織は近世だと思われる。位置不明。		
53	05147	懇松寺	倉知赤尾 (武儀郡)	不明	曹洞宗	承保4年(1644~45)に倉知村赤尾に創設された。万治元(1688~61)に050971清泰寺の弟子の前座元と舟廣院へ改められたとされる。萬治4年(1691)に御園金を人情の誓行で贈呈した。享保9(1724)年に村の有力者が本山大乗寺へ向てた証文も残る。位置不明。		
54	05148	聖祐寺	船口 (加茂郡)	不明	真宗	正保4(1647)年、持羅源川家によって朱印地200石を与えられ、一寺を建てて聖祐寺と定めたといふ。御園金等は不明。天保8(1837)年、大風車より倒壊し、以後は名古屋聖祐寺に御園。位置不明。		
55	05149	円通庵	船口 (加茂郡)	不明	不明	寛延8(1755)年に寺号も改めたが屋号を以り、天保7(1757)年に800石御園寺と15丁目船頭の御園寺へ改められたとされる。寺号を確認できる寺号は確定できていなかつたため、この廟号が受けられたかと云ふが不明。梅龜寺10世祖吉支院支持創建。圓通寺とされるため江戸時代初期成立と思われる。現在廃寺。位置不明。		
56	05150	万行院	巾平賀 (武儀郡)	不明	不明	御園寺寺所から05134南光院への危険に院名が残り。南光院と万行院は兄弟關係の開創とされ、古くからの修驗・篆學・根本院とされる。寛文10(1670)年に万行院、天明5(1785)年に万行院として記載される。明治元(1868)年には廃寺となつた。位置不明。		
57	05152	東嶽山 玉狹寺	野田裏 (加茂郡)	不明	真宗	野田裏(上)に存在したとされる。寛文10(1822)年に成立したが、昭和53(1978)年に本寺に統合合併したこと。所在地等詳細は不明である。		
58	05153	滅光山 安勝院	野田裏 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び位置不明だが、明治推測御園寺の御園地を以前に廢寺。西側の伊岐神社(寛永20(1643)年成立が可能である)を引いて開拓していた。野田裏神社の五重塔は伊岐神社の別当藤原・別當大庭の御園寺である。それまで本寺御園寺が御園寺であつたが、分家の05154宝勝院と別當大庭の御園寺である。明和3(1766)年には後醍醐なく無所有になり、寛寶院が領かるものの、村中と和睦がなく、村役が玉泉院へ対応を願い出たが、文政12(1829)年に僧良泰が水住を頼まれ役場に願い出た書なども残る。位置不明。		
59	05154	覺寛院	野田裏 (加茂郡)	不明	不明	05122宝勝院の分家であり、伊岐神社別當藤原と争う。宝勝院無作の開創があるが、村人や不満を抱いて御園寺に願い出た書がある。明治元(1868)年には廢寺になつたといふ。位置不明。		
60	05156	大日堂	御守今谷字大 日輪 (武儀郡)	天明3年以前	不明	近世の御園寺御敷地を有し、成立時期を宗祇など詳細不明。天明3(1783)年には、無所有寺を寺が入り込み御敷地となる。品川の義園を御園寺に替えるより、村役が役場に御園寺に出て寺守御園署を置くる。		
61	05162	大岩不動尊	追間字崎ヶ瀬 (加茂郡)	単立	成立時期不明。本殿は大きな木の柱で建つ。本尊不動明王は巣の院の御園寺に安置。本山は大岩山大日石窟で、境内に祀られる白木毘沙門は、尾張藩の郷土中野製糸の祖先の地に祀られていて、意山神が、隣の大族舟井姓舟井利公の御像に參り、利公10(1933)年にこの大岩不動に祀られたといふ。			

表13 関市参考寺院一覧表(5)

番号	寺院名	史跡 番号	山(里)名	寺(院)名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	山革等	遺物、遺構
62	06163	河北山 濟瀬寺	上之保川合申 (武儀郡)	上之保川合申 (武儀郡)	不明	臨済宗	05060御嶽寺の南西の庄屋地の位置不明)にあった。慶安5(1652)年に0506御嶽寺第9世貴宣が隣地を求めて濟瀬寺を創建し移転。文政4(1821)年灰塚家から田大し、土造。明治2(1869)年神仏分離令で作り徳令となが、御嶽寺の第11世寂居は、濟瀬寺の燈籠をかけて離去。両寺の距離も合祀。		
63	06165	林謹山 智本寺 (葛木山頃)	上之保吉備先谷 (武儀郡)	上之保吉備先谷 (武儀郡)	不明	臨済宗	05010御嶽寺を主とし、成立時期不明。明治時代初期に道善学校として小学校の校舎に当たったが、明治4(1871)年に廃止となり。本尊は05230山門(明光寺)に奉遷安置された。八幡社社境内の寺所の付石一番地の地にあったとされる。		
64	05166	(後)鳥屋市櫻寺	上之保川櫻市 (武儀郡)	上之保川櫻市 (武儀郡)	19世紀初頭	不明	馬鹿市の田尻と庄稼の間に廢寺跡があるという。寺の名は不明であるが、享和から文化の頃(1801~1810)にかけて宇賀が作ったという。敷地は広く相当大きな寺で、あったとのこと。大正時代(1912~1920)中頃には、絵図帳などと思われる跡が多く出土。近くには国三十二番札所延命寺や聖德太子像など多くの石仏が祀られ、寺田屋、寺井田、寺沼之原などの地名がある。		
65	05169	行合弘法堂	上之保行合本 郡 (武儀郡)	上之保行合本 郡 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明。行合本羅八個神社の創建より1日になり、境内に弘法大師像を祀る。宝字記昭和3(1978)年に開闢された。地藏堂と呼ばれる。		
66	05170	明ヶ島御廟堂 小畠御廟堂 (武儀郡)	上之保明ヶ島 小畠御廟堂 (武儀郡)	上之保明ヶ島 小畠御廟堂 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明。明ヶ島水の頭に所在するところであるが位置不明。本山御廟堂(御廟堂を祀る)、行合本羅の時(今時)に弘法大師像を祀り、御廟堂の頂上でお野参りし、川部で舟ない繩りを織る由が傳るといつ。		
67	05171	船山御廟堂	上之保船山寺 公休 (武儀郡)	上之保船山寺 公休 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明。船山御廟堂に所在するところであるが位置不明。本山御廟堂(御廟堂を祀る)、行合本羅の時(今時)に弘法大師像を祀り、御廟堂の頂上でお野参りし、川部で舟ない繩りを織る由が傳るといつ。		
68	05172	円空堂	古之保御曇寺 寺子屋 (武儀郡)	古之保御曇寺 寺子屋 (武儀郡)	江戸時代前幕 昭	不明	成立時期不明が、円空を祀るために伊丹町に創建され、教説内地図の基盤圖に建ち、當時には約100年と云ふ大きさの円空堂新羅御堂が祀られている。延宝年間(1679~84年)の作と被定される。		
69	05173	武藏庵	富之保武藏金 (武儀郡)	富之保武藏金 (武儀郡)	不明	不明	明暦3(1657)年に傳宗が武藏庵に武藏庵を撰くとあるが、その他の歴史や位置不明。		
70	05174	御嶽山 靈光寺	富之保山御嶽 (武儀郡)	富之保山御嶽 (武儀郡)	不明	臨済宗	『新撰御墨』では、岩山御嶽に存在し、05051天正寺の末寺とされる。元和元(1615)年、吉宗により成立。慶安6(1873)年、無住のため廢寺とされ、教育学校(現・武藏庵小学校)の校舎に当たられた。武藏庵小学校は移転・統合しているため、今現在の御嶽山は御嶽山御嶽寺と定められない。		
71	05175	阿骨陀堂	下之保宇平 下 (武儀郡)	下之保宇平 下 (武儀郡)	不明	不明	保原川の岸辺に阿骨陀堂が建り、その御堂に御院御堂が祀られていたといつ。阿骨陀如は、洪武により成立。洪武により中興保原御堂から遷入したものの平安時代のものと思われるが、平安時代(900年)に遷入があった。現在は平面面と石碑がある。		
72	05176	福壽山 神應寺	下之保村 (武儀郡)	下之保村 (武儀郡)	不明	臨済宗	『新撰御墨』では、殿内に存在し、05051天正寺の末寺とされる。江戸時代には存在しようがまだ成立時期及び位置不明。		
73	05177	古布帳當堂	下之保古布 (武儀郡)	下之保古布 (武儀郡)	不明	不明	地図上に「古布帳當堂」とある。成立時期及び泊岸不明。古布の庚申堂に貞享2(1685)年頃の円筒作の御院御堂像が祀られるがされ、また、古布の御法堂には文化7(1808)年の馬頭御堂や承永3(1717)年の地蔵菩薩などが残るがされ。当該地図の帳當堂と、史料上この庚申堂、古布堂が同一のものか否かは不明。		
74	05178	天真院	下之保勝野 (武儀郡)	下之保勝野 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明。修驗道場とされる。境内には、櫻庭本堂、弘法堂がある。		
75	05182	寶山西 淨水寺	武藏川町高野 平木山 (武儀郡)	武藏川町高野 平木山 (武儀郡)	承応元年	不明	寛安4(1611)年、豊州納税人外郡の家臣川喜久衛が、聖德太子作と伝わる十一面觀音菩薩像を奉事し、承永元(1602)年時の懸念により御院御堂を立。本堂を安達し寶山西淨水寺とした(承応2年を再建ともいふ)。享保11(1726)年に野村野の取持として宝山西淨水寺の御院御堂を再建し祀られた。明治36(1903)年、謙信代恩贈治郎三郎の作による。御院御堂は武藏庵の御院御堂の御院御堂に祀られた。御院御堂は再び宝山西淨水寺に祀られた。御院御堂は宝山西淨水寺に祀られた。	6	
76	05184	寺尾龍昌堂	武藏川町野原 今尾字尾原 (武儀郡)	武藏川町野原 今尾字尾原 (武儀郡)	昭和38年	不明	文政6(1823)年、寺尾の恩田利成、藤田龍昌岡間が延命に赴き、般若音菩薩の尊像を祀れた。良久有志により山門の前に一字堂を建立。弘化4(1847)年の御院による十人別院の御院、存院堂としてて撤去。般若音菩薩像は武藏庵広見村の日向に、萩原家(元武藏庵)の本堂の付合に祀られた。明治36(1903)年、謙信代恩贈治郎三郎の作による。般若音菩薩像は再び寺尾に祀られた。御院御堂は宝山西淨水寺に祀られた。		
77	05187	尾倉道場	横戸尾倉 (武儀郡)	横戸尾倉 (武儀郡)	寛永5年	真宗	寛永5(1628)年、蓮華の本寺長良利山法隆寺久義はの宗室が開祖。墨跡では、今リシタント門改めの間に、法久寺の家業だといってもらつたといつ。		
78	05188	井上山 經顯寺	御戸河原 (武儀郡)	御戸河原 (武儀郡)	不明	真宗	寛永12(1635)年、可死又十郎が大谷源吉の弟子となり懶菴と改名。当寺を創建した。懶菴はなく大谷源吉の兵士となり懶菴として祀られていたようである。昭和13(1938)年頃の住職が一宮・神社。同17(1942)年には本堂堂宇・宮前邊の方に身足堂13(1938)年の作の御院御堂が祀られた。御院御堂は再び寺尾に祀られた。御院御堂は宝山西淨水寺に祀られた。		
79	05189	宝寿院	御戸曾谷 (武儀郡)	御戸曾谷 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明だが、慈勤道として江戸時代に活動したという。文化11(1814)年の宝寿院の御院にると、初代は慈覚といつ、天保2(1832)年病歿とのこと。以降、明治元(1868)年遷御した慈覺まで10代であったといつ。江戸時代には矢作神社の近くに住み慈覺と山口神が相處で祀られていたようである。位置不明。		
80	05192	雲慶院	板取御原宇大 原山 (武儀郡)	板取御原宇大 原山 (武儀郡)	16世紀後半	不明	初詣開拓鬼王(寛永14(1637)年)年祝開拓され、成立立安土山の時代と思われる。創建者は御前家臣長坂清直の先祖とするお碑、残り、江戸時代には御前家臣山田寅次郎の御院御堂であったともいふ。慶安11(1698)年の寺子院御堂開拓は「雲慶院」と記載。現在は如意輪観音が本尊とされるが、昭和時代初期に破壊された平磯の御院御堂から、往古は雲慶院地蔵堂と称し、地蔵菩薩を本尊としていたようである。		

表14 関市参考寺院一覧表(6)

番号	件名	文書 番号	文 書 名	山(城)号 寺院名	所在地 (都道府) 市町村	建立時期	宗派	伯等第	遺物、遺構
81	05193	山伏山本院	板取印口字上 武道(武藏郡)		江戸時代	平明	文化・文政年間(1804~30)の板取勘定の中に山伏山本院の記載有り。当時長良川流域の山伏御寺は古来の修驗道と唐古道の交叉点になり、山本院は藤原の御坂五箇所の御坂守であったから、山本院は歷代正住持(1853)から後住持7(1856)までの間の御坂守の印口字である。御坂守の印口字は御坂守の代号で御坂守の代名である。御坂守の代号は、宝水3(1766)年西から明治2(1869)年までその代号が使用され、明治2(1799)年には大和丸(北の丸)に改められ、文政年間(1818~30)には上街道に移転。明治時代(1868~1912)まで御坂を行っていたが廃寺。		
82	05199	広見山高徳寺	広見 (武藏郡)		不明	天台宗系 真言宗	白山神社奥の院の御坂守代官に広見山高徳寺といふ御教系の寺があった。1867年板取の郷及び近隣内であり、奉事の寺の御坂守として記された時期があった。1826年御坂守寺に登録し登録しているというう一庵圓覺寺菩薩坐像の御坂守寺にて、『西農業會 葦原 三(1851)年六月吉日 高徳寺住持 道記』とある。葛谷台裏面の墨書きにて、『京大仏師佐木大師作 奉事御坂守一派大士 広見山高徳寺 住持御坂守』とある。高徳寺は御坂守寺にあたったといい。	II, 6, かわらけ	
83	05200	金鳳院	肥田彌 (加茂郡)		19世紀	平明	元治元(1864)年に村人30513金鳳院の世話を金鳳院に願い出た書が残る。他に、天保13(1842)年の御神料奉納証文、慶応2(1866)年の資金貸付承諾文、慶応3(1867)年の御坂守の南衙への借用証などもある。延喜元(1860)には廢院。		
84	05201	覚法院	肥田彌 (加茂郡)		19世紀	平明	嘉永7(1854)年に御坂所賄を行った跡の御取豆兵衛が残る。明治元(1868)年には廢院。		

表15 美濃市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡名	山(城)名	寺院名	所在地 (都道府県)	建立時期	宗派	看守等	遺物、建物	調査 時期	分布圖	
1	07001	東光山 貴實院	曾代 (武藏郡)	永祿2年	真言宗	承永2 (1559年)、良快により成立。京都山科の懶懶寺末				L6		
2	07002	金剛麗山 空照院	麻町 (武藏郡)	弘安時代	真言宗	成立時期不明だが、平安時代に遡るとみられる。修驗者の根本溫源として伊勢舟と称した。天正18 (1590年)に伏見宮により西興、慶長年間 (1606~1615)、金剛麗山権現を瀧崎より勅請したと伝え文政元年 (1818年)勅願と有る。天明甲年間 (1781~89)に火災により焼失したが、文化4 (1807年)に再興。					L6	
3	07004	金光山 倉津寺	相生町 (武藏郡)	伝鎌倉時代	真言宗	成立時期不明だが、大和守とも、都郡にあった古寺を移設して700~800年にになるとわれる。江戸時代の幕藩領や水戸侯等により修理。明治初年に松森の吉田市右衛門らが再建。昭和14 (1939年)に中興圓鏡山碑が建立。				L6		
4	07005	下町山 福壽寺	笠神 (武藏郡)	延宝2年	真言宗	成立時期不明だが、平安時代に上神神社の神官舍として成立したと伝わる。上神神社は大和田辺に在する吉田山神官舍に隣接する神社の一つ、別称本寺。延宝2 (1674年)長良川の洪水の被害を受け神社と共に現在地へ移転。京都懶懶寺今。				L6		
5	07005b	福壽寺旧境内	笠神 (武藏郡)	伝平安時代								
6	07006	圓王山 弘祐院	曾代 (武藏郡)	神龜5年	真言宗	神龜5 (728年)、泰海による開基。天平9 (696年)安閑寺西院。境内に6705年間碑が存在するが、開基の關係は不明。厄除は巫伝にゆれるのみで記録等は確認できず。				L6		
7	07007	小倉山 西之坊 善光寺	泉町 (武藏郡)	明治34年	淨土宗	嘉慶元 (1807年)、安政により広島縣鷲道市に成立。跡跡は不明だが、明治24 (1891年)に現在地へ移転。				L6		
8	07008	長葉山 恵昌寺	吉川町 (武藏郡)	天正2年	淨土宗	天正2 (1574年)、後北条泰時の開山により創立。最初の住持藤原俊房にあり藤原家と呼ばれ。藤原・長葉 (1596~1615)に現在地へ移転。後北条・山岸清円寺と改めたが、文保年間 (1176~1185)に改めて山安寺院と改号。明治24 (1891年)の震災で諸堂崩壊、その後真重が再興。				L6		
9	07009	青龍山 般若寺	東市郷町 (武藏郡)	慶長8年	真宗	永祿2 (1559年)、夏山闇門の子了昌が御前御所南門に建立して成立。永禄年間 (1566~70)に下井知村、さらに上井知村へ移転。慶長8 (1603年)、7世慶子の代に現在地に移転。但現地の詳記位置は不明。				L6		
10	07010	竹林山 顯念寺	加治原町 (武藏郡)	享保8年	真宗	文政9 (1827年)、唯円の開立により三國岡穴守に新巖寺が成立。文明5 (1473年)、8代目法燈の時に御園に移転し御園寺と称した(初めは見付村一ノ寺寺名村一ノ寺有村時、位置不詳)。慶長5 (1600年)に、親祖町と本町の裏一帯の地に移転。享保8 (1723年)の大火により類焼後、現地に移転。延宝4 (1717年)に本堂を再建し、その御裡、山門も再興。				L5		
11	07011	圓木山 普濟寺	御手洗 (武藏郡)	大永年間	臨済宗	大永年間 (1521~26)、大鑑聖公の開基。大蔵御室の圓山で成立。境内の御飯殿がは永正3 (1506年)の御印が残り、寺の成立以降から庶民信仰を受けて存する。				L5		
12	07012	仙日山 久須院	御生 (武藏郡)	慶長年間	臨済宗	慶長年間 (1596~1615)、春山道證の建立。07010清泰寺と2世豊松玄國の開山で成立。背後の弘法山は明治時代 (1868~1912) 中頃に修行僧伝藤三郎が重複として開いたとされる。				K6		
13	07013	江雲山 龍昌寺	下野河 (武藏郡)	慶長3年	臨済宗	慶長3 (1598年)、清泰寺と2世豊松玄國の開山により成立。			G	K6		
14	07014	鬼越山 慶長院	御生湖 (武藏郡)	慶長年間	臨済宗	慶長年間 (1596~1613)、07010清泰寺と2世豊松玄國の開山により成立。				K5		
15	07018	安住山 清泰寺	船町 (武藏郡)	慶長10年	臨済宗	永祿2 (1559年)、尾尻山主在藤原少弐に坂道を開拓。菅原少弐として六代目に阿波守藤原少弐 (もとう)、三郎左衛門を立てて安住山 (1592年)、2代城主・秀方 (3代城主)・秀方 (4代城主)の安住山藤原 (位置不詳)。上山 (1592年)に移し等山主 (笠置寺)と改称。藤原氏滅亡後、金森景長が其殿跡に移転し、安住山清泰寺と改め開基をし、慶長10 (1605年)に現在地へ移転。臨済宗妙心寺派 (東海派) の別格単院。10以上の末寺がある。				R, G		

表16 美濃市寺院一覧表(2)

番号	寺院 名	史 籍	山頂(山 名)	寺頂名	所在地 (山都名)	建立時期	宗派	沿革	遺物、書 類	調査 結果	分布図	
16	07019	南畠山 合道寺	長瀬 (武儀郡)	天台宗 →臨濟宗	中世以前	天台宗 →臨濟宗	成立時期不明。天台宗寺院の一宇摩林庵が前身とされる。寛永2(1625)年に07018清淨寺3世北州祖秀が臨済宗妙心派の寺院として中興開山。			L6		
17	07020	慈雲山 江龍寺	横瀬 (武儀郡)	慈雲宗	嘉吉2年	慈雲宗	嘉吉2(1442)年。山田義長の建立により成立。天正19(1591)年、07018慈雲寺開山の大主朝貢を招いて瀬戸内江に難寺と号した。慈雲院に並立する慈雲院には、横瀬に所在したときに伝わる古仏が多く受け継いでいる。木造金剛界大佛(如意輪)と木造阿弥陀如来坐像は07063健良寺をたどる07063拂添持から、木造聖観音立像は07067慈雲寺から移された。木尊木製慈雲院は平安時代。	G		L6		
18	07021	御雪山 長蘿寺	上野 (武儀郡)	延文元年	臨濟宗	延文元(1336)年。土岐義忠の援助で中心塔婆(覺乗圓照)が開山して成立。元は臨濟宗延慶寺。文永年間(1469~97)に火災に遭うなど著述。江戸時代初期の中興時に妙心寺派に転向。江戸時代には塔頭長蘿庵があつたとされるが廃絶。	B, G		K5			
19	07025	圓融山 光明寺	曾代 (武儀郡)	天正年間	臨濟宗	天正年間(1573~1592)。17018伊勢宗一侯親姫大園山により成立。当寺1世御室庵を開基とする。慶長10(1605)年坂安田左衛門が再興との伝承有り。	B, G		L6			
20	07027	大仙山 金谷寺	乙羽口本 (武儀郡)	万治元年	真言宗 →臨濟宗	文明年間(1469~87)に開山05186高賀山蓮華寺の一坊。大仙山童王寺として御所村行賀貢の寺の伝承有り。開基は不詳。開基は不詳。院内御前堂は御所村行賀貢の寺である。世界文化遺産高賀山の水無川源流流域。乙羽谷上辻に移転(位置不明)。万治元(1568)年に17018僧夢寺・大仙山主院を開基して臨済宗妙心派として臨済宗妙心寺の少林派の寺として岐阜市01225崇福寺塔頭臨濟院の今号を移し、現在に至る。安永4(1775)年に金谷寺と改称。						
21	07029	大仙山 道鏡寺	大矢田 (武儀郡)	永正年間	臨濟宗	永正年間(1504~1521)(永正3(1506))。天文3(1514)、天文3(1515)年説もあり。蘇我西郎左衛門が建立。景勝圓山を開山して成立。慶安年間(1648~52)に世泰僧が伽藍を擴張したが、明和7(1770)年本堂焼失。後は再建されず。大矢田地区内には地蔵として、千脚・十輪・千手・觀音等があつたとされるが、いずれも明治年間に撤去して現存寺未だらん。	H, G, 石碑		L6			
22	07031	蘆山 圓鏡寺	立花 (武儀郡)	近世復代	天台宗 →臨濟宗							
23	07031b	蘆山寺山境内 (原寺跡)	立花 (武儀郡)	安永元年	本文参照				本文参照	64	L6	
24	07032	繼昌山 圓星院	片知 (武儀郡)	慶長年間	真言宗 →臨濟宗	慶長年間(1596~1615)。圓星院により宝珠寺として成立。寶珠院に属していた。後に17019圓勝寺3世北州彦舟より圓星院寺として中興。圓勝寺。江戸時代末。無住となり、明治時代初期に時慶寺となつたが、明治時代中に再興。岐阜市01225崇福寺塔頭臨濟院の今号を移して現存寺未だらん。						86
25	07033	正願山 願心寺	大矢田平沼 (武儀郡)	延文年間	臨濟宗	延文年間(1586~91)。圓願院の創建により成立と伝う。寛永年間(1623~44)に07032圓勝寺と事並伝で中興したと記される。大正年間(1912~1920)にそれまでの願心院を願心寺と改称。						15
26	07034	臨濟山 賢照院	前野 (武儀郡)	延宝年間以前	天台宗 →臨濟宗	成立時期不明。續倉時代に天台宗寺院として尾崎神社と同じ敷地内に存在していたとされる。室町時代に山門が現れる。延宝年間(1673~81)、17019圓勝寺と事並伝が圓山となり跡地に再興。現在の延宝寺は昭和時代初期に新設されたもの。						16
28	07038	丹波山 大澤寺	笠神 (武儀郡)	弘安9年	臨濟宗 →曹洞宗	弘安9(1296)年。円鏡院別圓山圓鏡院の開創により成立。圓鏡院東院寺と記して現存するが、延宝4(1676)年圓勝寺ととなり、下呂市金山町20031長篠寺2号の宝篋印陀羅尼塔と圓鏡院の開創と併記。圓鏡院は宝篋印陀羅尼塔(1654~60)の建立とされる。	H, G		L6			
29	07039	福寿山 圓鏡寺	保木屋 (武儀郡)	昭和時代	曹洞宗	永禄元(1559)年。圓鏡院別圓山圓鏡院の開創により成立。圓鏡院東院寺と記して現存するが、延宝4(1676)年圓勝寺となり、下呂市金山町20031長篠寺2号の宝篋印陀羅尼塔と圓鏡院の開創と併記。圓鏡院は宝篋印陀羅尼塔(1654~60)の建立とされる。						
30	07040	宝宝山 永慶寺	口野ヶ (武儀郡)	慶長年間	曹洞宗	慶長年間(1596~1615)。領主・藤森山(宝門山城の城主)にあった寺を、芦州水野が現在の宝(名跡)に移し、永慶寺と改称し、圓基院となつた。元禄4(1711)年に17019圓勝寺の部屋白壁が再興し転用。宝篤5(1726)年に25石の正門を開山として現在地に建立。真言宗の開創とされるが、圓基院の開創が最も古いとされる。号吉旗(祇尺)が存在する南圓基院とされるが、其の位置は不明。						16
31	07041	万年山 長福院	牛櫻 (武儀郡)	江戸時代	曹洞宗	成立時期不明。寺伝によると住吉は万年寺と号し、八幡宮森の西南(位置不明)にあつたが、慶長5(1600)年に既に、本尊を残してみとなつた。寛永9(1632)年、17019圓勝寺(6世圓鏡院)通を圓山とし寺号とし、その弟子圓鏡院が開創した。	H, G					
32	07042	松原山 長勝院	松森 (武儀郡)	宝曆5年	真言宗 →曹洞宗	成立時期不明。往古は真言宗。松森山(金糞山)の麓寺園に宝象庵(宝相院)という小庵があり、松原山の社宇をして。後に廢寺となつたが、元禄4(1711)年に17019圓勝寺の部屋白壁が再興し転用。宝篤5(1726)年に25石の正門を開山として現在地に建立。真言宗の開創とされるが、圓基院の開創が最も古いとされる。号吉旗(祇尺)が存在する南圓基院とされるが、其の位置は不明。						
33	07043	神光山 圓泉寺	上河内 (武儀郡)	天正5年	曹洞宗	天正5(1577)年。道林圓榮圓泉院により成立と伝わる。明應元(1653)年に17019圓勝寺20世圓鏡院正門を圓山に請ひ、元禄7(1694)年に圓山号に改称。						16
34	07044	出雲山 正林寺	笠神 (武儀郡)	天文4年	曹洞宗	天文14(1545)年。17019圓勝寺6世圓鏡院正門の圓山。批芳林の開基により成立。	G					16

表17 美濃市寺院一覧表(3)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 別名	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
25	07046	金佛山 本亥寺		泉町 (武儀郡)	大正2年	日蓮宗→ 創価学会	慶元(1204年)。勘助勝原市喜田源町に紹立院より置により建立。大正2(1913)年。大石寺(山県國新富士宮市小矢)大石興造及び信者等が発起し現在に移転。現在は創価学会(昭和6(1930)年設立)。日蓮正宗の信徒組織として「発足」の美濃市興徳として宗教活動。			
36	07052	東木山 松森寺		松森 (武儀郡)	不明	不明	成立時期不明。万治4(1661)年山県郡源山の庵水寺大日坊が東木山松森寺という寺号を祀るするという文書があり。江戸時代は修驗道の寺であったと推測されている。位置不明。			
37	07053	桜華山 豪美寺		生郷 (武儀郡)	伝奈良時代	真言宗	成立時期不明。源延(?)が桜華山豪美寺を建立して豪美寺と称する。源良時代に豪美家・般若夷伏行に行く途中に祈願し、般若夷伏空宇御懐を獲得したとされる。近くに源寺、豪美院のみは残る。豪美院には円門の豪美御来堂と良貞院から掘り出したといつて鉄製の阿弥陀如来像が祀られる。	G		L6
38	07055	雨平山 普門寺	乙狩平手	(武儀郡)	天慶年間	不明	本文参照	本文参照	66	K5
39	07056	豊日山 大圓寺	小倉	(武儀郡)	伝天慶8年	不明	現境内の看板によると天潤8(954)年の成立とされる。江戸時代までは栄えた寺であったが、火災で焼失。現在は草庵。明治維新の際に空宇を解体し竹筒へ詰められたが、明治14(1881)年に再建された。			K5
40	07059	極樂寺	極楽寺	(武儀郡)	不明	臨済宗	成立時期不明。押尾(?)と1309年に岐阜縣東山口極樂寺不動院の通称にて奉事したとされる都上人・大坂義時と號出した「大坂等目日根」。令嘆定(?)と1340年に足利義満が極樂寺住持にいた「足利直義滿和尚御持」(御持)がある。美濃守氏氏の菩提寺で、京都玉毛の藤原京東寺の末寺であったとされる。住職は竹筒が埋められたが、駿岡院末に参詣する際原きりなり。地名の竹筒が残ったと思われる。位置不明。			
41	07060	天王山 釋迦寺	大矢田	(武儀郡)	伝仏教2年	真言宗	本文参照	本文参照	68	L6
42	07063	(長福寺跡)	横越	(武儀郡)	不明	不明	成立時期及び厄除不詳。中世の寺院跡とされる。誕生山山麓の小高い位置に存在し、周辺の地面表面には五輪石が散在する。平成4(1992)年度の発掘調査で、中世の墳墓から納骨器として用いられた古瀬(?)の有蓋骨が出土した。	G, 古瀬(?)有蓋 骨		L6
43	07064	(建寺寺跡)	横越	(武儀郡)	天正20年以前	臨済宗	寺伝では天正30(1592)年成立とされるが、それより以前に大寺が存在していた可能性が考えられる。07010清音寺の天主御廟は年寄横越の妙見院に附した。この妙見院が後に建寺寺と改めたとされる。	G		L6
44	07066	(東福音寺遺跡) (西福音寺遺跡)	横越	(武儀郡)	中世以前	臨済宗	本文参照	本文参照	80	L6
45	07072	洲原白山權現	東原	(武儀郡)	養老5年頃	天台宗か	本文参照	本文参照	72	K6
46	07073	高賀山龍の宮	仁智宇タケウ アメ	(武儀郡)	10世紀頃	—	本文参照	本文参照	76	K6
47	07074	高賀山鐵王權 現	片知羅御	(武儀郡)	10世紀頃	—	本文参照	本文参照	78	K6
48	07075	金剛寺	立花	(武儀郡)	伝養老5年	天台宗か	現在の立花神社。養老5(721)年、泰澄の創建により成立。洲原神社の前宮とされる。古くから白山社と呼ばれ金剛童子を祀り、境内に十王堂、大日堂。豪農堂があり「金剛寺」とも称され、修驗道の影響を強く残す。			L6
49	07076	(保寧寺跡)	中央	(武儀郡)	不明	不明	成立時期及び厄除不詳。中世の寺院跡として遺跡登載される。滅失し、現在は本堂。			L6

表18 美濃市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 別名	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	07003	忍尊不動院	片知押羅	(武儀郡)	不明	真言宗	成立時期及び忍尊不詳。無住。境内周辺には植林地が広がる。	
2	07015	總陀山 觀音寺	僧代	(武儀郡)	不明	臨済宗	同じく07006清音寺が存在するが、両者の關係は不明であり、神龜3(728)年、清音寺より成立と伝かる。元和9(1806)年再興。忍尊は里伝に残るものの記録は確認できない。前記からこれまでに至った豪農堂觀音寺に、中近世以降總陀寺が建ったと思われるが詳細不詳。	
3	07016	鳴光山 竹屋院	小倉	(武儀郡)	元和年間	臨済宗	元和化開(1615)~1626)。07105清音寺2世北畠玄高の隣山により成立とされるが、記録焼失ため沿革は定かではない。	
4	07017	東應山 圓通寺	伊町	(武儀郡)	寛永3年	臨済宗	寛永3(1626)年、清音寺3世北畠祖秀により、その透達として成立。	
5	07022	摩雲山 觀音寺	摩雲寺	(武儀郡)	不明	臨済宗	寛永2年間(1625~64)、吉田太郎右衛門の建立と伝わる。1718(享保9)3世北畠祖秀が勘定院白山に至り成立。成立時の住持は不明。現在地への移転時期不詳。	B, G
6	07023	大澤山 萬休寺	保木福	(武儀郡)	江戸時代初期	臨済宗	寛永4(1627)年に07018清音寺3世北畠祖秀の建立とされるが、寛文開闢(1661)~1673)にはすでに存在が記録有る。	
7	07024	木月山 江翁寺	神保	(武儀郡)	元和元年	臨済宗	元和元(1615)年、村内田佐保秀次が07103清音寺出身の室町家を招き建立。清音寺4年受持親船を招請して成立。明治元(1868)年、四国高松の慈惠寺から来た慈惠院により中興。前寺寺17世魚州所れの法を顧いで寺地に昇格。	
8	07026	宝生山 普度寺	立花屋ノ御	(武儀郡)	不明	臨済宗	成立時期不明。宝生靈叢教會が駿田野山普度寺で現存07023萬休寺の別院であるとされている。によっては原原寺や敵に存在した可能性があるというが如意内の仮説不詳。宝生靈叢教會は現在在住である。	

表19 美濃市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 寺院名 (旧院名)	所在地 (旧院名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
9	07028	神徳寺 慈光寺	須原 (武儀院)	萬治元年	臨済宗	万治元(1658)年に古田島左衛門が一宇を建立し、田瀬田御師を開山に請願し成立したと伝わる。	G, I	
10	07030	宝鏡山 太清寺	大知田 (武儀院)	元禄13年	臨済宗	元禄13(1700)年、小森三郎左衛門が基となり、盤木源禪開山開山として成立。境内には元禄4(1701)年に再建された般若堂がある。		
11	07035	松壽院	松壽 (武儀院)	17世紀後半頃	曹洞宗	成立時期不明。盤木とされる位牌(前山宗配庵主 盤木智祐大師)の年号は元禄11(1698)年となるため、17世紀後半には成立し、開山は開山05087龍泰寺28世天外來庵とされる。		
12	07036	慈雲寺 慈心寺	吉川町 (武儀院)	寛文8年	曹洞宗	元和2(1616)年、能山操氏の家臣山田伊右衛門が、佐藤家の菩提を守った上有所にて月輪院を寄附して建立。寛文8(1638~40)年に於て寺名「慈雲院」が開基となり、松森村に慈心寺今を開創。寛文8(1698)年に現在地に移転。		
13	07036b	壽光寺 壽光院内 (壽心之道院)	松原 (武儀院)	元和2年	曹洞宗	正徳元(1711)年、玄鑑院の開基により成立。同10(1710)年、1701年般若寺20世圓正智照院。2住持院は諸堂什具室を完備し中興となる。		
14	07037	太平山 永昌院	安永 (武儀院)	寛文8年	曹洞宗	寛文8(1698)年、玄鑑院の開基により成立。同10(1710)年、1701年般若寺20世圓正智照院。2住持院は諸堂什具室を完備し中興となる。		
15	07049	真嚴道場	羽原 (武儀院)	不明	單立	成立時期及び単立不詳。		
16	07050	朝泉院	上有知 (武儀院)	不明	真言宗	成立時期及び単立不詳。江戸時代に修験道場として栄えたが明治時代中に廃絶したとの記述がある。江戸時代に修験道場として栄えたが明治時代中に廃絶したとの記述がある。位置不詳。		
17	07051	泉長院	上有知 (武儀院)	不明	真言宗	成立時期及び単立不詳。江戸時代に修験道場として栄えたが明治時代中に廃絶したとの記述がある。甲斐守初代初期には熊野神社・天神社・神明社・大明神社・稻荷社・金毘羅社・日向守社・菅原社・大日堂などと記載されているようだが、神社分離合併を受け、修験道場から神社に転化する説が複数ある。位置不詳。		
18	07054	岩屋觀音堂	片倉坂山 (武儀院)	不明	不明	成立時期不明。墨々面で覆面にあり。内空が修理したうえ見える柱がある。前面の墨書きと書道家と記載が存在したが、墨書きと書道家と記載が修理されし管理権を持つことが困難と判断されたため、「先農和氣の坐石假(美濃市坐石)」へ移転された。	岩壁	
19	07057	圓成寺	極樂寺 (武儀院)	不明	真言宗	成立時期不明。江戸時代からあったが、明治時代中に岐阜に移転したとされるが詳細不明。位置不詳。		
20	09007b	大仙寺旧境内	極樂寺 (武儀院)	不明	臨済宗	成立時期不明。江戸時代からあったが、明治時代に多治見方に移転(04007)したとされる。位置不詳。		
21	07061	興善寺	大矢田 (武儀院)	不明	臨済宗	成立時期不明。京都東福寺の末寺とされ、現在の高麗寺禪福寺がその脈承とされるが、神社も度々は不詳。		
22	07062	(須原寺跡)	橫尾寺 (武儀院)	不明	不明	成立時期及び単立不詳。「須原寺」とも、字に「須原寺」「寺原」「立原」「立原」が残る。平成18(2006)年の発掘調査では、17世紀前半の礎石植物跡1律を確認した。	中世陶器、土器 瓦器、近世御器 皿、土器、礎石 植物、埋設 遺物、土器、 瓦器、遺物	
23	07065	(狹井寺跡)	橫尾 (武儀院)	不明	臨済宗	成立時期及び単立不詳。近世の寺院跡として遺跡整備されるが詳細不明。	G, I	
24	07067	(光明院跡)	横尾 (武儀院)	不明	不明	成立時期及び単立不詳。近世の寺院跡として遺跡整備される。		
25	07068	(宝珠院跡)	横尾 (武儀院)	不明	不明	成立時期及び単立不詳。近世の寺院跡として遺跡整備される。		
26	07069	(楓音寺跡)	松原字觀音堂 (武儀院)	不明	不明	成立時期及び単立不詳。字名に「觀音寺」が残るため、寺院の存在が推測される。周辺には音詮堂(古墳一千世紀の地図)とて遺跡が載され、昭和31(1956)年の試験調査などで土器や骨壺などの遺物が出土したとの記載がある。遺物の可搬性がある疊合部の灰燼内側に「楓音寺」と墨書きで記載されており、四角形が埋め込まれていた上には五輪塔も存在したという。また平成20(2004)年の発掘調査では「觀音寺」に北側にされる大型の壇形柱跡が発見された。	土器陶器、須原 瓦器、近世御器 皿、土器、礎石 植物、埋設 遺物、土器、石 器、石垣遺構、 獨立柱跡、樁 主たは柱、井戸	
27	07070	道光寺	梅原寺山崎 (武儀院)	不明	不明	成立時期及び単立不詳。山崎付近の段丘上に道光寺駿古墳が存在していた。古墳名に残る「道光寺」が近傍に存在していた可能性が考えられるものの、現在のところそれを示す史料等は確認できていない。		

表20 美濃加茂市寺院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 寺院名 (旧院名)	所在地 (旧院名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 時期	分布圖
1	11003	毒正寺	山之上金谷 (加茂院)	永正5年以前	真言	成立時期不明だが、武儀院上麻生村舟戸彦一という者出家して当寺に来、永正5(1507)年本尊寺ヨリ舟戸の弟子となり御沙坊と称した。後、寛文4(1664)年再び改称。	G			87
2	11004	勝光山 淨明寺	勝尾町中勝尾 (加茂院)	室町時代	真言	文明16(1484)年、正統基により堂を建立。元禄9(1696)年8月円智の代に本堂を造営。弘化4(1847)年13月延慶院により代に代替。室町時代には太田から勝尾の地に開拓してきたという。勝尾經季、京極尚司代、坂井氏代、九条景安らとも關係が深く、御厨丈次が代に使われている。本堂内陣前壁の様式が本谷寺のもの。				87
3	11005	北瀬山 明淨寺	加茂町大瀬戸 (加茂院)	慶長7年	真言	慶長7(1602)年、本尊寺12世祖法印桔子祐通開基により成立。				88
4	11006	白瀬山 最乗寺	伊瀬町 (加茂院)	大永7年	真言	大永7(1527)年実知法子・法林開基により成立。	G			87
5	11007	華金山 明心寺	加茂町本町 (加茂院)	明応年間	伝天台宗 →真言	天台宗(984年)の本尊堂としての建物は明応の頃(1492~1500)、本山3(1523)年、再興開基。実知法子(1514年)の著述があるものの、真言などから江戸時代の建立とされる。上宮の「別立如来佛子手帳」には「明心寺」とある。今信によると御堂は平安時代まで遡るかもしだす。当初は無住の天台院であったといふ。転向時期は不明。				88
6	11010	鷲頭山 光應寺	下木田町西脇 (加茂院)	長徳元年	臨済宗	長徳元(996)年成立。のちに御安が勅願したというが時期不明。宇摩元(1453)年仁壽再興し、享應元と称す。正保4(1647)年光應寺と改称し、11013鷲頭寺の寺名なるが明治14(1881)年妙心寺となる。				87

表21 美濃加茂市寺院一覧表(2)

番号	寺号 番号	史跡	山(里)号 別名	所在地 (里町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 動向	分布図
7	11011	河北山 芳春寺	櫛田町 (加茂郡)	宝永6年以前	臨済宗	成立時期及び沿革不明。櫛田神社に合祀の神明神社の宝永6(1709)年 縁札には「村の中央に寺あり。河北山芳春寺」という。ならびに「日吉山 妙樂寺御前」とある。	H, G			
8	11012	豊富山 電安寺	伊深町・寺額 (加茂郡)	慶安～寛文間	臨済宗	慶長2(1597)年、土佐義行(美濃守康行)水安寺を立成し、宗祇無相十傑 法勝祖師の海舟御靈廟を創建。中世末に水安寺が廢寺となつた後に、この地に近い豊安～寛文の頃(1648～73)鶴飛庵といつて寺號ができた。 のち碧雲院電安寺に発展。	H, G			
9	11013	繼雲山 福林寺	鶴居町・上峰屋 (加茂郡)	文明年間	臨済宗	文明年間(1469～77)、仁宗清圓顕、即の高祖宗圓と號して開山。創 建時には土佐成龍より水50貫の寄進。慶長8(1603)年に大火に罹 り、天保8(1797)年にも再び火災に見舞はれたが、寛政元(1789)～ 1801)西郷・草野2(1802)年に開山堂も落成。末寺は江戸時代に 東泉寺。普門院を加へ、門外門内12堂6寺に及ぶ。	H, G		M7	
10	11014	妙法山 正顯寺	伊深町 (加茂郡)	元祐2年以前	→ 臨済宗	妙法山正顯寺と称したが、所属の宗派不明。開山玄惠院が創始した雲 野大徳院の腰掛を行方不明。延喜2(1022)年鎌倉を創じて此にに入 道體を修業する。寛永1(1624～44)年の之め、江戸福林寺の義雲慧林は ここに坐庵をまつた後で、万治元(1658)、睿府南出寺の慈大禪栗 が開山の腰掛を引き継ぎ、初祖山成公を名づけ、妙心寺派の寺号 を承り、寛文8(1668)年に開山堂が完成。天保12(1831)年に正顯寺と改 め、延喜1(1641)年に開山の1つ腰掛が完成。大徳院正顯寺を妙心寺に統 し納院光を引退。延喜、見桃庵、大徳院、不二庵が完成して4本の塔 頭がそろつた。			L7	
11	11016	大法山 福昌寺	二和町・甘利 (加茂郡)	文安年間	臨済宗	文安年間(1444～49)通称開基。はじめて福昌庵と稱し、寛永16年間(1644 ～49)11013福林寺より判山來中興し福昌寺と改稱。明治24(1891)妙 心寺改名。	G		L7	
12	11017	繼林山 正覺寺	知富野町・今原 (加茂郡)	天正年間	臨済宗	天正年間(1573～80)南庭為北吉庭重徳。11013福林寺2世仁清圓山に 開基。明治24(1891)年開祖都心印度本となる。	H, G		M6	
13	11020	金鳳山 法輪寺	知富野町・市橋 (加茂郡)	康安元年	臨済宗	康安元年(1361)宝藏院開闢。法輪寺と称す。延喜2(1060)年、富加 町35053福林寺の高僧法郎尊が住む往々。時無作らとなつたが、 慶安3(1650)に伊藤國原の腰掛寺となり名前が出来。門名は、寺号を 法輪寺と改め寺額を開いた。熟善長慶の開闢を記す中圓山とし、 妙心寺とよむ。	H, G		M6	
14	11024	繼松山 雪雲寺	知富野町・加茂 (加茂郡)	天明元年	臨済宗	筑前国時に土佐氏軍の兵火で焼失し、跡跡に本尊の阿弥陀如来の 首のみ一小塔を建てて安置。天明元(1781)年福室室を建設して福室尼 院と名づけ、本尊は阿彌陀三尊と定む。延喜2(1060)年腰掛寺に なる。延喜2(1060)年腰掛寺となり名前が出来。門名は、寺号を 雪雲寺と改め寺額を開いた。成化3年不詳に、阿弥陀如来の仏像は平安時代式 であるといふ。			M6	
15	11027	惠昌山 万尺寺	太田町 (加茂郡)	文明3年	臨済宗	正治元年(1584～1600)島山重光が建立した天祐宗寺院(16027)。兵火 に遭つたので空き小塔を建てて安置。天明元(1781)年福室室を建設して福室尼 院と名づけ、本尊は阿彌陀三尊と定む。延喜2(1060)年腰掛寺に なる。延喜2(1060)年腰掛寺となり名前が出来。門名は、寺号を 萬尺寺と改め寺額を開いた。延喜2(1060)年腰掛寺といふ。通称「万尺」の 名前あり。この組で登録されたのは7～8世紀 の瓦、万尺と関係がないと思われる。	H, G		M7	
16	11027b	万尺寺旧境内	太田町・宇城屋 (加茂郡)	正治年間	不明					M7
17	11028	照應山 光洋寺	太田町 (加茂郡)	中世	臨済宗	11013福林寺2世仁清圓山開闢。明治24(1891)年京都妙心印度本 となる。	G		M7	
18	11029	繼雲山 泉泉寺	太田町 (加茂郡)	文明6年	臨済宗	とれとれ(通草葉)といった。天明元(1781)年福室室腰掛寺の創創。永正 1年間(1504～21)八百石の高須田大助が奉主。寛永初年(1624)に泉泉寺と 改め、延喜2(1060)年腰掛寺となり名前が出来。門名は、寺号を 泉泉寺と改め寺額を開いた。延喜2(1060)年腰掛寺の寺として泉泉寺と改め、 繼雲寺10世広實が開基を開始する。			M7	
19	11030	大圓山 華門寺	山之上町 (加茂郡)	慶長年間	臨済宗	慶長年間(1596～1615)10013福林寺3世則基圓により成立。義通解 説前の寺域は側面の通路道路を越えて寺域から北側の国道であつ た。北側山面にあつた墓地は、道路工事により現在の西脇音門寺 地に移転。	H, G		M7	
20	11032	繼成山 釋隆寺	本郷町 (加茂郡)	不明	臨済宗	成立時期不明。『仁宗御錄』には、仁宗文の頃(1167～87)東濃の繩 隆寺があるとある。『金林無孔瓦』には、文政2(1819)年、吉藤勝千人 らが父の利範と7周を回し、東濃安樂院を詔いて霊隣尼足で執事したあ る。この頃の太田町は、奈良妙神寺の船岡尼足である。元亀2(1571)年1015福林 寺・仁清圓院、伝承では、野寺に腰掛院といつて、おもに豪族や火災に罹りて失 ひ、復興・在地化に移転して改めて船岡尼足である。明和4年(1767)手水	H, G			
21	11032b	福津寺旧境内 (元釋隆寺跡)	本郷町 (加茂郡)	15世紀頃か	臨済宗	天明元(1781)年、11013福林寺側面の通路を越えて寺域から北側の 国道とし成立。十五代の寺名が確認でき。延享30(2018)年廃寺。廃 寺は荒蕪地で、石碑が建つ。			M7	
22	11033	神護山 雲葉寺	鶴居町・下峰屋 (加茂郡)	文明10年	臨済宗	慶長6(1601)年、高野町35003福林寺1世天祐圓基により成立。	H, G		M6	
23	11035	神護山 ト雪寺	伊深町・今岡 (加茂郡)	慶長6年	臨済宗	寺伝によると文明6(1474)年成立。又伊弉諾稻田信秀の家来田島氏が伏 見守に仕官する際に、田舎の寺として開基。田舎の寺として開基する方角の 下古井の太田町近くにあったといつた。2度の移転している。寛文 12(1672)年11013福林寺の義通大法義伝が側面山と称す。明治 24(1891)年開祖妙心印度。			L7	
24	11036	井筒山 東泉寺	中富町 (加茂郡)	不明	臨済宗	もとは教義寺今岡か、岐阜県11013福林寺門内に隣接。南北朝時代 の大和葛若ががあり、奥敷に「株屋經成成守僧専性」、「團成寺主上僧 専性」、有岡に「ある」。	H, G		M7	
25	11037	梅花山 成今寺	鶴居町・上峰屋 (加茂郡)	不明	不期→ 臨済宗	鶴林院成今寺と並んで寺號が付いたといつた。堂宇に「正長元(1200)年1月 25日、当院種姓の御供奉也。宗直、鏡の御子時代の殿の宝鑑 印塔があったといつた。南寧御室には「長命佛塔」の額を有する室町中 期の宝印塔がある。永禄8(1565)年、信長が堂宇誠を改めたとき拂 き払われた。	H, G		M7	
26	11046	広福山 小松寺 (小松寺跡)	鶴居町・広福 (加茂郡)	正長元年以前	不明		H, I		M7	

表22 美濃加茂市寺院一覧表(3)

番号	当別 番号	史跡 名	山(城)号 寺院名	所在地 (市郡名)	建立時期	宗派	奉書等	遺物、構造	調査 結果	分布図		
								山城	天守	石垣	土塁	櫓
27	11049	(矢田庄寺跡)	太田町字矢田 (加茂郡)	奈良時代	不明		往時ここに七重塔有る。往時塔有るがあつたが、いつの間にか頃きとなり、本城は元の600坪敷長谷寺に移築されたといふ。この頃寺は南面の高畠の地盤で既成がよく、西方100mの地盤には既成武主堂といふ。加茂庄主と朝敵を争う時持つてされる祖主社が主ある。この寺は既成武主寺の寺式をもつて石碑は2基残つたといふ。	東京器、 丸瓦丸、 瓦平、 瓦平、 瓦平、 瓦平、 瓦平		M7		
28	11050	(太田庄元慶寺廢 寺跡)	加茂川町字仲 筋屋 (加茂郡)	7世紀後半	不明		太田庄下原守の太田庄神宮所の山城より重複寺と古文書が出土する。中世以前、葦原 <sup>アシハラ</sup> 等を冠する葦原寺と呼ばれていたがと伝わる。11世紀太田庄に於ける薬師如意寺や二神社は薬師寺より遷されたものと伝う。太田庄は池造の山城には、圓鏡寺の礎石の跡の一部と傳わる。64x14.4mの面積の僧院などが残るといふ。	東京器、 丸瓦丸、 瓦平		M7		
29	11052	如意寺	武儀御宿探臣 (加茂郡)	不明	不明		鶴見川町2000坪櫛藏寺今櫛藏寺原跡 <sup>アシハラ</sup> によると、櫛藏寺夷寺のうちに名が残る。応安4(1371)年の如意寺の持田は御厨といふんであった。現在は廃寺。位置不明。					
30	11053	勝妙寺	武儀御宿探臣 (加茂郡)	不明	不明		鶴見川町2000坪櫛藏寺今櫛藏寺原跡 <sup>アシハラ</sup> によると、元治8年(1875)の御厨 <sup>アシハラ</sup> と記載。勝妙寺は御厨(勝妙寺御厨御西院)である。同く元治8年御厨第109号の発見者「勝妙 <sup>アシハラ</sup> 御厨宿相手於勝妙寺御厨御西院」とある。圓鏡寺 <sup>アシハラ</sup> といいの勝妙寺の南側に新堂 <sup>アシハラ</sup> となるので、応安8(1371)年の前に之處が勝妙寺を創建したと思われる。また同じ600坪によると、永承2(1232)年勝妙寺には別当院 <sup>アシハラ</sup> という子院(塔頭)があつて榮円 <sup>アシハラ</sup> といつてゐた。現在は廃寺。位置不明。					
31	11054	万年山 大乘寺 (元大乘寺跡)	鶴町 (加茂郡)	室町時代	天台宗若しくは真言宗か 一輪宗		本文参照			本文参照	M2	M7
32	11056	華明山 円満寺	伊賀川渕寺前 (加茂郡)	中世	天台宗若しくは真言宗か 一輪宗		成立初期及び佐藤不折。圓満寺の山腹に空堀と小中規模の平垣組、三輪塙敷等が残る。五輪塔は室町時代のもので、經幢らしいところであつて新教寺系と見られる。	C.常滑陶 壺、内壺並 に罐(罐鉢) 経幢			M6	
33	11057	鷹本寺	鶴居町下鷹谷 (加茂郡)	天文15年以前	真言宗か 圓教寺		下鷹谷の天神社の神宮寺。1103年護國山雲巖院が神宮寺であったが圓教寺に改められた。園田600坪新長谷寺末寺。のちの本寺となったが、圓教寺時代から持つた。圓教寺時代より現在、天神社の西側に平垣組がある。				M6	
34	11058	安樂山 等永寺	諸田 (加茂郡)	応永17年以前	不明		現在諸田山雲巖院内にある地蔵堂付近にあつたといふ。吉田市雲巖院にある大野石經 <sup>アシハラ</sup> 61巻書文によれば、「美濃守茂義修是庄安樂山等永寺等永寺住。応永17(1410)年、鑑道 <sup>アシハラ</sup> 長庄 <sup>アシハラ</sup> 」といふ。家臣の圓教寺付近に大野石經 <sup>アシハラ</sup> 及びその周辺400m <sup>2</sup> の所に五輪 <sup>アシハラ</sup> ・安樂山寺塔が残存するが、舊本堂は認認できぬ。圓教寺に「御舟長社」 <sup>アシハラ</sup> という額がある。諸田町の御舟長の御舟長御殿がある。				M7	
35	11059	広熱寺	西篠 (加茂郡)	不明	不明		1010年(延喜式)立法院にこの辺りに有る總寺寺にあつたといふ。吉田市雲巖院にある五輪塔 <sup>アシハラ</sup> 61巻書文によれば、「美濃守茂義修是庄安樂山等永寺等永寺住。応永17(1410)年、鑑道 <sup>アシハラ</sup> 長庄 <sup>アシハラ</sup> 」といふ。家臣の圓教寺付近に大野石經 <sup>アシハラ</sup> 及びその周辺400m <sup>2</sup> の所に五輪 <sup>アシハラ</sup> ・安樂山寺塔が残存するが、舊本堂は認認できぬ。圓教寺に「御舟長社」 <sup>アシハラ</sup> という額がある。諸田町の御舟長の御舟長御殿がある。					
36	11060	諏訪神社神宮 寺	下末田山本 (加茂郡)	南北朝初期	輪教宗若しくは尊 制宗か		寺名不明。社殿に向かって右手に舟形石をもつて東面する御舟長御殿の宝篋印塔 <sup>アシハラ</sup> がある。左側に舟形石をもつて東面する御舟長御殿 <sup>アシハラ</sup> がある。御舟長御殿の北側に南北朝時代後醍醐天皇 <sup>アシハラ</sup> とて作成した御舟長御殿 <sup>アシハラ</sup> がある。木津川(1360)年の同様に「大宝天皇」という寺の名が残る。	H. G. 御舟長無縫御			M7	
37	11061	大日山 妙義寺	諏田 (加茂郡)	室町時代	天台宗		諏田神社 <sup>アシハラ</sup> と合社されてゐる諏訪神社の宝永条(1709)の様に妙義寺がある。諏田寺宇井戸及び御舟長御殿の古き通路 <sup>アシハラ</sup> に「木天主・星 正17(1220)年2月26日 諏田寺宇井戸妙義寺(要妻妙義)」とあるので少なくとも天正年 間(1573~92)まで寺宇井戸があった。1101年(寛永)の御舟長御殿の裏に五輪塔 <sup>アシハラ</sup> がある。御舟長御殿の裏に前田氏の御舟長御殿 <sup>アシハラ</sup> がある。御舟長御殿 <sup>アシハラ</sup> は伊勢守成政 <sup>アシハラ</sup> 以前のもので、妙義寺のものが廃寺と共に伊勢守 <sup>アシハラ</sup> へ寄せられた可能性がある。位置不明。	H. G.				
38	11063	圓正寺	鶴間町上峰寺 (加茂郡)	不明	臨濟宗		伝承では、仁沖開基、承興年間(1596~1615)に廣西北隣。位置不明。					
39	11066	(御)神宮東邊 跡	太田町字宇トノ メキ (加茂郡)	7世紀後半	不明		成立初期不明。「星ぐて」 <sup>アシハラ</sup> と記された。最初は圓正寺を祀る丸瓦丸 1点と平瓦がある。「星ぐて」とは、西町字ドメテの通称の宮原山を指すといわれる。坂祝御 <sup>アシハラ</sup> 400坪 <sup>アシハラ</sup> と記すと御舟長 <sup>アシハラ</sup> とも考 えられるが、瓦の形式は明らかに異なる。守船の範囲は不明。				M7	

表23 美濃加茂市参考寺院一覧表(1)

第2章 地方の歴史と文化								
番号	寺号	山号	本尊(開基)	所在地(旧都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	11001	圓通院 大慈院	薬師佛(加茂郡)	明治5年	天台宗	圓通寺本坊、延宝7(1689)年半蔵の國人代官柿本林木寺を出る。西国三十三所の島村式山新宮に吉原院を創建。豈知聖源の木本利勝跡があつた。第2代住持即ち時代・大徳院と號す。明和5(1768)年藤原道風ととなる時刻に現在の御前院に遷る。	G	圓通寺本坊、延宝7(1689)年半蔵の國人代官柿本林木寺を出る。西国三十三所の島村式山新宮に吉原院を創建。豈知聖源の木本利勝跡があつた。第2代住持即ち時代・大徳院と號す。明和5(1768)年藤原道風ととなる時刻に現在の御前院に遷る。
2	11002	神護院 圓通院	不眞(法空)	不眞	真言宗	成立時不明。等覚寺と号し真言宗伊勢國高野山圓通院本寺。今寺は世長伝法子金剛院。	BL, G	成立時不明。等覚寺と号し真言宗伊勢國高野山圓通院本寺。今寺は世長伝法子金剛院。
3	11008	圓通院 西高寺	大日如來(加茂郡)	寛文2年	真宗	寛文2(1662)年、東本願寺3世妙如法子法圓園基により成立。		寛文2(1662)年、東本願寺3世妙如法子法圓園基により成立。
4	11009	社光院	普賢(法空)	不眞	真宗	成立時不明。但ひ藤原不系。		成立時不明。但ひ藤原不系。
5	11015	東風寺	上林院(加茂郡)	寛永元年	臨濟宗	寛永元(1624)年富加町3500石領主藤原氏3世藤圃園基により成立。		寛永元(1624)年富加町3500石領主藤原氏3世藤圃園基により成立。

表24 美濃加茂市参考寺院一覧表(2)

番号	寺号	史跡	山(里)号	所在地 (都田名)	建立時期	宗派	代表等	遺物、遺構
6	11018	仁慈山 小山寺	下米田町小山 (加茂郡)	明治3年	臨濟宗	若名御殿(本尊掛軸の舟)が本山にて自由に上書き。舟舟の為めこの中に舟御殿室を安置。若名御殿の舟は本尊若名舟あり。約700年前木舟より来りその地にて舟を替へ舟に上りたという木舟年間(1429~1430)越後舟の女舟を安置すとこの舟を替へ舟に上りた。明治3(1867年)、11018光祐は世祖御殿。小山殿舟は寛文9(1699)年の成立で堂宇は第3回川中に屹立する。大奇縁上にある。		G
7	11019	東福山 小寺	鶴見町上野原 (加茂郡)	不明	臨濟宗	成7時間不明。小野寺町が老いて後、ここにいたことから名づく。11019東福寺と2代住持良宣が古中岡御殿。鶴見寺本寺。		G
8	11021	大山山 圓勝寺	伊御町 (加茂郡)	寛保3年	臨濟宗	寛保3(1743年)、領主藤原河守而代官中村五郎右衛門創立、宗祇17世法弟第一秀圓山により成立。		
9	11022	妙智山 通照院	伊御町 (加茂郡)	万治2年	臨濟宗	万治2(1659年)、11014正徳寺と1世大権開鑑。		
10	11023	青龍山 龍ノ院	加茂町中稲沢 (加茂郡)	平成8年	臨濟宗	今度によると天保年間(1830~44)成立。元禄院所で月夜庵といい、現本堂はかつてやや南にあつたが平成8年に北側の竹藪を整備して建て直す。		G
11	11025	医王山 藥翁寺	鶴見町上野原 (加茂郡)	元文5年	臨濟宗	元文5(1760年)、11013輪暉寺と12世大隆の法子宗圓により成立。		H
12	11031	雪龍山	山之上町 (加茂郡)	明治元年	臨濟宗	明慶元(1655年)一蓮基、11013輪暉寺と5世明氏を祖して開山。		
13	11034	豐岡山 圓滿寺	山之上町 (加茂郡)	不明	臨濟宗	成立時期及び歴革不明。		G
14	11036	側泉寺	加茂町今堀 (加茂郡)	寛延元年	曹洞宗	延享元(1744年)、開市05028香積寺と6世藏海創建または再興。明治7(1874)年火災の為焼失し復興。		G
15	11039	實珠山 圓通寺	山之上町 (加茂郡)	享保16年	曹洞宗	享保16(1731年)、定玉頭。開市05026圓通寺の三世法子山京が創建または再興。武藏05096圓通寺の山川惟澄和を請じて開山となり、自ら2世となる。		
16	11040	金剛山 圓昌寺	加茂町中野 (加茂郡)	天文元年~2年 以前	曹洞宗	天明2(1782)年武藏國圓昌郡圓昌院の耕田が中興。		G
17	11041	草々庵	古井町上古井 (加茂郡)	不明	如意教	成立時期及び歴革不明だが、如意教は18世紀末に開かれた宗教であり、江戸期成立か。位置不明。		
18	11042	太平寺	加茂川町 (加茂郡)	元和元年	黄檗宗	元和元(1615)年半宗祖題元2世世孫丹顕繼。		
19	11043	通秀山 寶積寺	加茂町市橋 (加茂郡)	明治29年	黄檗宗	成立時期は享保6(1721)年以前で、開基は日浅、黄檗宗。明治29(1896)年岐阜県より移転。宝積山十一面觀音菩薩は神宮寺(大字市橋)宝積寺の本尊。		G
20	11045	弘法堂	三和町上廿番 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び歴革不明。近くのバスト停には「弘法堂」とあり、地名になっている。小倉の西田川町に弘法堂があり宝積山圓悟が安葬されている。		H
21	11047	貞船庵	三和町上廿番 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び歴革不明。位置不明。		H
22	11048	弘法堂	下米田町今 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び歴革不明。位置不明。		H
23	11055	寂知寺	宇摩貝戸 (加茂郡)	寛文6年以前	不明	11010光祐寺の最前院室にかかる銅製額によると、寛文6(1696)年には寺が説法されていた。宗祇が弘法堂からみて天台、真言、土佐派と思われるが不明。近世末には日浅の圓悟堂と称する寺の圓悟の名になっていた。現在は水田になっている。		
24	11062	實隆院	鶴屋作り岡 (加茂郡)	不明	真言宗	成立時期不明。宝積圓基で始め修驗道であった。享和3(1803)年宝隆院と改め真言宗となた。延喜2(1745)年上上げの「御持人天丸見鏡書」によれば、毎年8月14日御持法が上るよとこにこの御持が大山川にあって御持を行なうことになっていた。玉泉院實應の御基で当院第3世佛學南華と2(1802)年が實隆院と改名。徑渡手門。		
25	11064	放光寺	伊賀村圓圓 (加茂郡)	安政4年以前	臨濟宗	成立時期不明。安政4(1857)年11012輪庵吉供直中興。現在は山間に石碑を作った記念碑がある。		

表25 可児市寺院一覧表(1)

番号	寺名 別名	本尊	山(都)名 寺院名	所在地 (都県名)	建立時期	宗派	沿革等		遺物、遺構	調査 結果	分布図	
							前史	現在の寺				
1	14001	太元山 東榮寺	寛見藏圓 (可見都)	不明	天台宗	釋教の代表木。明智光代は嫡主と被祀により成立。かつては東榮寺寺領(現在の白壁正圓院)にて開創・崇敬の香炉所であった。昭和時代に明照院の香炉所を近くの1406年天龜寺に譲る。太元神社の神遷寺で明照したとも伝わる。				SL_5		
2	14003	唐波山 觀音寺	東照神 (可見都)	古代か	天台宗	本文参照			本文参照	84	N7	
3	14005	龜山山 神樂寺	龜山 (可見都)	承暦9年	真言宗	龜山寺(1160年)、金山城の築城跡のため森氏により成立。櫛懸郡卯 舟山の山間。					M7	
4	14007	平牧山 圓明寺	久利 (可見都)	不明	真言宗	当寺によると、古来より木が生長していたらしい。成智院の御木明が、当寺より1409年(永治2年)に大河に渡り、御船翻没(1410年)で死没。いつの間にか舟を亡くなり祀られたと。享和6(1721)年に再建整備。通内裏の山 谷には寺地に隣接する地名が残る。						

表26 可児市寺院一覧表(2)

番号	寺号	史籍	山(里)号	寺院名	所在地 (旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布圖	
5	14009	南嶺山 淨音寺	巖山 (可見郡)	元龜2年	浄土宗	天文13(1544)年ごく都知前段の釋安により、古城山平右衛門山の山麓(旧美山町治屋敷付近、現莊原市)に成立。現境内地は古庭敷と呼ばれている。元龜2(1571)年、現在地に移転している。	H, G			N7		
6	14009b	淨音寺旧境内	巖山 (可見郡)	天文13年	浄土宗						N7	
7	14011	慈光山 愛蓮寺	巖山 (可見郡)	慶長5年	真宗	天正11(1583)年、金山主土生家の家老森為吉が父の菩提を弔うため土生義高(義久・義宣)に請願し成立。慶長5(1600)年、森定朝が中島船転封で、金山村慈光寺も移転し、その跡へ愛蓮寺が金山から移転。				N7		
8	14012	梅溪山 西念寺	巖山 (可見郡)	不明	真宗	寛延元(1550)年、梅溪行方により成立。愛光寺に仮寓、第八世淨空代が天正・慶長の間に可見郡金山村に移転し、元和5(1619)年、西念寺と改す。今仮では、梅溪行方が家臣したのが天正の光慶庵で、西念寺は成立後から興福である。森家芳澄等の妙抄と移転(岡山縣)により、現在地に移転。						
9	14013	福應山 東光寺	東幡子 (可見郡)	天文年間	臨済宗	天文年間(1533~35)以前に山田郡葛野木村光院園の太宗禪院により成立。十二世祖道量院が1401年(正祿寺)十二世南源宗信の法系をうけ現在に至る。かつて中切龜とあつた松用庵は、いつのころか東光寺と合併した。				N7		
10	14014	大通山 延喜寺	土田 (可見郡)	慶長5年	臨済宗	天文2(1573)年、土田主生懶道寿の母祖破缺により成立。成立時(1573)は、土田村(現可見町の土田地内)にあり、天正11(1583)年に移転した。現在地に移転。	I			N7		
11	14014b	延喜寺旧境内	土田 (可見郡)	元龜2年							N7	
12	14016	阿陀山 通山寺	巖山 (可見郡)	永正2年	臨済宗	永正2(1505)年、八百瀬町38001大仙今第2世大仙により成立。戸立羅音坊の山中庵。	H, G			N7		
13	14017	永禄山 南印寺	大森 (可見郡)	不明		永禄元(1556)年、若狭守山により成立。寛文7(1667)年に多治見郡の寺として再興され、現在地に移転する。現在地は、元禄元(1688)年の各村帳には元禄元(1688)年とあり)1622東海寺因世能州の法子・三山がが開基。学大森に今宿屋という宿場地名があり、元はここにあつたが、大火で焼失し現在地に移転。移転時不明。	H, G					
14	14017b	南印寺旧境内	大森 (可見郡)	永禄元年か	臨済宗						N7	
15	14018	大嵐山 可成寺	巖山 (可見郡)	慶長5年							N7	
16	14018b	可成寺旧境内	巖山 (可見郡)	元龜2年	臨済宗						N7	
17	14019	稚呂山 長保寺	久利利 (可見郡)	1470年頃	臨済宗	長保年間(99~100)に成立。永禄(1558~70)の頃に久利利恵玉が開基を許して西院。天正11(1583)年、金山山の久利利尾入と荒尾院の子の千葉義が天正2(1573)年に寺門を表す御門を開設。かつては本堂内に八幡神社の社宮にあったといい、明治年間(1869~87)頃に現在地に移転。	H, G			N7		
18	14019b	長保寺旧境内	久利利 (可見郡)	長保年間							N7	
19	14020	平岡山 靜善寺	下原土 (可見郡)	慶長13年	臨済宗	1602貞寧寺開山の範庵が草庵を建立。慶長13(1608)年平岡足利守開基により成立。承応2(1653)年の移転後に荒尾。元禄2(1689)年、16021貞寧寺10世の荒尾史兼が招き、佐藤厚舟と中興開山。	H, G			N7		
20	14021	普濟山 真淨寺	西幡子 (可見郡)	天文年間	臨済宗	天文年間(1264~75)、織田信玄が宝鏡院を御範庵により成立。不傳山眞淨院と子の良基(1271~81)年、良基の孫が宝鏡院を御範庵と改め、その子千葉義が天文2(1573)年に寺門を表す御門を開設。天正11(1583)年長宗祇が中興開山を許して善教寺とし、不傳から善教寺と改号。行基が当時の真淨院と被薦し、本尊を刻んだという伝説有り。	H, G, 宝塔 堂			N6		
21	14026	東南山 少林寺	臨院 (可見郡)	文禄4年	臨済宗	天文4(1595)年に成立。鎌倉長谷寺跡であつたが、明暦3(1657)年~1623東海寺2世・竹崎智哲が請じて奥圓山にし移転。享保の頃(1726~30)に火災で焼失。のち西院。かつての本堂は、現本堂の一段上にあつた。				N7		
22	14027	正音山 西福寺	広見 (可見郡)	応永8年	臨済宗	応永8(1401)年、土岐貞良が見直の尼僧普覺のため成立。のち荒尾院。阿波郡伊予に残っていたを村人が寛永元(1620)年に1603雲龍寺の尼の尼普覺を請じて牛糞圓山。	H, G			N7		
23	14030	鷲岳山 大藏寺	坂 (可見郡)	永正年間	臨済宗	永正年間(1504~15)、1403雲龍寺二世秀忠を請して成立。	G			N7		
24	14034	大機山 正眞寺	桶田 (可見郡)	応永年間	臨済宗	応安年間(1368~75)、伏見村平野正眞により成立。天文(1532~55)の伏見道造2世・竹崎智哲が請じて奥圓山にし移転。元禄(1710)年に御園町41006愚痴院の寺地盤に中興開山。	H, G			N7		
25	14036	觀音山 雲龍寺	下切 (可見郡)	寛正元年	臨済宗	寛正元(1640)年、園田5046海圓寺二世秀忠が宗源の開基により成立。この地域の妙心寺系法華派の一つ。一度の大火で焼失するも、阿闍梨監により再興。				N7		
26	14037	雲來山 聖光寺	広見 (可見郡)	天文11年	臨済宗	成立時不明。前述木平半牛の寺で竹崎智哲により成立。元応年間(1315~21)の大火で焼失。大和郡(1324~25)に再び焼失。前家の竹崎智哲が請じて奥圓山にし移転。元禄(1710)年に御園町41006愚痴院の寺地盤に中興開山。	G			N7		
27	14039	摩耶山 龍泉寺	羽崎 (可見郡)	正保2年頃	天台宗→ 臨済宗	明徳・応永(1399~1429)の頃より、天台宗の龍泉寺があり、嵩山の中央に東山坊、西山坊(天台寺)があった。職の際に荒尾。正保2(1645)年に三輪村の森木(石川町)に移転。現寺地は古来の龍泉寺跡の寺地盤で中興開山。	G			N7		
28	14040	若光山 三明寺	下切 (可見郡)	天文3年	臨済宗	天文3(1577)年に王極により成立。葛原和尚像の御座脇の葛木(1640)年の概文には、三明山若光寺と山号と寺名が記になっている。	H, G			N7		

## 24 第4章 中濃圏域の寺院

表27 可児市寺院一覧表(3)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (市町村名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
29	14045	高畠山 福光寺	上田 (可見跡)	中世以前	?	→舊釋宗	成立時期不明。元は西畠氏が創立したが、生駒氏が元禄に移し福光寺とした。天文元年(1573~92)に龕在地に移転。寶開院に転宗し、後守寺へ改称。慶安2(1652)年に御守寺が中興。火災で文政(1804~30)の時に再建。	B, G		MF
30	14049	福光山 尊貴寺	戸山 (可見跡)	不明	日蓮宗	天正11(1583)年。神力自目見により成立。金山村名高畠山麓・福光山に廟を起したが、隠匿の地であったため現在地に移転。	B, G			
31	14050	妙法山 森立寺	戸山 (可見跡)	永禄10年	日蓮宗	永禄10(1567)年。森長五の乳母で法住宗信のお立の願いにより、森可成が一削院・妙法を圓山として桜栄森立寺が成立。万治元年(1658~61)に妙法院との合併。			MF	
32	280338	太岳寺(附内)	下切 (可見跡)	不明	臨済宗	天文2(1533)年。安芸守松原信之・太岳寺林久の開山により成立。大正10(1922)年、安八郡大町郷守へ移し、仏像などは笠置山へ遷移。田舎の位置不明。				
33	14065	妙樂寺	戸山 (可見跡)	不明	不明	永禄8(1565)年。林忠志が妙堂寺顛の背蔵を弔うため金山村に建立し成る。藤長五(1600)年、被主森忠政の転封で城主とともに川中島→伊賀に移転。位置不明。				
34	14069	(仮)下切磨寺	下切 (可見跡)	伝繩因時代	不明	成立時期及び本尊不詳。戰国時代、山守御の手の方に相当な伽藍を有するがなかった。兵火で全焼・被焼されたといふ伝承。天智「仁王門」「井戸」「籠突突」といった地名が残る。			MF	
35	14070	薬師堂	利崎 (可見跡)	不明	不明	天永(1521~20)の頃。薬師院(一説朝倉)があつたが参詣が不便なため現在地に遷転。繩因時期時。林長光が確立した薬師院末流がある。				
36	14078	六社神社	下戸土 (可見跡)	天文2年	不明	天文2(1539)年。祇園山伏(六所門守)の転勝を御願し建立。天文7(1538)年。被持善光寺は中興。昔は持護寺。現在。寺の通稱は諱語できない。			MF	
37	14080	野市善弘店	今瀬 (可見跡)	天文元年	不明	天文の頃(1566~67)。木曾川舟荷衆の善弘院の地を買ひて、日輪寺建立より成る。天文8(1537)年。施宿、開創御法印が空室で再建。				
38	14081	宝福寺	矢戸 (可見跡)	不明	不明	成立時期不明。明応2(1493)年。乗詔が大師匠としてこの寺に住んだことが御説から推定される。また本尊の薬師如来像は延喜(901~1055)の作とされる。天平8(736)年。寺名は宝福寺と傳する。位置不明。				
39	14085	法弘寺	中戸土 (可見跡)	不明	不明	14022(延喜の古文書)によると、承和元(834)年、空山法源御跡により成立。寛永9(1632)年頃。仏像は宝福寺へ移した。位置不明。			MF	
40	14087	六角堂	戸山 (可見跡)	中世か	不明	成立時期不明。対岸の山には、六地蔵尊が祀られ、金山城の東門跡として建てられたとの伝承有。			MF	

表28 可児市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (市町村名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	14002	圓王山 福生寺	宝原 (可見跡)	天文元年	天台宗	天和元(1681)年成立。元禄15(1702)年、尾根圓月別院龍原村の白壁寺八世玄宗の弟良圓陣中興。			
2	14004	応現山 普濟寺	広見石森 (可見跡)	延宝7年	天台宗	可見河川湧水の頭に川から本尊である薬師如来像が流れ着き、村人が一草庵を建て安置していたを、延宝18(1670)年に本堂を建立して更たと伝う。昭和34(1960)年伊勢西院で本尊などに御縁をうけ、現在は般若。	B, G		
3	14006	慈雲山 無量寺	二野 (可見跡)	万治2年	?	→ 真言宗	成立時期不明。鶴御開闢。往古は宝院院といひ六町(ほど西)にあったが、無住となり廃絶したのを、万治2(1659)年顯宗主によって現在地に移され、尾張參公井郡小牧村真言宗無量寺を引き立てるの末坐として開創。	G, I	
4	14008	通台山 神宿寺	下切 (可見跡)	明暦2年	真言宗	明暦2(1656)年。京都左衛門勘定院十五世右近の法子源寿勘定院により成立。下切八幡神社の通寺守であり、八幡神社境内に堂と鐘樓、門及び池塘を作り、地蔵堂と題す。	G, I		
5	14010	頼祖山 如意寺	広見石森 (可見跡)	元和3年	真宗	元和3(1617)年。尾根圓薬師圓田村の真教が、薬東方面から圓田村へ入百姓として入植した人々と創始し成る。			
6	14015	圓福山 圓音寺	精下 (可見跡)	不明	臨済宗	寛永10(1633)年。高田山に林庭山永昌寺として成立。宝永2(1705)年(明治14(1881)年各別説)には元禄16(1693)年に圓福寺(9004)天寧寺西院大藍燈籠を譲り受けた。	B, G		
7	14022	萬松山 法雲寺	下戸土 (可見跡)	寛永19年	臨済宗	寛永19(1642)年。14038圓福寺内所住僧山圓基により成立。明治時代末に薬東したのを。昭和4(1929)年に再興。石塔群は、岐阜の某家から移したものであるといふ。	B, G		
8	14023	久昌山 東洋寺	久々利地 (可見跡)	慶長18年	臨済宗	慶長16(1611)年。千利休が普尊寺を創立したため、藍外正宗を招請、梁南禪圓開山により建立。境内に千利休及び家臣の墓所があり。	G		
9	14024	秀芳山 勝林寺	長制 (可見跡)	寛永7年	臨済宗	寛永7(1630)年、14038圓福寺第4世圓開山宗圓岡山により成立。圓基は行基菩薩とともに伝わる。	B, G		
10	14025	圓福山 福田寺	東峰子 (可見跡)	JCB時代か	臨済宗	14021(寛永9)年、久利休人勝義舟が圓福寺として開山して成立。圓尾圓次の時に山崩れで埋没したが、その後再興。	B, G		
11	14028	佛眼山 中川寺	広見 (可見跡)	万治2年	臨済宗	万治2(1659)年、中川重善が普提寺建立のため圓福院を開基し成る。寺名は、自分のみを愛り、山号は近くの幾度寺をついた。中川中学校北側の丘陵中に石塔制多数有。	B, G		
12	14029	金剛山 照鏡寺	今戸 (可見跡)	JCB時代	臨済宗	慶長14(1609)年。久利休八世親道を開祖、日輪開山により成立。以前は、さるに北の木曾賀にありたつたのを、200年ほど前に中山重善よりの曳舟に移転。	B, G		
13	14031	金剛山 照鏡庵	矢戸 (可見跡)	享保12年	臨済宗	享保12(1727)年。矢戸村にはがなく今戸である14013東光寺・14036圓福寺・14030大藏院の遷所併して設けてあつたのを、東光寺八世普照が開創寺として開出し成る。	B, G		
14	14032	永祥山 福寿寺	今 (可見跡)	元和2年	臨済宗	元和2(1616)年、14038圓福寺西院宗善の圓山により成立。	B, G		

表29 可児市参考寺院一覧表(2)

番号	寺号	史籍	山(里)号 院名	所在地 (旧郡名)	建立時期	宗派	山革等	遺物、遺構
15	圓通山 妙智寺	寶樹 (可児郡)	宝樹	江戸時代か	臨済宗	成立時期不明。月溪が開き。1402年真淨寺十世法南栄慧菴が二世。		H, G
16	圓通山 普照寺	魔	(可児郡)	平明	臨済宗	成立時期不明。船切支丹僧侶のために1403年大儀寺が末寺として建立したという。		G
17	圓通山 大龍寺	圓通	(可児郡)	慶長4年	臨済宗	寛安4(1661)年、一秀安広建立。太田結象寺の釋空圓純の伝法開山により成立。		H, G
18	圓通山 圓滿寺	下惠土 (可児郡)	天明8年	曹洞宗	天明8(1780)年に丹波の西光院の風木清を相いて開基。			
19	圓通山 圓滿庵	圓滿子 (可児郡)	江戸時代初期	曹洞宗	江戸時代中期に圓通院圓周により成立。本堂の裏面お支は同じ圓周の圓通院村方にあった圓通庵のを移したもの。寺伝によると、本堂裏の不動尊を祀る櫻穴のある場所が寺の始まりという。			
20	圓通山 圓滿寺	普照 (可児郡)	平明	曹洞宗	成立時期不明。元は圓滿庵といつたが、昭和16(1941)年に圓滿寺に改称。火災に遭い天保・弘化の年に再建。本堂に懸してある額口は天保3(1832)年である。			
21	大慈山 弘福寺	中惠土 (可児郡)	平明	真言宗 曹洞宗	成立時期不明。天は真言宗の寺で、延享年間(1744~48)に火災で焼失。安永年間(1772~81)に玄成が再開基し普照院に転向。天明年間(1781~89)に圓外崇教が中興。			G
22	青雲山 天童寺	圓通	(可児郡)	平明	曹洞宗	寛永2(1625)年、海雲が開山60周年を慶祝する式正會を相致し成立。寺伝によると、境内院内に圓通寺という施設跡に建立されたときれえ江別の御所にあったというが、詳細不明。		H, G
23	圓通山 圓通寺	下惠土 (可児郡)	元禄元年	真言宗	元禄元(1688)年、圓音に上りて建立。現在は弘法堂兼御会所として西院、寺門と仏像があるのみ。			H, G
24	圓通山 友國寺	久々利 (可児郡)	寛永18年	日蓮宗	寛永20(1663)年(寺院明細には寛永18年)、千村重良の室が眼病の悪い日蓮の前鏡で平服したので、日蓮を讃じその事蹟を西院と號して開山して成立。			G
25	不孝寺	羽輪 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。近世開墾ではてて寺地となっていたらしく、寺院名も不明だが、字不孝と地名に残る。位置不明。			
26	正圓山 圓通寺	正圓山小屋田 (可児郡)	寛文5年	曹洞宗	寛文5(1665)年、1404年寺開基の圓通の隣ににより成立。天童寺末。現在は小豆田自由会館内に仏龕がある。寺伝に残るのみ。			
27	圓通寺	圓通 (可児郡)	平明	真言宗	成立時期不明。圓通神社の附近であったが、明治時代初期の廢仏毀釈の際に鐘楼門を1402年落成し譲り渡す。明治1(1868)年、名古屋城西二丁間に遷る。圓通寺境内にあったというが、寺の遺構は確認できない。清立寺ともいう。			
28	圓生寺	久々利 (可児郡)	平明	不知	成立時期不明。久々利八幡神社社跡附近にあったが、明治時代初期の廢仏毀釈で廃寺。			
29	圓福寺	土田	(可児郡)	平明	真言宗	成立時期不明。土田白山神社にあったときれえ、夢道の東側に圓福如意堂、阿弥陀堂、羅漢堂があったとするが、現在は神社。		
30	圓福寺	羽輪	(可児郡)	平明	不知	寺伝としての沿革は確認できないが、21体の神像が存在し、かつては伝仏が祀られていたという。		
31	金輪院	圓通	(可児郡)	平明	不知	成立時期不明。かつては現在の八幡神社境内に金輪院があり、阿弥陀堂等があつたが、いっしょに八幡神社になったという。		
32	羽輪八幡神社	羽輪	(可児郡)	平明	不知	寺伝としての沿革は確認できないが、經縁には體口がかかるている。		
33	圓通山 五雲寺	下惠土 (可児郡)	江戸時代か	臨済宗	成立時期不明。圓通村の山門により成立。寛永年間(1704~11)に1402年圓通寺と四世圓海・圓智革新請して中興開山。昭和28(1953)年に1402年舞台寺に併合。1402年圓寺寺門では、昭道48号台に記されたという。位置不明。			
34	圓通山 圓通寺	平切 (可児郡)	平明	真言宗	成立時期不明。明治元(1868)年に廢寺。本堂は明治10(1877)年に焼失。経緯に黒焦りになって残っていた本尊を村人小糸に安置。			
35	光明院	圓通 (可児郡)	平明	真言宗	成立時期及び位不詳。幕末に廢寺。位置不明。			
36	久昌寺	圓通 (可児郡)	平明	臨済宗	成立時期及び位不詳。幕末に廢寺。位置不明。			
37	中山寺	久々利 (可児郡)	平明	真言宗	成立時期不明。中山洞の西山洞にあった真言宗の寺。慶応牛闘(1865~66)に廢寺。位置不明。			
38	圓光寺	羽輪	(可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残るが、寺に面接する造構は確認できず。位置不明。		
39	大鷹寺	灰豆 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残るが、寺に面接する造構は確認できず。位置不明。			
40	安國寺	土田 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残る。また「じょうがんじ」という呼名も残っている。周辺には廃石在。			
41	圓光寺	東曉子 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残る。位置不明。			
42	圓淨寺	東曉子 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残る。位置不明。			
43	古義寺	東曉子 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。伝承地名が残る。位置不明。			
44	圓光山圓久寺	久々利 (可児郡)	平明	真言宗	成立時期及び位不詳。平久利村田の夢道堂の北方三丁ほどの中山に北丘尼崩の地名が残り、大島處あつと伝う。位置不明。			
45	足寺	久々利 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。住僧なく三周四方の堂に如意輪觀音を厨子中に祀る。觀音は可見川から運び来たとの伝説有。山岸鐵舟堂とも呼ばれ。位置不明。			
46	圓通山 圓通寺	底室 (可児郡)	平明	不知	成立時期及び位不詳。住僧なく三周四方の堂に如意輪觀音を厨子中に祀る。圓通山は圓通院から運び来たとの伝説有。山岸鐵舟堂とも呼ばれ。位置不明。			
47	普門寺	下惠土 (可児郡)	平明	不知	寛保元(1711)年、下惠土の圓通四郎平と名主源忠兵衛が草庵を設置し成立。緑壁が再興。その後、暴風のため草庵倒壊して廢寺。本尊十一面觀音像は忠心朝都の作との伝承有。1402年法雲院に移し安置。位置不明。			

表30 可児市参考寺院一覧表(3)

番号	寺号	史跡 登録 番号	山(里)号 或院名	所在地 (都道府 県・市町村名)	建立時期	京派	沿革等	遺物、遺構
48	天岳寺		東ノ山(可見郡)	不明	不明	成立時期不明。享保2(1717)年。熱田神宮の奥の山。不動院一派元仙が開創したが、廃寺。位置不明。		
49	繼淨寺		曳坂(可見郡)	不明	不明	成立時期不明。坂河大姫の奥の山に繼淨寺(臨定寺とも)と称する古刹があったとされる。位置不明。		
50	西光寺		中土上(可見郡)	不明	不明	成立時期及び始祖不明。葛谷堀塔や石塔が探致されたという。位置不明。	6.古跡類、石塔	
51	正徳寺		中土上(可見郡)	不明	不明	成立時期不明。かつて福井神社に仕えた神護寺の古利正徳寺があった。明治8年に神仏判然合で廃寺。位置不明。		

表31 郡上市院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 或院名	所在地 (都道府 県・市町村名)	建立時期	京派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
1	19004	白山中宮 長慶寺	白島町長慶(郡上郡)	養老2年	法相宗 →天台宗	本文参照		本文参照	88	G5
2	19009	松峰山 圓泉寺	八幡町若林町(郡上郡)	慶長7年	淨土宗	慶長7(1602)年過應廢院は家家の達磨新羅に命じて現在の地に寺院を建て、聖教太子一刀三孔の立像を大刀削院如意の御殿の中に安置し、城主自ら落成した。			16	
3	19010	明華山 華嚴寺	明宝小川(郡上郡)	永享8年	天台宗 →真宗	永享8(1436)年。高麗の弘道院により成立。もとは天台宗。本正11(1514)年以降に真宗。			87	
4	19011	松翠山 淨光寺	八幡町内山(郡上郡)	江戸時代末	天台宗 →真宗	寛喜3(1231)年。坪井久右衛門が南光坊建立。もとは天台宗。宝永2(1705)年、専尊が真正圓に転宗。江戸時代末火災に遭うまでは西側に建ち、現在はその場所に石碑がある。			17	
5	19012	瑞應山 妙妙寺	明宝真住(郡上郡)	明応6年以前	徹悟宗 →智稱宗 →真宗	成立時期不明。始めは淨宗。明応6(1497)年、真宗に転宗。			87	
6	19013	瑞應山 長善寺	高鷲町大賀(郡上郡)	文明7年	天台宗 →真宗	寶元老(717)年成立。始め無元寺と稱し(位置不明)。天台宗。建武年間(1334~36)に絶寺。文明7(1475)年、專尊が真正圓に転宗し、元宗ヶ村に一帯建設。宝永9(1700)年、瑞應山を善きと改称。観音堂が開設。			65	
7	19014	高櫻山 淨勝寺	高鷲町大賀(郡上郡)	明治26年	真宗	正安元(1390)年。大蔵により高櫻村伊代洞に成立。後後代を経て同郡高櫻野へ移転し、大永2(1522)年八幡町(今移転)。明和8(1771)年、小駄良兵衛・朝鮮に本堂を再建。明治26(1893)年大賀村に中興法海が再興。祐の天台宗で、延喜2(1680)年以降に真宗に転宗し、享保6(1721)年、久保田円鏡の時に津守寺を承る。			87	
8	19015	東光山 淨国寺	八幡町有根(郡上郡)	宝徳2年	天台宗 →真宗	宝徳2(1450)年。藤井左衛門が1904長慶寺で創設し、法仙坊を建てる。祐の天台宗で、延喜2(1680)年以降に真宗に転宗し、享保6(1721)年、久保田円鏡の時に津守寺を承る。			87	
9	19016	松雲山 應立寺	八幡町古島(郡上郡)	仁平元年	天台宗 →真宗	仁平元(1515)年。1994年長慶寺に隣接して改築となった大坪太郎左衛門の子孫である。天正13(1585)年、道善が中興。真宗に転宗して1980年勝手寺となる。			17	
10	19017	天龍山 淨光寺	八幡町前納(郡上郡)	天保13年	真宗	延祐元(1386)年。長慶寺の子院であった高麗寺李が、大谷本願寺如智院の法燈院正居となり、那留村の御行場に本堂を安置。延祐2(1387)年、那留ヶ野に本堂を建立するが、文政2(1819)年小野町に移転。その後、永徳元(1381)年に越前へ移転。一前の日向(八幡町前納)に礎石跡が残ることのとどが説明不能。天正年間(1573~92)、下原原村に遷り、天正13(1585)年、十河西の時焼失へ移転。吉備西道(津原郡)を相続し、享禄元(1528)年淨光寺と公称。天保13(1842)年淨光寺の本堂を建てた。				
11	19018	明昌山 圓覺寺	白島町内小駄 良(郡上郡)	養老年間	天台宗 →真宗	養老年間(717~24)、最澄の弟子圓正(眞如師)と号し一字を建立。祐の天台宗。宝永6(1454)年、真宗に転宗。万葉元(1608)年、山号を授けられた。明東山圓覺寺と称す。			85	
12	19019	高須山 圓光寺	大和町大間見(郡上郡)	明治18年	真宗	成立時期の詳説は不明だが、室町時代以前成立。文明5(1473)年了西宗義と称し、永正8(1511)年西宗能が円光寺と改称。享保9(1724)年高須山円光寺と称す。明治18(1885)年、天保戸(位置不明)から現在地に移転。				
13	19020	玉森山 西光寺	明宝桂性(郡上郡)	明応9年	真宗	明応9(1500)年、玉森伊兵衛が高森山03030圓澤寺の弟子となり慶善寺と称し、崇禪院成立。元和3(1617)年、号名を傳ぐ。			87	
14	19021	高井山 淨顯寺	八幡町初野(郡上郡)	文明15年	天台宗 →真宗	文明15(1483)年。高井八郎右衛門が1904長慶寺に度母を受け一字を受ける。天台宗の圓顯坊と称す。明応2(1491)年、本願寺圓顯の教化に帰依して天台宗と称す。享保3(1718)年、圓顯寺とする。			16	
15	19022	笠林山 淨福寺	明宝小川(郡上郡)	寛永6年	天台宗 →真宗	正承2(1200)年。而崎市中瀬門が川村田口田中實業家と天台宗圓福院を開院。五至6(1529)年、道後の農村にたたら鉱山で鐵鉱石採掘を始めた。文龜元(1501)年、真宗に転宗。圓福寺及び寺号を受ける。寛永6(1629)年、斬ヶ原から岩切へ移転。				
16	19023	天王山 光明寺	明宝氣良(郡上郡)	元文2年	天台宗 →真宗	成立時期不明だが、祐の天台宗で1904長慶寺の範下、延祐元(1389)年圓顯院が圓顯坊と称す。元和2(1617)年、天台宗へ改めた。元文2(1717)年、圓教院が宇摩現在地に移転。東久負の田畠内地(190226)には、「光明寺跡」の石碑がある。大きく改築を受けており、蓮塔は確認できなかった。			87	
17	19023b	市 光明寺旧境内 (光明寺跡)		延宝元年以前	明宝氣良(郡上郡)	正承2(1200)年、1904長慶寺の御行場。元和2(1617)年、圓顯院が圓顯坊と称す。元文3(1719)年、山分・山号を得る。崇徳作の木仏像がある。			16	
18	19024	繼淨山 淨行寺	八幡町加賀(郡上郡)	正徳年間	天台宗 →真宗	成立時期不明。祐の天台宗で圓顯坊と称す。文明3(1471)年光顯が圓顯坊と転宗。寛延3(1791)年、山分・山号を得る。崇徳作の木仏像がある。			16	
19	19025	瑞應山 淨顯寺	八幡町阿賀(郡上郡)	文明3年以前	天台宗 →真宗	正承2(1200)年、1904長慶寺の御行場。元和2(1617)年、圓顯院が圓顯坊と称す。元文3(1719)年、山分・山号を得る。崇徳作の木仏像がある。			16	

表32 郡上市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地 (都・府・県名)	建立時期	宗派	初奉等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
20	19026	高光山 圓心寺	大和町古道 (郡上郡)	不明	天台宗 →真宗	承安2(1172)年。道祖神社左助門開山。始め天台宗。文明元(1469)年、西園(西了)が真宗に転化。元禄7(1694)年、圓心寺と称す。寺伝によると、当初は現在の西の白山神社の北側境内にあったというが、詳細な位置と移転時期不明。				
21	19027	中林山 円光寺	明宝二圓寺 (郡上郡)	明治25年	真宗	長享元(1307)年。道祖神社立。開設者は、中田豊寿庵門(法名宗慶)とも、中田又右衛門(法名宗信)ともいいう。その後、元禄6(1693)年(享保12(1727)年)にも時の豪農主宗円。一寺創立。寺号を円光寺とした。明治2(1869)年間に寺びきの段の毎回寺から上の段の寺びきへ移ったという古語があるが、現境内の位置は不明。				
22	19028	古留山 圓圓寺	大和町仲野 (郡上郡)	正室元年	真宗	正室元年(1299)創建圓圓山。寛永16年(1639)、寺号を円寺と櫛る。天和元年(1681)改修再興。				16
23	19030	妙高山 最勝寺	八幡町谷呂 (郡上郡)	寛永元年	真宗	延祐元(1399)年。専宗が押出多田(北畠親胤山口郡)に開基。豪長5(1600)年第一寺尊智の時、職位ですぐて後承。十二三寺尊了の時、謫居大野郡大野町(福井県大野市)へ移転。寛永3(1626)年、十三寺尊勝の時に分離して現在の地へ移転。寛文5(1665)年達常叢友より今領をえらるる。				
24	19031	寶龍山 安乗寺	八幡町初音 (郡上郡)	不明	天台宗 →真宗	成立時不明。始め天台宗。文明4(1472)年、道西が真宗に改宗。西兵所と称す。寺伝によると、道を狭んだ向かへ側の大日堂(1903b)には仮本堂・計殿内陣である。「大日」の寺名が残る。移転時期不明。				
25	19031b	安乗寺旧境内	八幡町初音 (郡上郡)	文明4年以前		明応9(1510)年。井上太郎在原門(前庭)により成立。飛騨國白野郡白川郷正寺(930頃)遷移から末寺となり、文禄3(1594)年、正寺とは東本願寺末寺となる。渡湯の時代は牛首の坂(坂源不詳)にあった。移転時期不明。				16
26	19032	長谷山 通善寺	明宝集住 (郡上郡)	不明	真宗	明応9(1510)年。井上太郎在原門(前庭)により成立。飛騨國白野郡白川郷正寺(930頃)遷移から末寺となり、文禄3(1594)年、正寺とは東本願寺末寺となる。渡湯の時代は牛首の坂(坂源不詳)にあった。移転時期不明。				
27	19033	福広山 尊念寺	美作町白山 (郡上郡)	享禄元年	真宗	寶元(1289)年。南桂坊野・吉経圓基尼によって真宗立。寛永17(1640)年、越後国大野郡石臼村の吉経弘がお供し、阿弥陀が廟のお前庭にあったという木彌陀御供持塔が現在の本尊寺という。翌年、尊念寺に移転。宝永3(1706)年、廢寺となるが、草振15(1723)年再建。				88
28	19035	金燈山 本光寺	明宝寒水 (郡上郡)	大永5年	真宗	大永5(1525)年。本願寺第9代支院の子弟円教圓基より成立。寺伝によると、始め天台宗。転宗時期不明。				16
29	19036	道釋山 安養寺	八幡町細野 (郡上郡)	明治23年	真宗	嘉禄元年(1225~7)。西信開基により近江国滋賀郡に途難山安養寺成立。寛延4年間(1607~6)、六角仲満と安八郎信満・佐藤一宇平が建立。伊勢守安義郎、赤木・猪俣・大河内・大庭・小笠・大曾根・東元・大河内・白鳥野の寺領を有する。天正15(1587)年(1606)に細野(山口)へ移り、八幡郡細野寺(林寺の通り)。天正17(1591)年に細野村(山口)へ移り、八幡郡細野寺に昇進。文化5(1802)年に圓教を他失し、明和3(1807)年冬に日本本堂を焼失した。同23(1808)年八幡の寺に移り大正1(1912)年の八幡大寺宇守の機縁で復活した。昭和11(1936)年落成入院。中央にあった御経には、昭和初期に安養寺今織の発見により英童寺が建立された。昭和代の墓は、中津から難波の間に移す。				
30	19036b	安義寺旧境内 (安養寺跡)	白島町大島森 田(郡上郡)	天正19年	真宗	種籠城主東元謙の招きによって、越前穴崎の「下平寺」から、延徳10年(1489~92)牛若禪子中に移り、延徳寺と名づけられた安養寺は、高僧「仲休」が開闘で信徒が多く集まつた。元亀3(1572)年大島野寺に天文2(1533)年寺を著けし移る。宿集直源は天文16年(1548)に八幡城の城主となつた。大島安義寺の勢力を擴張大なるを要請して、今まで城下に於ける寺の移転を許さず。天正14(1586)年に細野村(山口)へ移り、八幡郡細野寺に昇進。文化5(1802)年に圓教を他失し、明和3(1807)年冬に日本本堂を焼失した。同23(1808)年八幡の寺に移り大正1(1912)年の八幡大寺宇守の機縁で復活した。昭和初期に安養寺今織の発見により英童寺が建立された。昭和代の墓は、中津から難波の間に移す。				16
31	19037	通鑑山 照明寺	八幡町相生 (郡上郡)	文明6年	天台宗 →真宗	嘉永19(1846)年、1900年長慶寺に參詣した而泊水坊(法名道円)が通鑑に天台宗の草創建立。享保元(1722)年千手村林口に移り、応応2(1668)年福寺村(相生)千手地頭山手に移転。寛文5(1675)年、真宗に転じし。寛6(1674)年寺在地に移転。元和9(1623)年に照明寺と称す。				16
32	19038	藤巻山 圓心寺	八幡町百原 (郡上郡)	文明12年	真宗	文明1(1368)~27(1395)年、1900年諸寺令院の元上淨が惠心に易依。同12(1385)年、西御村林口に堂宇を建立。寛延元(1873~81)、全良の時に藤巻圓心寺と称す。				16
33	19039	玉井山 蓮生寺	八幡町萬人町 (郡上郡)	寛治2年	天台宗 →真宗	寛治2(1088)年。1900年長慶寺16坊の一つとして建立。慶豐林と称し代々長慶寺より守護がてて天台宗宗会の名前もあった。寛文2(1662)年、真宗に転じ。元文3(1739)年に玉井山蓮生寺に改称。安永6(1777)年。藤原が本堂を再建し中興。				16
34	19040	南光山 丈澤寺	白島町六ノ里 (郡上郡)	15世紀後半頃	真宗	正了が泰久に帰心し、通鑑開基後に寺号を改めした。俊本堂は昭和24(1949)年再建。				16
35	19041	圓法山 來通寺	白島町白島 (郡上郡)	不明	真宗	本地の開基日麗丘左近庵門は、代々1900年通鑑の配下で、嘉宗坊善上人に継承して弟子となり、寛道の師と号す。文政3(1810)年、實道法師圓基により來通寺が成立。明治40(1907)年、白鳥大僧正候。同(昭和16)年、通鑑の跡に現在の來通寺が建立。碑文には、「元は、通鑑内裏の「通鑑寺」碑建たり(1942)」のあつたというが、移転時期不明。玉の内力づ。				
36	19042b	來通寺旧境内	白島町白島 (郡上郡)	文明3年						16

## 28 第4章 中濃圏域の寺院

表33 都上市寺院一覧表(3)

番号	寺院 番号	史籍	山(里)号 寺院名	所在地 (市)都名	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
37	19042	瑞石山 本福寺	八幡町入岡 (郡上郡)		文和元年	天台宗 →真宗	文和元(1352)年。1900年(治承)山門後の名義教導が宇小山に教導所という天台宗庵室を建立。寛安2(1369)年。美農村田尻口へ移転。文明5(1475)年。越前国内に著述知る所あり。真教が法事となり真宗に転向。講堂より寺号寺名を得る。元禄15(1702)年。二度堂建。正徳4(1714)年に焼失。享和3(1718)年に中島春元記再建。			J7
38	19043	阿戸山 真行寺	八幡町柏生 (郡上郡)		文龜元年	真宗	文龜元(1501)年。顕住院風。一向宗の寺として名声は高まらず、山間えの裏山に位置する。大和2(1522)年。顕住院は基をもつて向かいの日向原(ヒタチノリ)に移し、さらには現在地に移る。旧院の位置不明。秀郷の時、寺号を阿戸山真行寺と改め、明治創新までは代々1905年(安養寺)寺末寺。			J6
39	19044	宝林山 福常寺	八幡町那比 (郡上郡)		文明4年以前	真宗	文明4(1472)年。顕住院に依した可見次郎(法名円印)が住居を道場として、西代円印の天元年間(1573~92)、坊主乞食生活を受ける。元和9(1623)年。白鳥山福常院に改称。明治以前は1908年安養寺の末寺。難波後は白鳥山末寺。文化4年間(1804~18)、山門・本堂・鐘堂を建立。			J6
40	19046	明光山 正信寺	大和町落部 (郡上郡)		文暦元年	真宗	文暦元(1592)年。与志左門圓周の道場成立。寛安4(1651)年。由玄が正信院を建立。天和2(1681)年正信寺となる。寛永初年。正覚寺(文和2(1602)年)。徳興開基。正覚院。江戸末に正覺寺)が正信寺に併合。			J6
41	19047	光明山 弘乗寺	白島町中西 (郡上郡)		承久元年	天台宗 →真宗	承久元(1211)年。羅上院友一院が1904年(正徳)年開基し、道場設置。文明3(1471)年。助兵門院が律院所院にて、顕住院に移し、法名を淨空と改めて「淨空院」と称す。天明8(1788)年弘乗寺に改称。			J6
42	19048	長光山 光雲寺	白島町六ノ里 (郡上郡)		文明15年	真宗	美濃諸侯氏は六ノ里に上之井手牛頭山・越前守院を所領として豪族で、代々野原の6畝を賦与する。文和元年間(1604~87)、当時の主土岐五郎左衛門は瓦屋の無事を感じ、顕住院の教化を受け、「淨照院」と称す。文和15(1692)年、種種の港に一門の寺舎を立てる。			J6
43	19049	元中山 円通寺	白島町中西 (郡上郡)		中世	天台宗 →真宗	神龜元(724)年。泰御の弟子円成により牛進中西に支派成立。「円成院」と称す。近江御所松ヶ木本御所第3子高重、親鸞の弟子となり西信院と分し、康元2(1250)年に近江国蘆原郡一宇を建て「安要寺」と称す。6月日仲尊は伊勢・伊賀・尾張・美濃・越前を遍化し、宍戸半原に安要寺を建立。御所主成常院、東式らから圓通院に分派と安要寺が開基される。成常院は弘法院と改め、延喜院と改め、成常院は成常院と改め。神妙の寺号は弘法院の無事を感じ、顕住院の教化を受け、「淨照院」と称す。元和15(1692)年、種種の港に一門の寺舎を立てる。			J6
44	19050	白鳥山 感應寺	白島町右衛門 (郡上郡)		不明	天台宗 →真宗	養老2(718)年。泰御により成立。はじめ天台宗であったが、文明6(1474)年正宗となる。今伝によると、元は大藏院のものにあつたというが、移転時に存続の位置は不明。			
45	19051	坂本山 淨成寺	和良町野呂 (郡上郡)		中世	天台宗 →真宗	新道御所裏。はじめ天宝元年。正永5(1300)年。直百3(1301)年。1900年(長慶寺)までのことは宮内省版に寺堂宇あり。後に現地に移転。境内には五重塔の木塔があり。当地へ移転した新的記念碑である。櫻樹およそ60年と推定される。	G		J7
46	19052	淀水山 恩善寺	大和町猪木 (郡上郡)		延喜3年	天台宗 →真宗	始め天宝で河内村寺井掛(19127m)にあり。後、寺井に移り、更に八日市通西に移転。火災のため現在地に移転。明治9(1876)年から、寛文5(1685)年まで八日市(現在の八日市)。文明5(1473)年、妙心のとき開基。御所主成常院、御所主成常院、東式らから圓通院。宇佐の御所主成常院は御所主成常院の子御所主成常院とされており、圓通院や寺井中央には祭祀された古墓群が納めた古墓が御所主成常院で埋っていた。石塔は1903年(明治36年)に寺井の東の墓地に集められた可能性がある。	H, G		
47	19052b	恩善寺旧境内	大和町河辺井 (郡上郡)		明治9年以前			H, G		J6
48	19054	藤井山 林昌寺	大和町名栗郡 (郡上郡)		文明3年以前	天台宗 →真宗	成立時期不明。広島駄石南門院が1904年(長慶)年に移し、小庵を建てて圓通院と称す。文明6(1474)年、淨成の時、真宗に転宗し、林昌院と称す。寶慶末から享和に林昌院と称す。			J6
49	19055	聖心山 信楽寺	大和町島 (郡上郡)		近代以降	天台宗 →真宗	始め天寶宗、源尾尼寺は七代目神社の別當。文明5(1473)年、圓成が真宗に転宗。9代圓成の時、真業寺。明治元(1868)年に聖心山信楽寺と称す。今伝によると、以前に北の瀬戸にあり後に搬出災で境地に移転したというが、旧境地の位置不明。			
50	19056	光地山 覺證院	和良町下割 (郡上郡)		文明3年以前	天台宗 →真宗	成立時不明。始め天寶宗で、1904年長慶の末寺光地院と号す。文和3(1474)年、後藤兵衛(正徳)が真宗に転宗。	H, G		J7
51	19057	鶴来山 淨円寺	大和町朝 (郡上郡)		不明		永正17(1520)年。両谷三郎左衛門により淨円院が成立。天明4(1784)年。淨円寺と改称。今伝によると、以前は北西の金輪神社の南側(19057b)にあり。圓成院の施主は石川県の鶴来からきており、白山信仰で住む者があり。神社から寺号をもらった。			
52	19057b	淨円寺旧境内	大和町朝 (郡上郡)		永正17年					J6
53	19058	雪光山 觀願寺	魚糸町鷲見 (郡上郡)		法相宗若 弘養者5年	天台宗 →真宗	養者5(721)年。天台宗道場として成立というが、寺伝では平安時代末の僧の魔が隣境で虫相京であったともいいう。長徳3(1458)年、真宗に転宗し、一字を削除。			J6
54	19059	淀水山 通入り寺	高麗町入塩 (郡上郡)		養老元年	真宗	養老元(717)年、了義圓山により入寺付属。始め天寶。中興聖山寺と號す。明治5(1872)年に真宗に転宗。同年代、蒲生山通入り寺と改称。			J6
55	19060	白雲山 淨顯寺	白島町那留 (郡上郡)		文明7年以前	真宗	文明7(1475)年、交野勝十郎が圓通に移し、船主二宇子に建て「淨顯院」と称す。惠正。淨顯寺と改称。嘗てのとき、基殿の現在地に移る。			

表34 都上市寺院一覧表(4)

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 山院名	所在地 (旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
56	19061	無量山 慈願寺	白島町多岐島 (郡上郡)	天正年間	真宗	文明5(1473年)、日隈左衛門という者、越前国吉崎在白木嶋町妻田の法師となり、法名をもとと認め、天正3年に慈願寺を成立。天正元年(1573年)、現在地に移転。延宝5(1677年)、「慈願寺」を改む。				G5
57	19062	金剛山 西圓寺	白島町二日町 (郡上郡)	昭和初期	真宗	天永3(1520年)、三路二郎左衛門が本願寺第9代世実如の教説に感心し、整頓法事となり法号を受ける。草薙を御品。天文元(1532年)、道成寺と改め。天正17年(1589年)、一宇を再建。金剛山西圓寺の法号を授けらる。寺伝によると、90年前は二日町の南の山側にあったとのこと。詳細な位置不明。				
58	19063	東林山 靈林寺	白島町高島 (郡上郡)	文龜2年	真宗	文龜2(1502年)、宗源により成立。以後、延命開基す。		H, G		
59	19064	鶴齢山 安寧寺	白島町大島 (郡上郡)	明治元年	真宗	明応元(1492年)、野原左衛門の創建に帰依して宝林院殿位を称し、道場を開く。寛永17(1640年)、1653年安養寺へ堂宇の次男円念により再興。寺伝によると、安寧寺將軍建立したといふ。				
60	19065	櫻川山 慈雲寺	白島町大島 (郡上郡)	元龜元年	天台宗 →真宗	元龜元(1570年)、開闢所として開設。寺伝に上ると始め天台宗だが、輪治時刻不詳。享保10(1725年)、改称。				
61	19066	土居山 淨華寺	明月山(郡上郡)	昭和34年(頃)	真宗	文永2(1202年)、白石(今)兵衛の開基とも、元龜元年(1570年)、西村右衛門(法宗法孫)が開基ともいいう。此は郡上郡明安佐住(1919年光寺町の近く)にあり。昭和34(1969)年頃に現在地に移転。回跡には何も残っていない。				F7
62	19066b	淨華寺旧境内	明月安住 (郡上郡)	文禄元年 若しくは 元和9年間～正 保3年	真宗					
63	19067	光明山 寺施寺	白島町猪佐 (郡上郡)	養老2年	天台宗 →真宗	養老2(718年)泰澄により成立。自然劫と称し、始め天台宗。28世惠慈の時、真宗に転宗。享保2(1717年)、寺施寺と改称。				
64	19069	清水山 觀音寺	白島町多岐島 (郡上郡)	弘仁4年	天台宗 →真宗	弘仁4(803年)、島田太郎左衛門により成立。天台宗1900年遷寺末(明円院)と号す。嘉祥3(1237年)、天台宗に転宗。明治12(1879年)、觀音寺と改称。				
65	19070	戸谷山 樂性寺	美並町白山 (郡上郡)	正嘉元年	真宗	正嘉元(1257年)、東瀛開基に當する草薙を結ぶ。永祿5(1562年)、戸谷道場の廢寺と呼ぶ。寛宝4(1676年)、本覚完成。寛永10(1633年)、寺分庵を有す。自然劫と称す。本願寺末寺。天明6(1786年)、全焼。寛政9(1797年)再建。	G			
66	19071	普賢山 圓勝寺	白島町六ノ里 (郡上郡)	明治時代	天台宗 →真宗	弘仁4(803年)、島田太郎左衛門により成立。天台宗1900年遷寺末(明円院)と号す。嘉祥3(1237年)、天台宗に転宗。明治12(1879年)、圓勝寺と改称。又伝によると、以前は六ノ里的の山にあったが位置は不明であるという。現地は明治時代に移転。				
67	19072	清水山 照耀寺	大字町古瀬 (郡上郡)	不明	真宗	教説が嘉慶3(1808年)安寧寺と建立。製糸店を構す。始め兼顧にあつたが、東氏に改められ、宇佐市(あこじま)に移転。延宝2(1745年)、清水山照耀寺と改称。その後後2世の時、現在地に移す。重建。				
68	19074	竹林山 圓通寺	八幡町晶谷 (郡上郡)	伝光明3年	真宗	寺の由縁書にこれば、延宝2(1494年)のころ、櫻井村(鷹生)に正四庫を奉仕する。其の後櫻井村の御子の石兵衛が再興。慈眼の代に圓通寺の寺号で現在地に移る。元和3(1623年)に圓通寺と云う寺号を受く。明治時初頭まで1900年安養寺の末寺。				
69	19075	小円山 安寧寺	八幡町黃山 (郡上郡)	大治2年	天台宗 →真宗	大治2(1577年)、寺尊が源源所建立。もとは天台宗。十一代作元の時、天台宗に転宗。安寧寺と号す。天和3(1683年)に安寧寺とさう寺号を受く。				J7
70	19076	妙寂山 金乘寺	和良町萩 (郡上郡)	明治7年	天台宗 →真宗	正安3(1301年)、基西(おきにし)に上り建立。もとは天台宗。後、真宗に転宗。明治7(1490年)、円舟の代に和良村宇波木岡へ移転。				J7
71	19078	千秋山 淨因寺	八幡町通町 (郡上郡)	明治56年	真宗	寺の由縁による。明治年間(1892～1910年)成るべく、組合新敷在鶴門が創設し丁目と号し、1900年安養寺から分離して開基。明治36(1903年)に現在地へ移転。寺名に付く「千秋」は元の組合の寺名を受けて鶴門組内に組合新敷寺とある。安養寺の綱はあつたといふ。				
72	19078b	淨因寺旧境内	白島町大森田 (郡上郡)	明治19年以前	真宗	通達御座は、達摩家は氣家の水供であるからと高山上那蓮寺に仮住まいしていた正徳元年(1601年)、八幡坂下の寺子と便り。其の後、水供を別に持つ寺として、通達御座と改められ、通達御座と名づけられ、そのうち那蓮寺本末で當寺となっていた長義の寺号を受けて鶴門組内の組合新敷寺と改められたといふ。元禄元(1688年)、三種資福の時に通達御座の堂宇を再建。				
73	19079	光輝山 長敬寺	八幡町人間町 (郡上郡)	慶長6年	真宗	明治3(1864年)、義円開基により通達を開基。元禄6(1693年)、無縫山教円門と称す。明治13(1880年)教円門と改称。				I6
74	19080	無縫山 教円寺	大字町大間見 (郡上郡)	明治3年	真宗	義者3(1719年)、御子の首となつた西郷の義見翁に移入し、一字に接合。天台宗の西郷と号す。明治3(1864年)、内宿の時、義見翁に転宗。安寧寺と改称。今御子元無縫寺となるが、現地には建物跡が残る。				
75	19081	小丸山 圓覺寺	高雲町西解 (郡上郡)	養老3年	天台宗 →真宗	義者2(1719年)、御子の子となつた内丸子・宇治坊と号す。明治3(1864年)、内宿の時、義見翁に転宗。安寧寺と改称。今御子元圓覺寺となるが、現地には建物跡が残る。				
76	19083	石動山 真嚴寺	高雲町船立 (郡上郡)	養老2年	天台宗 →真宗	義者2(1719年)、祐立村住人山下長右衛門が圓覺の弟子となり淨運と改め、圓覺寺を創建。淨運が寺を守護し、淨運が死んだ後、義見翁に転宗。延宝2(1674年)、石動山真嚴寺と改称。				
77	19084	豊高山 圓覺寺	高雲町船立 (郡上郡)	養老2年	天台宗 →真宗	義者2(1719年)、祐立村住人山下長右衛門が圓覺の弟子となり淨運と改め、圓覺寺を創建。淨運が寺を守護し、淨運が死んだ後、義見翁に転宗。延宝2(1674年)、豊高山圓覺寺と改称。				

表35 都上市寺院一覧表(5)

番号	寺院名	史跡 登録番号	山(里)名 寺院名	所在地 (都・県名)	建立時期	宗派	沿革等	看守、遺構 調査結果	調査 結果	分布図
78	白雲山 了泉寺	19065	大和町大閑見 (郡上郡)	元禄10年～ 宝永3年	真宗	天文6(1537)年。空悲が創始大野口に入道場を開く。文禄10年(1591)から、 宝永3年(1706)の間に現在地に移転し、宝永2年(1713)を終寺とする。創 始大野口延びは現在大和中學坂となっている。				
79	了泉寺境内	19085b	人和町側 (郡上郡)	天文6年					16	
80	武蔵山 清淨寺	19086	大和町大閑見 (郡上郡)	不明	伝・和宗 →天台宗 →真宗	明治3(1870)年。唯善寺が1990年反対する廟寺に入り道場開く。延宝 元(1673)年には寺門・本堂・多宝塔・舍利塔などがある。もとは近江守に付する。文部省的 に山門等がないという。天台宗の時刻は御堂・法華堂・般若堂・轉輪堂・轉輪軸。天台宗に なってからは時刻は不明で、真宗に移転したのが約40年。また、天台宗の頃 は山門にあったというが、詳細な位置不明。				
81	月光山 應德寺	19087	大和町栗原 (郡上郡)	明治3年以前	天台宗 →真宗	成立時期不明。1500年長昌院末寺で始め天台宗。明應3(1392)年、應 西の時、真宗に転宗。天文5(1473)年、月光山と号す。応永2年(1395)に 寺門改め。開創時は寺門は横木橋構造内(位置不明)にあり、現在は水 門で、横構造という地名がのこるという。移転時期は不明。			16	
82	大納山 心宗寺	19088	大和町小閑見 (郡上郡)	不明	真宗	天文2(1533)年。長昌院末寺で始め天台宗。天正3(1575)年、心宗 寺と改め。開創時は寺門は横木橋構造内(位置不明)にあり、現在は水 門で、横構造という地名がのこるという。移転時期は不明。				
83	無漏山 長勝寺	19089	大和町万葉 (郡上郡)	不明	? →真宗	序教により、細前大門に長勝院が成立。その後、萬山山に移転し、さるに 現在地に移るが、移転時期不明。長和元(1567)年、真宗に転宗。享保 2年(1716~1718)まで松井山と言っていたが、その後地名に改め る。	G			
84	靈龜山 願泉寺	19092	美並町上田 (郡上郡)	僧心2年	真言宗 →臨濟宗	嘉定2(1339)年。靈龜院基より真言宗の願泉成。過去帳に羅済宗 の寺院となる以前は、真言宗の寺で立ったとあり、西側に立地する白 山神社と共に、修驗道の靈龜院上野へ佐光院に入道する成立と伝う。通 称は「元の靈龜院」(1606年)が、天文15(1546)年に龜山と稱せられ、 龜山氏の子孫を祀る宇を建立。靈済院京都御心寺から摺出山を稱して靈龜山願泉寺 と称す。	G		86	
85	福澤山 林廣院	19093	美並町白山 (郡上郡)	16世紀半ば頃	曹洞宗	嘉吉元(1441)年。瀬川五廣が中国新川郡を日村大寺の林廣院を相 続し開創する。瀬川は、下安房の守に立った元林廣といつて尊被(位置不 明)で、創建の初期は瀬川上野へ佐光院に入道する成立と伝う。通 称は「元の福澤院」(1606年)が、天文15(1546)年に龜山と稱せられ、 龜山氏の子孫を祀る宇を建立。靈済院京都御心寺から摺出山を稱して靈龜山願泉寺 と称す。	G		86	
86	福陀山 圓通寺	19094	八幡町小原北 (郡上郡)	天正15年	曹洞宗	天正15(1587)年の春、刈谷村の1093林廣院二世休山が藤原慶隆の修 驗道場として建立。無縫供養庵を尊堂として舎利函・円通寺と称し た。それより代々林廣院の末寺としてきたが、明治維新に付守でなく なる。			87	
87	瓶竹院	19095	八幡町南町 (郡上郡)	昭和8年	? →曹洞宗	天文2(1533)年。酒井忠公開基。永禄12(1569)年、徳川家康の心月寺七 才(1570)年移転と傳わる。弘治2(1559)年御詔勅(元の位置不明)。明治 12(1879)年、酒井忠一(元の忠)が、豊前郡豊前市山鹿町本郷の瓶竹院より 秋葉三昧坊大徳院の身を繼承して1515年に威徳院建立。昭和8 (1933)年、1935年定山元の時、当時五町1998林廣院北隣(位置不明) にあつた宇宇堂を現在地に移転。	G			
88	鋼鶴山 昌昌寺	19096	美並町大原 (郡上郡)	16世紀末頃か し	真言宗 →曹洞宗	1990年林廣院二世梅香が天文2(1533)年成立。大友金作(位置不明)に 鋼鶴山北原寺より、山門合掌門とされたあれ様と傳わる。弘治2(1559)年に寺 を受けた後、今寺によじよじ。寺地は真言か真宗中であったというが、船 岡時穂(位置不明)、黒龍(位置不明)を除いていたものを梅香が現在地の桂原門に移し再 興。桂原庵と称す。			86	
89	萬法山 北辰寺	19097	美並町上田 (郡上郡)	享禄元年 若しくは 本永2年	真言宗 →曹洞宗	開基には諸説あり、享禄元(1528)年には武田信玄(1549年歿)開基と り、本永(1530)年には足利義滿(1536)とある。開基の由来は、開基の南 側である真言宗の庵を廢して北辰寺としたといふ。真言宗開基は東家 の御靈山とあることを論議する。			86	
90	瑞宝山 櫻柳寺	19098	八幡町五町 (郡上郡)	明治年間以前	天台宗 →曹洞宗	もとは天台宗の道場。明応・文永(1312~1340)の後に兵乱の災にかかり て、本永(1530)年には足利義滿(1536)とある。開基の由来は、開基の南側 である御靈山とあることを論議する。	G		16	
91	唐木山 大覺寺	19099	八幡町中坪 (郡上郡)	慶長8年	日蓮宗	京都見底山妙寺寺末寺。天文年間(1573~92)。日了が中綱(位置不明) に草庵を結び華嚴坊と名付けた。二代日徹のとき、慶長8(1603)年に 通鑑庵が移転。同年に現在地に移る。	G		16	
92	高賀山 應本院	19100	八幡町墨比 (郡上郡)	天文年間	真言宗	本文参照	本文参照	96	J5・J6	
93	高賀山 應本院	19110	大和町牧内ヤ シキ(郡上郡)	15世紀	不明	萬葉時代奈氏一族に立てる立てる屋敷。自御の二世(文永4 (1347)年役)と三世は墓などの跡。この寺地から文永9(1359)年に應本 院と本院2院が創出。昭和初(1926)年、廻所から宝篋印陀の塔身も 出土。山崩に倒れやか半平塁がある。	H, G, 應本 院		16	
94	八幡山 宝藏院 (三河八幡神社 五輪塔)	19112	大和町牧内三 田(郡上郡)	不明	不明	牧牛三田の八幡神社に宝藏院の跡があり、石碑のみのある牛田が數段 と平塁の2段ほどあるが、圓鏡鑿磨にて作るものと思われる。現地看板 には御室の家業が武将修行の通りに八幡塔をもつたとある。東の谷は 「仮同院谷」。	H		16	
95	高賀山 應宣院	19114	美並町高萩 (郡上郡)	昭和59年	真言宗	本文参照	本文参照	110	J6	

表36 郡上市寺院一覧表(6)

番号	寺院番号	史跡	山(里)名	寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図			
96	19118	(金剛寺跡)	白島町向小畠 且金剛寺 (郡上郡)	白島町向小畠 且金剛寺 (郡上郡)	不明	天台宗か	成立時期不明だが中世の社寺跡として遺跡登載されている。白島山腹に「奥御堂」(917年(延暦))を建てて、これに対し向小畠且金剛寺に金剛院を建てて、朝日寺と呼ばれた。この両寺を東西移転して1903年(長慶)年の守護神とし、社ををして事を行わせ、放生会を営んだ。遺跡の北東の民家にそば屋や喫茶店があり、山裾に「金剛寺跡」の石碑が建つ。				HG			
97	19117	(夕陽寺跡)	白島町白島 圓満(郡上郡)	白島町白島 圓満(郡上郡)	不明	天台宗か	成立時期不明だが中世の社寺跡として遺跡登載されている19116金剛 今朝參照。遺跡登録地点は急斜面。赤色立体圓でも平頭圓等は確認できな				HG			
98	19119	市 (長光寺跡)	明宝美山口長 尾(郡上郡)	伝宝美山口長 尾(郡上郡)	時代不明		蓮如(「ころの開闢かとむるの詳繩不詳。空て地となっている 場所に「長光寺跡」の石碑を確認した。)				H7			
99	19121	(木蛇寺跡)	大和町牧 (郡上郡)	大和町牧	室町時代		郡上郡原東氏庭園。神安徳(「愛宕源平」)開山により成立。東氏の 菩提寺。元は「木蛇寺」(大和町牧)にあった。この寺が開基したと傳 わる。元は「木蛇寺」といはれるが、勝利妙見院の開基とされる。木蛇 寺または白蛇寺ともいわれる寺があるが、現在はほんざく井とな っているが、周囲の墓地で宝鏡院塔を確認し、山麓に「妙見浦水」を確 認した。秋では、木神社の社殿での指定標柱の標柱が建ち、山麓に 東氏代と大蛇の墓碑を確認した。					I6		
100	19121b	(木蛇寺跡)	大和町御 (郡上郡)	大和町御	鎌倉時代後期						I6			
101	19122	(楓葉寺跡)	大和町牧ノ上 え(郡上郡)	大和町牧ノ上 え(郡上郡)	鎌倉時代後期	不明	19123尊星王跡から東に約100mに勧乗寺跡と伝わる場所がある。東 武ゆきの寺跡で対岸に東武橋を見る際の風景で、昭和44(1969)年、 奥田忠二(地下下)1mの位置から鎌倉時代中期の陶瓶塗瓦片と点。納骨堂 と同時期とみられている。既存には舟形埴輪などの建物を確認。 北裏の山腹には遺構らしき平坦面は廃闇しない。				西瓶塗瓦。 西瓶		I6	
102	19123	(尊星王跡)	大和町妙見 (郡上郡)	大和町妙見	(郡上郡)	応仁2年以前	不明	妙見神社に隣接して引守寺尊星王院があったが、応2(1468)年春 妙見神社が脇臨城・象鼻裏にいたとき境内にばかり築宅を残して全焼。聖文 元年に脇臨城(之の三男)は天子の御歌を「金剛妙見」に號して城を取り 廻した後、尊星王院も再興。文明4(1472)年春に築城が完成となり白蛇 寺と改められ、天正12(1584)年春に改称して「東光寺」(「東光寺・東光 院」)。天文15(1546)年春に御朝倉義景が襲撃した時に再び火大にか かったまま復興された。明建社と資料館の前に、石碑が建つ。北裏 の山麓には遺構らしき平坦面は廃闇しない。				G6、西瓶瓦		I6
103	19128	寶山院 東光院寺 (東光寺跡)	寶山院大原東 光寺(郡上郡)	寶山院大原東 光寺(郡上郡)	鎌倉時代	天台宗 →真言 若しくは 高僧山貢 詔示	當初院 天台宗	宝山院は山頂から東に約100mに勧乗寺跡と伝わる場所がある。後に真言に転じ真光寺 と改め、寺額五石とされる。住職が山合院に出たため無住となり、慶安 年間(1648)、地主に「東光寺」、天正12(1584)年春に御朝倉義景によ り破壊され、天正15(1587)年春に再興。天正18(1590)年春に改称され て通称にあつた。東光寺跡の南200~400mに「東光寺大門」の石碑 があり、然若木が立った御朝倉義景の墓である。西の奥並南公民館には阿 彌陀堂があった。仏像は勝原の真言寺へ移さたという。						H6
104	19129	白雲山懸光寺 (白雲山中宮 懸光)(白雲山 古廟)	大和町本木御 馬原(郡上郡)	大和町本木御 馬原(郡上郡)	中世	不明	本文参照				I6			
105	19131	市 (奥の森の白山社 別当寺 (奥の宮跡))	奥の森の白山社 別当寺 (奥の宮跡)	奥の森の白山社 別当寺 (奥の宮跡)	養老年間	天台宗か	本文参照				G6			
106	19132	白雲山 淨耀寺	白雲山淨耀寺 (郡上郡)	白雲山淨耀寺 (郡上郡)	不明	天台宗 →真言	成立時期不明。始め天台宗。文明8(1473)年、道宗により真言に転 じ。天正7(1579)年、吉村村の内野村は一字換て淨宗寺と称す。嘉 永元(1848)年、正直が白雲山淨耀寺と改称。明治12(1879)年、淨耀寺 と改称。明治復原まで船下地下に在ったが、大正元(1912)年移転。 現在地となり。							
107	19137	白島山 白島寺	白島町白島 (郡上郡)	白島町白島 (郡上郡)	養老年間	天台宗か	養老年(672)、新羅大師が白島社と別当白島寺を造る。慶長4年 (1599)~1615)廢寺。白島山とす。昔々堂宇御堂の靈廟にて行持60野 有り、其世の御火流して今はその社あり。入には神女となりお上げをし た白島の舞つて地主を白島社と名付いた。慶長1560年の大火の煙が也 られた白雲木堂、本殿、拜殿、庭、木鉢を確認したが、近年の整備 で遺跡の痕跡になりそうな平坦面や石積みは確認できなかった。						I6	
108	19139	東木山 十津寺	白島町中津原 桃平(郡上郡)	白島町中津原 桃平(郡上郡)	養老年間	天台宗か	養老年間(717~24)、垂露により成る。東木山十津寺と称す。神社を 併供。その後ひしわから神寺を廢せきとなる。白雲神社入口に「六谷六 院ノ一神寺」の石碑あり。神社の裏面に平面圖、木造のある谷を確 認したが、寺跡としての平面圖の広がりは確認できない。						I6	
109	19140	白島山 圓鏡寺	白島町石懸白 (福井前大野 郡)	白島町石懸白 (福井前大野 郡)	明治5年	天台宗 →真言	本文参照							
110	19140b	圓鏡寺(圓鏡院)	白島町石懸白 (福井前大野 郡)	白島町石懸白 (福井前大野 郡)	養老年2年	天台宗 →真言				本文参照	I6			
111	19144	熊野山 石井寺	美並町栗原山 田(郡上郡)	美並町栗原山 田(郡上郡)	天文16年以前	天台宗	本文参照				J6			
112	19145	寶鏡山 美峰寺	美並町下田 (郡上郡)	美並町下田 (郡上郡)	不明	真言宗	真言宗和熊野山山崩院院。圓鏡寺跡に上れる栗原山は「佐治2 (1550)年5月」とあり。また木下「栗原河内」とある。天正15(1587)年、 栗原院開創(?)由木元(1540)年下田区文部の「栗原」による。明治元(1868) 年神社の融合により廢寺。昭和23(1948)年、19997北野寺に移る。当 初の位置不明。							

表37 郡上市寺院一覧表(7)

番号	寺院 番号	史籍 年	山(国)号 寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
113	19148		瑞應高山 梅原寺	美並町梅原 (郡上郡)	元龜元年	不明	通称「薬師堂」と呼び高臺三尊をまつる。今仏は吉藤國興の家臣吉藤東定が同地に居住す時にかから。薬師如来に祈願すると吉定、元龜元(1570)年、薬師如来安置の堂を建立して瑞應高山梅原寺と名付く。現在は梅原公民館となっている。		J6	
114	19149		若伊山 蓮生寺	美並町山田 (郡上郡)	伝15世紀末～ 16世紀初頭	不明	創國時代の成立と伝わる。八幡神社の別当寺。当社は美濃国明照院の坂本(くひもと)と明神・神社岩の御靈堂の間に、宝鏡印塔や五輪塔が並んでおり、この辺に寺があったという伝承もある。現在は門福手龕会所と石塔がある。	B, G	J6	
115	19151		石立山 圓信寺	八幡町河内宇 為安 (郡上郡)		天台宗 →真宗	成立時既不明。初め天台宗。明治8(1875)年、丁ヶ真が真宗に転宗。依頼を了願坊とす。享保2(1717)年。第九次淨宣の際に寺号を石立山門信寺と改め。明治元(1868)年主な修繕寺の太寺であったが難波後は寺号でなくなる。現在は宅地化となっており、位置不詳。			
116	19152		源本院	八幡町小野 (郡上郡)	永祿2年	天台宗	承暦2(1059)年、通称源院が山頂(八幡山)に薬師の堂、其側を山中から西側の位置に移し、当時の通称のまま稱する「八幡」ことづれ。八幡神社は天台宗の本山でという開創期不明の別当寺である。城下の宿場あたりの跡に建てて源本院と称し、かの八幡神社の西隣に移転し、別当寺本院と称す。対本院があつたことされる宗祇本付近と八幡神社付近を踏査したが、寺跡と考えられる遺構は確認することができなかつた。江戸時代の絵図には、神社の隣に描かれている。			
117	19153		高賀山 應原新宮寺	八幡町郡比西 古ヶ野 (郡上郡)	天保半間	真言宗	本文参照		本文参照	J6
118	19157		比丘尼足敷	大和町畠根田 (郡上郡)	不明	不明	通称足敷は山畠村の名を「比丘尼足敷」と呼称している。令和元(2019)年10月の岐阜県文化財保護課と山口市に踏査で、山口より下の平垣面で、方陣(3.6m×2.5m)に配された円錐、礎石を2個確認した。山麓から山頂までの北高差269m。	方陣の遺 存。礎石	J6	
119	19159		白尾山 白尾大徳院	白鳥町六ノ里 (郡上郡)	鎌倉時代か	不明	創開白山神社白尾山、櫛塚といい、鎌倉時代の塔跡あり。高久に大屋の跡名がある。社境内に不動明王堂がある。	塔跡		J6
120	19160		今清永社	白鳥町石徹白 (郡上郡)	貞永2年	不明	本文参照		本文参照	F5

表38 郡上市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史籍 年	山(国)号 寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	19006		稻生教会	八幡町城南町 (郡上郡)	不明	真言宗	成立時既及び弘法不詳。東寺言吉宗。位置不明。		
2	19029		東峰山 般舟寺	八幡町切音 (郡上郡)	不明	天台宗 →真宗	成立時既不明。初め天台宗。義教が真宗に転宗し、其の後延宝6(1678)年、宗室の時に般舟寺と称す。		
3	19034		綱寺山 本覚寺	八幡町河内 (郡上郡)	延宝5年	真宗	延宝5(1677)年、飛騨守行1608寺領寺の轄下により成立と伝わる。本寺阿弥陀院と號す。延宝5(1677)年より1520年(弘治元年)まで「日鹽(日鹽院)」とあり、寺伝によると1503年(弘治2年)より1520年(弘治元年)まで「日鹽院」。弘治代に初祖で1903年(嘉慶2年)に開基。		
4	19045		東谷山 明嚴寺	八幡町棚生 (郡上郡)	江戸時代初期	真宗	1903年(嘉慶2年)の三輪寺は代々専宗に正定法(明严の法号)を譲り、自ら正定を名乗る。明嚴の子の玄蕃が正定法を傳承し、その孫の玄蕃が正定法を傳承した。元禄8(1695)年、南朝の子空宗の時に明嚴寺の寺号を受け、貞享2(1685)年、空宗の子空智が寺号本尊を繼承する。その後1903年(嘉慶2年)、延宝寺を改称。		
5	19053		北林山 西實寺	大和町裏渠 (郡上郡)	宝曆5年以前	真宗	成立時既不明。母舟御(舟御袋)は東氏の膳所尉。5つからかこの斬が真宗の遺體となり、法林院跡とする。宝曆5(1750)年西實寺と称す。		
6	19068		新瀬山 正円寺	白鳥町為萬 (郡上郡)	明治3年	真宗	明治3(1867)年、持松院を建てて道場とし、正円坊と号す。後、正円寺と改称。		
7	19073		誠謹山 受榮寺	美並町山田 (郡上郡)	承和3年	真宗	承和3(1064)年、善光院により懇道場開設。享保16(1751)年、開院証を再興。享保20年(1755)年受榮寺と改称。		
8	19082		鶴峰山 光明寺	高麗町大紫 (郡上郡)	寛永7年	真宗	寛永7(1630)年。大紫町の住民3島鳥助十郎が宜宣の弟子となり専度して西入と号し、西入坊という道場建立。延享3(1746)年、鶴峰山光明寺と改称。	G	
9	19090		桜光山 惠泉寺	明宝大谷 (郡上郡)	享保8年頃	真宗	享保8(1723)年頃、安淨園基により成立。		
10	19091		穂山 慈恩寺	八幡町谷谷 (郡上郡)	明治29年	臨済宗	慶長11(1606)年。妙心寺圓山の門僧無相大助第十一世の法雲、南化的法子の半山により成立。元禄8(1695)年、微光。寛永8(1631)年、道勝院より郡上二ノ丸頭を受けて持種。明治26(1893)年の山脈れにより、山門へつをもして全て埋没。同29年に現在の本堂。毘盧、縁種を復興。山門のうち二ノ門は昔の軒廻門。		

表39 郡上市参考寺院一覽表(2)

番号	当院名	史跡名	山院(号)	所在場所 (旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
11	19107	福圓院	八幡町谷筋 (郡上郡)	不明	真言宗	成立時頃及び治平不詳。愛宕山空境内にあり、通称長法幢。高野山の八幡支祖となっている。		
12	19111	恩賜寺	大河内町牧 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。位置不明。		
13	19118	(島)京成寺	明宝気良 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。遺跡登載地位には工業が建ち、遺構は滅失していると思われる。		
14	19120	(淨福寺跡)	明宝小川町田 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。遺跡登載地位の中央やや南で「村利寺・淨福寺跡」の石柱を確認した。西側には、今後解説で述べできるものも残る。石段と思われる石段のみと手塀がいくつかあったが、改めて見直すと思われる。		
15	19124	(京原遺跡)	八幡町市島前 保永 (郡上郡)	中世	不明	山腹の傾斜地上に平坦面で数軒の跡である。小字名が京原寺であるが、伝承等が残っていないため当時の詳しきは不詳。立派からぬ時跡と考被る。		
16	19125	(牛山遺跡)	明宝大谷 (郡上郡)	不明	不明	牛山遺跡の遺跡範囲西端を踏破したが、寺跡と考えられる遺構を確認することはできなかった。		
17	19130	向葉見白山神社	高野町大安寺 前川 (郡上郡)	不明	不明	高野小学校の裏間に位置하였다. 西の大霧白山神社と合祀となり、移化が移されていいる。大字名は見白小字には「八幡宿」、「御船社」、「若石」があるが寺院についての情報なく掌握。寺跡跡らしきものは確認できなかった。		
18	19133	植松院	高野町船走 (郡上郡)	不明	真言宗	成立時頃及び治平不詳。高野小学校の裏にあったというが、位置不明。		
19	19134	藏元寺跡	高野町船走 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。現在宅地であり、詳細位置不明。		
20	19135	栗原院跡	高野町船走 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。位置不明。		
21	19136	兼乗寺	白鳥町留置 (郡上郡)	貞享4年	真宗	貞享4(1687年)。栗原院の本堂跡一如の草子となり、下がるに一室を建立し「栗原院」と號す。明治30(1907)年焼失し、その後1906(明治39)年再建し、同院の位置不明。		
22	19141	渡沙門院	大和町妙見 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃不明。1912年木造の約200坪にある妙見寺跡(宇妙見1200疋地)の北東方に標高50mの坂の奥山門があり、谷川に向って600mほど行ったところに里沙門院があるところである。妙見寺水の源にある。他の奥入口から少しあがった所に「南無阿彌陀仏」の石碑がある。堂の位置不明。		
23	19142	円乗寺	大和町妙見 (郡上郡)	不明	不明	成立時頃及び治平不詳。位置不明。		
24	19143	真福寺	美星町白山宮 合掌 (郡上郡)	不明	真言宗	成立時頃不明。真言宗白山宮山門僧院の末寺。同じ白山神社の附寺。神社の版文を下すたてた白山宮別当真福寺があつたが、明治維新の禦廢寺となつた。現在は下戸安地区的公墓所。		
25	19146	玉蔵寺	美星町下田 (郡上郡)	不明	曹洞宗	成立時頃不明。寛安3(1660年)。宝永2(1705)年に建立した白鳥名が1997年まで古跡としてある。文化7(1800)年の瓦々等記載に「北山寺今木下田村正顕寺」とある。安政6(1859)年の『御記録』(古伊庭家文書)によると、正顕寺今木下田村正顕寺とある。境内に「南無阿彌陀佛」とある。		
26	19150	(薬師寺道跡)	大和町篠木 (郡上郡)	不明	真言宗	寺院に関する治平不詳。薬師平多賀神社の前身「薬院」の創建の出来は「創始した薬師平多賀神社があるが、跡みならず。貴金主の尊母院(出羽院)」である。境内に「南無阿彌陀佛」とあるが、改めて受け取取説があると推測するが正確等ではない。		
27	19154	(高野城跡)	白鳥町中野原 (郡上郡)	不明	不明	寺院に関する治平不詳。危険な崖面に巨石の崩落面と土面。豊麗1本がある。この邊は鶴ヶ崎大ヶ岳の頂と見見え、長い形の岩場があることから大日牙彦屏風。大原神、薬師大光明神の石像配祀で中井寺の跡跡が見える。		
28	19158	建如意寺	大和町栗原 (郡上郡)	不明	不明	寺院に関する治平不詳。危険な崖面に巨石の崩落面と土面。豊麗1本がある。平田山が設立された所で、石碑には世界最高峰のものと思われる。白山神社の西には、平原の草がさり、土輪跡があった。		

表40 坂祝町寺院一覧表(1)

御守・御朱印帳登録一覧								
番号	当番 番号	表記	山(里)名 院名	所在町 (郡都名)	建立時期	宗派	沿革等	
1	34001	青木山 斐亭寺	勝山 (加茂郡)	文禄元年	天台宗→ 真宗	天文8(1539年)、竜藏主田舎左衛門により城の龜舟門として彦根城 備前守。『火薬山御守帳』成立(1601年)。銘文(火薬山御守主安藤対 守の男正直)開闢。淨界は天台宗に属し、龜舟も別名で天台宗。文禄 元(1592年)、秀吉により勝山城に移転。淨光寺園庭後、宇淨心寺が建 て天台宗から真宗に転向。寶慶15(1616年)改称青木山寺に改称。	有	
2	34001b	斐亭寺旧境内 (足見町)	鹿覆 (加茂郡)	天文8年				有
3	34002	大瀬山 長義寺	酒食一色 (加茂郡)	天文6年	臨濟宗	天文6(1537年)、当地にあった赤坂御守に、八幡宮2800石大半地附 御守。長義寺と仰呼。城下町河原町が先祖の赤坂御守を基と創 立。享禄2(1509年)大半地を他領へ開くと西移。天文8(1537年)暴 風により本堂倒壊。同13年(第19回)彦根城西再興。彦根城に隣接防守 の首領となり、自僅守と基と之の子の納め合ひが1600年のこと。	有	
4	34003	大坪山 寶積寺	收船 (加茂郡)	正徳元年	臨濟宗	永承23(1414年)、雲石山、龜井山の谷筋各寺所(彦根町古市町1308番 東寺)支院があったたといふ。但し、位置不明)に一平を守る安泰寺を 復興し、妙心寺の末寺となる。雲石は吉永(1414年)彦根町60672号寺 に入り、この時宝積寺を移して(宝積不思)感應した。正統17(111) 年、寺号及び本尊を移して古くからあった後醍醐天皇の御廟に建築したのが 現在の宝積寺。	H, G	
5	34004	古峰山 安樂寺	大野 (加茂郡)	明治元年	臨濟宗	今伝するところ、嘉慶10(1805年)、妙妙院賛勅願。成時は南山の 山頭(崩山)、どうざん、(3406m)にあがった、龜井山造成迫は越縄は 焼けないって。17世紀に新川安次が法正院而して中圓山として 西開創。寶慶3(1753年)。岐阜の1225僧心代の皇子の妙妙院賛 願。一寺を守護しようと勧願し、安樂寺を御守らるる。(34004b)、後醍 醐天皇の御廟地へ移転。前の大野寺御守を勧請して御守山とす。明治 元(1868年)、御守から現地在地へ移転。	有	
6	34004b	安樂寺旧境内 (大野町)	大野 (加茂郡)	寶慶3年	臨濟宗			
7	34004c	安樂寺旧境内 (柳井町)	大野 (柳井町)	延暦10年				有

表41 坂祝町寺院一覧表(2)

表42 坂祝町参考寺院一覧表

番号	寺院名 寺院番号	史跡 山号	山(里)号 寺院名	所在地 (旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺蹟
1	34005	東光山	東光山	酒貯 (加茂郡)	平明	臨濟宗	成立時期不明。圓融和尚を本尊として安置し、東光院と称した。昭和17(1942)年、東光院から東光寺と改称。	G
2	34006	臨江山	臨江院	深瀬 (加茂郡)	寛文3年	臨濟宗	34002号の「當國寺」の碑に、延喜3(903)年の春、源兼子主藤正矩の援助を受け、個人の能力により成立。合併によると、はじめ西光の八幡神社はそれに5~6年あり。のち現地に転移。廟内の一画面の右柱が成立当時のもの。	E, G

表43 富加町寺院一覧表(1)

表44 富加町寺院一覧表(2)

新北市立萬芳醫院

番号	番号	諸	寺院名	（旧都名）	建立時期	宗派	古事記		通説	説明
							古事記	古事記		
1	35005	織田	龜山 庚申寺	（加茂郡）	享保4年	臨済宗	平保4(1719年)、35007法圓寺六世玄龍の法子玄長により成立。天保6(1835)年再建。法圓寺末。		G	
2	35009	天王山	大平賀 2世院	（加茂郡）	伝延宝2年	臨済宗	仙后よると延宝2(1674)年に成立。享保元(1716)年東香寺二世圓善實中興。35013東香寺末。		G	
3	35010	越後山	赤羽根	（加茂郡）	宝永7年	臨済宗	宝永7(1710年)、35007法圓寺西祖良元の法子逸山により成立。35007法圓寺末。			
4	35014	煮豆山	淨妙寺	高畠 （加茂郡）	元和5年頃	臨済宗	元和5(1619)年頃(麿長18(1613)年とも)、35003福圓寺園山天誠の高弟夷震玄文により成立と伝わる。延宝6(1678)年。達宗中興。		H, G	
5	35015	堺尾山	瑞應院	大平賀 （加茂郡）	寛文11年	臨済宗	寛文11(1671)年、35013東香寺中興金鏡により成立。東香寺末。		G	
6	35017	大通山	長安寺	夕田 （加茂郡）	宝永7年	曹洞宗	明暦元(1655)年。当国久間村富士大島雲四郎氏の家老島龜兵衛が亡母安久丸大島雲の霊のため、夕田の住人3名と建立。名古屋市吉寺町玉空堂御船を祀る。第10代。明暦12(1656)年御船御舟(御入舟)の靈のあつた。各代の御舟玉空(4-1707)年現在も移転。明治時代創建時に替わったが、現存している。			
7	35019	篠谷庵	夕田	（加茂郡）	寛政元年	臨済宗	寛政元(1789)年、35003福圓寺幸十・次元大慶により成立。明暦10(1677)年、この庵の裏にあった35012山正院山正院(明暦4年)は佛像寺と命名せられなかったため、この庵の西へ佛像をして大日堂と称し、仏像を器を収納した。龍藏寺末。		H, E	
8	35020	二株寺	加治田	（加茂郡）	不明	日蓮宗か 正徳	成立時期不明。二つ子とも称した。35003福圓寺幸十・加治田源兼と平安家の4代古忠吉の孫、二つ子の源兼と合せて二子としのじと称する。二株寺の前身とされる。篠谷の白山神社の西へあったが、明治時代初期に廃絶。		G	
9	35021	宝珠山	正明寺	夕田 （加茂郡）	不明	黄檗宗	成立時期不明。則明剛・勝妙抄などといい、明暦10(1677)年寺となり、35019篠谷庵の西の山の奥・篠傍山として日笠寺と称し、仏像を器を収納した。篠谷の山に寄せてある井伊天童(江戸)の門と想され、正明寺の由来となる。正明寺と重複して記述するうえで重複と見られる。なまく井伊に正明寺の通称がある。			
10	35022	妙輪寺	嵐山	（加茂郡）	不明	不明	成立時期不明。則明剛・勝妙抄などといい、35019篠谷庵の南側山腰に「みろく」の小地名があり、みろく山があった。これは妙輪寺の山といい、篠谷側に機能したと伝わる。みろく山にあつて五輪塔の祠村妙輪寺の廟宇に稱す。である。		G	

表46 川辺町寺院一覧表

番号	寺号 通号	史籍 山(里)号 寺院名	所在地 (里都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
1	36001	善原山 崇主院	下麻生 (加茂郡)	觀応2年	天台宗	觀応2(1339)年。常主院上林坊弘善法印開基。天文16(1547)年六代住職長藏弘秀住印。延宝元(1673)年。九代住職宣政玄智印。再建。			■
2	36002	真藏院	下麻生 (加茂郡)	永正2年	天台宗	永正2(1505)年成立。川辺町公孫院創建。羽街道のいたに、北を入りした木積みある平塀を造る。飛騨郡の上位段丘上に位置する。飛騨宮門前にあった由来より、灰坂(津波)真藏院(天慶年間(938~947)成寺?)と当院を引合せることが判明。			■
3	36003	戸石山 勝教寺	比久見 (加茂郡)	中世	真宗	阿闍梨勝教誕。仙台朝正平2(1547)年成立。はごめ八百津との脱鼻北山(小原山、現境内の北東の谷)に立ったが最も多く移転。舟底のため池そばに2~3段の石垣が残るとい。慶長2(1597)年、木亥中興開基。			■
4	36004	大林山 瑞場寺	中川辺 (加茂郡)	大永3年頃	真宗	西顧が、岐阜市西郷山寺(位置不明)に成立。川辺に移転し、大永3(1523)年開基。阿休弘松の供養碑に1560年代の題ありこの年を開基しているとい。	6		■
5	36005	垂光山 顯林寺	下川辺 (加茂郡)	応永年間	真宗	応永年間(1394~1428)成立。はじめ笠松町西方寺(照願院)末まで本願寺系との説あり。その後一時無住。慶長8(1603)年教知の法子玄吉開基とす。	6		■
6	36006	平田山 禪源寺	西脇井 (加茂郡)	文禄3年	臨済宗	文禄3(1594)年。土岐氏・六幡氏・安藤守長に頼られた時に寺へ縁り。当寺に奉安したも。所以南朝御所瀧澤寺界の御所諸経。	H, G		■
7	36007	愛樂山 空音寺	下吉田 (加茂郡)	慶長5年	臨済宗	成立時期不明。始め同村内宇摩林に在り。天正年間(1573~92)に丸山、慶長5年(1600)3月26日より寺地に移転在地に再建。	H, G		■
8	36009	桂枝山 金昌寺	上川辺 (加茂郡)	慶長初年	臨済宗	慶長(1596~1615)初年。武市守右衛門が開山の寺となうか否。葛加町3500石領住佐隣に場依し。そのとき寺地を争ひたのをもって跡立。			■
9	36012	穂穂山 瑞雲寺	下麻生 (加茂郡)	寛永年間	臨済宗	寛永年間(1547~60)。今町(笠置町)に普門院建立。寛永年間(1624~44)。無量寿院により桐木本道上に移し瑞雲寺と改称。			■
10	36013	長江山 石神寺	石神 (加茂郡)	明治37年	臨済宗	永禄3(1560)年。尼尼若創建。夫岐開山。はじめ石神寺宇石戸にあったが、明治37(1904)年現在地に移転。別稱は石上権現にある石神上公民(上石道クラフ)。北側の鐘楼で石燈が残る。			■
11	36013b	普濟寺	寺内	石神 (加茂郡)	永禄3年				■
12	36014	法昌山 妙楽寺	比久見 (加茂郡)	享保元年	臨済宗	天正元(1573)年開基。美濃加賀市街1603陽林寺末。元和~元禄年間(1616~1700)に2度の火災、享保元(1716)年に現在地に再建。米田城主肥田正蕃より寄贈地。普臣秀吉からの寄贈地。尾張徳川氏からも賄財文牒。			■
13	36015	大曾山 大雄寺	下麻生 (加茂郡)	寛永元年	臨済宗	天正年間(1573~92)。以降隠庵。大隠洞にあり。寺号を大曾山(旧英山)という。寛永元(1604)年。堂宇が現在地に移転。別館は北東の山中にあつたとい。古跡位置不詳。			■
14	36016	虎丘山 龍洞寺	比久見 (加茂郡)	天明元年	臨済宗	美濃市7018番地奉天寺。米田城主肥田氏の普覺寺として文禄元(1592)年或は文禄年間(1593~95)成立と伝わる。米田城普覺寺特に奥寺。天明(1781年)、名古屋出町郷町肥田寺住持が僧徒より遣り受け当地に再建。	H, G		■
15	36017	大圓山 妙雲寺	中川辺 (加茂郡)	慶長18年	II臨宗	本門法華宗。天文6(1537)年。諸護寺第11世日解顕によ上川村天保院屋敷内(笠置町)に成立。慶長16(1611)年。大堀光充の勧請により日解が現在地に移転。以降川辺の領主大堀光吉が持て。移転前は(津波川辺)川辺の北にあり。現在の36008号寺地の位置にあつたとい。			■
16	36018	妙雲寺	上川辺 (加茂郡)	天文6年	臨済宗	中世成立。若草詳細不詳。加茂神社東面に数段の平塀面を確認したが、例が多く平塀面は崩れ、地盤面の範囲から寺地と判断するのは困難である。			■
17	36019	(松泉寺)	川辺町瑞島	中世	不明	中世成立。若草詳細不詳。弘法堂南面に数段の平塀面を確認したが、例が多く平塀面は崩れ、地盤面の範囲から寺地と判断するのは困難である。			■
18	36024	天福寺 宝珠寺	垂垣字板柄 (加茂郡)	不明	不明	永正元(1504)年成立。弘治19(1586)年再興。位置不明。			■
19	36025	木ノ山 生蓮寺	比久美字模木 (加茂郡)	不明	真言宗	天文12(1584)年成立。聖謹院。位置不明。			■

表47 川辺町参考寺院一覧表(1)

番号	寺号 通号	史籍 山(里)号 寺院名	所在地 (里都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	36008	福寿山 本覚寺	上川辺 (加茂郡)	安永年間	臨済宗	安永年間(1772~80)。最初開基。小舎を建て本覚院と称す。天明年間(1781)~89)本覚寺に改称。その後荒廃に及ぶも再興して當尊の寺号とす。		
2	36010	月桂山 長昌寺	曲輪 (加茂郡)	大正初期	天台宗	成立時期不明。始めは天台宗か普賢宗であったとい。寛文元年(1661)再建。元禄(1695)年御所寺令旨による移転。大正時代初めに現在地へ移転。旧跡は現在地の水田の位置にあつた。	G	
3	36011	普門院	上川辺山手 (加茂郡)	不明	臨済宗	成立時期及び草不明。川辺北小学校の南に中田薬師堂があり、役行者像等の石仏を安置する。寶治6(1852)年御所(「南無阿彌陀仏」「唯大慈大悲大師家明王院教法院」)の石碑を確認。		
4	36018	大北弘法堂	川辺町中川辺 (加茂郡)	不明	不明	江戸時代に大隠洞の傍らに割削堂があったが、後に地に移転した。また、大隠の池の工事の際、池底より軒轅如意が出土。弘法堂に納めようとしたが大き過ぎたため下半部を切断して安置したとい。大隠のため池を登った地、鹿塩に行く道(現御所道入口)に軒轅如意の石碑を確認。	H, G	

表48 川辺町参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
5	36621	水月山 東光寺	中川道宇都町 (加茂郡)	不明	臨済宗	成立時期及び沿革不明。26006圓福寺の末寺。位置不明。		
6	36622	宝藏寺	中川道宇大北 (加茂郡)	不明	不明	成立時期不明。明治5(1872)年廢寺。位置不明。		
7	36623	医王山 圓中院	上川道宇市中 (加茂郡)	不明	臨済宗	成立時期不明。明治8(1875)年、36009金持寺に合併。明治17(1884)年再建。位置不明。		
8	36627	水月山 華生寺	下麻生字上町 (加茂郡)	不明	真言宗	成立時期不明。天正10(1582)年再建。聖護院末。位置不明。		
9	36628	天慈院	石神 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
10	36629	安性寺	藤原 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
11	36630	羽原觀音堂	下川道宇 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
12	36631	圓泉寺	石神 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
13	36632	繼藍寺	上川道宇 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
14	36633	大日如來堂	圓通 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
15	36634	永福寺	船島 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
16	36637	大悲庵	石神 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。廢寺となり38013普照院の觀音堂に本尊を移す。位置不明。		

表49 七宗町寺院一覧表

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図	
1	37002	神護山 廣福寺	神護 (武藏國)	本經年間	真言宗	本經年間(1558~70)より草創から。元和元年(1615)年に依存。寛永元年(1624)。改教院。前院の山門は元和元年(1615)より草創と存する。寛永4年(1627)。二代目日部院のところ高尾山西郷の末寺。神護山成福寺に改称。享保20(1755)年廢寺。寶元元年(1760)年、再興。現在は開市65004高尾山お龍峰寺に属す。				L7	
2	37003	松雪山 示現寺	上麻生萬角 (武藏國)	宝永4年	臨済宗	弘法時代(7世紀)。大和開山。土師窯で開窯から。宝永年間(1708~10)より開創。明治23(1890)年には大和太田の開拓者大和太田王輝繁・成田山利源と不動院の堂宇を建立。空海王親見を祀る。慶長18(1613)年後。寛永5(1628)年再興。寶元2(1761)年後。萬角神社前御靈威殿から現在地に移転。				L7	
3	37005	白華山 宝嚴寺	上麻生 (武藏國)	天正元年	臨済宗	成立時期不明。成立時は西の御跡院寺の位置に臨見庵があった。天正元(1573)年現在地に移転。白華山宝嚴寺と称す。本堂の北側にある寶空院(本尊：聖觀音菩薩像)は、大正元年のJ R建設工事の際に移ってきただ真言宗の宝空院であるといふ。			H, G, I	L7	
4	37008	神護山 圓門寺	神護 (武藏國)	承応2年頃	臨済宗	土岐朝の御跡院昌長。第一山號は圓門山とし、延喜元(1000)年頃本堂が光明(1037)年頃本堂から12年間前に焼失し、重建の1012年頃の御跡院の開創時に御跡院の名を賜りて御跡院と改めし。寛2(1037)年是處空室再建。天文10(1541)年火災により焼門以外焼失。寛3(1542)年再建。寶元18(1613)年後。萬角神社前御靈威殿の寺格「諸山」に列せられていた。				L7	
5	37010	慈惠院	神護葉津 (武藏國)	不明	不明	元氣元(1570)年開基とのことだが、歴史の詳細不明。葉津公民館前の春日神社手前に觀音堂を確認した。			K7		
6	37014	神護神社住の 院	神護 (武藏國)	不明	不明	本文参照			本文参照	I16 K7	

表50 七宗町参考寺院一覧表(1)

番号	寺院 番号	史 籍	山(里)号 寺院名	所在地 (旧地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	37001	豊川山 安生寺	上麻生 (武藏國)	不明	天台宗	頭口家臣の修験僧が梁園山により安養寺安生院建成。京都耀福三宝院末寺。四代秀忠の命で天台宗門内に通しし僧體を得、大榮院を置間に移した。明治5(1872)年御跡院。御跡院の北に「安生寺」になったが、現在、大正13(1924)年遷出山宝生院と改称。御跡院山秀全行者の寺格「諸山」に列せられていた。			
2	37004	繼泉院	神護 (武藏國)	不明	臨済宗	成立時期及び沿革不明。南向きの座禅本堂と、本堂の北面に墓地と火葬場を確認。			
3	37006	鶴円山 觀音寺	神護 (武藏國)	不明	臨済宗	成立時期不明。鶴円山坐鏡寺と称す。元和15年(1701)年、圓門寺坐中澤の大和51再興。また、後院が享和17(1732)年の「京成中興律師法印定和尚明鏡士」の位牌が残る。時刻は現在の北に「觀音寺」になったが、現在、大正13(1924)年遷出山宝生院と改称。			
4	37007	平山 真光寺	上麻生 (武藏國)	17世紀初期頃	臨済宗	成立時期不明。圓門寺36003繼泉院(ニ世孫高志玄(寛永18(1641)年没)後)圓門。明和5(1768)年火災により焼失。後、一字平を柱に建立し、追々改築。			
5	37009	長桑山 愛禪寺	神護 (武藏國)	17世紀中期	天台宗→ 曹洞宗	延宝2(1674)年。圓門寺36003繼泉院(ニ世孫高志玄(寛永18(1641)年没)後)圓門。明和5(1768)年火災により焼失。本尊觀音半跏思惟像が寄託されていることから、成立は今さらかのほかのほか。以前は真言宗といひ。當時の収蔵が残る。転宗時期不明。			
6	37011	長福寺	神護中切 (武藏國)	不明	不明	37008圓門寺末寺。田下初公堂付近にあったというが、現在は寺跡に開闢するもののは残らず位置不明。			

表51 七宗町参考寺院一覧表（2）

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
7	37012	須磨山 味道寺		上麻生 (武儀郡)	不明	天台宗	成立時期不明。飛騨川の河岸段丘中段位の林にあたり。寺院のあったところは現在は上麻生駅のホームになっているようである。37005宝鏡今藏教宮に本尊が安置される。かつては別当坊として施術院があった。本廟の聖鑑世音菩薩は円仁(應安大師)の作と伝える開闢碑であったが、万治3(1660)年の開帳後は別当が絶えた。	
8	37013	(直)中八日市 廢寺跡		中八日市 (武儀郡)	不明	不明	以前寺があったといわれる場所で、藤原や無縫塔があるといわれる場所。成立時期及び名跡不明。現在は社殿が残つた敷地には石段・石垣があり、今院の名残か。経塲があつたとされる位置には民家が建つ。石仏や無縫塔が残る。	経塲

表52 八百津町寺院一覧表（1）

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査部	分布図
1	38001	魔王山 氣光寺		八百津 (加茂郡)	享保4年以前	→ 臨濟宗 真言宗	青蓮院開基によると、永承元年(1160~1)是日天子により美多水成寺文殊院(木彌仁)内開創。國海院(木彌宗)、大鷦鷯山(木彌寺)と改称。天正平間(1573~92)に西院焼失したが、羅刹道が復興し、真言宗に転向。東寺(寺)と改称。延宝4(1676)年韋馱堂が創建後は復興。寛和3(1683)年、大鷦鷯山法華院良質(御日本源より大鷦鷯の旧寺跡に再建。享保4(1719)年に大鷦鷯山の御前院の有職者等が開基を由緒に復興。天正元(1573)年に本堂の御前院の有職者等が開基を由緒に復興。天正元(1573)年に本堂の御前院の有職者等が開基を由緒に復興して、天木寺門の焼けた瓦片が存取されている。移転前の位置不明。	H, G		
2	38004	解脫山 無量寺		八百津 (加茂郡)	永禄年間	淨土宗	貞応2(1223)年、善應院開基により善應院成立。享和2年間(1562~5)七重伽藍、塔頭八坊が建立。永禄元年(1558~70)、火災で焼失。本丸、末丸八坊が再建。その後、領主朝倉右近が、黒野にあった38009大鷦鷯寺と当山の境内に移し、塔頭僧等の過渡数を常主へ引き上げ。天正4(1576)年に解脫院明慶(即ち解脫院の寺頭僧)に付附。かくては解脫院の寺頭僧から大鷦鷯寺の寺頭僧に付附されたとされる。各所に塔頭があったというが、現在は遺跡が残存しない。	H, G	ME	
3	38005	寿正院		上牧野 (加茂郡)	不明	淨土宗	成立時期不明。永禄元年(1558~70)、火災により焼失。寛永元年間(1604~88)、38004善應院より善應院山系善寶公再興。現在は廢寺。位置不明。本寺は解脫院へ寄託。			
4	38006	太閤山 法智寺		久田見 (加茂郡)	嘉永8年	伝天台宗 →真言宗	天正8(1580)年、龜井平左衛門(黒井)により成立とされる。寺伝によると、始め天台宗で、山名の太閤山は、豊臣秀吉方に手の届けを得たためという。16世紀に成立し、嘉永8年には天台宗から真言宗に転化したいう可能性もある。			LS
5	38008	光明寺 宝嚴院		久田見 (加茂郡)	元禄2年	臨濟宗	文明4(1472)年、森藤紹持により宇下田に成立。荒瀬山。永正2(1505)年、宇下田に一宇を建立し38009大鷦鷯寺と太極を號じ開山。その後、度々移転し、天正12(1585)年堂宇を移し中興。元禄2(1689)年火災で焼失し、その後現地に再建。移転前の位置不明。	H, G		
6	38009	靈壽山 大鷦鷯寺		八百津 (加茂郡)	寛永11年	臨濟宗	成立時期不明。土岐出舟の御足尾上り成立。不二庵とし、久百宇字無事にあたると伝え。天文元(1462)年、斎藤英家を號じ開山。大鷦鷯寺と改称。圓山から七世に亘って一時開基したが、八世後中興。慈恩院當主に被植した大鷦鷯寺と改称。寛永11(1634)年に現在地に移し、地名石井と大鷦鷯寺を寄合。現境内の不二庵には「不二庵原知和尚考」の額と古碑が残る。	H, G		
7	38009b	大鷦鷯寺旧廟		黒瀬 (加茂郡)	明治元年以前	臨濟宗			ME	
8	38010	法雲山 正傳寺		野上 (加茂郡)	慶長5年	臨濟宗	寛弘2(1209)年創始しては延元1(1290)年、釋迦國圓鏡院に上り成立。元は法雲山法印寺と稱し、後により3530万石にわたる(38010b)。天文2(1463)年、妙心寺院に転化。天正1(1573)年、羅刹道が法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし、豊長5(1600)年に現移転し法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし。豊長5(1600)年に現移転し法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし。豊長5(1600)年に現移転し法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし。	H, G	ME	
9	38010b	正傳寺旧廟		野上 (加茂郡)	延元4年若しくは慶長2年	臨濟宗			ME	
10	38011	万年山 康真寺		和知 (加茂郡)	文明元年	曹洞宗 臨濟宗	天文元(1469)年、西尾延元創始。在延元開基により成立。關市05987羅雲寺今山に曹洞宗であったが、天文元(1469)年~37009大鷦鷯寺に改め。天正2(1573)年、妙心寺院に転化。天正1(1573)年、羅刹道が曹洞寺と改め。豊長5(1600)年に現移転し法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし。豊長5(1600)年に現移転し法雲院正傳寺を改め。豊天院開基とし。	H, G	ME	
11	38012	白崖山 無量寺		八百津 (加茂郡)	不明	臨濟宗	南朝26(1206)年創始。豊野院御前院に上り成立。本正12(1511)年、38009大鷦鷯寺と世間隣。一體広明院稱し、源圓院(と)して第3代となつた。以降妙空院。土岐家の香樹所として南朝院の隣にあつたが、天正17(1589)年に火災。寛永5(1605)年に御中興。この時、寺の令旨に御中興。今伝によると、成立当初は無量より一段高い位置に境内にあつたといつ。	H, G		
12	38013	寶鏡山 正宗寺		上飯田 (加茂郡)	宝鏡元年以前	天台宗 →臨濟宗	成立時期不明。林集裏。本寔案康真山により成立。臨濟宗建長牛頭であったが、宝鏡元(1449)年に西尾延元中興開山。妙心寺院に転化。天正17(1589)年に火災。寛永5(1605)年に御中興。この時、寺の令旨に御中興。今伝によると、成立当初は無量より一段高い位置に境内にあつたといつ。	H, G	ME	
13	38014	垂光山 明福寺		伊岐津志 (可児郡)	寛永年間	臨濟宗	正平8(1353)年、鎌倉康長(14世の關谷麻風景星の開基により成立。鎌倉御堂を有したといふ。尼の瓦屋、兵舎で荒廃。一時廢寺となつたが、寛永元年(1604~4)に八百津38009大鷦鷯寺を宝嚴院西院。この時、寺の令旨に御中興。今伝によると、成立当初は無量より一段高い位置に境内にあつたといつ。			
14	38015	異性寺		伊岐津志 (可児郡)	寛文8年	臨濟宗	弘安年間(1278~1289)、約幽掩禪開創。伊岐津志高祖基により成立。鎌倉建長寺尼山(名桑寺)とされた。正保5(1555)年、伊岐津志高祖の兵舎で荒廃したが、寛文8(1668)年に御中興。無量より現地に遷し改築西院。享保20(1735)年、異性寺に改号。			

表53 八百津町寺院一覧表(2)

番号	寺院 通称	史跡 名	山(里)号 寺院名	所在地 (都道府 県)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、書畫	調査 結果	分布図	
15	38016	正覺山 華嚴寺	和知 (加度郡)	不明	臨濟宗	明治8(1895)年、華嚴御園廟基により成立。大火による中歟で沿革不明。今後によると元の境内にはきっと又にあつたが、何處かの大事で僧行に移転してきただけだ。本尊は日吉大社であり、元高宗の御靈性があるが詳細不明。					
16	38017	法性山 華嚴寺	華嚴 (可児郡)	寛文8年:	臨濟宗	成立初期不明。夢參圓闡基により成立。夢參院と呼ばれるが御園場上に立ったという。その後、火災で「百合の御殿」。天文年間(1532-1555)に開創。照嚴御子が華嚴院の寺号で中興。寛政8(1806)年御再興。山号の法性院は華嚴神社を鎮守として創設したため法性香園による。				II, G	
17	38023	大般社	八百原 (加度郡)	応永年間	不明	天正年間(1573-1591)創建で、源木本地御跡即ち御跡であつた。その後12月末日安葬院。(1594-1628)、大般舟修業現在の在地に移転。その後も御院の御跡である。華嚴山は本社。法性院は御跡地が現存しているといわれている。なまく、蓮華院から当地では白蛇現がいたといつて、					III
18	38024	華嚴寺	和知 (加度郡)	不明	臨濟宗	天文正(1576)年、華嚴寺は世真公の開基により成立。位置不明。					

表54 八百津町参考寺院一覧表

番号	令和 年号	支 那路	山(國)号 寺院名	所在地 (都道府 県・部名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	38002	麗	見	麗見 (佐世保市)	不明	真言宗	成立時期及び伯牙不詳。	
2	38003	茂	近山 林寺	上牧 (佐世保市)	不明	真言宗	成立時期不明。文政6(1663)年、阿彌善社中興。隠岐原鬼太であった。もと我野 氏の別荘所で、後に白山神社の別当。	B, G
3	38007	法	樹 等覚寺	和歌 (加茂郡)	不明	真宗	慶長11(1606)年。御主藤石右近妙三院普照持とて「了質賀基」により成立。了質は 藤原修業の子。藤原は「藤原」に住んでいたが故で御主藤野を折一弓を 「了質」の名前とよんだといふ。了質自身による当地に建立。寺伝では、前院は「御院」で、 其の工運の地に在りに立ったといい。大火に遭い現在地へ再建されたといふ。移転 の位置や再建時期不詳。	G
4	38020	貴	寺	向 (佐世保市)	不明	臨濟宗	享保元(1716)年。萬福寺二世明覺院基により成立。のち、慶寺。位置不明。	

表55 白川町寺院一覧表

表56 白川町参考寺院一覧表

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (田畠名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	39904	大雲山 龍氣寺	切井 (加茂郡)	昭和時代	臨濟宗	中津川市00002霊林本多、過去帳には、天和3(1683)年開闢山一柱開化となり、霊林寺の本寺となる以前に前身寺院があった。真林寺の姫院寺、始め氣の住持圓山社とくにあり28年前に現在地に移転。真言宗の住職の位牌が二人分ある。	6. 石仏	
2	39006	萬福山 靈應寺	坂ノ東 (武儀郡)	明治2年	曹洞宗	万治2(1659)年、38005霊應寺二世僧住持良基。平頭塗であったが、明治11(1878)年改修。本尊十一面觀音菩薩は鎌倉時代作。施度般若で上流に瀧され川岸にたどり着いた木像の仮像19体を安置。		
3	39910	小川薬師堂	坂ノ東小川 (武儀郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。石碑、無縫鑄が残ることなどが位置不明。		
4	39011	和泉薬師堂	和泉字景街道 (加茂郡)	正保元年	不明	純然に本保元(1644)年成立とする。神仏分離奉公のため39011家原寺の住職栄秀が遷し白山神社の神宮となり、室松今歛す。信者により白山神社薬師堂に塑像住持菩薩空移。		
5	39015	東光山 顯歸寺	切井 (加茂郡)	不明	不明	成立時期不明だが、三重の塔があったという。塔の各が2個残り、1つは東町中期の作。1つには「寛政5(1793)年の墨書きの復元」。		
6	39016	赤羽本鄉薬師堂	赤羽本郷 (加茂郡)	不明	不明	成立時期不明。赤羽本郷の小高い丘の薬師堂は山に施刑後に遷座した以後に復興。本尊は武藏郡船沼東村大利に積っていたものを祀る。元は増田の本森にあり、御田は往昔の赤羽河の中心地であったので、庄屋原敷・産土神・權那寺をもつ要所であった。位置不明。		
7	39917	靈壽山 積善寺	大池村 (加茂郡)	江戸時代初期	不明	JCT時代初期成立。畠木郡上邊山友成は、八百津町30009大仙寺の跡天に普賢寺創設を懇請。南の山は篠山(西山)と云ふ。南の山の靈壽堂は本尊の一十一面觀音が祀られている。	右仏	
8	39018	吉祥院	大池村 (加茂郡)	不明	大石堂	成立時期及び沿革不明。神仏分离令により廃絶。位置不明。		
9	39019	水戸町野薬師堂	水戸野 (加茂郡)	不明	不明	白川の北方小高い丘中腹にあるが、幕政の頃には南方の平地にあった。種子に白享2(1663)年とある。靈壽後はと39020大山白山権現の本地仏として神宮寺の本堂(現大山白山神社社殿)に祀られてあつたもの。明治維新の際、白山神社の十一面觀音は水戸野村に遷して靈壽を開け、明治16(1883)年に改めて合祀。位置不明。		
10	39021	正善院	宇摩尾村 (加茂郡)	不明	真言宗	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
11	39022	電宝院	黒川村 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
12	39023	本常院	坂ノ東村・広島 (武儀郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
13	39024	光覚院	赤羽村 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
14	39025	正明院	和泉村 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
15	39026	長捨院	和泉村 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
16	39027	本勝院	和泉村 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		

表57 東白川村参考寺院一覧表

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (田畠名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図	
1	40001	青松山 福圓寺(福圓寺跡)	五加大沢 (加茂郡)	不明	臨濟宗	本文参照	本文参照	122	K9		
2	40002	妙輪寺	五加宮代字妙 輪寺(加茂郡)	文明年間	真言宗 若しくは 天台宗	五加宮代の石戸神社(元久廟大明神)社殿のある一帯を妙輪寺といい、中尊は在坐した(妙輪寺)の寺名がえらばれものという。成立時期不明。鎌倉頃の寺院であった模様。五加宮代の別名を務めた。田中に一段高くなつた塊があり、妙輪寺が高かつたと伝わる。文明年間(1469~87)から慶長5(1600)年まで当地に存在。			K9		
3	40003	安泰山 常楽寺	神士 (加茂郡)	慶長15年以前	天台宗 臨濟宗	成立時期不明。下呂の3003大聖院寺本堂。慶長15(1610)年、中津川市00002霊應寺末寺に加えられ転出。安泰山常樂寺と称す。神士村と越前村一円を領有とし、豊清宗心寺守に属していた。慶泰寺の本堂は小学校の校舎として使用され、明治16(1883)年まで存続。慶泰寺は越前國の幾ヶ所無数山(御妙山)へ移された。現在は後継寺がつ。			K9		
4	40012	忍倉千林堂	越原川坂 (加茂郡)	慶長年間	不明	越原村付近寺堂が持つた「千林地尊専施給詔文」とによると、彼の先祖が「佐見堂」に千林地尊を安置したのは慶長年間(1596~1615)。延享3(1766)年再建。			J9		

表58 東白川村参考寺院一覧表

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (田畠名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	40004	大藏寺	神士大石組御 山本 (加茂郡)	不明	不明	成立時期不明。大字天西御厨御宇山本にあったといい、隣敷の前面にある耕地を「大蔵作り」という。佐見堂上佐見光山大藏寺は西側より移転したとい伝説があるが詳細不明。位置不明。		
2	40011	善菴堂	神士神付 (加茂郡)	不明	不明	成立時期不明だが、村賀多の「明治3年見闇録」には、貞享2(1683)年再建から修復記録がある。神士村の消防センター付近に所在か。善菴堂の丘陵地には「善光寺供養堂」の石碑を古所に確認した。		

表59 御嵩町寺院一覧表(1)

表60 御嵩町寺院一覧表(2)

番号	寺号 通称	史跡	山(里)号 山(里)名	所在地 (市町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
15	41024	松掛山 悟空寺	伏見 (可寛認)	正永5年	不明	東山城主藤原正義(1516~1548)の奥方が野崎に入へのため極坂山に庵を築んで尼となり、尼が河内(位置未定)に懐空堂を見てたのが始まり。その後大丈で尼夫ともも、41010興禪寺に預けられ、宝永5年(1708年)開創後境内に再建。現在の「子安懐空堂」が、かつての札掛山悟空寺であるという。	SL,G			
16	41025	無着庵	平芝 (可寛認)		不明	臨済宗	承永17(1414)年、日光の陣は北朝の無着院僧が卒した後、義連の葬式(内宮)に無着庵という庵庵を併んで行なった。店舗地(1429年)、義連(4109)慈惠寺(山号)は父義成(ぐくなし)である。源氏の土方に持郷、義天を祀った里には、寺を建てて門山慈惠寺と会名して止住を請うたが、まもなく丸山瑞應院に通り、源の日神に詣ったのち、無着庵を開創した。永享11(1439)年、義連は平村御ヶ岡の地に41086年後院寺を成立。無着庵より移住。住置不明。			
17	41027	宝泉寺	中切 (可寛認)		不明	真言宗	天王寺(現・奈良神社)は、延喜(1050年)の創建であり、大勧進妙法、小勧進妙法などの種札があり、御札の五郎の印押は水跡地(1563)と創建。小傭御の南門久佐などの種札がある。むかし宝泉寺があつたその郷の寺社であつたが、慶應寺などは社ばかり残ったのを、100余年の前から「天王寺」と名づけ、真言の跡跡を守り、天王寺の御靈廟を祀る。御靈廟は現在御靈院の境内にあり、寺の門を守らせる。小泉寺(室町内近辺を踏査したが、宝泉寺の位置不明)。			

表61 御嵩町参考寺院一覧表

番号	寺号 通称	史跡	山(里)号 山(里)名	所在地 (市町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	41008	吉雲山 永林寺	御庭 (可寛認)		慶安年間	臨済宗	慶安年間(1648~52)、表公開基。41006慈惠寺第三世羽根開山により慈惠寺を立てて住す。	SL,G
2	41011	瑞雲山 顯現寺	比衣 (可寛認)		不明	臨済宗	一相開創。説教師の比衣とし、源の弟子義松を創立としている。はじめ可見市1403年開創の末寺であったが、宝永5(1708)年に京都妙心寺の末寺となる。寺名によると、当開創の以前に天台宗の寺があり、灰火になり佛土と化した地に、一相が現現寺を開創したという。	
3	41012	祇園山 寶積寺	御庭 (可寛認)		元和5(1619)年	臨済宗	元和5(1619)年、吉雲開基。41006慈惠寺第三世羽根開山。寺伝によると、元は慈惠寺の隣居寺の一つで、元和5年(1619)に成立した慈惠院であったといいう。中山道御宿御從寺跡の御宿所(古御宿)と見受けられる。なお、明治の廢仏毀釈の際、寶積寺も被破され、宝塔は焼失した。寺伝では、移転元の住處不明だという。江戸時代前に現在地に移転したという。	
4	41013	華嚴山 吉祥寺	古羅敷 (可寛認)	承応3年		臨済宗	東店3(1654)年。御庭本勅願が父母普度をうつめ創建し成立。京都大徳寺の第159世仙溪宗泰和尚開闢。	
5	41014	日蓮妙光院	御庭 (可寛認)	不明	単立		成立時開及び創建不詳。	
6	41015	津幡薬師堂	津幡 (可寛認)	不明	不明	津幡中心部の辻には、享和元(1801)年建立の夜灯があり、家戸戸と刻まれている。こよりよし東の石柱に薬師堂があり、石塔灯の他、石仏や石碑が多く並ぶ。	SL,G	
7	41026	井尻八幡神社 神宮寺	井尻 (可寛認)	不明	不明	井尻八幡神社は延長8(900)年創建。宇智神宮の准位から神宮寺が付属していったことが知られる。元和7(1621)年には慈惠院が寺を買っていた。その石碑は上井川井尻井と書かれており、小泉四ヶ郷には、京都市北院跡跡領で、承元3(1657)年の碑機にある「御代官快慶」は、花頂院門跡の代官であり、花頂院は近江国城寺の別院であるという。神宮寺の位置不明。	H	
8	41028	大光院	城町 (可寛認)	不明	不明	金事神社は、通称権現山にあり、田村社である。「権現山」に「御前村」(山川)、権現山 即チ織田・三遠院山、山峯ダムカラズ、お松神社跡、若者寺跡、古ノ谷ヨリ移築神祠見ル。権現山規範院、以テ村ノ聖母トナリ、古御ヨリ移築ル。此御院名クサケ御院ノ日ワ、大光院アツルムル。とある。明治3(1870)年。権現院を金事神社に改称。前院の御靈所を遷院に移した。		
9	41029	宝藏院	中 (可寛認)	不明	天台宗か	神明神社は田村社、小泉御院に由縁のある古寺であるといわれ、正元元禄年間(1668~1704)に宝藏院(4101)の福興寺(枝の寺)という修験者寺があった。宝藏院の位置不明。		
10	41030	觀光寺	上惠土 (可寛認)	不明	黄檗宗	上惠土神社は、昭和47(1972)年に本郷地内の自山神社と、神明神社とを合祀して、神明神社の地に上惠土神社としたもの。西雲院の福光寺(とうじやう)という社殿を建てて、神社を守ってきたが、明治時代初期に廢院。遺跡の位置不明。		
11	41031	福寿院	美佐野 (可寛認)	不明	不明	成立時開不詳だが、41010圓覺寺の別当寺であって、圓覺寺の記録にも「若宮、若宮北宮、若宮山」、「寺額、若宮八幡」などがある。なお、境内には、御神社、神明神社、山神社がある。別当寺としての成立時開不詳。		
12	41032	若宮八幡神社	若宮 (可寛認)	不明	不明	田村社。明治維新までは、41010圓覺寺の別当寺であって、圓覺寺の記録にも「若宮、若宮北宮、若宮山」、「寺額、若宮八幡」などがある。なお、境内には、御神社、神明神社、山神社がある。別当寺としての成立時開不詳。		
13	41033	眞行院	古屋敷 (可寛認)	不明	眞言宗	古屋敷地内の中央部。宇大王の小高い山上に神明神社がある。田村社。成立時開不明。本殿は宝永12(1805)年式。明治時代頃までは社院の眞言宗修験者寺の眞行院が境内にあった。現在は道場として法堂、山腹の南東面に御山山王大權帳、後の行持、大王大權天皇正記された石碑が建つ。		
14	41034	御野山 東寺	帝釋 (可寛認)	不明	不明	御野山御地の中央部。宇大王の小高い山上に御野山神社がある。田村社。成立時開不明。この御野山御地として、馬場造遣に御野山東寺(見寺)があつたといわれているが、位置不明。		

第3節 寺院地形観察図  
遺構図  
地籍図

閔市  
美濃市  
美濃加茂市  
可児市  
郡上市  
坂祝町  
富加町  
七宗町  
白川町  
東白川村  
御嵩町

## [関市]

地区	中濃	寺院番号	05004	県遺跡番号	一	分布図番号	L6
ふりがな	だいにちざんにちりゅうぶじ	所在地	関市下之保西洞				
寺院名 (史跡・遺跡名)	大日山日龍峯寺						
時代区分	古代~		宗派	真言宗			
立地	山腹		現状(植生)	境内地・山林(アカマツ)			
東西規模	410m	南北規模	230m	標高(比高差) 260m (150m)	平坦面分類	B+D	
沿革	正確な成立時期は不明。寺伝によると、5世紀前半に飛騨の両面宿禰が、この地に害を及ぼす熊神を退治し祠を建立したのが始まりだという。仁慈天皇(313~399)の勅願寺で、奈良期に行基が伽藍を整備したという伝承もある。承久2(1220)年、早魃時に高沢に雨乞いした北条政子がその礼と供養のため、寺領を寄進し荒廃した伽藍を再興。18坊が存在とされるが、文明年間(1469~87)の戦火により多宝塔を残し堂宇の大半が焼失。天文3(1543)年に白山鎮守社建立。東光坊や大日坊(明治初期廢)を中心に江戸期にかけて現在の伽藍を整備。寛文10(1670)年に本堂、貞享5(1688)年に薬師堂、享保3(1718)年に仁王門を建立した他、北条政子建立と伝わる多宝塔、不動堂、羅堂、金比羅堂、鐘楼、客殿、庫裡が残る。高野山増福院の末寺、美濃三十三観音巡場第一番札所(旧第25番札所)、中濃八十八ヶ所第六十一番札所。						
遺構	岩窟、池						
遺物	中世陶器、山茶碗、宝鏡印塔、五輪塔						
有形文化財等	多宝塔(国指定、縁倉)、宝鏡印塔(県指定、縁倉)、不動明王、千手觀音菩薩、毘沙門天(多聞天)、大日如來(以上市指定、室町)						
参考文献	美濃西国三十三番巡場事務所 1979『東海百觀音塗めぐりー美濃三十三觀音』、武儀町教育委員会 1992『武儀町史』						
備考	県指定重要文化財の宝鏡印塔は縁倉時代の作で、寺伝によると正慶2・元弘3(1333)年建立で、源賴朝の分骨が収められていると伝わる。別の宝鏡印塔(硬質砂岩)には「道宗」の銘がみえる。本堂前には関市指定天然記念物の垂木の千本檜がある。当寺は高澤觀音とも呼ばれ、本堂が京都清水寺に似た舞台造(懸崖造)のため「美濃清水」の異名もある。						

**調査所見** 関市東部の旧武儀町下之保西洞に位置し、高澤山山頂から南東約250m下った谷地形に立地する。現在の参道は谷の東斜面に沿って伸び、その参道に沿って堂宇等を配置する。現本堂は斜面地の岩上に建立され、本堂裏手の岩壁には、本堂とほぼ同じ標高に岩窟がある。岩窟内には湧水があり、県指定重要文化財の宝鏡印塔等が安置されている。参道沿いには、北条政子建立と伝わる多宝塔のほか、金毘羅堂、薬師堂、不動堂、鐘楼が並ぶ。現在の庫裡は大日坊、会館は東光坊、庫裡北側に名称不明の坊があったという。遺構としては、本堂南西側には、幅の広い通路のようになっており、地表面で被覆した河原石や山茶碗、中世陶器片を確認した。本堂裏1段上には池が2つあり、西側の池が成立伝承に係る龍神池である。さらに上方には、的場と伝わる安定した平坦面がある。

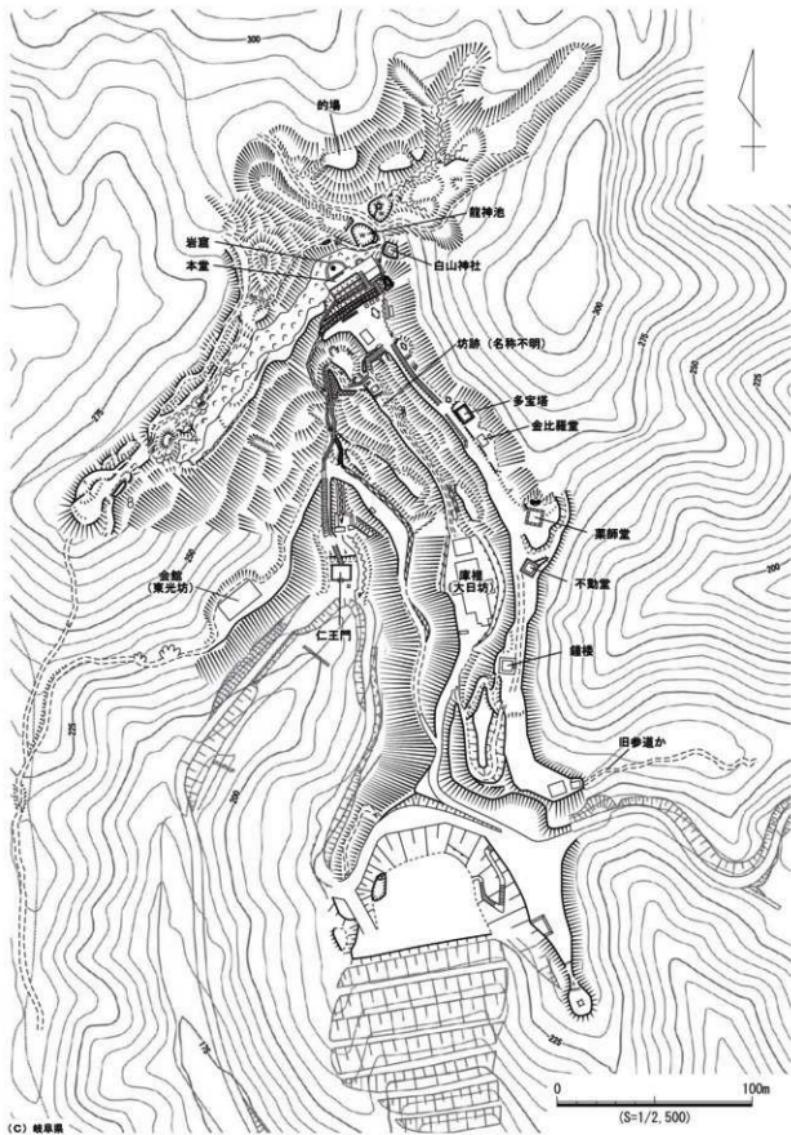


図2 大日山日龍峯寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05068	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな		おざきさんえりじ		所在地	関市武芸川町跡部字寺ノ洞		
寺院名 (史跡・遺跡名)		尾崎山恵利寺					
時代区分		古代(奈良)~		宗派	法相宗→天台宗・真言宗→臨済宗		
立地		山麓		現状(植生)	境内地・宅地・水田・畑地・ 山林(アカマツ)		
東西規模	450m	南北規模	400m	標高(比高差)	65(10)m	平坦面面類	A+C1+D
沿革	聖武天皇の勅命により、天平17(745)年に行基が開創したと伝わる。聖武天皇の御病気を知った行基は、跡部の地で自刻の十一面觀音菩薩と法華経一千部の經石を祀り祈願法要したところ、聖武天皇は恢復し、「觀自在王院」の額頭を下賜し広大な伽藍を寄進した。山門や総門、三重塔などを設け、平等院・流源寺・雲岩寺・清水寺・覺性坊・依正坊・水元坊など末寺12か寺が林立し、法相宗、後に天台・真言の兼学道場として隆盛を極めた。天治年間(1124~26) (『恵利寺史』では保延元(1135)年正月)には紀州根来寺開山の覚鏡も不動明王を彫刻し安置した。その後戦乱を経て衰微し、永禄7(1564)年に織田信長侵攻の際兵火により焼失。現在の景観は、寛文2(1662)年長良崇福寺より勧請し、中興の祖となった物堂宗接によるもので、以来臨済宗となる。本尊の十一面觀音菩薩など、多くの寺宝は焼失を免れ現代に伝わる。平安期の大元帥明王の軸、十六羅漢像、豈臣秀吉書状、室町期の四耳壺などがある。						
遺構	集石						
遺物	五輪塔、宝鏡印塔、古瀬戸四耳壺						
有形文化財等	當山疇昔圖(嘉永5(1852)年)						
参考文献	美濃西国三十三番霊場事務所1979『東海百觀音堂場めぐり-美濃三十三觀音』、新修武芸川町史編纂委員会編2005『新修武芸川町史』						
備考	南方の大跡部神社は繼体天皇代(6世紀前半)創建とされ、武烈天皇の大跡部皇子が隠遁し逝去した御奥山に神龕を祀ったという。山麓に「王子駿」が残り、嘉永2(1849)年に恵利寺の礼殿が碑石を建立。神社有縁の書類は恵利寺に保管されていたが、明治期に散逸した。境内には樹齢800年の夫婦杉(市指定天然記念物)が存在する。						

**調査所見** 旧境内や各末寺の位置は、江戸期に描かれた「當山疇昔圖」や『新修武芸川町史』に記載の復原想像図を参考にして可能な限り推定した。旧境内は、現在の觀音堂の位置にあった觀自在王院を中心と展開していたとされる。境内北・東部の墓地付近には桃林庵があったとされるが、遺構は確認できない。墓地北東には雑壇状の平坦面があり、円礎の集石が散見される。墓地の一角に、中央に逆円柱形の穴が穿たれた扁平石があり、礎石や塔心礎かともいわれるが詳細は不明である。東部の墓地の東斜面にみえる平坦面は三重塔推定地とされているが、近年の造成により半分程度滅失している。寺への現参道は、觀音堂の正面から南に一直線に延びる。現参道の両脇は現在宅地となっているため図化していないが、方形の区画がみえる。觀音堂から南約530mの尾根上にある大跡部神社の北側に仁王門があったとされ(宅地造成により詳細な位置不明)、尾根に囲まれた範囲はほぼ境内地であったと考えられる。恵利寺西側の山麓に、小規模だが複数の平坦面が連続する箇所を確認した。先述の絵図や復原想像図から、水本坊、流源寺、貴布称社、越後坊の跡である可能性がある。

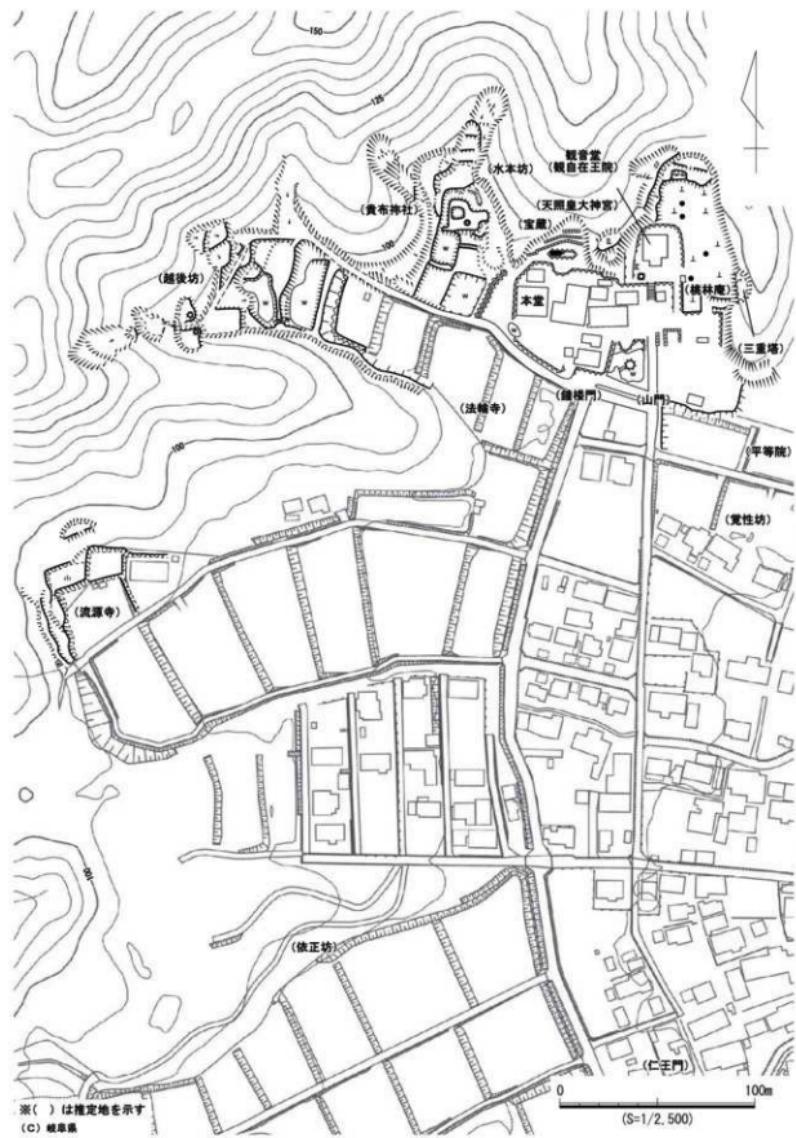


図3 尾崎山恵利寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05072b	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな		ふんようじきゅうけいだい		所在地	閑市武芸川町谷口字斎藤		
寺院名 (史跡・遺跡名)		汾陽寺旧境内					
時代区分		中世～		宗派	臨済宗		
立地		山腹		現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	570m	南北規模	660m	標高(比高差)	210m (120m)	平坦面分類	B+C1
沿革	嘉吉元(1441)年、土岐左京大夫持益の執権斎藤越前守利永入道宗輔の創建で、妙心寺4世日峰の高弟雲谷玄洋を開山とする。玄洋の示寂後寺は衰微し35年間は無住であったが、延徳2(1490)年に斎藤持是院妙純(利国)が岐阜市瑞龍寺の悟渓宗頓を押請し、中興開山として再建。安土桃山時代には、信長から放逐された安藤守就が当寺の住職である叔父源淑を頼り隠棲していたほか、近隣に住んでいた春日局が度々訪れたとされる。その後無住となり、元禄7(1694)年に尾張藩の命により近隣の龍福寺・陽徳寺・道樹寺・清泰寺・竜吟寺・竜門寺が輪番で住職を務めた。嘉永4(1851)年以降、独住となる。開山当時は現在より200mほど上にあったが、本堂は元治元(1864)年、庫裏は明治24(1891)年に現在地に新築された。寺宝として、平安期の涅槃図や大般若六百巻(500年以前の古本)、南蛮铁章魚の香炉、雲谷和尚の袈裟衣・頭巾、日峰宗舜書状、足利将軍の御教書、美濃斎藤氏からの禁札、応永22(1415)年の屋敷売券などが伝わる。						
遺構	一						
遺物	五輪塔						
有形文化財等	一						
参考文献	新修武芸川町史編纂委員会編 2005『新修武芸川町史』						
備考	塔頭として尚榮院・菊泉軒・蓬松軒・保福庵・回春軒・放牧軒・桃林軒の七坊があったとされるが、明治初期にいずれも廃寺となつた。いずれも位置不明である。						

**調査所見** 閑市西部の旧武芸川町谷口に位置し、汾陽寺山山頂から南へ約650m下った谷地形に立地する。現本堂から南東方向に谷地形となっており、その谷部に現参道が伸びる。現本堂の北西約200mの①には比較的安定した平坦面が2段ある。沿革にある開山当時の本堂及び庫裏の場所と思われるが、礎石等の遺構は確認できない。②には平坦面が階段状に2段あり、下段の中央には畦状の道が伸びる。道は、上段の基壇状の高まりのある中央部に向かってほぼ一直線に延び、その高まりを西へ迂回するように折れ曲がり、山上や①へ続く。道を山上へ進むと、集石が散見される尾根があり、尾根の南側は岩壁が段状に展開する。最下段の岩壁の正面は、奥行きの狭い平坦面となっている。現本堂の正面(③付近)には平坦面が階段状に展開するが、寺伝によると塔頭の跡地であるという。また、旧参道は現在の車道ではなく、現境内からみて南西側の山麓沿いに通つており、現在も一部で道を確認できる。この旧参道沿いには2石の立石があるが、幅3~4m程度で旧参道上に位置する。

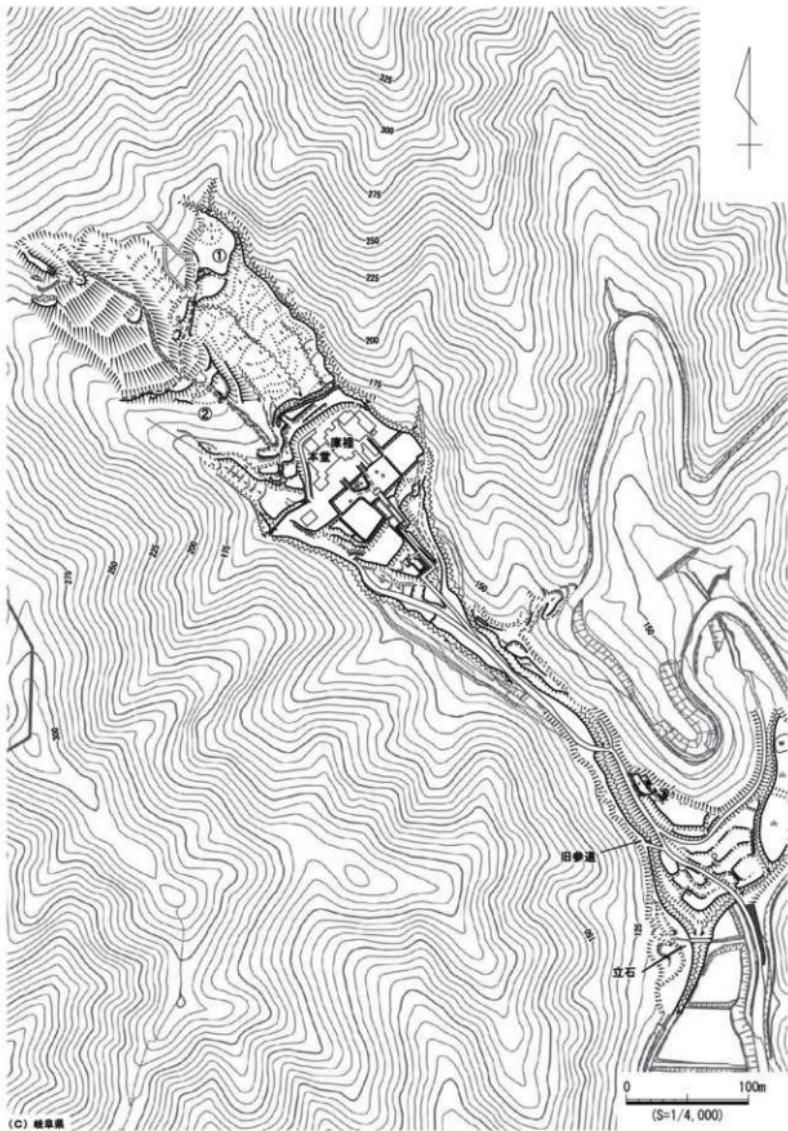


図4 汾陽寺旧境内 地形観察図(1)



図5 汾陽寺旧境内 地形観察図（2）

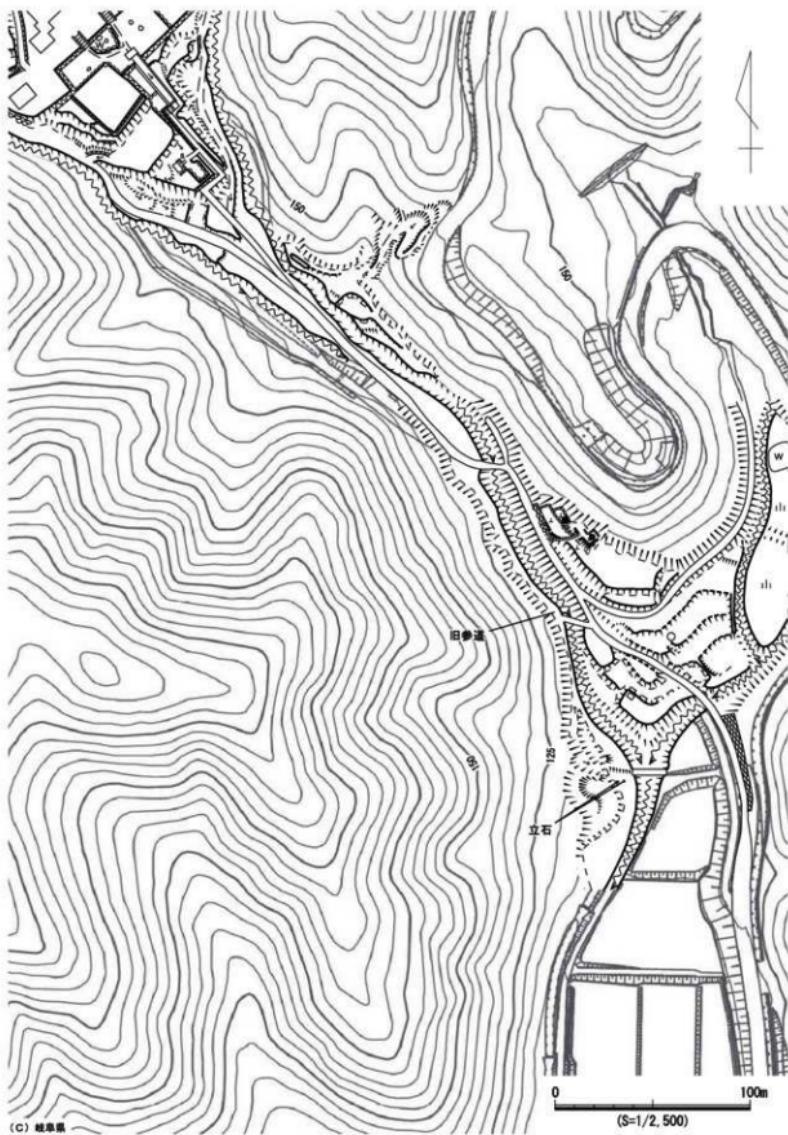


図6 汾陽寺旧境内 地形観察図（3）

地区	中濃	寺院番号	05179	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな	はちまんざんだいしょじ	所在地	関市武芸川町八幡				
寺院名 (史跡・遺跡名)	八幡山大型寺						
時代区分	古代～		宗派	真言宗			
立地	山麓		現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)			
東西規模	220m	南北規模	460m	標高(比高差)	110m (30m)	平坦面分類	A-D
沿革	大型寺は武芸八幡宮の別当・神宮寺である。大型寺の成立時期は不明だが、武芸八幡宮はその社伝によると、養老元(717)年創建で、泰澄がこの地方を巡錫し、大確命に関する伝説を開き命を祭り、「八幡大師」として八幡山に葬られたと伝える。宇多天皇(867～931)が美濃行幸の際には、随従の臣を大型寺に留めたという。一時廃れたが、観応2(1351)年、森頼定の五男泰朝が社殿を再建し再興。本殿・拝殿・三重塔・鐘楼の他、別当大聖寺を含む十二坊を建立した。明治5(1872)年、神仏分離令により廢寺。阿弥陀如来を祀る薬師堂を05050福寿寺境内に移築し、本尊阿弥陀如来像や、弘法大師地蔵堂や十王堂などの仏像も福寿寺に移された。						
遺構	池						
遺物	山茶碗						
有形文化財等	一						
参考文献	新修武芸川町史編纂委員会編 2005『新修武芸川町史』						
備考	鳥居から本殿へは約1000mに及び、参道沿いに堂宇が並んでいたと想定されている。県重要文化財の八幡神社下馬標(江戸時代)は、本堂から約380mの位置に建つ。						

**調査所見** 関市中西部に位置する八幡山の南方約850mの山麓谷地形に立地する。大型寺は、武芸八幡神社の参道沿の琴平社に対地する「大型寺池」の周辺にあったとされる。池の北東側に広さのある平坦面①があり、大型寺の跡地の可能性がある。①では、山茶碗片を確認した。②は武芸八幡神社境内の中心であり、拝殿の東側には鐘楼が建つ。参道は拝殿から南西方向にほぼ一直線に伸びる。当寺は谷地形の狭い範囲に立地し、周囲に他の道は確認できないため、参道は旧来のものと思われる。『新修武芸川町史』では、この参道西側に沿い、拝殿西側から大型寺までの間に三重塔、大日堂、不動院の順に並んでいたことが想定されている。拝殿の西側には30m×20m程度の、周囲よりやや高い平坦面③があり、ここが三重塔推定地と思われるが、塔心礎は確認できない。その南側に、山麓と参道に挟まれた不定形な平坦面が2つ連続し、それぞれ大日堂、不動院の跡地の可能性がある。鐘楼の南側には清寿坊があったと想定される。②背後の山腹には、15m×8m程度の小規模な平坦面がある。そこから西へ谷を隔てた場所にも平坦面があり、墓石のような石材3基が雜然と置かれていた。参道東の山麓の④は、奥行きはないが幅の広い平坦面が門付近まで続く。

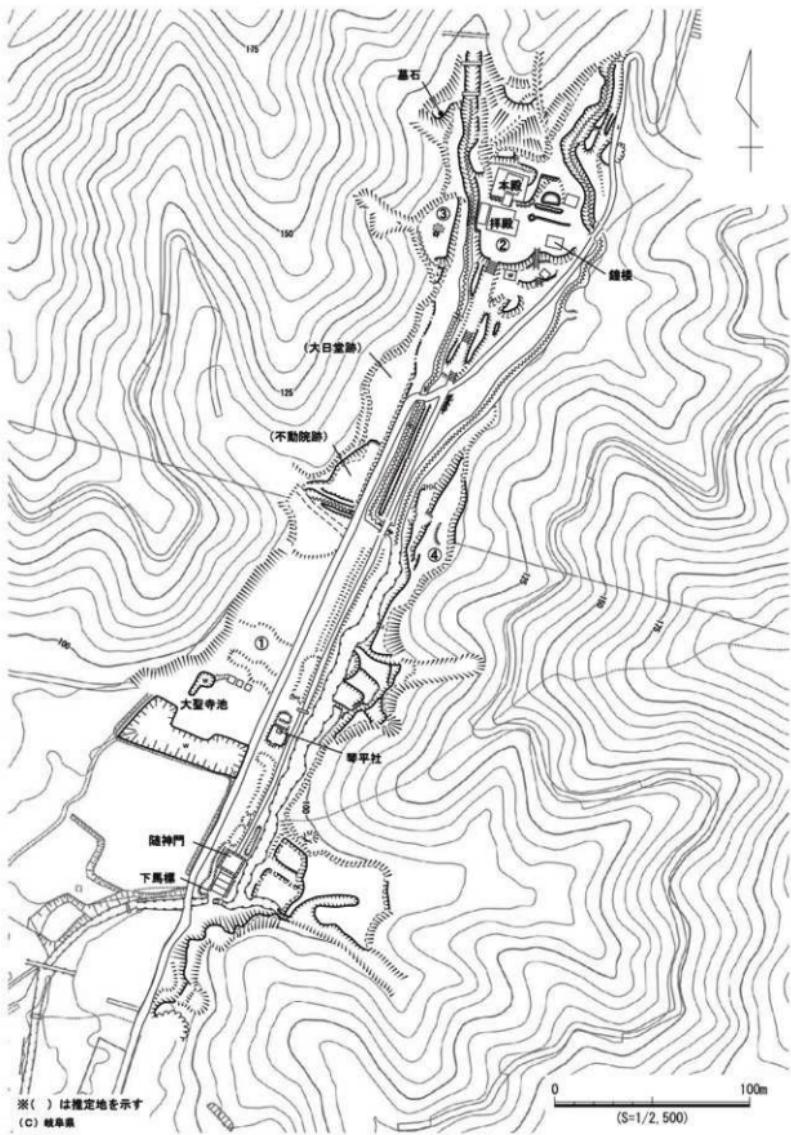


図7 八幡山大聖寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05181	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな	(かり) こうしゃくじはいじあと	所在地	閔市武芸川町小知野宇東洞				
寺院名 (史跡・遺跡名)	(仮) 香積寺廃寺跡						
時代区分	中世～近世	宗派		不明			
立地	山麓	現状(植生)		山林(アカマツ)			
東西規模	160m	南北規模	180m	標高(比高差)	112(35)m	平坦面面類	Dか
沿革	成立時期は不明であるが、口伝では七堂伽藍を完備した寺で、織田信長勢の兵火で焼失し、以後廃寺になったと伝わる。香積寺の本尊を納める觀音堂は、江戸時代中期に美濃三十三ヶ所觀音の札所として、香積寺境内の洞谷觀音と称する所に建立されたという。やがて香積寺が無住となり廃寺となつたため、小知野北屋敷の現在地に移転した。現在は金峯神社の所有となつてゐる。金峯神社は大和高市の金峯山から勧請し貞享年間(1684～88)創建とされる。「金峯寺山」との呼称も残るが、香積寺など寺院との関係は不明である。						
遺構	—						
遺物	宝篋印塔、五輪塔						
有形文化財等	—						
参考文献	新修武芸川町史編纂委員会 2005『新修武芸川町史』						
備考	字香積寺の範囲は廃寺跡よりも南西の集落域にある。廃寺跡から約320m北東には平成8年に閔市天然記念物に指定された多羅葉がある。樹齢400年の「葉書の木」であり、写経にも使われたとされるため、地元では香積寺と間違しているのではないかという言い伝えが残る。						

**調査所見** 廃寺跡とされる平坦面①は、武儀川支流の谷川右岸に位置する。平坦面は約20m四方で、現在は南西向きの地蔵堂が祀られ、その北側に宝篋印塔が置かれている。平坦面①から南西へ直線的に伸びる現在の林道は、かつての参道の範囲を概ね踏襲していると思われる。しかし、平坦面の南辺にある石段とその下の道は、道を挟んだ反対側に平坦面の南隅部と思われる形状の高まりが残ることから、旧來の平坦面の一部を破壊して後世に造成されたものと考えられる。谷川の左岸の②には、階段状に展開する複数の小規模な平坦面を確認した。谷部の最奥の平坦面には湧水と池状の窪みがあり、北東～南西方向の直線定な小道が延びる。この場所は、田畠で使われた様子ではなく、平坦面①の北東に位置することから、鎮守社等があつた可能性がある。

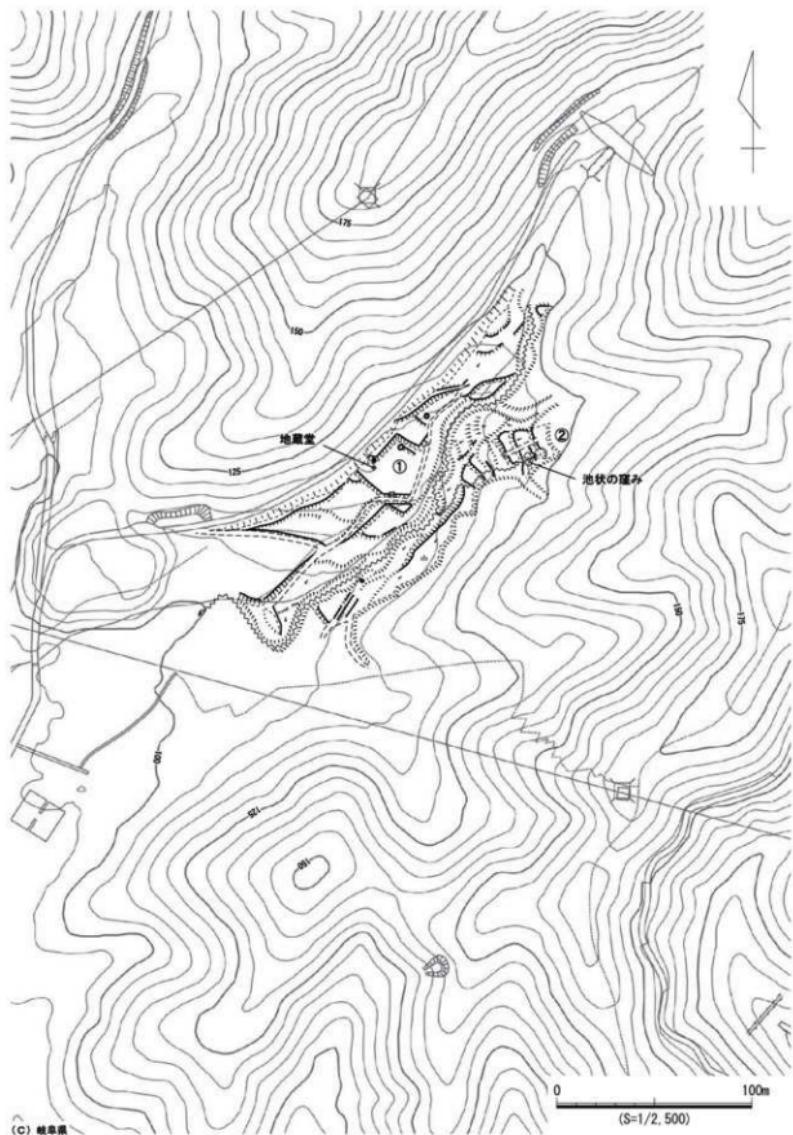


図8 (仮) 香積寺廃寺跡 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05183	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな	あみだじ			所在地	関市武芸川町宇多院字本都延		
寺院名 (史跡・遺跡名)	阿弥陀寺						
時代区分	古代			宗派	真言宗		
立地	山麓			現状(植生)	山林(アカマツ)		
東西規模	100m	南北規模	120m	標高(比高差) (15m)	80m (15m)	平坦面分類	D
沿革	垂木山南麓にある日吉神社の境内にあった別当。神社とも成立時期は不明であるが、伝承によると、宇多天皇（867～931）が美濃国行幸の際野村（宇多院）滞在中に崩御されたため、その尊骸を阿弥陀寺に移し御尊像二体を納めたという。阿弥陀寺は、宏社な堂宇が建ち、境内には古木が繁茂し尊厳な寺域をなしていたと伝えられる。中世に火災により、宇多神像とともに日吉神社に移され、以後再建の機会を失い、明治元（1868）年の神仏分離令により廃寺となつた。本尊阿弥陀如来は山県富永の三光寺に移された。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	新修武芸川町史編纂委員会 2005『新修武芸川町史』、武芸川町町史同好会 1995『宇多天皇と武芸川町』						
備考	宇多天皇の尊骸を葬った御廟「定省命の御陵」は「宇多院定見塚」と呼ばれるようになり、明治6（1873）年に僧社を創建し、日吉神社から宇多神像を奉安したという。						

**調査所見** 阿弥陀寺が別当を務めていたという日吉神社は、関市西部の垂木山の南東麓に立地する。現参道は、本殿から南東方向に一直線に伸びる。その両脇に地形に沿って平坦面が広がる。拝殿の北東にある細長い平坦面は、05069 陽徳寺（江戸初期に現在地に移転）の墓地として使用されており、墓地内では宝篋印塔や五輪塔が散見されるが、これらの石塔の由緒は不明である。現参道の両脇には広い平坦面が見られるが、近年の造成の影響を受けている。阿弥陀寺は日吉神社境内にあったと伝わるが、今回の地形観察では阿弥陀寺の場所を特定できるような痕跡は確認できなかつた。日吉神社の拝殿が建つ平坦面から北及び南西方向に道が延び、北へ進むと清瀬神社（成立時期不明）、南西に進むと春日神社（成立時期不明）に至る。南麓にある春日神社周辺も踏査したが、寺院跡と思われる痕跡は確認できなかつた。

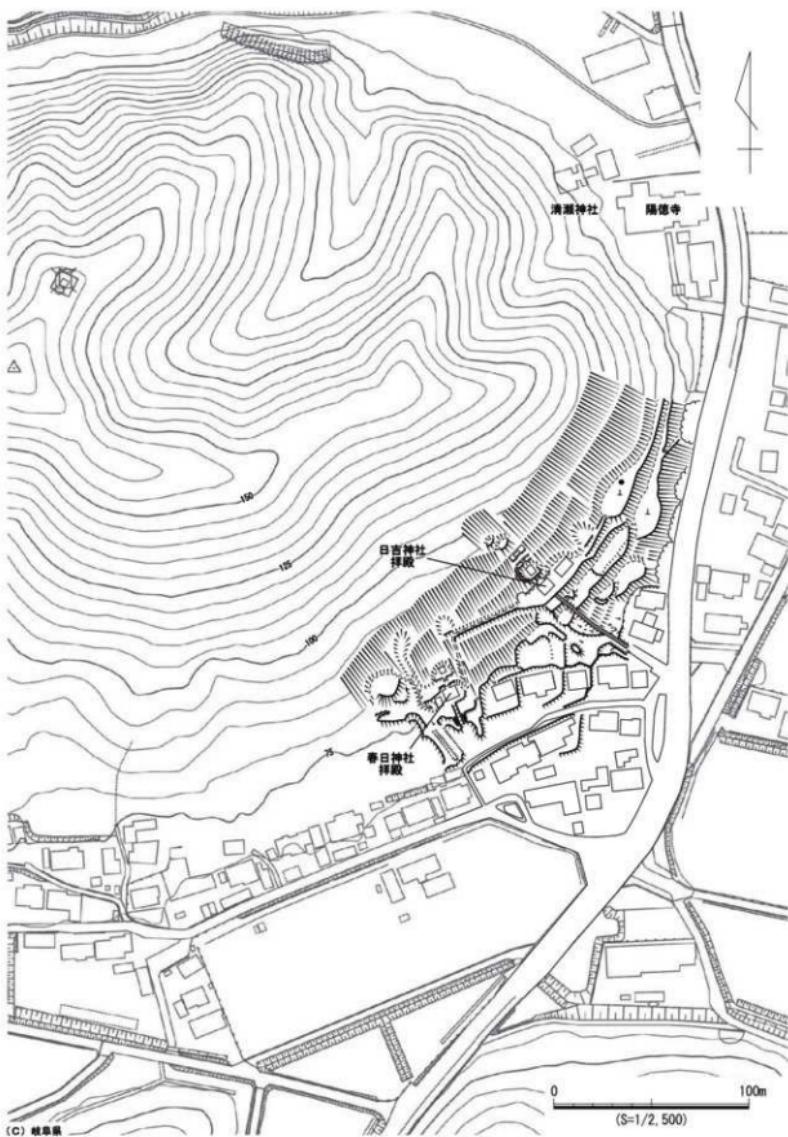


図9 阿弥陀寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05186b	県遺跡番号	一	分布図番号	K5
ふりがな	れんげぶじきゅうけいだい			所在地	関市洞戸高賀		
寺院名 (史跡・遺跡名)	蓮華峯寺旧境内						
時代区分	古代～			宗派	天台宗		
立地	山腹			現状(植生)	山林(アカマツ)		
東西規模	250m	南北規模	210m	標高(比高差)	360m (165m)	平坦面分類	B+C1
沿革	<p>伝承では、天徳3（959）年に高賀神社に行基作の大日如来が納められたのが始まりといい、神社と合わせて西高賀山蓮華峯寺（蓮花峯寺）と称し、現在の二の鳥居付近に寺の堂宇があったとされる。</p> <p>「金谷寺由来記」によると、鎌倉時代の高賀川一帯には西高賀山蓮華峯寺を中心に僧坊（宿坊）四十八堂場が点在したとあり、その中の一坊が大洞山童王寺で現在の金谷寺と思われる。応安2（1369）年に洪水により被災、永正14（1517）年に火災で焼失するが江戸時代に再建された。江戸時代までは神仏習合で、高賀神社としてではなく（西）蓮華峯寺として信仰されていた。元禄9（1696）年に筆写されたと推定される「高賀權現諸社繪図」には、現在の本殿にあたる石垣の上に、西から牛頭天王、八幡、大行事、虚空蔵、月日社が立ち並び、階段下の正面には拝殿、拝殿正面の西部には「大日・護摩・般若」と表記された建物がみえる。明治2（1869）年廃仏毀釈により廃寺となった。</p>						
遺構	石積み						
遺物	一						
有形文化財等	錫杖、聖観音坐像、大日如来坐像、虚空蔵菩薩懸仏、大般若経（以上県指定、鎌倉時代）、高賀權現諸社繪図（元禄9（1696）年）						
参考文献	岐阜県仏教会 2001『寺院名鑑』、洞戸村史編集委員会編集 1988『洞戸村史上巻』、洞戸村史編集委員会編集 1997『洞戸村史下巻』、ほらど未来まちづくり委員会 2021『蓮華峯寺の由来』						
備考	現在の高賀山蓮華峰寺は、旧境内（高賀神社）から1.5km南西にあり、調査時は堂宇の建て替えを行い、令和3年12月に完成した。新名称は「高賀観音寺」となる。						

**調査所見** 関市北西部に位置する高賀山山頂から南方約2.4kmの山麓の谷地形に立地する。蓮華峯寺があつたとされる場所は、現在高賀神社の境内となっており、本殿、拝殿、円空記念館と平坦面が3段続く。円空記念館のある平坦面の北西部に大日堂があつたとされるが、現在は舗装され遺構は確認できない。拝殿の西側に建つ収蔵庫には、蓮華峯寺に収蔵されていたとされる県指定文化財の仏像等が保管されている。高賀神社本殿東側の谷を越えた場所にも平坦面が段状に連なり、それぞれに石積みを伴う。北から東にかけての山際の石積みは1mを超えるものもあるが、詳細は不明である。神社へ向かう現参道沿いにも段階状に平坦面が連続するが、宅地造成されており、寺院跡に間連する遺構は確認できない。



図10 蓮華峯寺旧境内 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05191	県遺跡番号	21205-966	分布図番号	K5
ふりがな		だいひざんえんきょうじ (えんきょうじあと)		所在地		関市板取白谷	
寺院名 (史跡・遺跡名)		大悲山円教寺 (円教寺跡)					
時代区分		古代～		宗派		天台宗	
立地		山麓		現状(植生)		畑地・山林(スギ・ヒノキ)	
東西規模	150m	南北規模	135m	標高(比高差)	240m (10m)	平坦面分類	D
沿革	現在は白谷観音堂と呼ばれる。縁起によると、泰澄が行基作の十一面觀音菩薩を本尊として開いたとされ、谷あいから白砂が湧き出るを見て白谷と名付けたという。いつの頃からか大悲山円教寺と呼ぶようになった。鎌倉時代以降、周辺では虚空藏菩薩を崇拝する高賀山信仰が隆盛したが、当寺は白山信仰を維持した。寛永2(1625)年、長屋治左衛門が本堂を建立した。享保6(1721)年には、六代目長屋治左衛門により尾張八事山から御脇立三十三体を譲り受けて安置した。文政11(1828)年に本堂が再建された。文政年間(1818~31)に美濃西国三十三觀音の巡礼が開催され、一番札所となつた。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	板取村教育委員会1982『板取村史』						
備考	—						

**調査所見** 関市北西部に位置する高賀山の南西約3.8kmの山麓に立地する。現存の観音堂がある平坦面には、寛保庵と十王堂がある。円教寺跡の遺跡範囲は十王堂以東で、石積みを伴う平坦面が階段状に続く。各平坦面の段差はそれほど高くなく、長径30cm程度の石材で区画される段もある。平坦面の東側の山際には通路があり、通路と平坦面の境を示すように石積みが続いている。近年の造成の影響を受けていると思われ、中世以前の寺院に関する遺構は確認できない。



図 11 大悲山円教寺（円教寺跡）地形観察図

地区	中濃	寺院番号	05002・05002b	県遺跡番号	21205-4140	分布図番号	L6
ふりがな	りゅうげざんみろくじ（みろくじあと）			所在地	閑市池尻字弥勒寺		
寺院名 (史跡・遺跡名)	龍華山弥勒寺 (弥勒寺跡)						
時代区分	古代（飛鳥）～			宗派	不明→天台宗		
立地	段丘			現状(植生)	その他		
東西規模	一	南北規模	一	標高(比高差)	60m (5m)	平坦面分類	一
沿革	寺伝によると、美濃地方の豪族ムツ氏の氏寺として、中央政府の援助を受け推古2(594)年に成立とされるが、発掘調査で出土した瓦等の型式から7世紀後半の創建と推定される。掛妻郡横蔵寺文書に、「永和四(1378)年武儀都池尻字弥勒寺」とみえるのが最も古い記録である。その後、円空が元禄2(1689)年に園城寺(三井寺)の末寺として再興した際、往古の寺号に従ったという。大正9(1920)年、大火により、堂宇はごく一部を除いて失われるが、後再建される。昭和34(1959)年に弥勒寺跡は国指定史跡に指定された。平成3(1991)年以降の指定地内の公有化事業に伴い、再建された弥勒寺は指定地外に移転した。						
遺構	塔（石積み基壇、礎石）、金堂（石積み基壇、礎石）、講堂（基壇）、掘立柱塀、掘立柱建物、堅穴建物						
遺物	軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、中世陶磁器、中国陶磁、土師質土器、古瀬戸、大窯、近世陶器、土鍾、陶鍾、斎巾						
参考文献	閑市教育委員会 1990『弥勒寺跡-範囲確認発掘調査報告書Ⅲ-』閑市文化財調査報告第18号、閑市教育委員会 1996『新修閑市史』通史編-自然・原始・古代・中世-、閑市教育委員会 1999『美濃國武儀郡 術 弥勒寺東遺跡-第1～5次発掘調査概要-』、閑市教育委員会 2010『閑市市内遺跡発掘調査報告書 平成18・19年度-弥勒寺西遺跡範囲確認調査ほか-』閑市文化財調査報告第27号、閑市教育委員会 2015『国指定史跡弥勒寺官衙遺跡群 弥勒寺東遺跡Ⅲ-第1部館・厨区域ほか/第2部池尻大塚古墳-』閑市文化財調査報告第34号						
備考	閑市教育委員会により昭和28・31・62・63年度、平成元・9・10年度に発掘調査が行われた。弥勒寺東遺跡は、奈良時代初頭～平安時代中頃までの武儀郡衛跡であることが判明し、弥勒寺西遺跡は、遺構及び遺物から、寺院の經營に従事する者たちの居住施設若しくは僧房が想定されている。						

**遺構の概要** 奥美濃山地を南流し、濃尾平野にさしかかるところで山王山に当たって西へ鋭角に進路を変えた長良川と、池尻山との間に形成された狭小な河岸段丘上に立地する。発掘調査の結果、東に塔、西に金堂、北に講堂を配した法起寺式の配置であることが明らかになった。塔は、一辺11.5mの正方形で、高さ0.9mの石積み基壇で、塔心礎と4基の側柱礎石が残存する。金堂は石積み基壇で、東西14.88m、南北12.42mを測るが西・南部は後世に削平を受けたと考えられている。残存する8基の礎石から、金堂は5間×4間であったと考えられる。講堂は、東西約24m、南北約14mの基壇が残る。その他、伽藍主軸に斜交した南門と掘立柱塀、掘立柱建物、堅穴建物等が検出された。

**遺物の概要** 瓦は、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土し、川原寺系の複弁蓮華文軒丸瓦や凸面布目の平瓦が確認されている。その他、須恵器、灰釉陶器、土師器、土師質土器など、平安時代以前の遺物が多い。

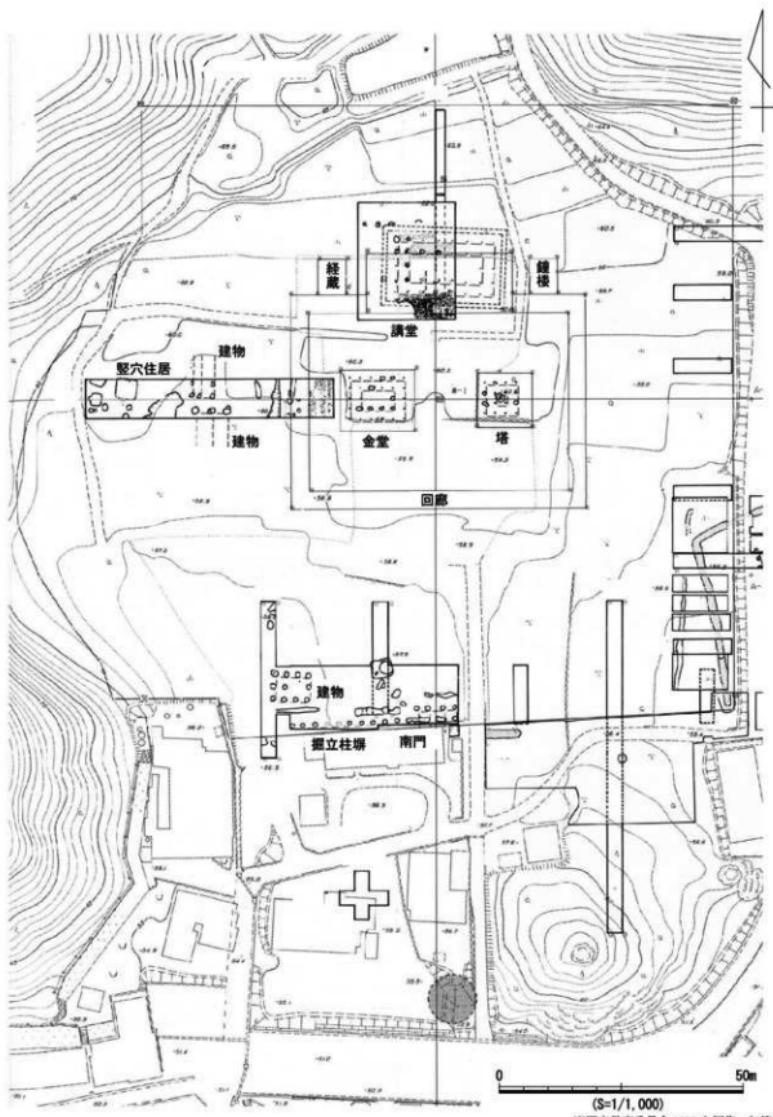


図12 龍華山弥勒寺（弥勒寺跡）全体図

※市教委編集・加筆  
(S=1/1,000)

## [美濃市]

地区	中濃	寺院番号	07031b	県遺跡番号	21207-9139	分布図番号	L6
ふりがな		ろくおんじきゅうけいだい (ろくおんじあと)		所在地		美濃市立花	
寺院名 (史跡・遺跡名)		鹿苑寺旧境内 (鹿苑寺跡)					
時代区分		古代(平安)~		宗派		天台宗か→臨済宗	
立地		山腹		現状(植生)		山林(アカマツ)	
東西規模	約180m	南北規模	約160m	標高(比高差)	115m(40m)	平坦面面類	B+D
沿革	安元元(1175)年、天台宗延暦寺の覚阿上人が訪れた際、修行した廬山の景勝に似ていたためこの地に留まり廬山大悲院(慶善庵とも)を建立した。その後寺運が衰え般音堂のみとなるが、清泰寺六世密巖が貞享2(1685)年再興し、寛保2(1742)年には施苑寺を建立して臨済宗とした。大悲院はその後廃絶し、大正5(1916)年に山上にあった般音像は山腹の鹿苑寺に設けられた般音堂に移された。美濃三十三般音二番札所。聴き取り調査によると、鹿苑寺跡から現境内の位置へは約100年前に移転したという。						
遺構	石積み、石段、池跡						
遺物	一						
有形文化財等	鹿苑寺地蔵堂(六角堂)(国指定、鎌倉~室町)、木造聖観世音菩薩立像(県指定、鎌倉~室町)、木造地蔵菩薩像(県指定、室町)						
参考文献	美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻、美濃市 1980『美濃市史』通史編下巻、美濃西国三十三番霊場事務所 1979『東海百觀音靈場めぐりー美濃三十三観音』、美濃市教育委員会 1999『美濃市遺跡分布地図』美濃市文化財調査報告第12号						
備考	国指定重要文化財の鹿苑寺地蔵堂(六角堂)は、立花佐ヶ坂の都上街道の地蔵坂辻にあり。美濃市最古の建築物である。応長元(1311)年に飛騨匠藤原朝臣宗康(安)によって再建された。本尊木造地蔵菩薩像は養老3(719)年秦澄作とも伝わるが、厨子とともに室町期の造詣と思われる。						

**調査所見** 美濃市を東流する板取川と長良川の合流地点の北側に廬山があり、廬山の南麓、県立陽光園へ至る車道の東側に平坦面が展開する。沿革及び聴き取り調査の結果から、現在地表面で確認できる遺構は、寛保2(1742)年再建時のものである可能性がある。標高115m付近から地形に沿って明瞭な切岸がみられ、平坦面①に建物跡の一部と思われる石積みが残る。①へ上がる石段が直線的に伸びていることから、本堂の跡地と思われる。石段登口の西側には池跡があり、南部に付けられた排水用水路は下段の池跡とつながっている。池跡西側の平坦面②は、石積みを伴い比較的広いが、礎石等は確認できず性格は不明である。②の南側には、石積みの星線を切って境内への出入口が設けられている。石段の東側には南西方向に伸びる尾根があるが、尾根上には廐屋が残され近年まで土地利用がされている。この尾根の南斜面に平坦面③があり、無銘の石碑が並ぶ。周囲に平坦面がなく、境内ではやや隔離された位置に当ることから、墓域の可能性がある。①の北部には、輪郭明瞭な平坦面群④がみられる。これらの平坦面は出入口を伴うが、配置は整然としない。車道から④へ至る通路は舗装されており、④が遺構であるのか、近年の造成によるものが現状の観察からは判断しがたい。



図13 鹿苑寺旧境内（鹿苑寺跡）地形観察図

地区	中濃	寺院番号	07055	県遺跡番号	一	分布図番号	K5			
ふりがな		おもてびらさんふもんじ		所在地	美濃市乙狩面					
寺院名 (史跡・遺跡名)	面平山普門寺									
時代区分	古代（平安）～		宗派	不明						
立地	山頂、山腹		現状(植生)	境内地、山林（アカマツ）						
東西規模	約250m	南北規模	約120m	標高(比高差)	528m (403m)	平坦面面類	E			
沿革	一説には天暦年間（947～957）に藤原高光によって建立したとされ、高賀山の妖魔退治伝説と関連があると思われるが、07073 瀧の宮や高賀神社の縁起に普門寺の名はみえず、由緒の詳細は不明である。当初は山頂に建てられており、「面平觀音」として古来崇敬され続けてきた。伝承によると、觀音様の後光が近江琵琶湖の魚を驚かせ、漁の妨げとなるため、觀音堂を一段下に下げたという。明治時代（1868～1912）に魔寺となるが、觀音堂は面平の人々により護持されている。									
遺構	一									
遺物	一									
有形文化財等	一									
参考文献	美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻、美濃市 1980『美濃市史』通史編下巻、美濃市教育委員会 1999『美濃市遺跡分布図』美濃市文化財調査報告第 12 号									
備考	本尊は鎌倉期を降らないものと推定され、円空作の觀音菩薩も祀られる。									

**調査所見** 美濃市の北西部、閔田との市境付近にそびえる面平山の山頂（標高 528m）付近に位置する。現本堂及び庫裏が建つ平坦面は、山頂より低い標高約 450m に位置し、觀音堂を一段下げたといいう伝承の位置に該当する。平坦面の広さは東西 30m × 南北 18m である。この平坦面から北及び東に向かって通路が続く。北の通路を約 50m 登った場所に地蔵と石組みを確認した。さらに北へ登っていくと立石と鳥居があり、その北側に東西 20m × 南北 10m の小規模な平坦面がある。平坦面の中央部には小祠が建つ。小祠から北西約 50m の場所が面平山の最高所で、その周囲は幅の狭い細長い平坦面となっている。現本堂の建つ平坦面から東に向かって伸びる通路を約 100m 進むと尾根上に至り、尾根の地形に沿った緩やかな傾斜をもつ平坦面が広がる。元來の地形の起伏を残す箇所が多く、その性格や普門寺との関係性は不明である。

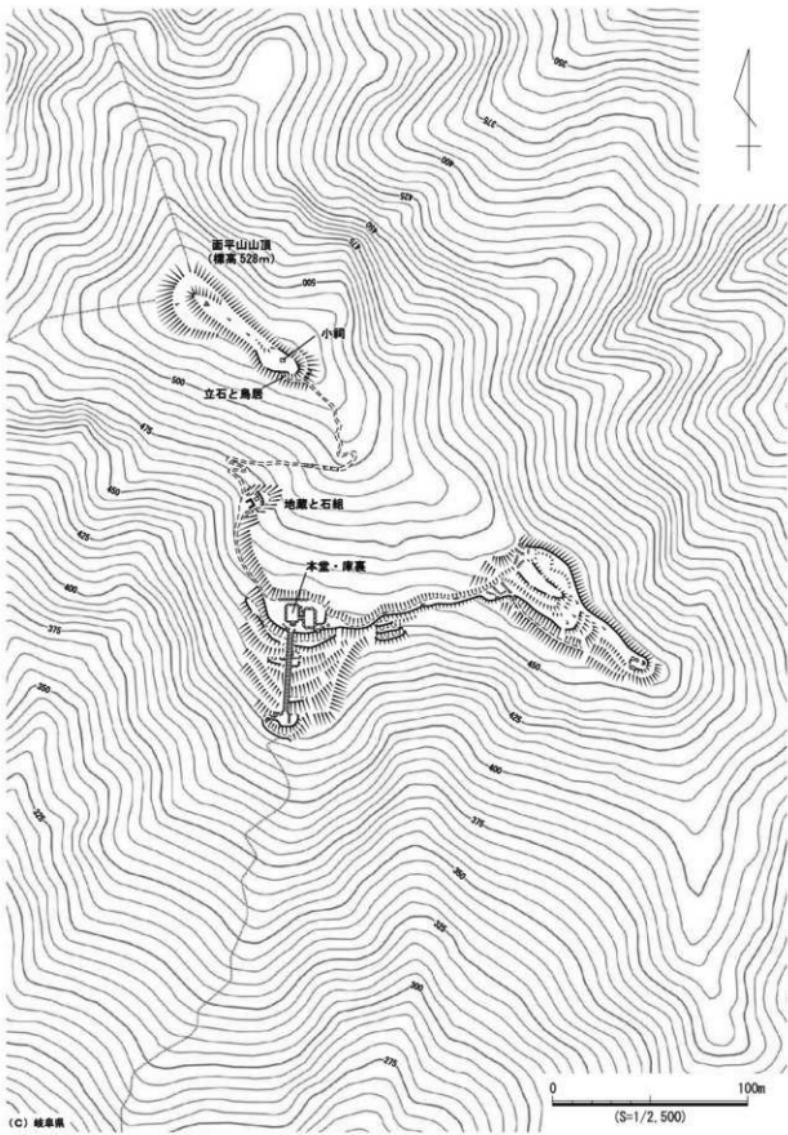


図 14 面平山普門寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	07060	県遺跡番号	一	分布図番号	L5
ふりがな	てんのうざんぜんじょうじ			所在地	美濃市大矢田		
寺院名 (史跡・遺跡名)	天王山禅定寺						
時代区分	古代(奈良)~			宗派	真言宗		
立地	山腹、山麓			現状(植生)	境内地、山林(アカマツ)		
東西規模	約180m	南北規模	約400m	標高(比高差)	18m(75m)	平坦面面類	A+C1-D
沿革	伝承によると、孝徳天皇の頃、里人によって建速須佐之男命と天若日子命を祀る祠を建てたことが始まりとされる。養老2(718)年、泰澄は天王山一帯を開基して禅定寺を創建し、建速須佐之男命を祀る祠は、牛頭天王として習合された。仙藏坊・花藏坊・宝積坊・岩藏坊・東覚坊・常泉坊・極楽坊の七坊と本地堂・宝塔・鐘樓堂・護摩堂等の建物があったが、弘治2(1556)年の天王山落城時に焼かれ、近世に存在したのは極楽坊・常泉坊のみであった。寛文12(1672)年、訣迦趺跡に現在の本殿が再興されるが、明治初期の神仏分離で廃寺・牛頭天王を建速須佐之男命に戻し奉祀し、大矢田神社に改称した。極楽坊の社僧清氏が神官となる。護摩堂・鐘樓・鍾音堂等は廢されたが、禅定寺の遺構・遺物としては楼門(仁王門、享保8(1723)年)、明応3(1494)年銘の梵鐘や仏像の他、大般若經等が残される。						
遺構	一						
遺物	一						
有形文化財等	絵本著色釈迦十六菩薩神図(県指定、鎌倉~室町)、梵鏡【禅定寺・青柳神社】(県指定、室町)、阿弥陀如来坐像、弘法大師坐像、兜、大般若写経(以上市指定、室町)						
参考文献	美濃市1979『美濃市史』通史編上巻、美濃市1980『美濃市史』通史編下巻、昭和中学校区地域づくり委員会大矢田部会2014『大矢田よもやま見聞録』第2集						
備考	天王山祖靈社は、神仏分離により宗門を失った檀徒が大道神道に帰依して創立した道場である。						

**調査所見** 天王山(標高537m)の南麓に位置する。伝承によると、大矢田神社の本殿及び拝殿の建つ場所に、禅定寺の本地堂・薬師堂・鐘樓・護摩堂等があり、その他の坊は仁王門北側に伸びる参道の両側にあったという。現本殿の背後は天王山への登山口となっており、登山道の周辺に平坦面ではなく、禅定寺の境内の位置は伝承どおり現在とほぼ変わらないと思われる。旧境内を描いた絵図等ではなく、七坊の位置は判然としないが、現参道や石段の両脇に平坦面が展開する。①付近には、北西の谷部から太鼓橋に向かう流路があり、周辺に輪郭が明瞭な平坦面群が広がる。②には天満神社が建つが、この平坦面は石段を挟んだ東側の平坦面と輪郭や高さが一緒にになっており、②の1段上の平坦面も同様である。山裾に位置する③には、約50年前まで弘法堂があったといい、平坦面が残る。③の南西側の平坦面は、後世の改変を受けた新しい造成による。仁王門から続く現参道の西側沿いには、方形の区画が見える平坦面④~⑥が続く。④は常泉坊跡といい、現在は竹林で、地表面には近現代の瓦等が散乱する。⑤には現在住宅が建つが、極楽坊跡であるといい。⑥は駐車場として整地されているが、建物が建つには十分な広さがある。現参道の東側には山裾が迫り、平坦面は広がらない。楼門の南東約210mにある天王山祖靈社の南側にも平坦面が広がっているが、性格は不明である。

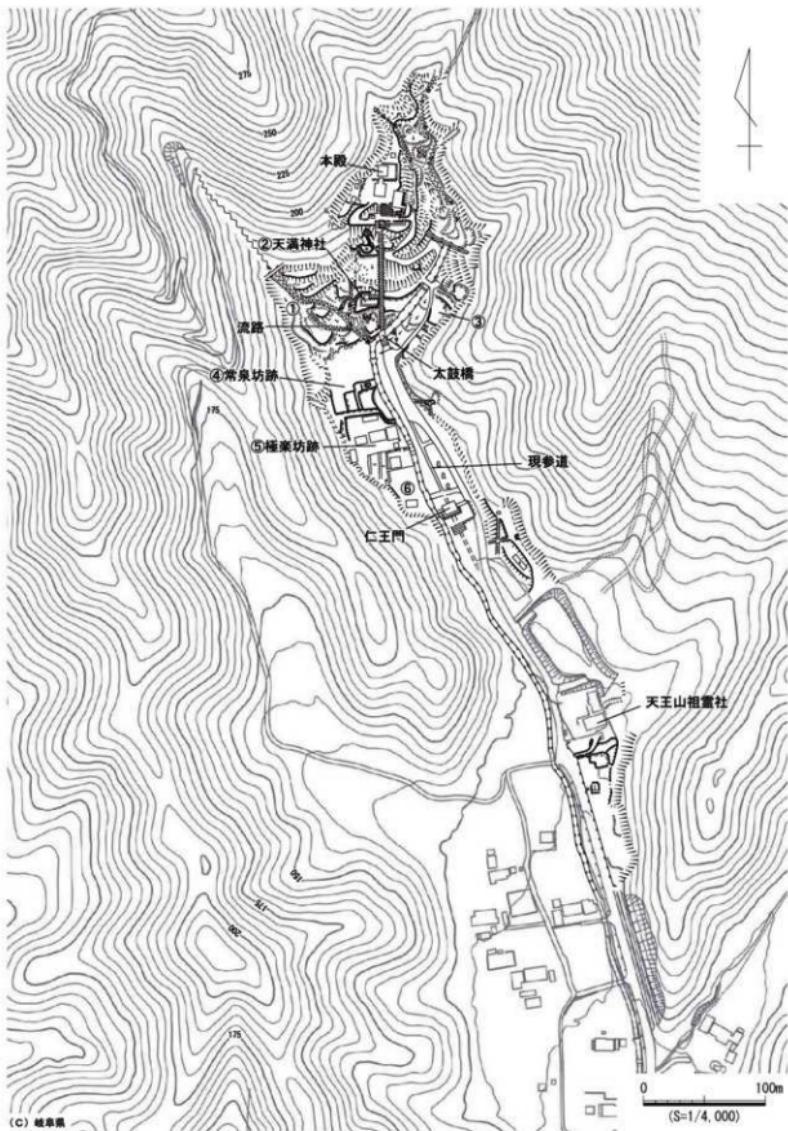


図15 天王山禅定寺 地形観察図（1）



図 16 天王寺禅定寺 地形観察図（2）

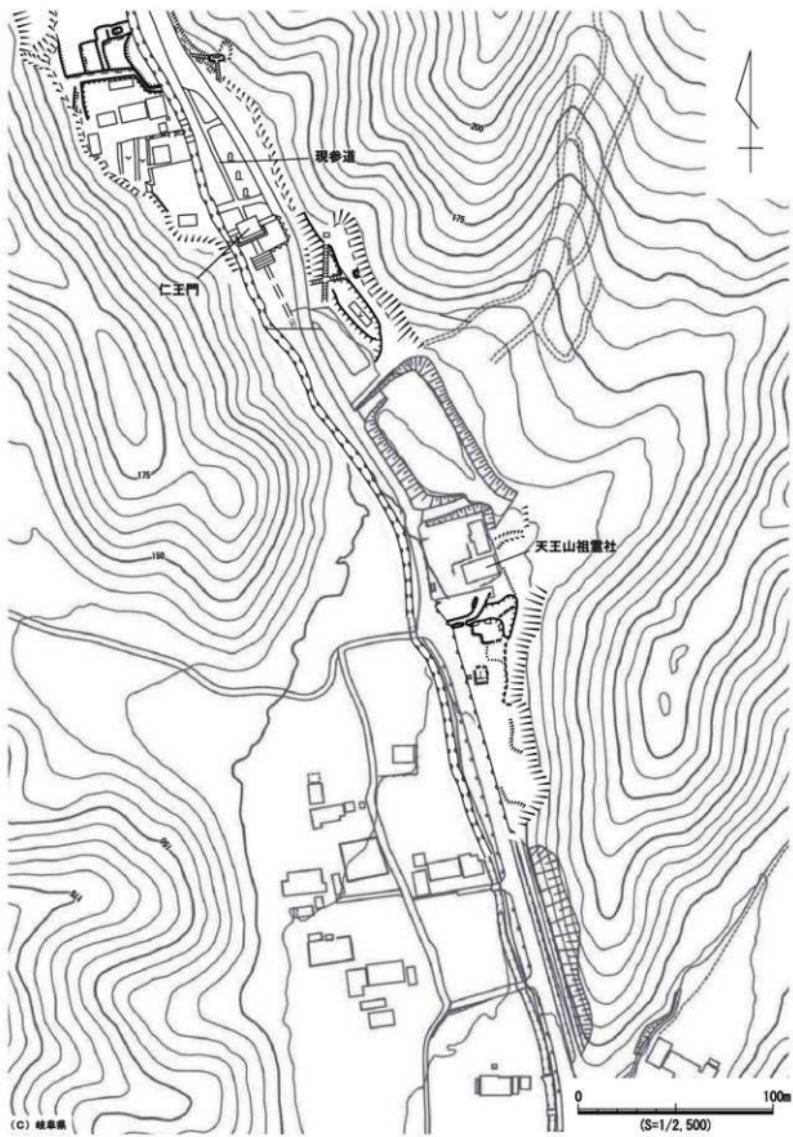


図17 天王山禅定寺 地形観察図（3）

地区	中濃	寺院番号	07072	県遺跡番号	一	分布図番号	K6
ふりがな		すはらはくさんごんげん		所在地		美濃市須原	
寺院名 (史跡・遺跡名)		洲原白山権現					
時代区分		古代(奈良)~		宗派		不明	
立地		山腹、山麓		現状(植生)		境内地、山林(アカマツ)	
東西規模	約600m	南北規模	約260m	標高(比高差)	255m(155m)	平坦面面積	D
沿革	洲原白山権現(現洲原神社)は、養老5(721)年、泰澄創建の古社で白山信仰の中心となった。中世以降、「白山前宮」として近郷第一の規模を持った。洲原白山権現東の鶴形山は内宮あるいは奥院と呼ばれ、白山とともに白山登拝者の一つの修験道場であった。中世には仏教色が強く、元亀2(1571)年6月吉日の地蔵堂棎札が残る。また運営の中心は別当寺の観音院であった。しかし、江戸時代になると社人中が実権を握るようになり、次第に仏教色は消されていった。寛文2(1662)年以降に地蔵堂は廃され、延享2(1745)年には観音院が無住となり廢寺になったという記録が残る。近世になると、信仰の対象は白山の神から農桑の神へと変化していった。明治元(1868)年の神仏判然令により仏教由来する名称の使用が禁止され以後洲原神社となった。						
遺構	一						
遺物	山茶碗						
有形文化財等	朱根来塗供物鉢、朱根来塗供物台(以上県指定、室町)、素地供物鉢(県指定、室町~江戸)						
参考文献	美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻、洲原神社 2021『御鎮座千三百年記念誌洲原神社~歴史・建築・自然環境~』						
備考	かつて洲原神社の北東に牛頭天王社(地主神社)、薬師堂(医神社)があったとされ、東本殿に安置される薬師如来坐像は牛頭天王社の本尊であったと考えられる。この付近には神輿休遺跡及び貝津遺跡が展開しており、美濃市が平成12~15・17年度に行った発掘調査では平安時代末から南北朝にかけての山茶碗が出土し、古代~中世の洲原白山権現と関連があると考えられる(洲原神社 2021)。						

**調査所見** 美濃市北端部に位置する鶴形山(標高348m)の東麓に立地し、その東側を南流する長良川右岸に現洲原神社の境内が展開する。境内は、長良川の中洲に頭を出す神岩から楼門、拝殿、中門、本殿が北に向かって一直線に並ぶ。室町時代には境内に地蔵堂があり、江戸時代中期以前は観音院が境内に隣接していたと考えられているが、ともに位置不明である。鶴形山は洲原白山権現の御山として保護され、「内宮」あるいは「奥院」と呼ばれた修験道場であった。山中には、明治期に洲原神社へ合祀された今清水神社、別山神社、大御前神社、奥御前神社の跡地が残る。各跡地は建物が1棟建つ程度の小規模なものであるが、今清水神社跡はやや広く、上下2段からなる平坦面の上段には石組みが残る。今清水神社跡から南西約200mの位置に不動の滝がある。かつては懸崖造りの祠があったという。別山神社跡と大御前神社跡は東西に並び、東側の平坦面が別山神社跡、西側の1段高い平坦面が大御前神社跡である。奥御前神社跡は、奥院跡地の中で最も高い位置(標高255m)にあり、長良川を見下ろすことができる。また、鶴形山登り口から忠魂碑の立つ広場に至る通路の途中には、トンネル状の露岩をくぐる岩門がある。

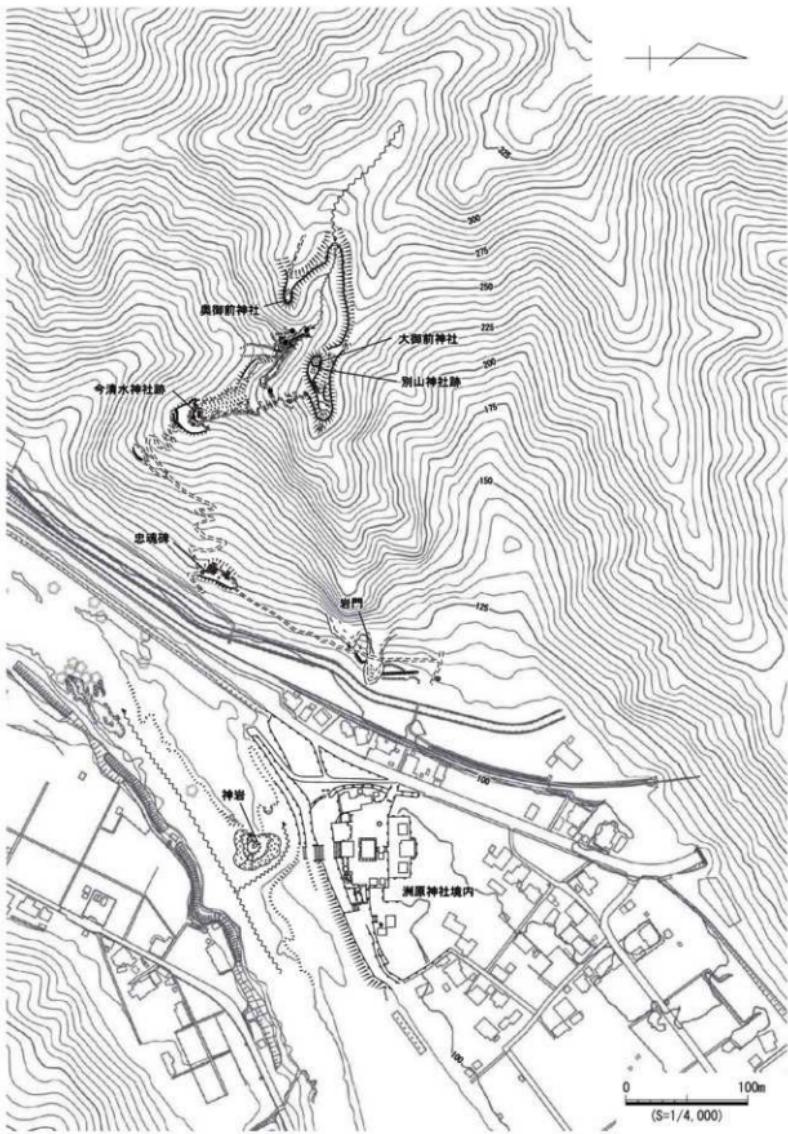


図18 洲原白山権現 地形観察図（1）

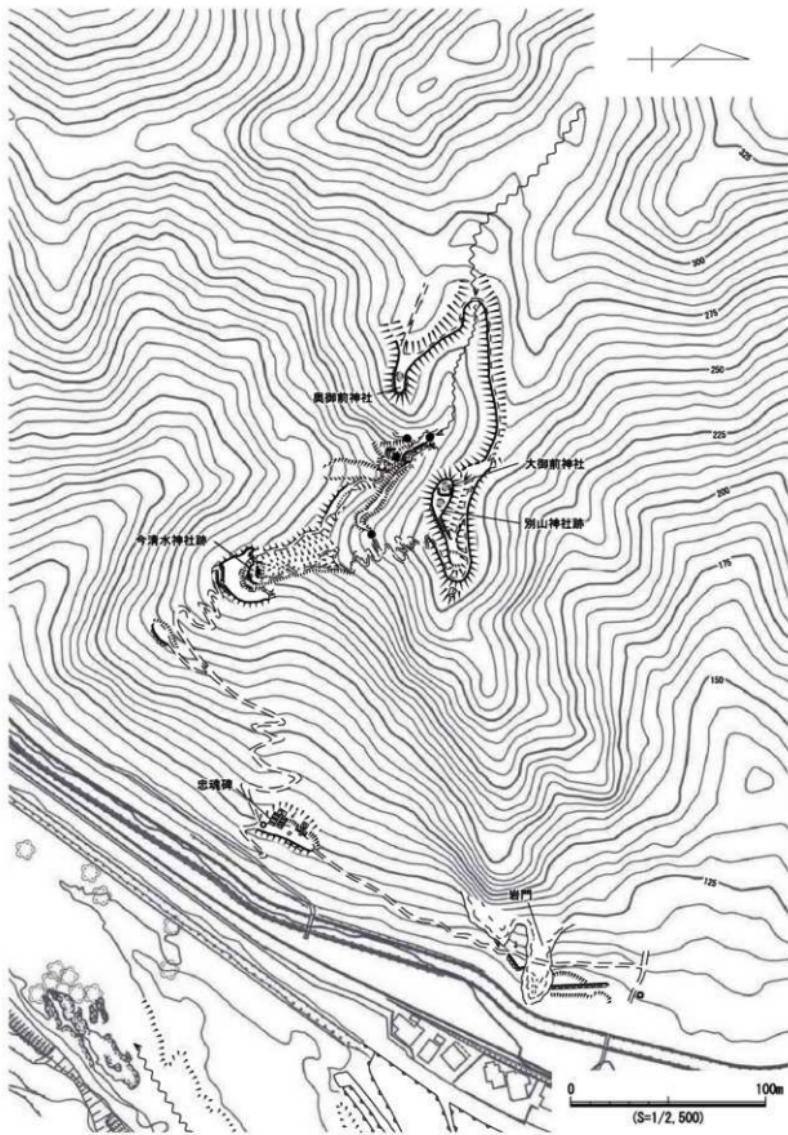


図 19 洲原白山権現 地形観察図（2）

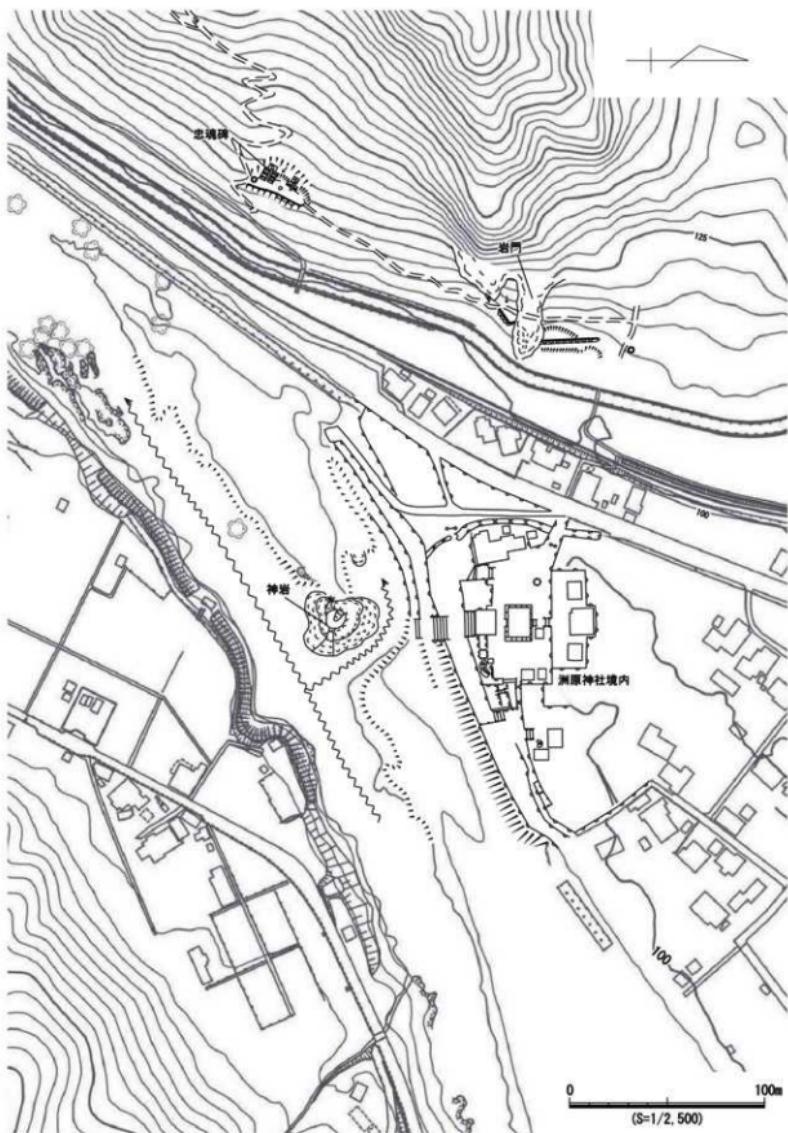


図20 洲原白山権現 地形観察図（3）

地区	中濃	寺院番号	07073	県遺跡番号	一	分布図番号	K5
ふりがな		こうかさんたきのみや		所在地	美濃市乙狩宇クエタテ		
寺院名 (史跡・遺跡名)	高賀山瀧の宮						
時代区分	古代（平安）～			宗派	不明		
立地	山腹			現状(植生)	境内地、山林（スギ・ヒノキ）		
東西規模	約175m	南北規模	約325m	標高(比高差)	401m (190m)	平坦面面類	不明
沿革	天暦年間（947～957）の頃に、高賀山及び瓢ヶ岳の一帯に妖魔が住みつき、大洪水や大干ばつなど数々の異変を起こして住民を苦しめたため。朝廷は藤原高光に命じ妖魔を退治させた。今後、妖魔が出現しないように祈願して瀧の谷々に神社を建立した。それが開市中の高賀神社をはじめとする六社であり、そのひとつが瀧神社である。瀧神社に関する伝承によると、藤原高光が妖魔を追い求めて高賀から乙狩谷に来た時、山全体が黒雲に包まれて進めなくなったので、神に祈って矢を黒雲の中に射放つと雲が嘘のようになくなり、そこが乙狩の神矢洞であったという。その夜、高光公は瀧の中から現れた神々が妖魔をこの洞から追い払われる夢を見たため、瀧のほとりに宮を建てたというのが現在の瀧神社の始まりであるという。その後、天正14（1586）年に社殿等が整備され、再建立や修復などを経て現在に至る。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻						
備考	御神体は弓矢と剣、祭神は水園象女之尊、瀧藏津比咩尊、八百万神である。また、神仏分離令をくぐりぬけて釣鐘とともに、平安末期作とされる三体の仏像が現在でも納められている。瀧神社は、三十六歌仙の1人である猿丸大夫生誕の地と伝えられている。						

**調査所見** 瀧の宮（現瀧神社）は、美濃市北部の瓢ヶ岳の南西麓山腹に立地する。高賀山信仰を形成した六社一觀音の1つで、高賀山山頂からみてほぼ真南に位置する。

現境内には、南西を向く本殿及び拝殿があり、拝殿の正面から乙狩川の手前まで一直線に石段が続く。石段を上ると右手に猿丸大夫の碑が建つ平坦面がある。この平坦面の下にも緩やかな傾斜のある不明瞭な平坦面があり、双方の平坦面は南東側の通路でつながっている。鳥居の少し下の地点から、南東方向へ石疊の道が伸びる。石疊の道は約75m続き、その先に祠が2つ建つ。

拝殿の北西から権現の瀧に向かう通路が伸びる。この通路沿いには不定形な平坦面を複数確認した。権現の瀧の上部瀧面付近には御幣が立てられており、現在も神聖な場所とされている。瀧の正面には明瞭な平坦面がある。瀧の水が流れ込む乙狩川の対岸にも、広さのある平坦面を確認した。

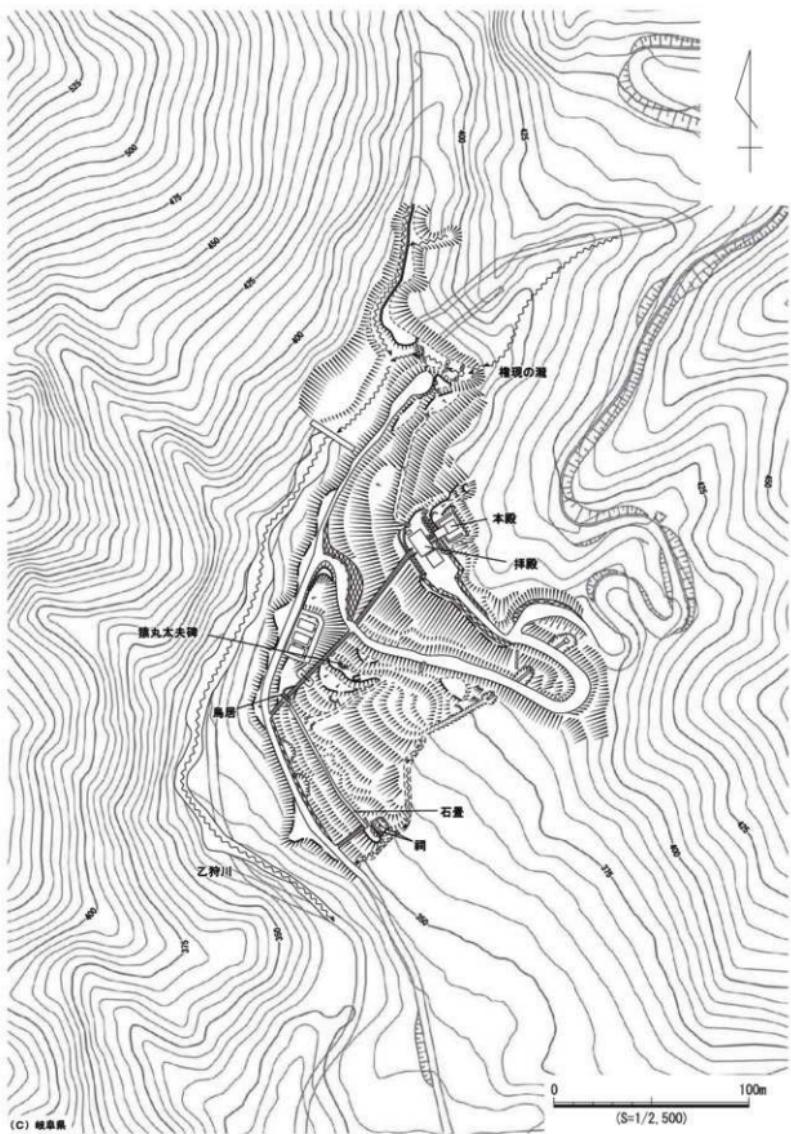


図 21 高賀山瀧の宮 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	07074	県遺跡番号	一	分布図番号	R6			
ふりがな	こうかさんざおうごんげん	所在地	美濃市片知猿洞							
寺院名 (史跡・遺跡名)	高賀山藏王権現									
時代区分	古代（平安）～		宗派	不明						
立地	山腹		現状(植生)	境内地						
東西規模	約 70m	南北規模	約 160m以上	標高(比高差)	160m (10m)	平坦面分類	不明			
沿革	07073 高賀山瀧の宮とともに、高賀山の妖魔退治伝説に関係した宮である。伝承によると、天暦年間（947～957）瓢ヶ岳に住みついた妖魔を藤原高光が来て退治し、以後、妖魔が住みつかないように山をとりまく谷々に神々を祀ったことに始まるという。瓢ヶ岳と隣接の高賀山の一带は、美濃国の塞山として多くの山伏が修行に来たといい、修驗道の影響を強く受けている。片知の藏王権現は、明治時代（1868～1912）になって金峰神社と社名を改めた。金峰神社は、大峯山信仰の中心である吉野の金峰（きんぶ）神社の社名をとったものである。									
造構	—									
遺物	—									
有形文化財等	—									
参考文献	美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻									
備考	本殿は江戸時代の建築と考えられ、阿弥陀如来、十一面観音、地蔵菩薩の三体をまつり脇侍として金剛藏王と天部があるほか、男女二神の小像も安置されている。本殿内の諸像についても江戸時代の制作のものが多い。古仏像、懸仏等が皆無であるのは、中世に火災にかかりすべてを焼失したものと考えられている。									

**調査所見** 板取川の支流である片知川沿いの山麓に位置し、現在は金峰神社の境内地である。南西向きの社殿があり、集落よりも一段高い位置から境内が展開している。現参道は、境内西側の車道のカーブ地点から拝殿まで伸びる。境内南部には広い平坦面があり、平坦面の北部を土壘で、南部を石列で区画する。この平坦面の南側にも石垣が続き平坦面が広がるが、雜木林が広がるために立ち入りできず、地表面の観察はできなかった。また、境内北側の平坦面についても、雜木林の茂りが激しく観察はできなかった。平坦面の広がりから、かつての境内は山麓部全体に広く展開していたと思われる。現境内及びこれらの平坦面は、輪郭が明瞭であり、本殿等は江戸時代の建築であることから、近世の造成によると思われる。また、境内背後の斜面から尾根上へ上ることはできるものの明瞭な通路はなく、周囲に平坦面は確認できない。拝殿と本殿の間はテラス状になっており、その南西端から山裾の地形に沿って石積みを伴う狭い通路が続いている。この通路は拝殿の北東部へも伸びており、通路沿いに設けられた狭い平坦面上には、「御嶽神社」及び「日出講與覺靈神」の石碑が建つ。

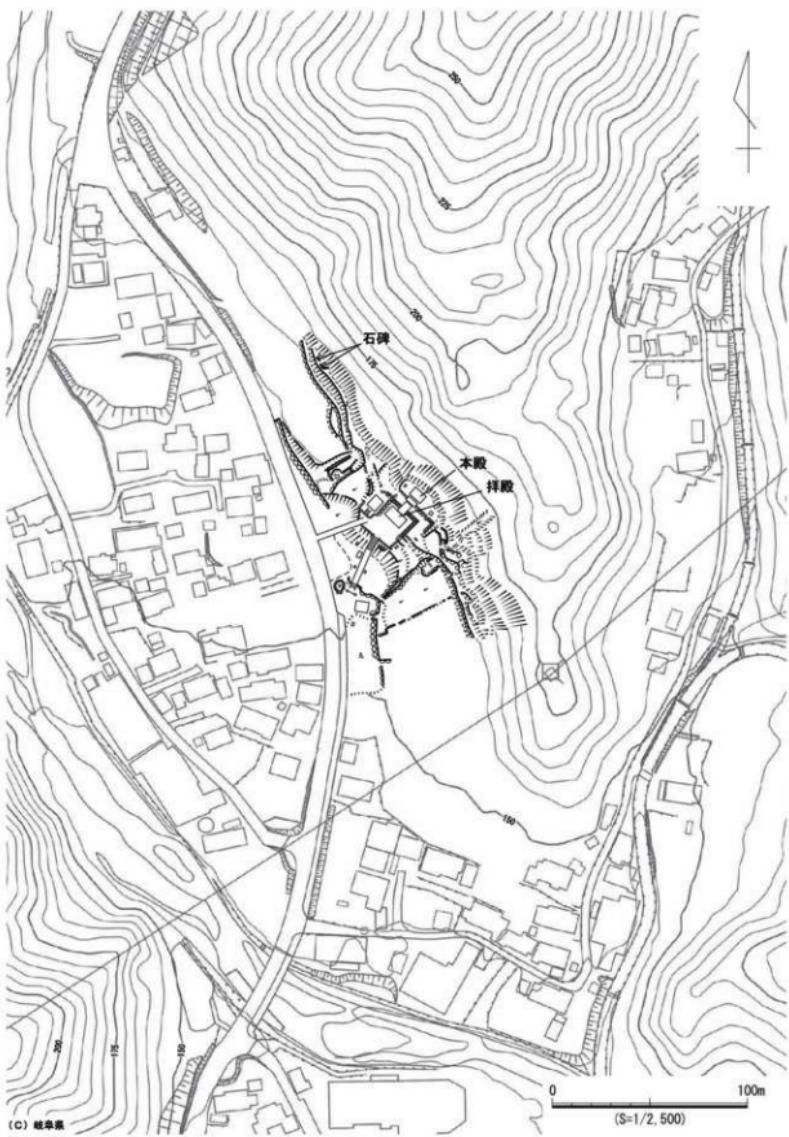


図 22 高賀山藏王権現 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	07066	県遺跡番号	21207-9186・8734	分布図番号	L6
ふりがな	かんのんじ（ひがしかんのんじいせき・にしかんのんじいせき）	所在地		美濃市横越			
寺院名	観音寺						
(史跡・遺跡名)	(東観音寺遺跡・西観音寺遺跡)						
時代区分	中世（鎌倉・室町・安土桃山）～近世（江戸）	宗派		臨済宗か			
立地	尾根上	現状(植生)		その他			
東西規模	一	南北規模	一	標高(比高差)	104 (32) m	平坦面分類	不明
沿革	成立時期及び沿革の詳細は不明である。西山口部には現在も小字名として残る極楽寺があったとされ、応永8(1401)年『東禅院文書』には極楽寺の末寺として観音寺を規定している。明和年間(1761～72)の村絵図には既に魔寺と記されている。そのため、観音寺は少なくとも応永8年から存在し、明和年間には既に魔寺となっていたと考えられる。						
遺構	東観音寺遺跡：基壇、礎石　西観音寺遺跡：基壇、石積み、土坑						
遺物	東観音寺遺跡：山茶碗　西観音寺遺跡：灰釉陶器、山茶碗、古瀬戸						
有形文化財	聖観世音菩薩立像（県指定、平安）						
参考文献	美濃市教育委員会 2012『美濃観音寺山古墳・長福寺遺跡・西観音寺跡・東観音寺遺跡』美濃市文化財調査報告書34、美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻、美濃市 1979『美濃市史』通史編下巻						
備考	美濃市教育委員会により平成3・4年度に東観音寺遺跡、平成4・5年度に西観音寺遺跡の発掘調査が行われた。同地区的江童寺境内にある観音堂には、観音寺から移されたとされる聖観世音菩薩立像（県指定重要文化財）が安置されている。						

**遺構の概要** 東観音寺遺跡・西観音寺遺跡は美濃権現山山地の南端に立地する。東観音寺遺跡は南に派生する尾根上に、西観音寺遺跡は東観音寺遺跡が所在する尾根の谷筋を挟んだ西側丘陵裾に位置する。

東観音寺遺跡は観音寺跡で、方形基壇が検出された。基壇は東西15.4m、南北14m前後で、北側辺は観音寺山の丘陵裾部にあたり明確な形成がされていない。基壇平坦面は東西12m前後、南北11m前後で、基壇形成は尾根上の岩盤を削り出し形成されている。基壇の上面では、礎石と考えられる川原石が14点確認されたが、原位置を留めていない。

西観音寺遺跡は、観音寺に付随する中世墳墓群である。基壇状の墓域2か所（墓域1・2）とその他墓域1か所（墓域3）が確認された。墓域1・2では石組みを伴う方形の基壇が検出された。墓域2では、基壇のほかに川原石・角礫が充填された土坑墓と考えられる土坑が検出された。墓域3は、長軸が2m未満の川原石・角礫が充填された土坑墓が3基検出された。

**遺物の概要** 東観音寺遺跡からは山茶碗が3点出土し、1つは浅間窯下1号窯式期に比定される。西観音寺遺跡からは、墓域2の2基の土坑墓内から明和1号窯式期に比定される山茶碗と古瀬戸後期様式に比定されるⅢ類の瓶子が出土し、墓域3の土穴墓から山茶碗皿が出土した。このほかに、古瀬戸の折縁深皿や擂鉢、鉄軸広口壺、灰釉瓶子等が出土した。

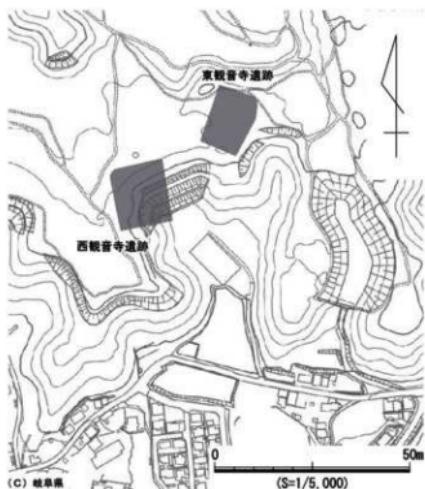


図23 東觀音寺遺跡・西觀音寺遺跡 位置図



図24 東觀音寺遺跡 全体図

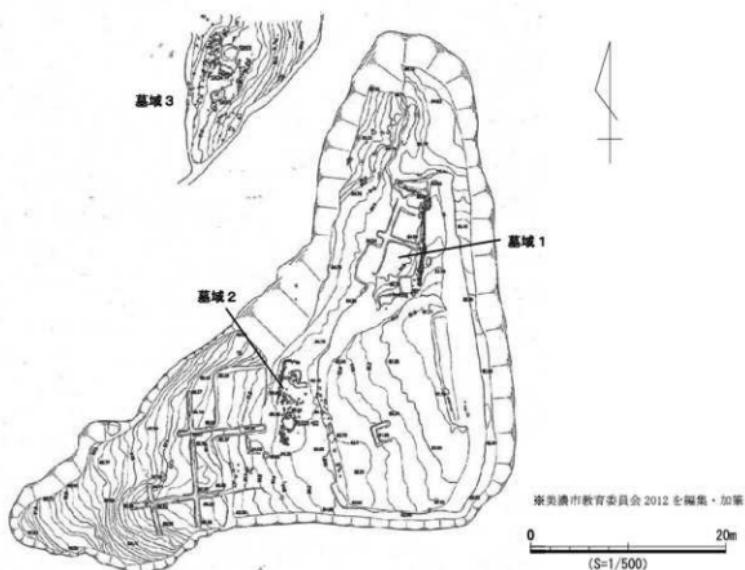


図25 西觀音寺遺跡 全体図

## [美濃加茂市]

地区	中濃	寺院番号	11054	県道跡番号	21211-7294	分布図番号	M7
ふりがな	まんねんさんだいこうじ（もとだいこうじあと）			所在地		美濃加茂市蜂屋町	
寺院名 (史跡・遺跡名)	万年山大興寺 (元大興寺跡)						
時代区分	中世～近世			宗派		天台宗若しくは真言宗か →臨済宗	
立地	山腹		現状(植生)		畠地・山林(アカマツ)		
東西規模	200m	南北規模	120m	標高(比高差)	107m (20m)	平坦面分類	E
沿革	大興寺は、1103 瑞林寺の北東約 500m の山腹にあった寺で、明治初年廢寺となった。江戸時代には瑞林寺の寺家に編有されていたが、万年山という山号を有し、「大興寺殿藏山珍公禪定門」という開基をもつ独立した寺院であった。同寺は、岸勘解由（生年不詳～1565）の父である藤山珍公禪定門の為に建てられたともいわれるが、寺跡に南北朝中期頃の宝篋印塔、五輪塔の残欠があることや、現在瑞林寺にある木造弥勒仏坐像（県重要文化財、室町時代）がもとは大興寺にあったことなどから、創建は相当古いと考えられている。『美濃加茂市史』では、恐らく天台宗か真言宗であったのが、岸氏の菩提寺になった際に臨済宗に転宗したものとされている。						
遺構	—						
遺物	五輪塔、宝篋印塔、山茶碗、かわらけ、中世擂鉢、常滑焼、鉄軸陶器、天目茶碗						
有形文化財等	—						
参考文献	美濃加茂市 1980 『美濃加茂市史』通史編、美濃加茂市・坂祝町・富加町 2017 『夕雲の城』、美濃加茂市民ミュージアム 2019 『瑞林寺 五百年のはるかな旅展』						
備考	蜂屋地区に残る逸話として、「堂洞合戦で織田信長に攻められたとき、堂洞城の近くに仏頭を納めたお堂があり、燃やされはいけないと、村人が仏頭を抜いて土中に埋めたというものがある。堂洞城近くに「弥勒谷」という伝承地名が残り、その近くに埋められたか。その後、仏頭は掘り起こされ、大興寺に安置してあったものを元禄 11 (1698) 年に復原修理をした。」という話がある。						

**調査所見** 「加茂郡蜂屋四郷村絵図」（寛政 12（1800）年、個人蔵）には、瑞林寺の東北に大興寺と記載され、「瑞林寺境内絵図」（安永 4（1775）年、瑞林寺蔵）には、大興寺の建物配置が描かれ、洞地形の奥地に 4 棟の建物が建っていたことがわかる。絵図に描かれた場所は、瑞林寺の北東約 400 m の洞地形（奥行きがない谷地形）にあり、最も広い半円状の平坦面①は約 40m 四方程度の広さがある。平坦面①の南部から直線の通路が南西方向に延び、通路の両側にも段状に平坦面が連続する。平坦面①を含め、これらの平坦面は現在畠地として利用されている。平坦面①北側の山腹斜面には平坦面が 3 段あり、この平坦面の東側には斜面際に沿って小道が最上段まで続いている。美濃加茂市教育委員会の御教示によると、かつてはこの山腹の平坦面に石塔が安置されていたといい、大興寺の墓域であった可能性がある。小道は、山腹の平坦面を囲むように南西方向へ続き、瑞林寺靈苑へ至る。



図26 万年山大興寺（元大興寺跡）地形観察図

## [可児市]

地区	中濃	寺院番号	14003	県遺跡番号	一	分布図番号	N7
ぶりがな	せりりょうざんやくおうじ			所在地		可児市東帷子	
寺院名 (史跡・遺跡名)	清涼山薬王寺						
時代区分	古代（平安）～			宗派		天台宗	
立地	丘陵			現状(植生)		山林（アカマツ）	
東西規模	210m	南北規模	270m	標高(比高差)	111m (20m)	平坦面面積	B+D
沿革	地元に残っていた古文書によれば、本尊の薬師如来坐像をはじめとする諸仏像は、行基や惠信の作といい、戦国の世にこれらの仏像を安置した薬師堂は粗末なもので2間×3間の掘立柱の廻いもないものであったという。万治2（1659）年、3間×4間の板廻いの堂を建て、更に元禄16（1703）年に8間×6間の堂を建立し、元文4（1739）年に安八郡神戸の山王社僧内の十輪院を移して清涼山薬王寺とした。本堂内南隅には弘法大師、北隅には護衛の馬鳴（めみよう）菩薩が祀られる。可児新四国五九番札所である。						
遺構	一						
遺物	宝篋印塔、五輪塔						
有形文化財等	木造薬師如来坐像、木造持国天・増長天立像（以上県指定、平安）、木造阿弥陀如来坐像（市指定、平安）						
参考文献	可児町 1980『可児町史』通史編、可児市教育委員会市史編纂室 2006『薬王寺—仏像 建築 大般若経一』（可児市史調査報告書第1集）						
備考	「帷子ノ庄前々之事覚」に「近所田畠之字名ニ寺号・山庵多ク有之候」とあり、薬王寺周辺には「上清涼寺」「瑞光寺」「吉義寺」など寺院に関する小字が存在する。なお、現在の薬王寺はそのうちの「瑞光寺」に位置する。本堂北側の池は「薬師池」と呼ばれ、本尊の薬師仏がこの池から引き揚げられたという地域伝承がある。						

**調査所見** 東帷子地域北東部に位置する独立丘陵の西側丘陵中腹から丘陵裾にかけて境内が展開する。現本堂が建つ平坦面は、丘陵中腹を広く拓いており、西向きに本堂が建つ。本堂の南西側の空間は、現在駐車場として利用されている。現参道は、本堂正面から西へ直線的に伸び、その脇には五輪塔が並んでいる。本堂から約150m離れた地点に薬王寺の標柱が建つ。このことから、かつての境内地は現在よりもさらに西側へ展開していたと考えられる。本堂の北側は谷状の地形で、本堂から約10m標高が下がる。谷地形の中央には薬師池がある。薬師池は、谷地形の奥から水を引いており、池の中央に弁財天を祀っている。池の西側には水田が広がる。谷地形の奥の一段高い場所には祠跡があり、可児市教育委員会市史編纂室2006によると稻荷社であったという。本堂南側に建つ庫裏の東背後から丘陵頂に至る小路の脇に「■（禪の旧字か）覺靈神」「覺心德靈神」の石碑が建てられ、その脇で五輪塔火輪及び地輪を確認した。石碑の周囲に明瞭な平坦面ではなく、本堂背後の傾斜地に墓域が展開していたかは不明である。また、境内背後の傾斜地には、丘陵頂へ至る小路を複数確認でき、遊歩道として近年整備された道もある。

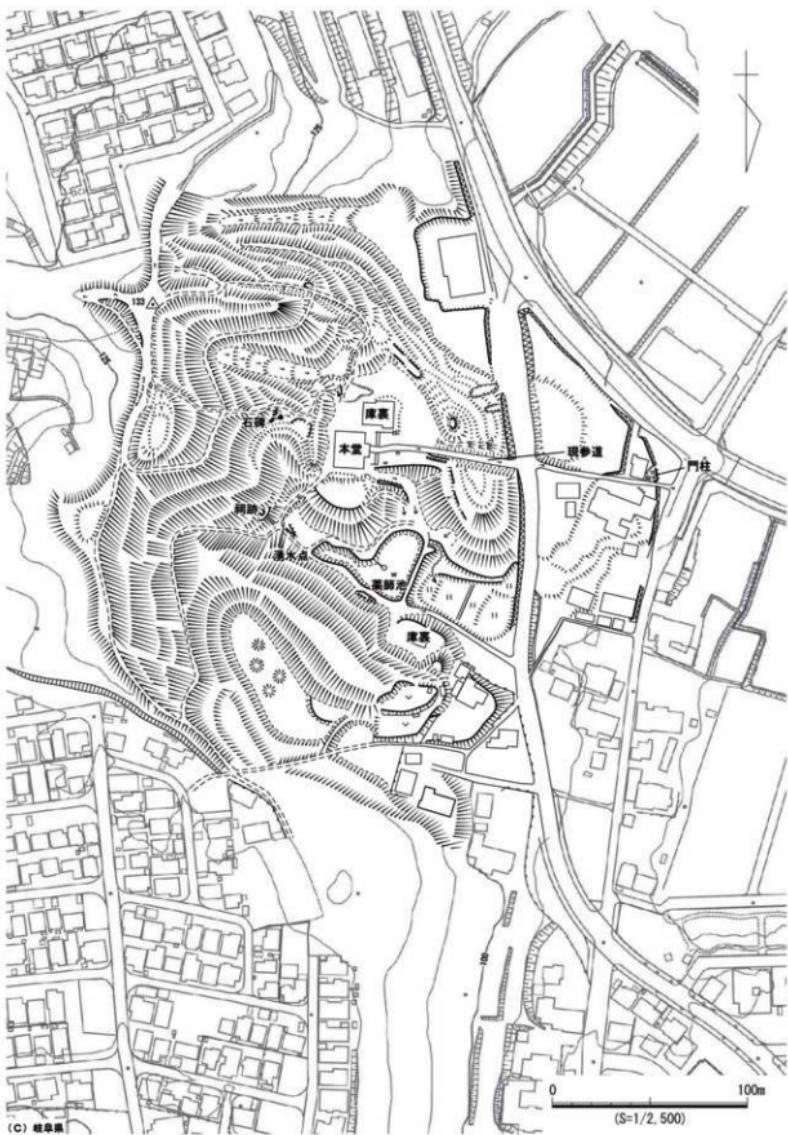


図27 清涼山薬王寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	14018b	県遺跡番号	21214-11959	分布図番号	M7
ふりがな		かじょうじきゅうけいだい (でんかじょうじあと)		所在地		可児市兼山	
寺院名 (史跡・遺跡名)		可成寺旧境内 (伝可成寺跡)					
時代区分		中世～		宗派		臨済宗	
立地		尾根上		現状(植生)		山林(アカマツ)	
東西規模	75m	南北規模	80m	標高(比高差)	260m (155m)	平坦面面類	E
沿革	山号は大竜山。元亀元(1570)年9月19日、金山城主の森可成が江州の宇佐山(滋賀県)にて戦死し、元亀2年の暮、その菩提を弔うため、森長可により金山城東の寺ヶ峰に大竜山可成禪寺が成立した。慶長5(1600)年、金山城三代城主の森忠政が信州川中島(長野県)へ転封された後、現在地に移転された。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	經当(県指定、縁倉)、森長可画像(市指定、安土桃山)						
参考文献	兼山町史編纂委員会 1972『兼山町史』						
備考	現在の可成寺には、市指定史跡の森家の墓所がある。墓所には森可行・可成・可隆・長可・蘭丸・坊丸・力丸が祀られているが、蘭丸・坊丸・力丸の供養塔は昭和42(1967)年に八百津町中野から移されたものであるという。						

**調査所見** 伝可成寺跡は木曾川中流域の左岸に立地する古城山に所在し、美濃金山城から南東約385mの「寺ヶ峰」に位置する。堂宇を建てることが可能な平坦面は尾根上に設けられた1面のみで、長さ70m×幅20mの広さがある。平坦面の東部には、4.5m四方の基壇状の高まりがある。平坦面の北西端部には、「座禅石」と呼ばれる上面が平らな岩が露出する。平坦面の北東、南東、北西、南西端にそれぞれ道が接続し、北西方向の道を下ると美濃金山城の大堀切へ至る。北東方向の道を約60m下った場所には、「信長の休石」との伝承がある上面が平らな岩がある。織田信長が休石で休んだかどうかはわからないが、美濃金山城との位置関係を考えると、森氏が入城した時の入城ルートであった可能性は十分にあり得る。また、北東方向の道から伝可成寺跡を見たとき、寺跡が大堀切の手前にあることから、この寺院が城の守備的な要素をもっていた可能性も考えられる。

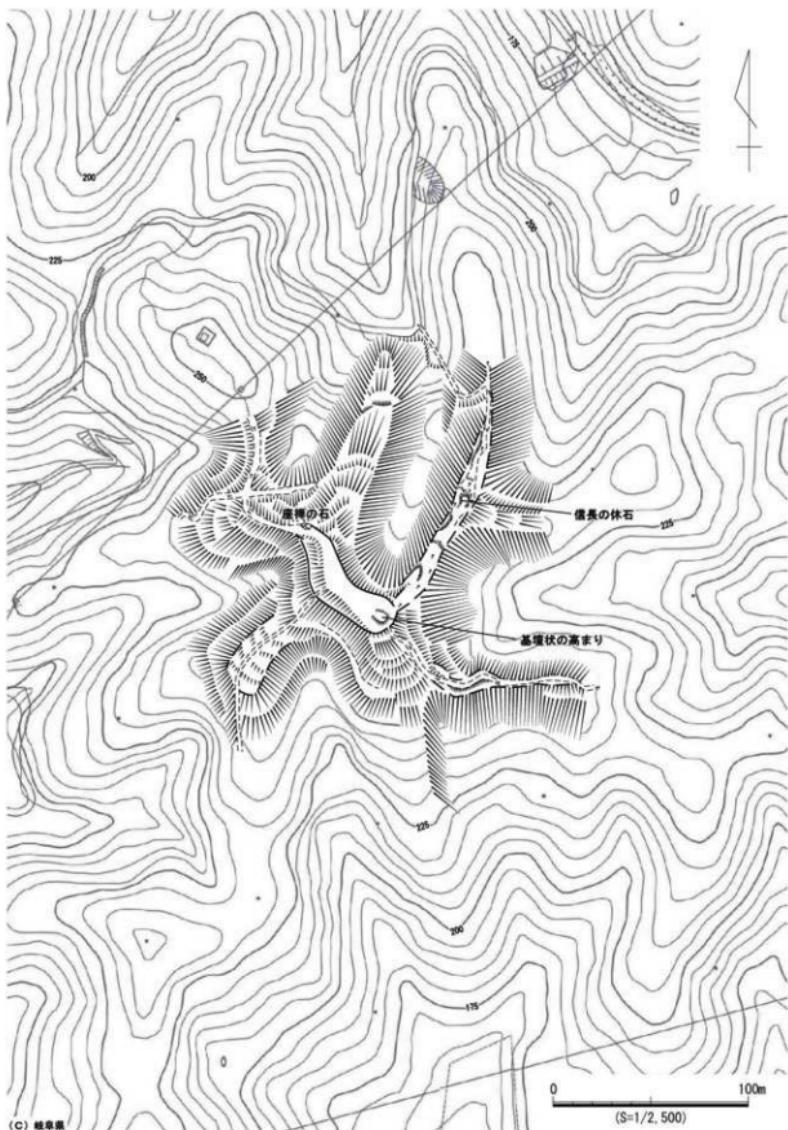


図28 可成寺旧境内（伝可成寺跡） 地形観察図

## [郡上市]

地区	中濃	寺院番号	19004	県遺跡番号	21219-747	分布図番号	65
ふりがな	はくさんちゅうぐうちょうりゅうじ (ちょうりゅうじあと)			所在地	郡上市白鳥町長滝杉山		
寺院名	白山中宮長瀧寺						
(史跡・遺跡名)	(長瀧寺跡)						
時代区分	古代～			宗派	法相宗一天台宗		
立地	山麓			現状(植生)	神社境内、山林(スギ、ヒノキ)		
東西規模	1000m	南北規模	1500m	標高(比高差)	445(13)m	平坦面分類	A+C1+D
沿革	社伝によると、養老2(718)年、秦澄開山により成立し、始め法相宗であったという。本宮白山に対して、白山の登山口に位置する長瀧寺を中宮白山といい、養老7(723)年から神仏習合の白山本地中宮長瀧寺と号した。「長瀧寺真鏡正編上巻」によると、治安元(1021)年(天長5(828)年とも)に下された官符によって天台別院になったことが示される。当時は神仏混和の時代であり、長瀧寺と白山神社は神宮寺として並立していた。文永8(1271)年の大火災により14字が全焼、數十年をかけて30余坊の塔堂が順次再建され、その過程で多くの仏像や宝物が寄進された。最盛期には「六谷八院、神社仏閣三十宇、衆徒三百六十坊」を数えたと伝えられ、濃州の中宮として特に中世以降、東海地方における白山信仰の中心的な役割を果たした。江戸期に入ると長瀧寺の勢力は衰えを見せるが、寛政年間(1789～1801)には荒廃した諸堂が再建され、文政8(1825)年には大講堂の土棟供養が行われている。明治元(1868)年、神仏分離によって長瀧白山神社と白山長瀧寺に分けられた。明治32(1899)年には再び大火により堂宇の大半を焼失したが、大正～昭和時代にかけて主要な堂宇が再建され、現在に至る。						
遺構	礎石、石積み、基壇、池、集石、護摩壇跡、岩窟						
遺物	石燈籠、宝篋印塔						
有形文化財等	木造韋馱天立像、木造釈迦如来及両脇侍像、木造四天王立像、石燈籠、鉄軒轅手鉢、鉄製斧、銅仏頭鉢、古瀬戸黄釉瓶子、木造古楽面(以上国重文、鎌倉)、木造沙弥行兼坐像、木造地蔵菩薩立像、牛皮革鬘、朱根来瓶子(以上県指定、鎌倉)、和鏡12面(県指定、鎌倉～安土桃山)、木造唐櫃、莊嚴講執事帳(以上県指定)、木造独角杵、長瀧寺の觸口、長瀧寺の懸仏(以上市指定、室町)、白山中宮濃洲長瀧寺之圖(江戸時代末)、白山神社白山長瀧寺略圖(明治27年)、若宮家住宅(県指定)						
参考文献	高鷲村役場 1960『高鷲村史』、白鳥町教育委員会 1976・1997『白鳥町史』通史編上・下巻						
備考	長瀧寺の塔頭の1つである阿名院では、上記以外の仏像や絵図等の宝物を多く所蔵している。						

**調査所見** 長瀧寺及び長瀧寺から地続きの須河院谷・蓮原院谷、一ノ宿、阿弥陀ヶ滝、前谷床並社跡の位置を確認した。長瀧白山神社の本殿等は南面するに対し、長瀧寺の大講堂は東面する。大講堂跡は、現在の本堂より長軸短軸とともに約3間ずつ大規模で礎石列が残る。長瀧寺の北西にある須河院谷や蓮原院谷は、明治期の絵図にそれぞれ「六十ヶ坊跡」と書かれている。須河院谷の北部には地藏堂跡、阿弥陀堂跡と推定される平坦面があり、その周辺にも多数の平坦面が展開する。蓮原院谷では、蓮原川右岸で平坦面と岩窟を確認した。入蜂堂跡の南西約800mに一宿跡がある。護摩壇跡を部分的に確認し、谷を挟んだ西尾根上に石積みを作った平坦面、参道入口付近の石積みを確認した。「長瀧」の名の由来である阿弥陀ヶ滝には12m×8mの岩窟がある。前谷床並社跡には3段の石積みが残る。



圖 29 長瀧寺跡關係地形觀察圖作成地 位置圖

表 62 長瀬寺跡関係地形観察図作成遺跡一覧表

遺跡名等	所在地	出典文書等	図番号
白山中宮長瀧寺（長瀧寺跡）	郡上市白島町長瀧	『長瀧寺文書』『経聞坊文書』	図30
白山中宮長瀧寺（須河原院跡）	郡上市白島町長瀧	明治時代の蛤塙	図31
白山中宮長瀧寺（蓮原谷）	郡上市白島町長瀧	明治時代の蛤塙	図32
白山中宮長瀧寺（一ノ宿）	郡上市白島町長瀧	『宝幢坊文書』	図33
白山中宮長瀧寺（阿陀鉢ヶ瀧）	郡上市白島町長瀧	『宝幢坊文書』 『石徹白志家文書』長瀧寺の境内なり	図34
白山中宮長瀧寺（前谷床社跡）	郡上市白島町前谷	『三井寺法燈記』・寺門記伝補録』『美濃國長瀧史料』	図35
円周寺旧境内（白山中居神社）	郡上市石徹白	『円周寺文書』『大崩講文書』	図39
奥の森白山社別当社（奥の宮跡）	郡上市高鷲町駄走	『越前廟山白坂本煩御領日記帳卷』 奥務（鶯之介）の奥を市たつ	図38
今清水社跡（白山中居神社）	郡上市石徹白	『石徹白志家文書』中宮境内に二三の宿	図42



図30 白山中宮長瀬寺跡（長瀬寺跡）地形観察図



図31 白山中宮長瀬寺（須河院谷） 地形観察図



図32 白山中宮長瀬寺（蓮原院谷） 地形観察図

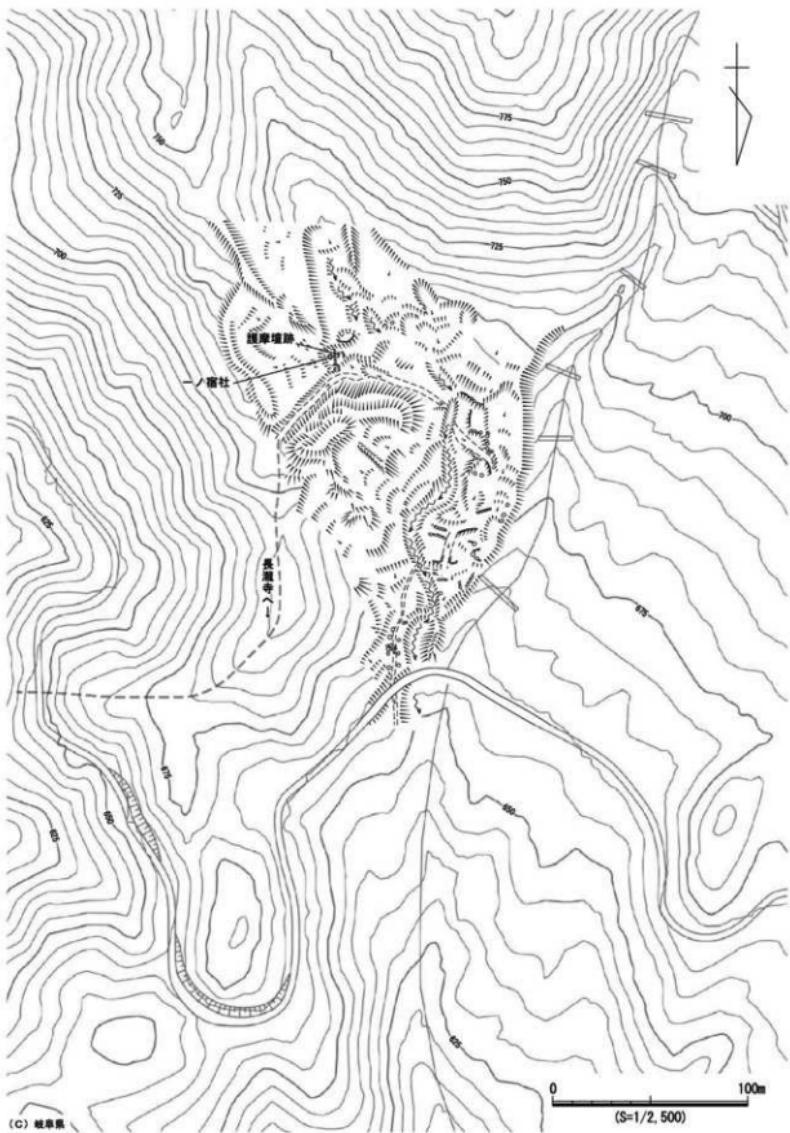


図33 白山中宮長瀧寺（一ノ宿） 地形観察図

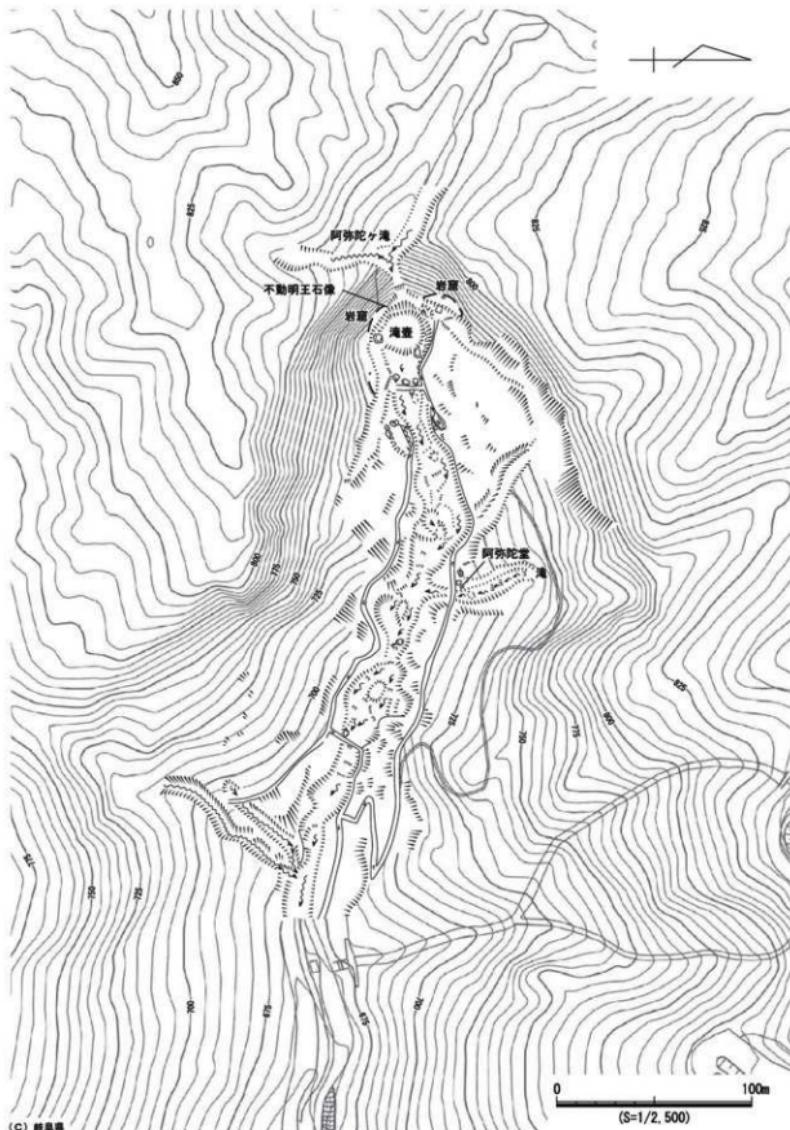


図34 白山中宮長瀧寺（阿弥陀ヶ池） 地形観察図

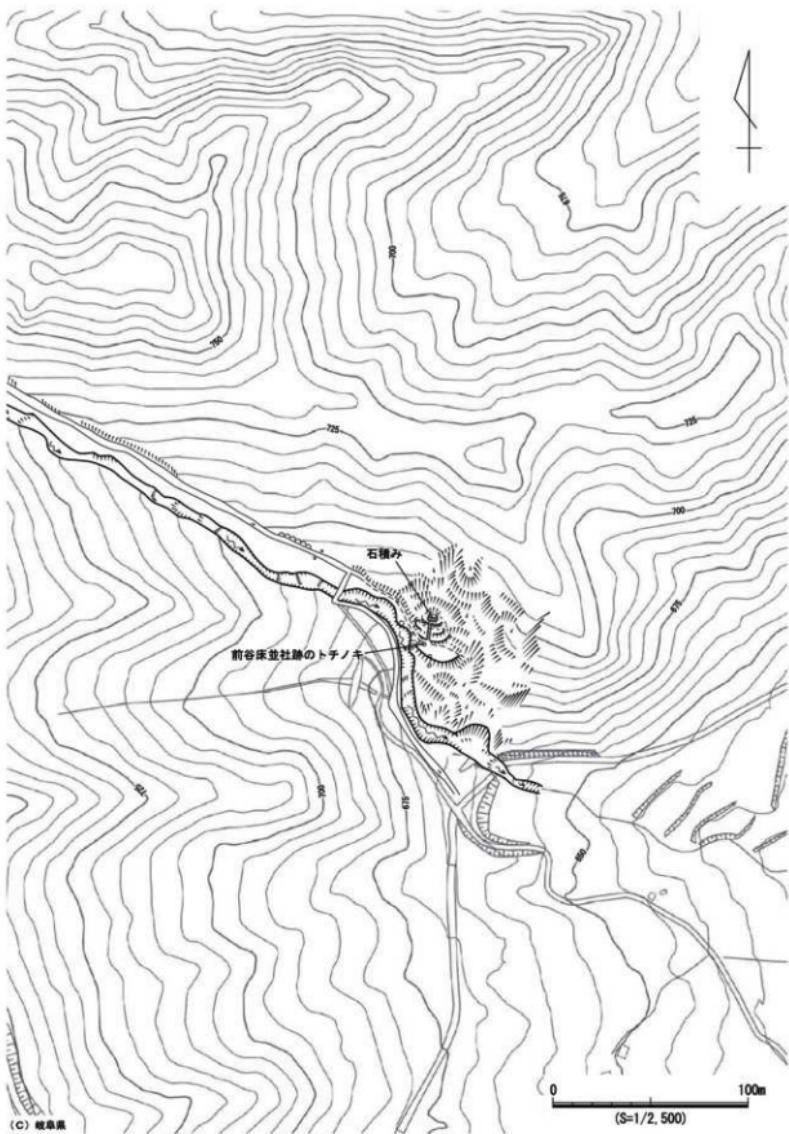


図35 白山中宮長瀧寺（前谷床並社跡）地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19109	県遺跡番号	21219-6771	分布図番号	J5・J6
ふりがな		こうかさんいわやほんぐう (なびほんぐういせき)		所在地	郡上市八幡町那比		
寺院名 (史跡・遺跡名)	高賀山巖屋本宮						
時代区分	古代～			宗派	真言宗		
立地	尾根上			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	220m	南北規模	170m	標高(比高差)	454(37)m	平坦面分類	D
沿革	高賀山六社の1つで、現在の本宮神社。伝承によると、村上天皇の天暦年間(947～957)、瓢ヶ岳に悪鬼がいてたえず住民に危害を加えたので、藤原高光がこれを退治し、その後高賀山を切り開むように麓に6か所の神社を創建した。そのうちの一社といわれ、別名は巖屋本宮や藤谷本宮寺ともいう。鎌倉時代後半から南北朝時代にかけて隆盛を誇ったものの、大洪水による山津波によって悉く埋没したとも伝えられている。天正3(1575)年、遠藤慶隆が本殿の再營及び鳥居を修築して当社と新社へ高13石余を寄付し、その後代々統いて同じ寄付を行っていた。明治40(1907)年3月27日に神饌幣帛料供進神社、大正12(1923)年2月14日には神社会計規定適用神社にそれぞれ指定され、現在に至る。						
遺構	石積み、参道						
遺物	五輪塔、宝篋印塔						
有形文化財等	那比本宮の五輪塔及び宝篋印塔(県指定、五輪塔：鎌倉後期、宝篋印塔：南北朝～室町)						
参考文献	太田成和編 1987『郡上八幡町史』下巻、八幡町役場、六社一観音めぐり連絡協議会 2016『高賀山六社一観音めぐり』						
備考	東へ1.5km離れた別の谷に那比新宮神社がある。						

**調査所見** 境内は狭い尾根上に展開し、標高453.9mの尾根上に北東向きの本殿、一段下に拝殿がある。拝殿正面から伸びる現参道の両脇に、階段状に展開する残りの良い平坦面を確認した。現参道沿いには石積みが残る。平坦面のある尾根の南側を沢が那比川へ流れ込むが、本殿の南側では滝になっている。また、尾根の北側にも沢が流れ、境内の北東端部で南側の沢と合流する。境内から沢を挟んで南東約75mの場所には、県の重要文化財に指定されている「那比本宮の五輪塔及び宝篋印塔」が巨岩前に安置されている。また、平坦面のある尾根上には相当の樹齢年数と思われる巨木が数本あり、南隣の尾根上や谷には巨岩が多くある。本殿南側の道から尾根を2.4km西へ登ると、高賀山山頂(標高1224.2m)へ至る。

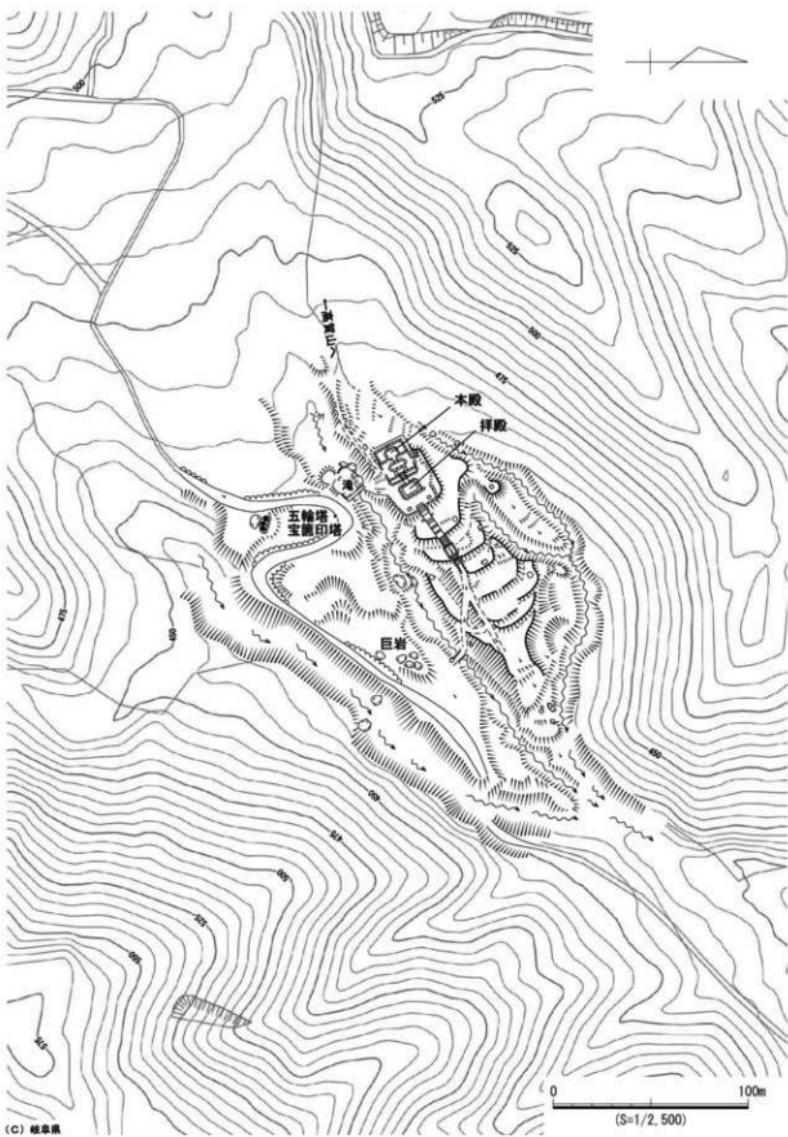


図36 高賀山巌屋本宮（那比本宮遺跡）地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19129	県遺跡番号	21219-978	分布図番号	16
ふりがな	はくうんざんかんのんどう (はくうんざんちゅうせいこばぐん・はくうんざんこぼ)			所在地	郡上市大和町本村剣字中矢田		
寺院名 (史跡・遺跡名)	白雲山観音堂 (白雲山中世古墓群・白雲山古墓)						
時代区分	中世～			宗派		不明	
立地	山頂			現状(植生)		山林(コナラ)	
東西規模	60m	南北規模	110m	標高(比高差)	424(136)m	平坦面面類	D
沿革	寺院としての成立時期や詳細な沿革は不明であるが、かつては七堂伽藍があったとも伝えられ、出土した遺物から中世の信仰の場であったと考えられている。山腹の観音堂(白雲山下段遺跡の一画)は江戸時代に再建されたようだが、現在は礎石のみが残る。本尊の十一面觀音は播磨国清水寺に遷座されたと伝わるが、清水寺は何回かの火災に遭っており記録はない。天保 14 (1843) 年、慈志により大間見村八幡宮の古堂を賣い受け、仮の社を建立。以前蓋の中・山の欠け口から発見され秘藏してきた三体の觀音像を仏堂に遷座した。弘化 3 (1846) 年、参道に 33 体の觀音石像を建立した。						
遺構	礎石、石積み、中世墓群						
遺物	五輪塔、石仏、懸仏、金銅製仏像、銅錢、火打鍊、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、常滑産陶器、古瀬戸(三耳壺、四耳壺、瓶子、土瓶)						
有形文化財等	白雲山観音堂古寺の懸仏、古瀬戸三耳壺(以上市指定、鎌倉～室町)						
参考文献	名古屋大学文学部考古学教室 1974『大和村の遺跡』(上段古墓群発掘調査報告書)、大和村 1984『大和村史』通史編上巻、大和町 1988『大和町史』通史編下巻、観音講中 2019『白雲山観音堂』						
備考	大和村 1984 によると、2か所の古墓群からは、鎌倉期～室町期の宝鏡印塔・五輪塔が確認されている。一群は山頂から南へ延びる尾根の中腹にある標高約 420m の平坦面に不完全な五輪塔が 4 基あった。もう一群は山腹の西南斜面にある二段になったかなり広い平坦面の西北の高台に 9 基の五輪塔があった。元は 1 基の宝鏡印塔と 12 基の五輪塔の計 13 基が存在したと推定されている。五輪塔群の西側は地獄谷と称す急斜面で、山崩れで五輪塔の一部が転落した形跡があるという。また、蓋の中や山の欠け口から觀音尊像が三体出現しそのうち一体(金銅製)が残り、山麓の太子堂で祀られる。白雲山や麓の細から懸仏残 4 体や古い金銅仏が出土し、当遺跡下方の觀音堂近くからも懸仏が発見された。2か所の古墓群のうち下段の古墓群からは、昭和 47 年に五輪塔の盛土の崩れから納骨された古瀬戸灰釉四耳壺が出土した。						

**調査所見** 白鳥方面から続く比較的低い山塊が終わるその南端一帯を白雲山といい、国道 156 号と県道劍大間見・白鳥線の分岐点から北東約 500m の位置、標高約 500m に位置する。白雲山山頂から南への尾根南端頂部(標高 423.6m)にある 90m × 25m の北東～南西方向に長い平坦面を中心に、地形に沿って不定形な平坦面が展開する。この平坦面は聖觀音菩薩像が出土した地点で、北東部に礎石、南西部に中世墓群がある。現觀音堂は、この平坦面の 1 段下の平坦面(25m × 20m)に建ち、觀音堂の南西側には東西方向と南北方向に列をなす礎石列がある。礎石列の長軸は、平坦面の長軸の向きと一致する。西・南・東の 3 方からの参道があり、南及び東の参道沿いには石仏(三十三觀音)が安置されている。西の参道北側の谷には湧水点があり、水場へ下りる道がある。



図37 白雲山觀音堂 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19131	県遺跡番号	一	分布図番号	G5
ふりがな	おくのもりはくさんしやべつとうじ (おくのみやあと)			所在地	郡上市高鷲町鮎立二ノ瀬		
寺院名 (史跡・遺跡名)	奥の森白山社別当寺 (奥の宮跡)						
時代区分	古代～近世			宗派	不明		
立地	山腹			現状(植生)	山林(ミズナラ)		
東西規模	300m	南北規模	400m	標高(比高差)	636(35)m	平坦面面類	D
沿革	由緒によると、養老年間(717～724)、泰澄が白山登山の際にこの地に滞在され、当地を白山の間近の靈地として、口の宮(現鮎走白山神社)、奥の宮、並びに七堂御籬を建立し、白山三所の尊像を安置したという。このことについて、『濃北一覽』巻二に記載の「鮎走白山記録」には、「大師御年三十六歳、大日ヶ嶽尾伝いに白山へ御入、其時洲原より老人、長滝より老人、鮎走より老人、石徹白より老人右四人山へ案内にいづる。其後、鮎走に大伽藍建立あり中宮と定めたまう」とある。永禄2(1559)年、大伽藍は兵乱により焼失するが、奥の宮及び口の宮は焼失を免れた。正徳元(1711)年、神殿及び拝殿等を再建した。奥の宮は、「奥の森白山社」として境内六反歩に別当寺、脇社を揃えていた。明治41(1908)年、奥の森白山社は鮎走白山神社へ合併された。						
造構	礎石、石積み、石段、参道						
遺物	一						
有形文化財等	一						
参考文献	高鷲村役場 1960『高鷲村史』、美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻、高鷲村史編纂委員会 1986『高鷲村史』統編、岐阜県高鷲村						
備考	祭神は、伊弉冊尊、伊弉諾尊、菊理姫命。口の宮である鮎走白山神社は、奥の宮から南600mの山麓に立地する。						

**調査所見** 長良川の支流である大洞川中流域の左岸に展開する。①には、南西向きの建物跡があり、奥の森白山社の社殿が建っていた場所と思われる。この平坦面に伴う石積みは近世以降のものと思われる。建物跡の正面から石段が2つ重複して伸び、東側の石段は下段の石段と軸が合い、古いものであると思われる。①の一段下の平坦面には、礎石が残る。これら①の周辺は、社殿等があった境内の中心域であると思われる。この北西側には、奥行きがなく東西方向に長い平坦面が連続する範囲(②)がある。平坦面間を通って往来していたようであり、一部で石積みを確認した。中心域の南東側や、大洞川を挟んだ南西側(③)には輪郭不明瞭で緩やかな傾斜をもつ平坦面群が広がる。③では、直線的な段を確認でき、坊院などの施設が展開していた可能性もあるが、詳細は不明である。③の西縁に沿う通路は、大洞川を渡って②へ向かい、大洞川と並行する通路によって、それぞれの場所を往来することができる。また、中心域の南西側で、大洞川に高低差がつき、滝になっている。

口の宮(鮎走白山神社)の周辺についても踏査を行ったが、古くからの平坦面は確認できなかった。

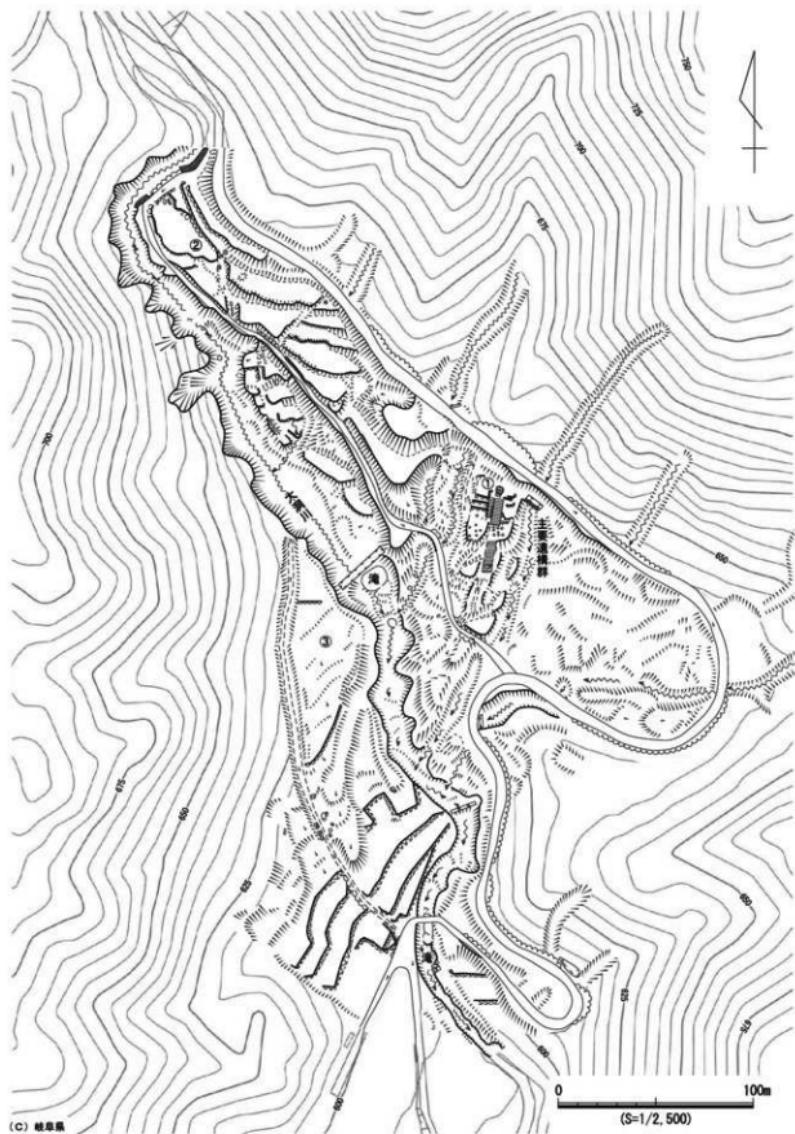


図38 奥の森白山社別当寺（奥の宮跡） 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19140b	県遺跡番号	一	分布図番号	G5
ふりがな		えんしゅうじきゅうけいだい		所在地	郡上市白鳥町石徹白		
寺院名 (史跡・遺跡名)		円周寺旧境内					
時代区分		古代		宗派	天台宗→真宗		
立地		段丘(山麓)		現状(植生)	境内地		
東西規模	20m	南北規模	15m	標高(比高差)	726(12)m	平坦面面積	D
沿革	当寺は、中居神社境内の看板によると、昔、中居神社の別当寺に円周寺と云う寺があり、泰澄の弟子によって創立されたと伝えられているという。養老2(718)年、泰澄により成立し、もと天台宗であつたと伝わる。文明6(1474)年、嘉念坊明心が蓮如に帰依し、真宗大谷派に転宗した。当初は上在所にあつたが、明治5(1872)年に字小沢(雷鳥山円周寺)に移る。また、宝暦10(1760)年に円周寺の住職であった人物は淨安で、その頃は白山を目指す信者が絶えず訪れ、円周寺は信者の為に一夜の宿貸しを行っていた。白山中居神社の裏山300mの場所にある大杉には淨安にまつわる伝承があることから「淨安杉」と呼ばれるようになったという。						
遺構	石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	白鳥町教育委員会 1976『白鳥町史』通史編下巻、白鳥町教育委員会 1977『白鳥町史』通史編下巻、美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻、石川県白山自然保護センター2001『白山の禅定道』(白山の自然誌21)						
備考	白山中居神社は由緒によると、景行天皇12(紀元前38)年6月15日(弥生時代にあたり)、吉備の武比古が国家鎮護の為に伊弉諾大神を祀ったのが創始であり、養老年間(717~724)に泰澄が白山を開山し、社殿を修めたと伝わる。この神社は、長瀧白山神社(現長瀧寺)とともに信仰の拠点として機能した。「神社名の「中居」は、白山山頂の本社と長瀧寺との中居(中間)に位置したことによる」(石川県白山自然保護センター2001)という。明治初年に神仏分離となり、当神社の仏像や仏具は大師講(通称観音堂)に祀られた。銅造虚空蔵菩薩坐像(国指定、鎌倉)及び金銅金剛童子立像(県指定、室町~江戸)は、もと白山中居神社の御神体であった。銅製榜口(県指定、室町)ももと白山中居神社所蔵で、織田信長が白山別山権現に寄進したといわれるものである。境内は県下でも稀な杉の森で、「白山中居神社の森」として県指定天然記念物に指定されている。また境内裏山は「白山中居神社のブナ原生林」として県の天然記念物に指定され、同じく県指定天然記念物の「石徹白の淨安スギ」もある。						

**調査所見** 円周寺旧境内の位置は明らかとなっていないが、白山中居神社の境内とその周辺の踏査を行い、地形観察図を作成した。境内は、宮川と石徹白川の合流地点に位置する。東西に長い140m×30mの平坦面が2段展開し、これらの平坦面の東端部に神社の本殿や拝殿、須賀神社等が建つ。本殿へ至る石段の左手には巖座がある。拝殿の南西側には「泰澄堂跡」と書かれた石看板が立てられている。2段の平坦面の西部には現登山道の登り口があり、広い空間となっている。この付近に円周寺があつた可能性があるが詳細は不明である。宮川の対岸に滝があり、その前面は浅瀬となっている。浅瀬は禅定古道とされる道付近につながるため、かつての禅定道はここを渡った可能性がある。

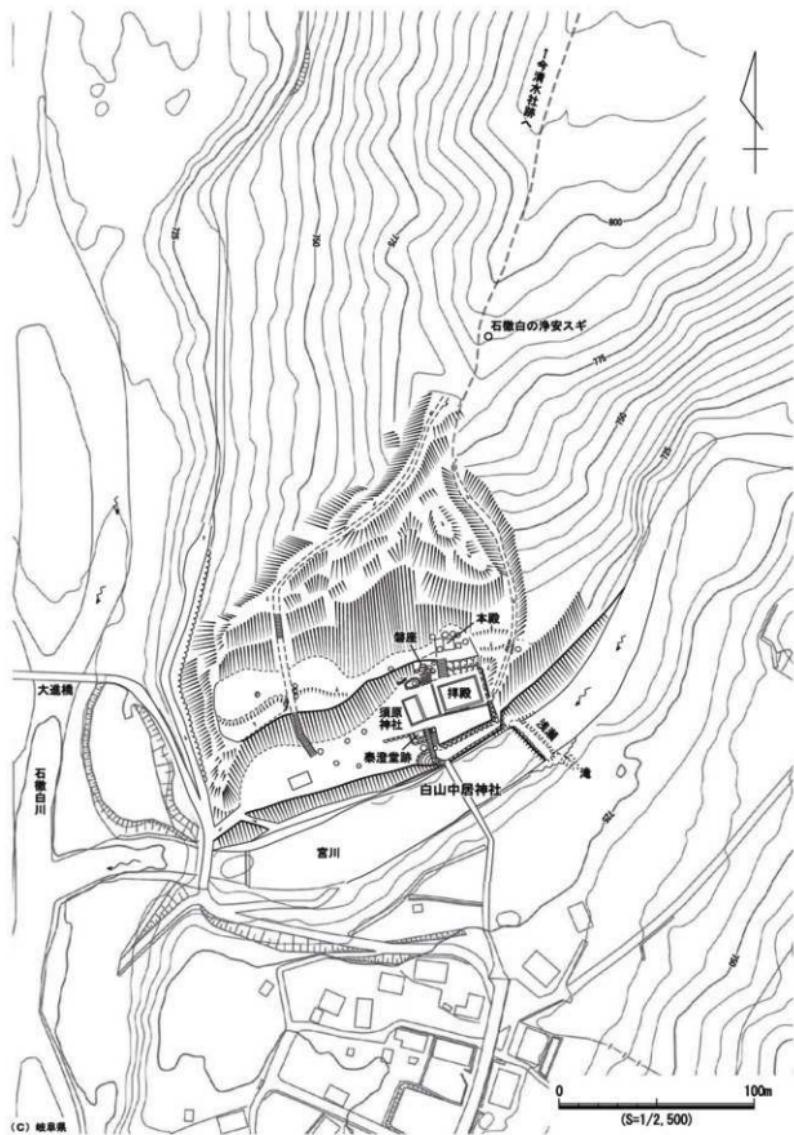


図39 円周寺旧境内 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19144	県遺跡番号	—	分布図番号	J6
ふりがな	くまのさんいしいでら	所在地			郡上市美並町山田		
寺院名 (史跡・遺跡名)	熊野山石井寺						
時代区分	古代～近世			宗派	天台宗		
立地	山麓			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	100m	南北規模	180m	標高(比高差)	251(21)m	平坦面面類	不明
沿革	<p>成立時期は不明であるが、推定樹齢 1000 年以上の巨木「神ノ御杖スギ」の伝承によると、応和元(961)年、紀州熊野の比丘尼俊応が当地を訪れ、夢のお告げによって小庵を結び、近くに瀧の権現を祀ったのが熊野神社の始まりであるという。また、縁起によると、天台宗武儀郡池尻村弥勒寺末で、天文 16(1547)年、神主平三郎盛弘が大般若經を奉納している。天正 18(1590)年、備後三原郡最広寺の禪甫が大般若經を奉納し、観音像 33 体建立し、熊野山石井寺と命名した。元禄元(1688)年、劫外が再建した。正徳 2(1712)年、海水山観音寺と称す。</p> <p>『美並村史』によると、「熊野別当庵、真言宗、赤池杉原氏神、観音寺」(『郡上領地留記』)との記載がある。以上から元禄 4(1691)年ごろまであった熊野神社の別当千手院が何らかの理由でなくなり、観音寺が別当となった可能性がある。杉原熊野神社境内にある観音寺は、真言宗熊野権現の別当寺で宝暦 9(1759)年の「美濃国杉原村、年内諸上納物目録」(山田真次家文書)によると「一、観音堂 3 間 4 面、棟ハほうきょう柿葺」と「一、庵老軒、但芭葺、熊野権現別當寺」の記録があることから、観音堂と庵と呼ぶ観音寺の 2 つがあったことが分かる。この観音堂については勘定院廣院の末寺としている。文化 7(1810)年の「五ヶ寺祖記録」には「天台宗當國武儀郡池尻村弥勒寺末杉原觀音寺」とあり、林廣院末寺の観音堂と弥勒寺末寺の観音寺の 2 か寺があった。明治元(1868)年、神仏分離令により庵寺となつた。</p>						
遺構	石積み						
遺物	—						
有形文化財等	<p>木造十一面觀音、木造阿弥陀如来坐像、木造虛空藏菩薩立像、木造藥師如來立像(以上市指定、室町後期)、杉原熊野神社の木造古樂面、杉原熊野神社の大般若經、紙本墨書き垂絞涅槃式説教誠經(以上市指定、室町)</p>						
参考文献	美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻、美並村教育委員会 1984『美並村史』通史編下巻						
備考	<p>俊応が袂に入れて来た小石が成長して弥勒石になり、土中にさした杖が神の御杖杉になったという伝承がある。木造古樂面の銘に「永正 10(1513)年、石寺熊野御宝殿以下略」とあり、石寺が石井寺の略とすれば、開基は永正 10 年までさかのぼることになる。熊野神社の主祭神は伊弉諾命である。</p>						

**調査所見** 現参道の石段は、標高 250.6m にある北東～南西方向に長い 65m × 20m の平坦面まで一直線に伸びる。この平坦面には拝殿が建ち、平坦面の南西端に観音堂、北東端には弥勒石がある。弥勒石の北側から谷沿いに山頂へ登る道がある。平坦面の一段上には、本殿及び稲荷社がある。以上の建物は全て南東方向を向く。石段の両側は緩やかな傾斜地が広がるが、地表面では建物跡等は確認できなかつた。現参道入り口の「神ノ御杖スギ」は、周囲 9.5m の巨木である。

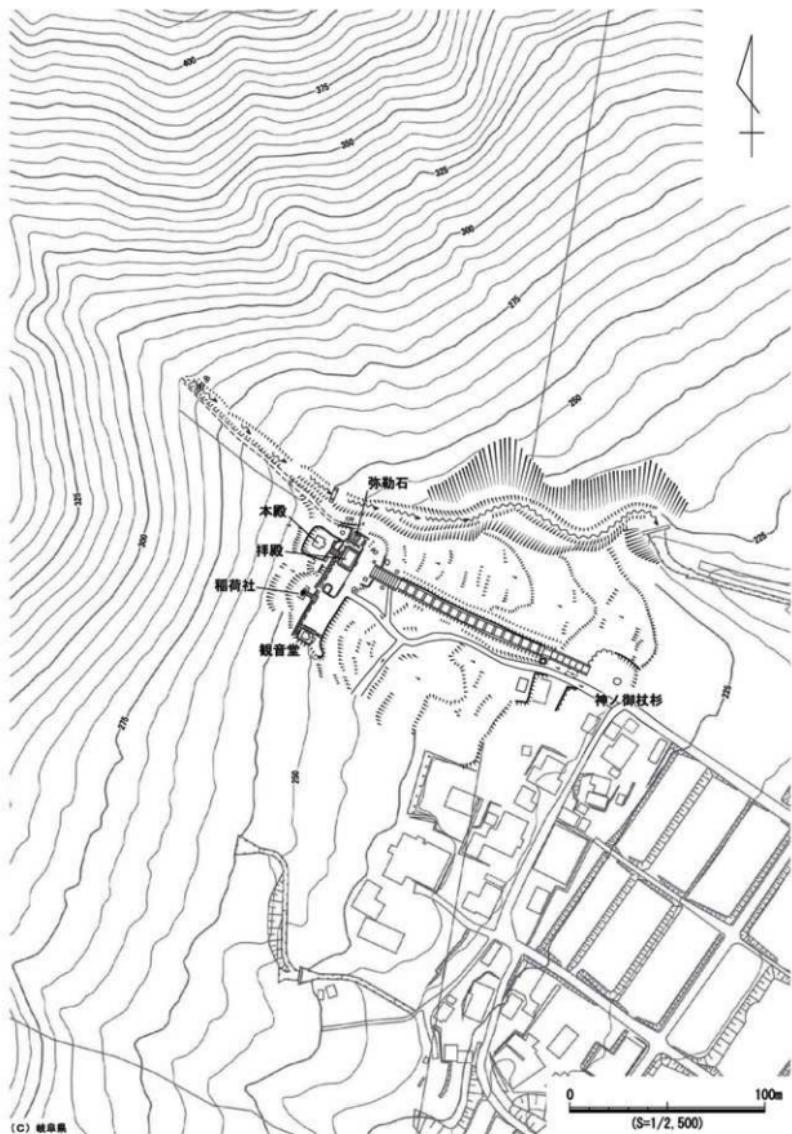


図40 熊野山石井寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19153	県遺跡番号	一	分布図番号	J6
ふりがな	こうかさんいわやしんぐうじ			所在地	郡上市八幡町那比西古ケ洞		
寺院名 (史跡・遺跡名)	高賀山巖屋新宮寺						
時代区分	古代～			宗派	真言宗		
立地	尾根上			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	150m	南北規模	250m	標高(比高差)	370(12)m	平坦面面積	D
沿革	高賀山六社の1つで、現在の新宮神社。1910巖屋本宮(現本宮神社)と同じく、天暦年間(947～957)、瓢ヶ岳に住む悪鬼を退治した藤原高光の建立といわれている。当社の記録によると、この地を昔は巖屋洞といっていたが、高光が社を建ててから新宮と改め、地名を取り巖屋新宮寺と称した。高賀山を取り囲むように麓に創建された6か所の神社の山名は、全て高賀山とした。当社はそのうちの第二の神殿で、もとの本堂は5間四方の七堂伽藍、拝殿は8間×16間で右に弥勒寺、左に安福寺があり、顕密両学頭・別当・社家が40余軒、小社末寺が85宇あったといわれている。これらを裏付けるものとして、正嘉(1257～58)の年号が入る懸仏などが多数あり、また貞和2(1346)年の新宮金剛尊体铸造の木札がある。天正3(1575)年には遠藤慶隆が本殿および外鳥居・内鳥居などを改築し、寛文3(1663)年に虚空藏大権現神社の建立、翌年には拝殿の造営を行った。巖屋本宮と同じく、代々の領主による13石の寄付があった。明治40(1907)年3月27日に神饌幣帛料供進神社、大正12(1923)年2月14日には神社会計規定適用神社にそれぞれ指定され、現在に至っている。						
遺構	石積み、石列						
遺物	一						
有形文化財等	那比新宮信仰資料(国指定、鎌倉～南北朝)、仏像、古瀬戸灰釉梅瓶、古常滑大瓶、大般若経附経櫃、五部大乗經附経櫃(以上市県指定、鎌倉～室町)、奉納武具(市指定、平安)、那比新宮神社の竜頭(市指定、鎌倉)、棟札、獅子頭(以上市指、室町)、伊万里神酒壺、鉄釉古瀬戸瓶子、五重塔金具残闕(以上市指定、南北朝)						
参考文献	太田成和編 1987『郡上八幡町史』下巻、八幡町役場、六社一観音めぐり連絡協議会 2016『高賀山六社一観音めぐり』						
備考	御神体が金剛空蔵菩薩坐像で、鎌倉時代から室町時代にかけて奉納された260体に上る懸仏があり、神仏習合が今に残る。社叢の面積は3,960m <sup>2</sup> で、「那比新宮神社社叢」として県の天然記念物に指定されている。						

**調査所見** 境内は現在新宮神社となっており、標高369.7mの18m×14mの平坦面に本殿が南向きに建ち、その正面に2本の巨木がある。その一段下に拝殿が建つ。拝殿正面から北東方向に伸びる石段は、本殿及び拝殿の軸とややずれる。現在社務所の建つ平坦面は参道沿いの平坦面の中では比較的広く、10m四方の堂が建ちそうな広さがある。参道沿いには巨木があり、山門跡や石積みを伴うテラス状の段がある。本殿から谷を挟んで西側にも平坦面が数段展開する。この平坦面を南西方向に5km登ると、高賀山山頂に至る。駐車場より北は近年の改変を受けている。



図41 高賀山巌屋新宮寺 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	19160	県遺跡番号	一	分布図番号	F5
ふりがな		いましみずしや		所在地	郡上市白島町石徹白		
寺院名 (史跡・遺跡名)		今清水社					
時代区分		古代		宗派	不明		
立地		尾根上		現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	40m	南北規模	25m	標高(比高差)	1046(11)m	平坦面面類	D
沿革	<p>詳細な成立時期は不明。景行天皇 12 年創立(紀元前 38 年、弥生時代にあたる)、養老 2(718)年に泰澄が勅請し成立した白山中居神社の境内地内であり、美濃禅定道の登山口の入口である。推定樹齢 1,800 年の巨木「石徹白のスギ」(国指定特別天然記念物)には、泰澄の揮した杖がこの大きさになつたという伝承がある。「石徹白のスギ」のそばに今清水社跡があり、現在は小さな祠があるのみだが、もとは修行所で、社殿や拝殿などがあった。</p>						
遺構	礎石列、石段						
遺物	一						
有形文化財等	石徹白のスギ (S32 国指定特別天然記念物)						
参考文献	<p>白島町教育委員会 1977『白島町史』通史編下巻、石川県白山自然保護センター 2001『白山の禅定道』(白山の自然誌 2)</p>						
備考	<p>養老元(717)年、泰澄によって開山された白山の山頂(禅定)へ至る道は、越前・加賀・美濃の三国から存在する。美濃国から白山禅定へ至る道を美濃禅定道といい、美濃馬場である長瀧白山神社を起点として、石徹白地区にある白山中居神社を通り、神鳩峰、三ノ峰、別山を経て御前峰へ至る。白山中居神社からは、美女下社、今清水社、神鳩社、水存権現社、別山室跡、加宝王子社跡、六兵衛室跡、南竈ヶ馬場、室堂、越前室跡を経て御前峰に至る。現存する登山道は「石徹白のスギ」から始まる。(白山中居神社については、19138 円周寺旧境内の調査略図参照。)</p> <p>美濃禅定道の範囲は、白山国立公園特別区(環境庁管轄、白峰自然保護官事務所)に指定されており、登山道の一部は観光道路として整備されている。</p>						

**調査所見** 「石徹白のスギ」の南西側、標高 1050m の地点に位置する。この地へは美女下社跡等がある谷川付近の平坦地をめぐりながら尾根伝いに南から到達することができる。地元の方への聞き取りによると、今清水社は白山中居神社の社殿から約 4.8km 離れているが、同神社の境内地にあたり、現在でも白山や別山への登り口として機能しているという。

南北方向に展開する上下 2 段の不定形な平坦面がある。上段の平坦面上には礎石列を確認した。上段平坦面の西側には、一段高い場所に小さな祠があり、祠の建つ平坦面から上段平坦面に降りる石段が残る。石徹白の大杉の北東約 50m の場所に湧水点があり、そこから湧水が南流し谷を形成する。

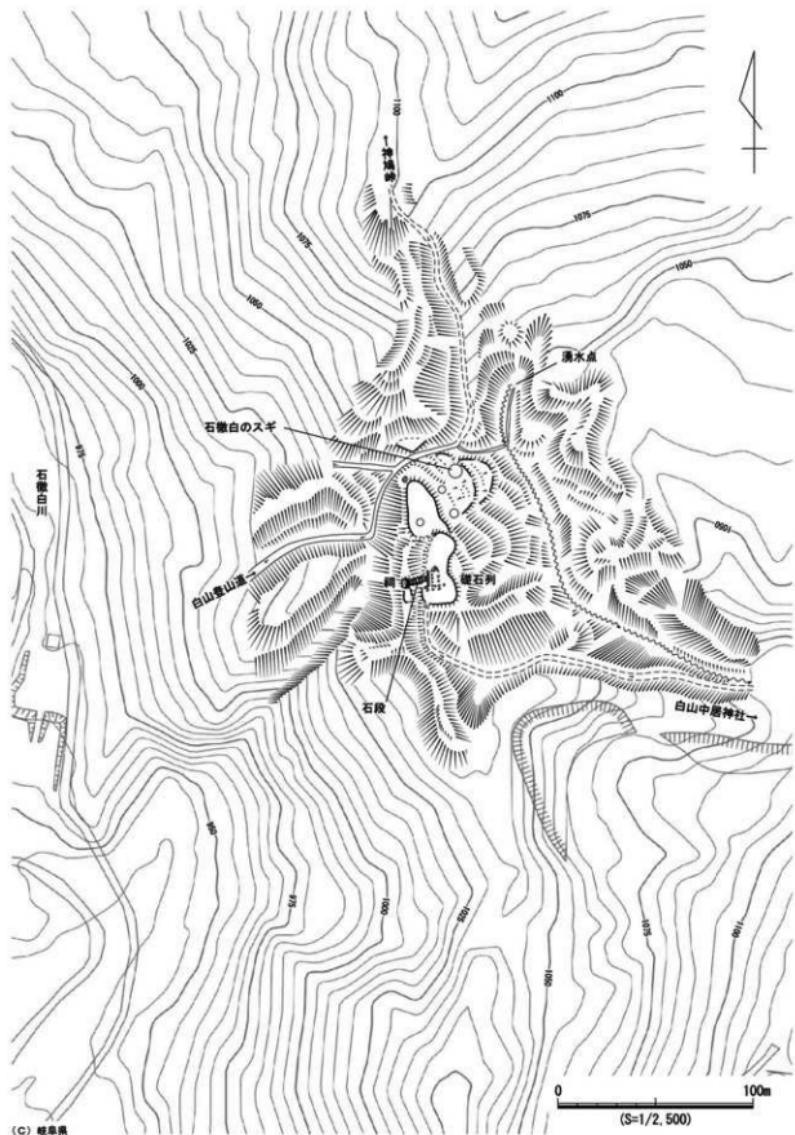


図42 今清水社 地形觀察図

(C) 経年累月

地区	中濃	寺院番号	19114	県遺跡番号	一	分布図番号	J6
ふりがな	こうかさんほしのみやかいがわじ			所在地	郡上市美並町高砂		
寺院名	高賀山星宮粥川寺						
時代区分	古代（平安）～						
立地	段丘						
東西規模	300m	南北規模	150m	標高(比高差)	259(4)m	平坦面分類	一
沿革	星宮神社は、高賀山六社の一つである。粥川寺は星宮神社の別当寺で、神社境内に立地した。粥川寺は、平安中期作の不動明王像と虚空蔵菩薩像があり、星宮神社所蔵の諸仏像から、平安時代中期には成立していたと推定される。美濃国神明帳には役行者を祀る雄角明神が記され、平安時代末期以降、星宮神社地域は神仏習合の中心地として栄えていた。周辺には奉仕する十二院があったという。平安時代には阿弥陀如来が祀られたが、鎌倉時代以降、白山信仰が広がる中で石徹白の白山中居神社の信仰が浸透し、虚空蔵菩薩を本地仏として祀るようになった。粥川寺は、星宮神社と盛衰を共にしたが、明治元（1868）年の神仏分離令により衰退。同6（1873）年頃廃寺か。昭和59（1984）年に、星宮神社の北西に本堂が移築された。						
遺物	宝鏡印塔、鶴口						
有形文化財等	大般若経巻第百十三残巻（天暦七（953）年十三日鷲村主実貴願経）（国指定、平安）、紙本墨書き波羅蜜多經巻（県指定、平安）、大般若経巻（市指定、平安～南北朝）、星宮信仰資料（県指定、懸仏40面（鎌倉～南北朝、阿弥陀如来、薬師如来、十一面觀音、聖觀音、虚空蔵）、木造虚空蔵菩薩坐像（南北朝～室町）、木造藏王權現立像（鎌倉、2幅）、木造虚空蔵菩薩立像、木造聖觀音菩薩立像、木造阿弥陀如来立像（以上鎌倉）、木造不動明王坐像（平安）、木造如來形立像（平安～鎌倉）狛犬（平安、1対）、古樂器、薬師如來坐像（以上市指定、室町）						
参考文献	美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻、美並村教育委員会 1984『美並村史』通史編下巻						
備考	宮より奥約1100mで飯が一日中湧き出た「飯の平」、宮より約2200m下の山の峯から白粥が一日中流れ「粥坂」、その付近を「大粥」、藤谷を改めて「粥川」といった。19004長瀧寺が文永8（1285）年焼失し再興するまでの間、高賀諸社が代わって中宮としての働きを行ったという。また、円空筆の大般若経が多数あり、粥川寺は円空とも縁のある寺であると考えられる。						

**調査所見** 星宮神社は粥川によって形成された谷地形（粥川谷）の奥に立地する。現在の粥川寺は、星宮神社の北東側、美並ふるさと館に接続して本堂が建つ。神社境内裏の山地について赤色立体図を確認したが、寺跡になりそうな平坦面は確認できなかった。明治時代の地籍図をみると、現在の星宮神社と同じ場所に、「神社地」と記載のある凸形状の地割がある。地籍図では、神社地に向かう参道が粥川沿いに伸び、参道の途中で北側に2本、南側に1本道が伸びる。凸形状の地割は参道を伴う施設に由来すると考えられる。参道の北側にも、参道幅が神社参道に比べて広いが、凸部が道に接する凸形状とみられる地割が2か所あり、粥川寺やその他の堂宇があった場所である可能性がある。この他、参道の北側には道で閉われた方形の地割や、幅の狭い長方形の地割がある。星宮神社・粥川寺の由緒には、「中世に「本殿、拝殿、護摩堂、三重塔、宝蔵、鐘楼等、不動院、大日院等十二院あり輪番で本坊を勤めた」とあり、主に参道の北側に境内が展開していたと考えられる。

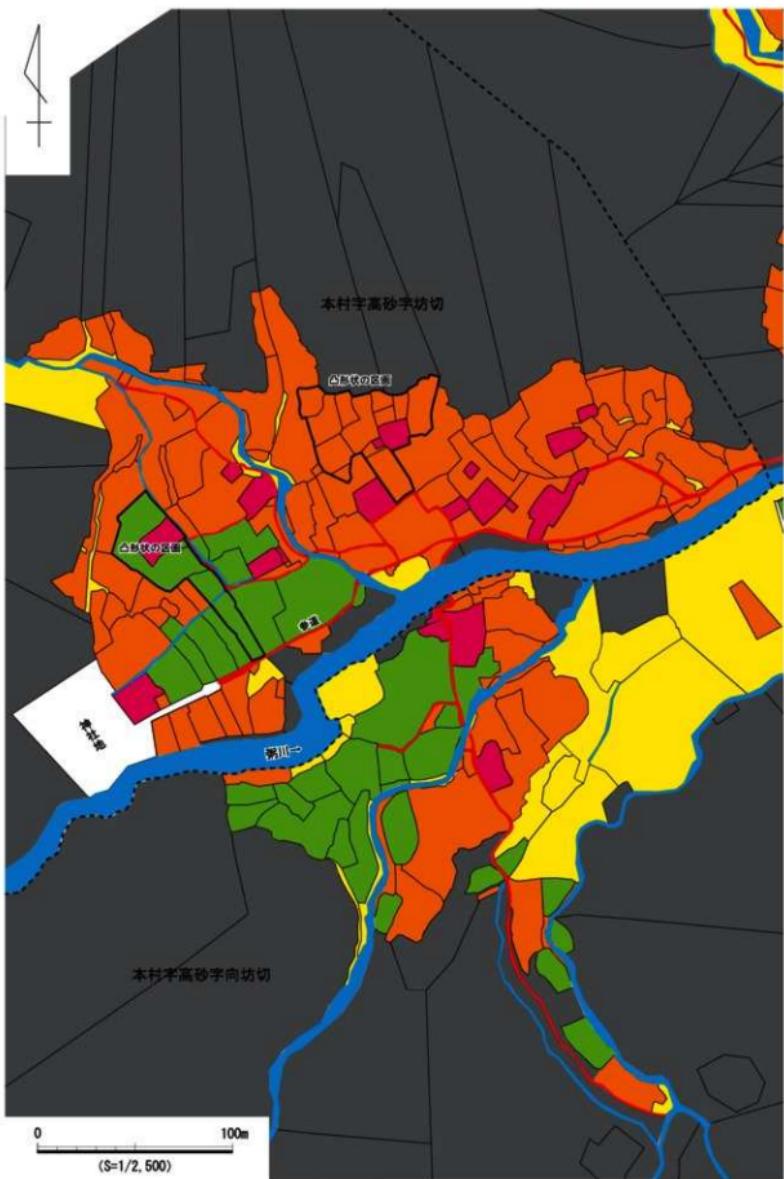


図43 高賀山星宮粥川寺 地籍図

## [坂祝町]

地区	中濃	寺院番号	34011	県遺跡番号	一	分布図番号	M6
ふりがな		ちゅうぼうじ		所在地	加茂郡坂祝町取組		
寺院名 (史跡・遺跡名)	中房寺						
時代区分	中世～近世（江戸）			宗派	天台宗か→臨済宗		
立地	山腹				山林（アカマツ）		
東西規模	220m	南北規模	350m	標高(比高差)	160m(100m)	平坦面分類	B+D
沿革	成立時期は不明であるが、郷部山いが洞の大檜が後る頂上付近に昔寺があったと言い伝えられ、『坂祝村誌』には「宝徳年間（1449～1452）に中房寺郷部山にあり」と記されている。現在は取組白山神社より尾根伝いに西方へ少し行った所に建物の礎石や井戸跡が残る屋敷跡があり、これが中房寺跡ではないかといわれている。屋敷跡の北西に無名の石碑4基と「抹山祖歴首座覚盡 宝永四丁亥（1707）年八月十二日」と刻まれた石碑が存在する。『坂祝村誌』の年表に「文化六（1809）年八月中房寺と賣積寺合併」とあるが、根拠となる史料を確認できず、詳細は不明である。						
遺構	基礎、礎石、石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	坂祝町教育委員会町史編纂事務局 2005『坂祝町史』通史編						
備考	中房寺の南の木曾川に程近い場所に34003賣積寺がある。伝承によると、賣積寺の庚申堂にある鎌倉時代の十一面觀音は、もとは中房寺の本尊で、中房寺は賣積寺と同じ臨済宗妙心寺派であったという。						

**調査所見** 中房寺は、郷部山の頂上から南へ約10m低い場所に立地する。最も広い平坦面①は50m×30mの広さがあり、東西方向に並ぶ2つの基壇がある。西側の基壇は長軸東西方向の方形で、上面で礎石を3点確認した。基壇の北側には斜面が迫っていることから、建物は南向きであったと考えられる。地元の方によると、この西側基壇の正面（南側）にかつて井戸があったと伝えられているが、地表面では遺構を確認できない。東側の基壇は方形で、北辺及び東辺に石積みを伴うが、上面に礎石は確認できない。①から約20m東へ下った場所に20m×25mの広さの平坦面②がある。②の中央では、不規則な高まりを数か所確認した。②の南側は谷状の地形で、その斜面上には小規模な平坦面が連続する。①から西北西約50mの、尾根から少し下りた場所に大檜があり、その西側に江戸期の無縫塔が残る。大檜の東側には緩やかな傾斜をもつ平坦面があるが、石塔や墓碑等は確認できず、この場所が墓域として利用されていたかは不明である。

中房寺の寺域を囲むように伸びる尾根筋は、かつてより郷部山へ至る道として使用されていたという地域伝承がある。現在、中房寺へ至る道は、寺跡の南側から境内東側の尾根筋を通る道と、北東方向に伸びる尾根上を通る道の2本を確認した。境内東側の尾根上にある白山神社は、地元では「権現」と呼称され、中房寺と何らかの関係があった可能性がある。しかし、境内の中心域であったと思われる①の正面に至る道は確認できず、どの道が参道として機能していたのかは不明である。

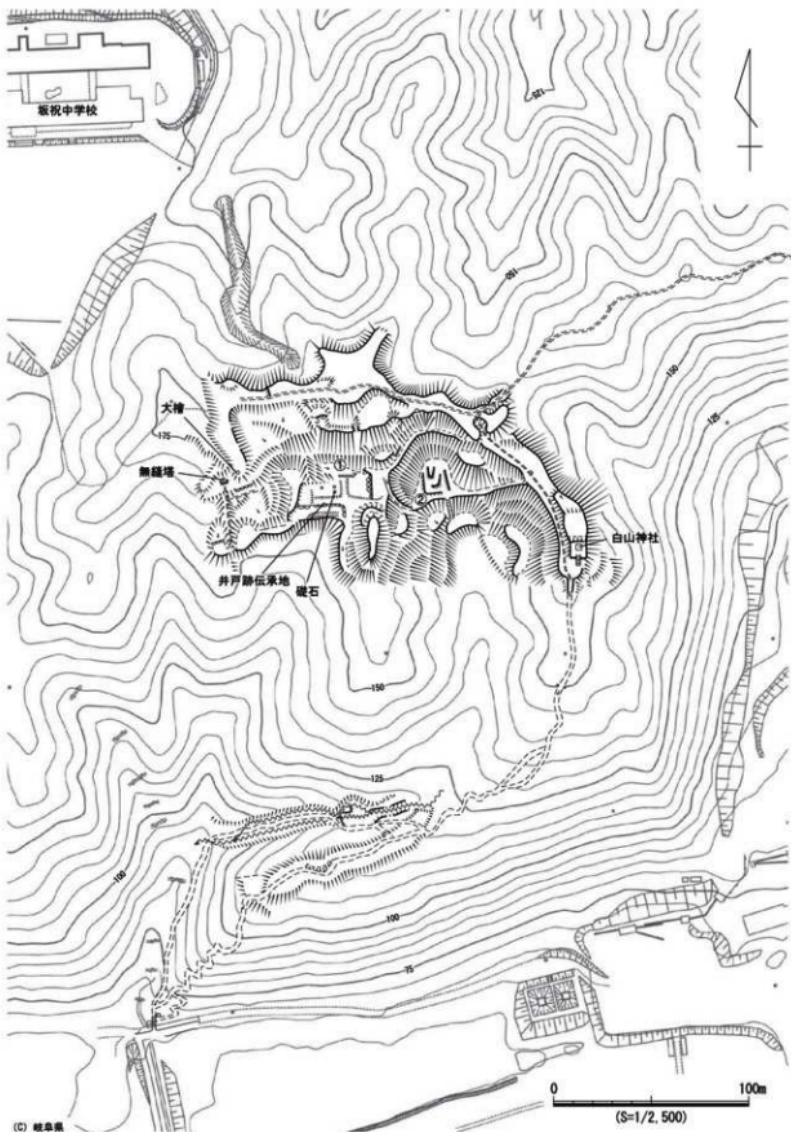


図44 中房寺 地形観察図

## [富加町]

地区	中濃	寺院番号	35023	県遺跡番号	一	分布図番号	M6
ふりがな		こうしょうじ		所在地	加茂郡富加町大平賀		
寺院名 (史跡・遺跡名)		香昌寺					
時代区分		中世（鎌倉）か		宗派	真言宗		
立地		山麓		現状（植生）	山林（アカマツ）		
東西規模	160m	南北規模	170m	標高（比高差）	77m（7m）	平坦面面類	B-Dか
沿革	真言宗高野山増幅寺末の香昌寺という寺が大平賀区の藤平神社の東手にあり、社僧が寺と神社に仕えていたが、明治元（1868）年神仏分離令の実施にあたって廃寺となつた。香昌寺の成立時期は不明である。藤平神社は、創建時期は明らかではないが、旧飛騨街道筋にあった神社として古い歴史を持つと思われ、明治初年まで境内が香昌寺と混淆していた。寺が廃寺となり、この寺に在ったと思われる宝篋印塔が神社前の池に置かれている。この宝篋印塔は鎌倉時代の作であることから、神社や寺もその時代以前から祀られていたものと考えられている。						
遺構	石積み						
遺物	宝篋印塔、五輪塔						
有形文化財等	一						
参考文献	富加町史編集委員会 1980『富加町史』下巻通史編、岐阜県加茂郡富加町・富加町教育委員会 1991『とみかの石造物』						
備考	藤平神社の御神宝に、奈良時代作の薬師仏、阿波牟尼仏、平安時代及び鎌倉時代作の牛頭天王、鎌倉時代作の聖観音、十二神像などの仏像がある。「香昌寺祈祷符木版」が地元自治会から富加町郷土資料館へ寄託されている。						

**調査所見** 藤平神社は、津保川の西岸に立地する丘陵の南東麓に立地する。香昌寺は、この藤平神社の東側にあったとされ、明治期までは境内が混淆していたといふ。また、藤平神社境内の背後には祢宜屋古墳群の遺跡範囲となっており、円墳が点在する。神社境内周辺には、現在境内として利用されている他に明確な平坦面は確認できず、境内の範囲は大きく変化していないと思われる。本殿及び拜殿の東側から図化範囲東部の丘陵尾根根据までの範囲には、その北部に池状の湿地（①）が広がり、南部に輪郭が明瞭な小平坦面が4面連続する（②）。小平坦面は出入口を伴わず、現状は竹林であり、後世の改変による造成の可能性もある。香昌寺の遺構として確実に残存するのは、①西側斜面に墓域として設けられた平坦面である。③には、2段の石積みが残存し、その南側の矮小な平坦面には、江戸期の無縫塔や墓碑、五輪塔の石材が並んでいる。墓域は本堂等の主要堂宇の裏手に設けられる場合が多いことから、香昌寺の主要堂宇があったのは①付近と思われるが、地表面での観察から確証は得られない。また、図化範囲東部の尾根上には、「稻荷神社本殿」の木札を納める小祠があり、さらに尾根上に向かう小路がある。この東西方向に伸びる尾根上は広く平坦である。円墳と思われる高まり上に寛保3年銘「廻國塔了端」の石碑が建つ。近世以降、丘陵全体が利用されていたことがわかる。

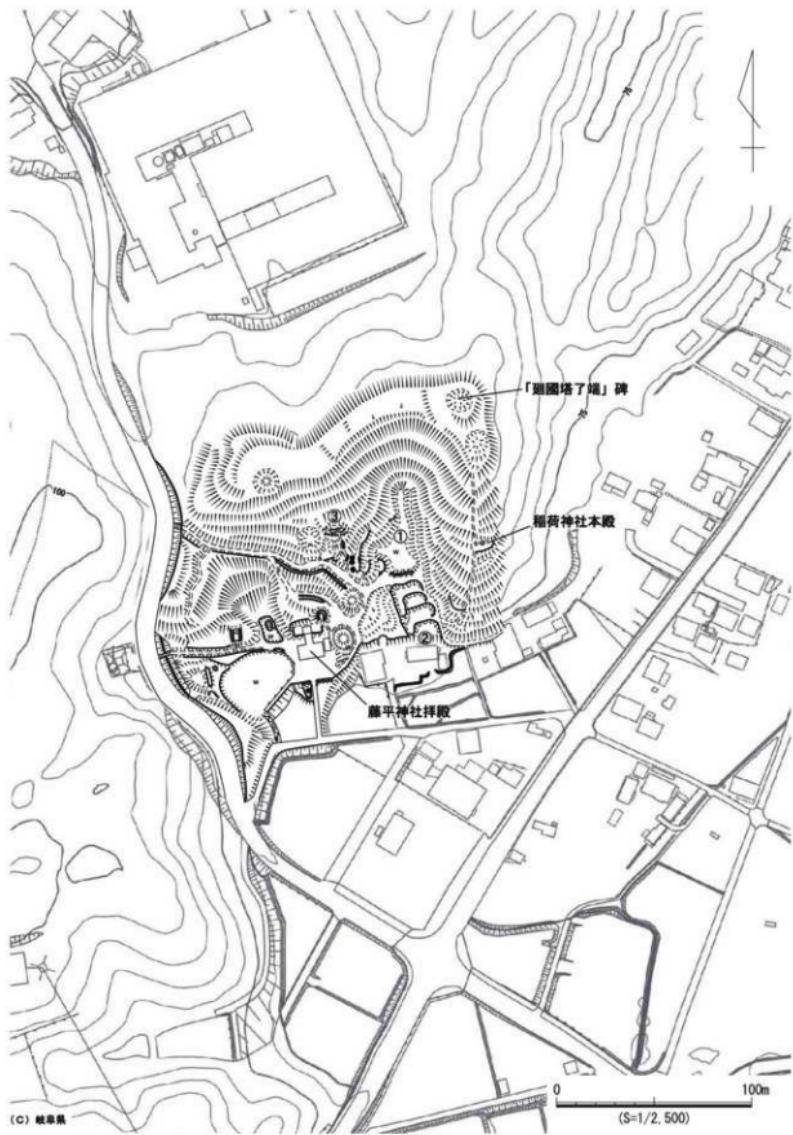


図45 香昌寺 地形観察図

## [七宗町]

地区	中濃	寺院番号	37014	県遺跡番号	一	分布図番号	E7
ふりがな	かぶらじんじやおくのいん			所在地	加茂郡七宗町神淵		
寺院名 (史跡・遺跡名)	神淵神社奥の院						
時代区分	古代～			宗派	不明		
立地	山麓			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	150m	南北規模	190m	標高(比高差)	412(9)m	平坦面面積	D
沿革	成立に關わる伝承は諸説あり、壬申の乱(672)の際に大海人皇子(後の天武天皇)が皇運挽回祈願のため、神鏡を祀ったことが始まりであるとも、宝亀元(770)年成立ともいう。また、文和2(1353)年に二条良房が訪問、永禄年間(1558～70)に織田信長が祈願所に認定、宝永元(1704)年に天野信景が神淵天王社を訪問したと伝わる。古代の「御佩霧」の地は、神淵を中心とする地であった。神社の呼称は、中世末には「神淵御佩大明神」、江戸時代には「神淵天王社」「牛頭天王社」であった。神淵神社の南約720mに位置する葛屋神社とは関連あるといい、葛屋神社の由緒書(上麻生役場文書)には「神淵神社は、もとは葛屋区にあったのを現在地に遷宮したものと、又一説には葛屋神社は神淵神社の前立の神であるとも称す。祭神同一で例祭の神事はまた同一である。」と記載がある。葛屋神社と下呂市金山町の須波神社には、源頼朝が文和2(1353)年に寄進した懸仏があり、菅原、神淵、葛屋の地は源頼朝の勢力下にあったことを物語る。						
遺構	石積み、池						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	七宗町教育委員会 1993『七宗町史』通史編						
備考	神淵神社の主祭神は素戔鳴尊(牛頭天王)、奇稻田姫命。境内には、国指定天然記念物の「神淵神社の大杉」がある。葛屋神社の東に位置する松雲山示現寺はかつて真言宗であり、もとは葛屋神社前破魔威場にあった。						

**調査所見** 葉津川と葛屋川に挟まれた天王山(御佩山(みはきやま))の南麓にあり、標高434.4mの山腹に奥の院がある。奥の院は、東西方向に露出する巨岩の西端、巨岩がオーバーハングする箇所に小祠が祀られている。奥の院に至る道は確認できるが、巨岩の周辺には明確な平坦面は確認できない。奥の院の南側には4段の平坦面が形成され最上段の平坦面に本殿、上から3段目の平坦面に拝殿がある。湧水点は現境内の西側に2か所あり、3段目及び4段目の平坦面下を東流して、4段目の平坦面下に位置する池へ流れ着く。本殿の真南筋の平坦面から東に1段下がったところに近年の削平を受けた駐車場があるが、かつては宮司宅で石積みをもつ平坦面があったという。現参道西側の、湧水点からの沢が流れる谷に挟まれた範囲は、周囲の斜面地よりも傾斜が緩く、何らかの施設の跡地である可能性がある。天王山南西麓から北西に登ると葉津に抜けることができ、参道として機能していた可能性がある。

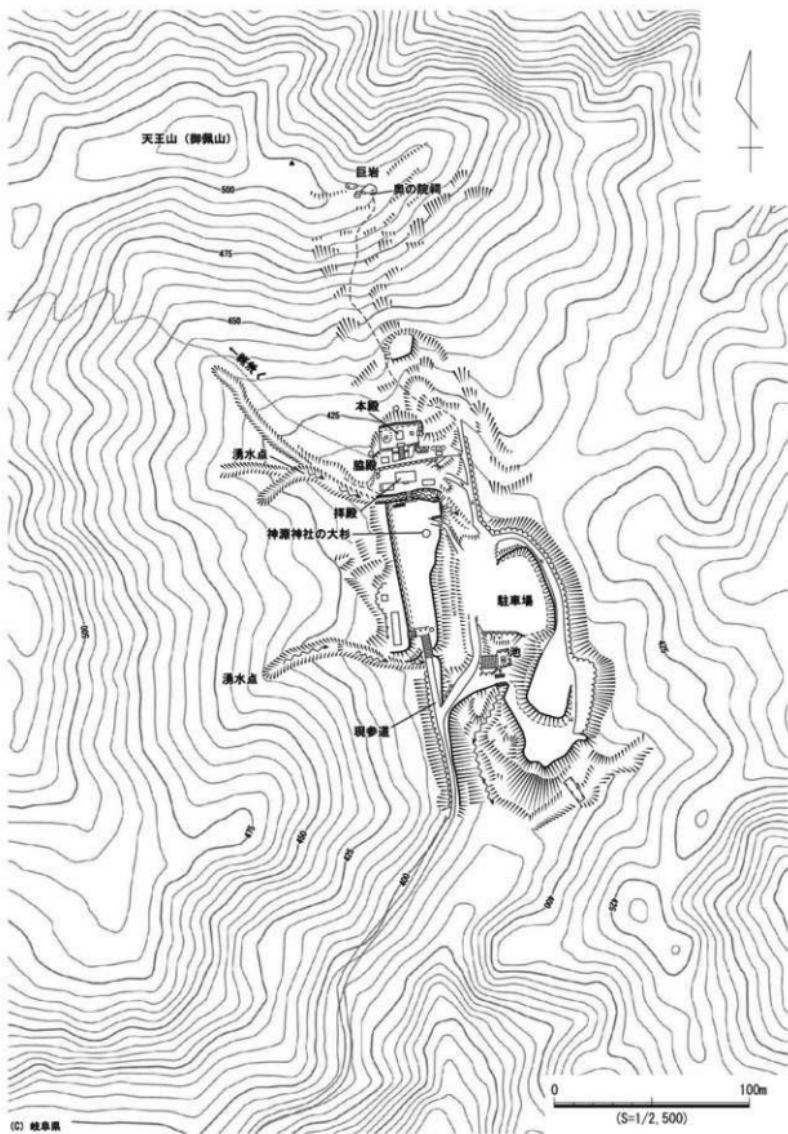


図 46 神淵神社奥の院 地形観察図

## [白川町]

地区	中濃	寺院番号	39020	県遺跡番号	一	分布図番号	88
ふりがな	おおやまはくさんごんげん			所在地	加茂郡白川町水戸野		
寺院名 (史跡・遺跡名)	大山白山権現						
時代区分	古代～			宗派	不明		
立地	山頂			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ・コナラ・アカマツ)		
東西規模	100m	南北規模	230m	標高(比高差)	832(44)m	平坦面面類	D
沿革	大山白山権現(現大山白山神社)は、伝承によると、養老2(718)年、泰澄が加賀の白山に登山し白山比咩神社より勧請し、武儀郡横洞村(金山町菅田)水晶山を経て、当所へ鎮座したという。古来自川及び佐見地区的総領守として、近郷36か村の住民が氏子であった。文明12(1480)年には野原の城主安江基政が神殿を再興、以後安江氏が社殿の修復を行った。大山白山権現の由緒書には、「本堂は白山御本地十一面觀世音を表して十一間四面なり。内陣の本尊五体は、中尊十一面觀世音・左右は千手觀世音・西方教主弥勒仏・六道能化地藏菩薩で、いずれもこれは皆泰澄大師の御作である。外陣に不動・毘沙門を置き、大峯の奥の院に登ると、三社があつて、中央は白山権現、両脇の末社は熊野・洲原の権現である。又宝堂には大黒天が祀つてある。(後略)」とある。中世以来、小原村の修驗道39013白雲山室松寺が別当となり宰配し、明治元(1868)年の神仏分離令で、時の別当職栄悉は帰俗し室松美濃(後に室松好男)と改名し神職となつた。						
遺構	石積み、石列、井戸						
遺物	灰釉陶器						
有形文化財等	白山大権現絵図(寛政12(1800)年、白川町誌編纂委員会1968に掲載)						
参考文献	白川町誌編纂委員会1968『白川町誌』						
備考	大山白山神社本殿に向かって左側の石段に沿った斜面地に、国指定天然記念物の推定樹齢700年の「大山の大スギ」がある。寛政12(1800)年の絵図によると、江戸時代の本堂は絵図から9間4面であった。						

**調査所見** 標高862mの白山山頂から南西に向かって境内が展開する。山頂にある「大峯奥の院」の北西に建つ展望台からは、北に御嶽山、西に大日岳、白山(御前峰)が見え、眺望が良い。白川町教育委員会によると、拝殿が佛堂の造りになっているという。拝殿から大峯奥の院までの間は急斜面で、斜面上に泉州石工作の延享元(1744)年の銘がある、幅4m、長さ65mの石段(白川町指定文化財)がある。石段の中央付近の北側には、天然記念物の「大山の大スギ」があり、大スギ周辺に幅約3mの小平坦面がある。拝殿から駐車場までの急斜面上には長さ120mの石段があり、拝殿から数段下がった場所に井戸がある。石段の西側の斜面には幅約3mの小平坦面が複数あるが、用途は不明である。境内では「大山の大スギ」の他にも巨木があり、奥の院及び井戸周辺に巨木が多くみられる。

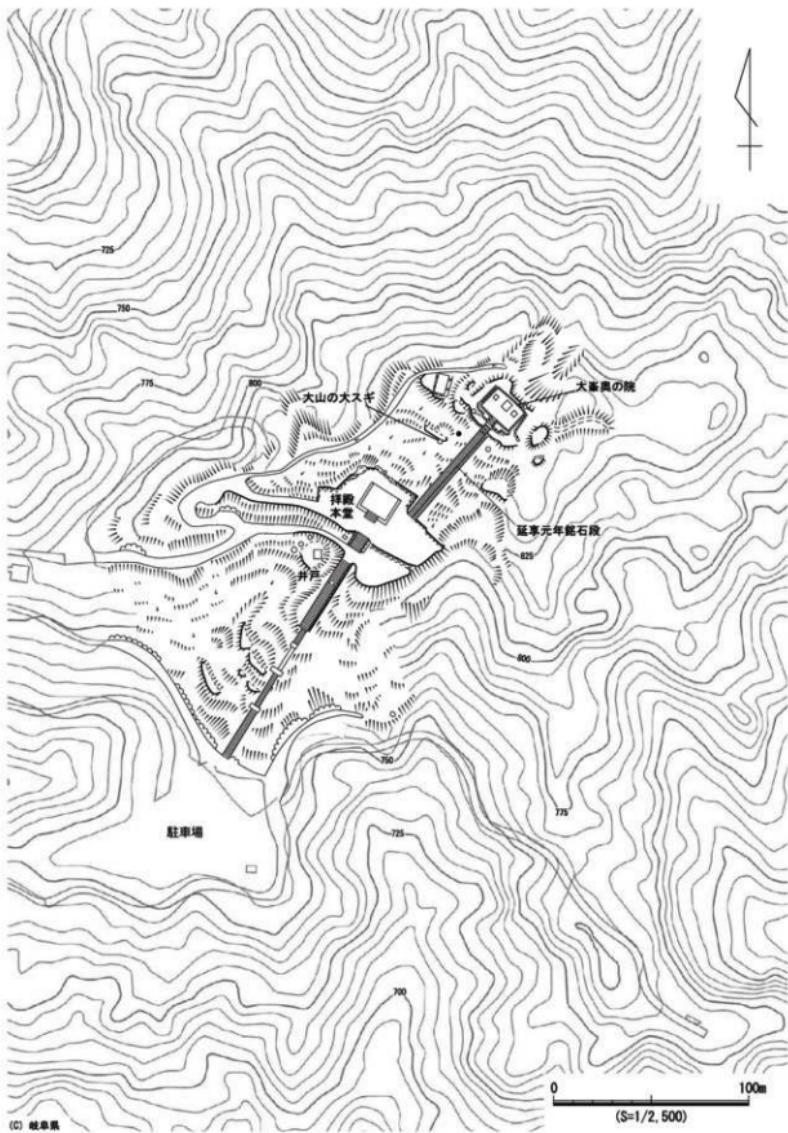


図47 大山白山權現 地形観察図

地区	中濃	寺院番号	39030	県遺跡番号	一	分布図番号	K9
ふりがな	はくうんざんちかまつじ			所在地	加茂郡白川町黒川		
寺院名 (史跡・遺跡名)	白雲山近松寺						
時代区分	古代~			宗派	不明		
立地	山麓、山頂			現状(植生)	境内地、墓地、水田		
東西規模	210m	南北規模	210m	標高(比高差)	奥之院: 910m 493(23) m	平坦面分類	D
沿革	<p>佐久良太神社は、かつての白雲山近松寺である。現地に建てられた佐久良太神社誌の看板によると、「本社の創建は神龜元（724）年に泰澄が加賀国白山権現即ち菊理比咩命を勧請奉祀したころから創まる」と記されている。以前は白山権現といって、近松寺住職の觀竜院が別当として祭祀を司っていた。</p> <p>佐久良太神社と呼ばれるようになったのは、明治2（1869）年神仏判然の令が下されて神仏混淆が禁止され、社僧が別当となって祭祀を行うことが禁止されてからのことである。同年3月書付の小札に佐久良太神社という社名が初めて出ている。黒川日向地内宇葛蔭に佐久良太神社の遷拝所（奥之院）がある。</p> <p>ここは本社鎮座の谷にいう「お山さま」の南正面の山麓に当たる。現佐久良太神社は、通称鳥居庭と言う所で、拝殿、神殿、調進所の三殿からなる。</p>						
遺構	石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	飯地町町づくり委員会 2011『飯地の歴史』						
備考	<p>地域の方への聴き取りによると、奥之院はもと白山神社で、現在の佐久良太神社と墓地の間が「寺屋敷」と伝わるという。佐久良太神社の拝殿に向かって左側に、県指定天然記念物の「里宮佐久良太神社のスギ」がある。奥之院社殿は文政8（1825）年に造成されたもので、雲斗及び雲肘木は町指定文化財である。</p>						

**調査所見** 宮山（通称：御山）の標高910mの山頂に、現在の佐久良太神社奥之院本殿、本殿正面の石段を降りた場所に元近松寺宝物殿（現在は洲原大權現と子安大明神を祀る）が建つ。本殿の建つ平坦面からは北西に白山、北に御嶽山が見え、眺望が良い。

また、宮山の南麓、奥の院から南へ約1.3kmの標高約481mの場所に佐久良太神社がある。「寺屋敷」と伝わる場所は佐久良太神社と墓地の間であるといい、奥行きのない平坦面がある。「寺屋敷」の西側は比較的広い平坦面が展開し、石積みを伴う平坦面もある。これらの平坦面は現在茶畠や畑地として利用されているが、この辺りが近松寺の跡地である可能性がある。そうであるとすると、佐久良太神社及び近松寺は、南流する2本の沢に挟まれた範囲に収まり、西部に神社、東部に近松寺が並ぶ配置であった。境内では池を3か所確認したが、近代の造成若しくは造成の影響を受けている。

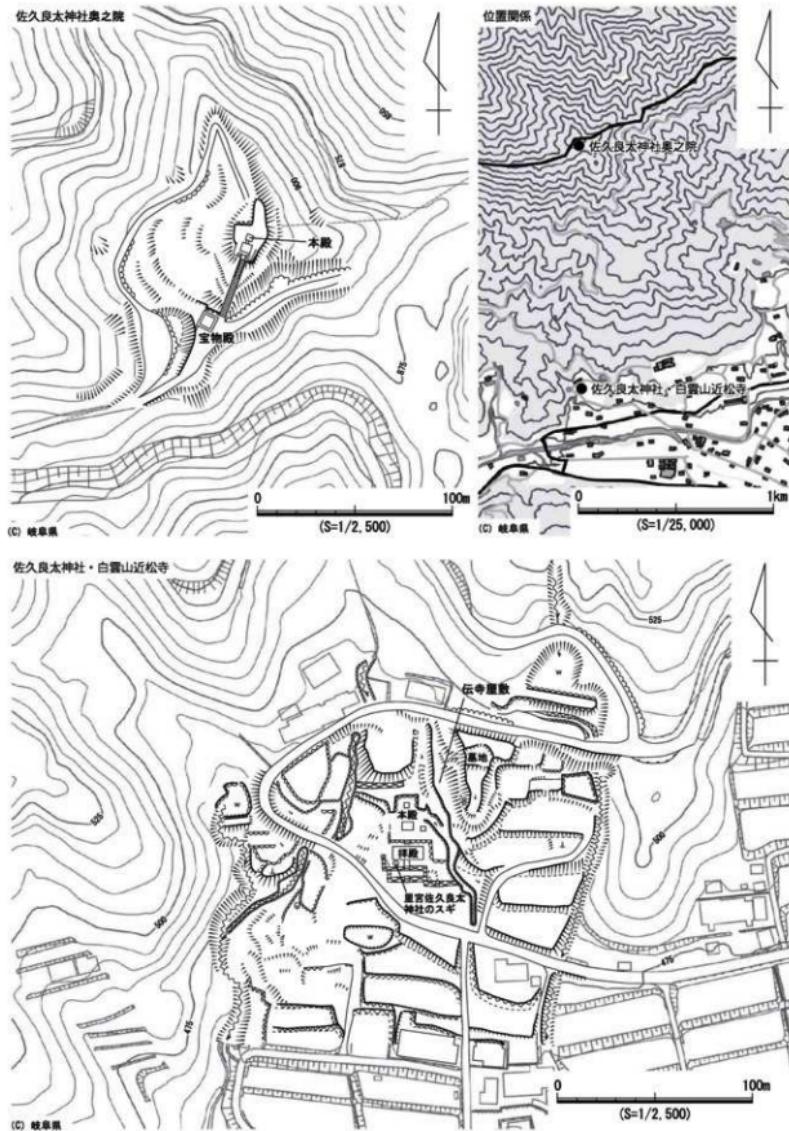


図 48 白雲山近松寺 位置図及び地形観察図

## [東白川村]

地区	中濃	寺院番号	40001	県遺跡番号	一	分布図番号	K9
ふりがな		せいしょうざんばんりゅうじ (ばんりゅうじあと)		所在地	加茂郡東白川村五加大沢		
寺院名	青松山蟠龍寺						
(史跡・遺跡名)	(蟠龍寺跡)						
時代区分	中世～近代			宗派	臨済宗		
立地	山腹			現状(植生)	畠地		
東西規模	200m	南北規模	210m	標高(比高差)	310m (30m)	平坦面分類	B+C2
沿革	成立時期は不明である。かつては40003 常樂寺と同じように飛驒御殿野（下呂市）の20035 大威徳寺の末寺であったが、近世は苗木藩（中津川市）の菩提寺である06082 雲林寺の末寺として臨済宗妙心寺派に属し、大澤村・柏本村・久須見村・下野村・宮代村・中屋村・須崎村の七か村の檀那寺だった。本尊は聖観世音菩薩で、廃寺時の本堂は6間×13間であったという。明治初年、12世全理の時に廃寺となつた。						
遺構	石積み						
遺物	—						
有形文化財等	大般若経						
参考文献	斎田乙三郎 1914『東白川村誌』、東白川村誌編纂委員会 1982『新修東白川村誌』通史編、東白川村教育委員会 1990『東白川村の廢仏毀釈』（ふるさとシリーズ④）						
備考	—						

**調査所見** 東白川村の西部の五加大沢にあり、白川に沿って伸びる白川街道沿いの山腹南斜面に立地する。現在は茶畠として土地利用がなされているが、石垣及び石積みが残る。石段を上ると、本堂が所在していたと思われる約50m×20mの大規模な平坦面①がある。平坦面内は河原石により方形に区画されているが、寺院の配置が推定できるような並びではなく、茶畠に関連する区画であると思われる。①は高さ3m程の石垣を伴うが、石段正面とその両側で石材の積み方が異なる。以前は石段からまっすぐ①に達していたものが、後世の造成により埋め立てられたと考えられる。①の北側には、石積みを伴う小規模な平坦面が段状に連続し、その上段には歴代住職墓が並ぶ。②は、東西両側を尾根に挟まれた範囲に、石積みを伴う平坦面が段状に展開する。各平坦面は南にやや傾斜しており、地表面では建物跡等は確認できない。②の西側の尾根沿いには山上へ続く道があり、山上へ進むと巨石が集中する地点がある。そのさらに上方には、近代以降に造成された新しい石垣を伴う半円状の平坦面があるが、用途は不明である。③には、小道の両脇に奥行1～2m程度の小規模な平坦面が段状に展開する。下段の平坦面には現代の墓石が確認でき、墓地として使用されていた可能性があるが、詳細は不明である。③の小道を山上へ進むと、地形に沿って石積みが積まれ、道が形成されている。この道を東へ進むと、歴代住職墓に至る。①の南側には、直線的に伸びる参道が残る。

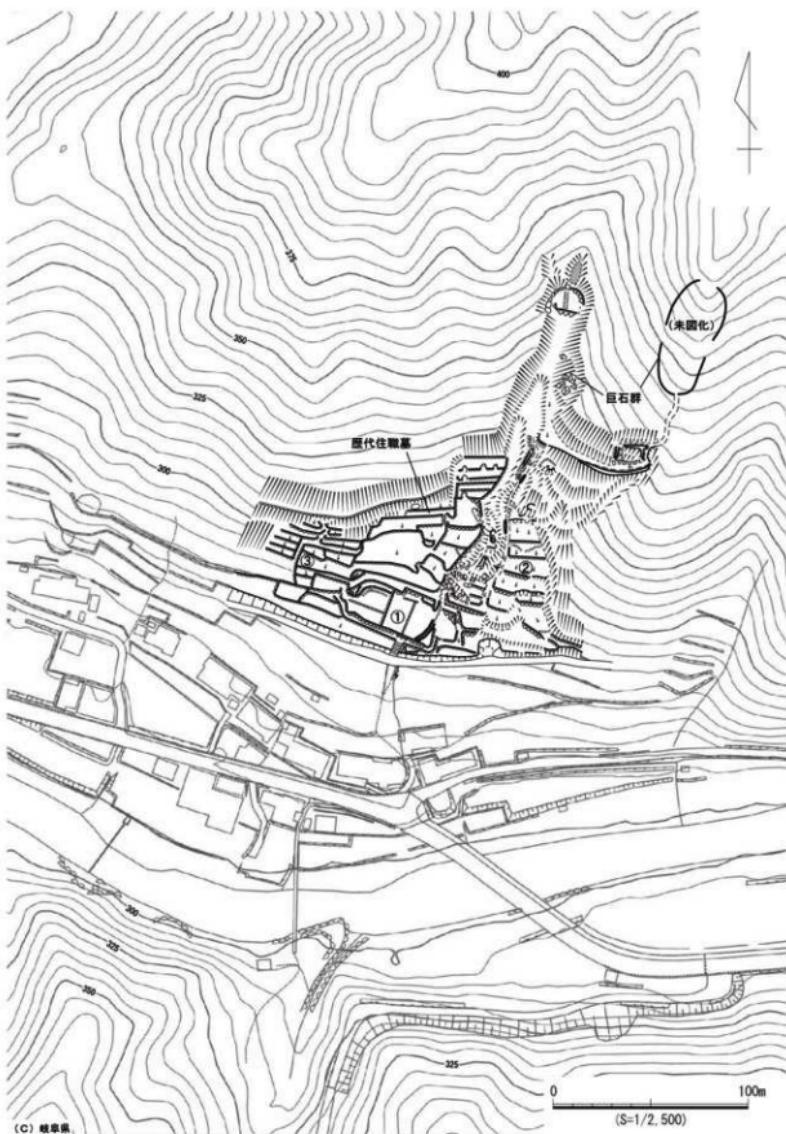


図49 青松山蟠龍寺（蟠龍寺跡）地形観察図